茨城県教育財団文化財調査報告第441集

小馬様台遺跡
山王前遺跡

一般国道6号牛久土浦バイパス建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和２年３月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第441集

小馬様台遺跡
山王前遺跡

一般国道6号牛久土浦バイパス建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和２年３月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

第 40 号炉穴

出土した茅山下層式土器

序

公益財団法人茨城県教育財団は，国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として，昭和52年に調査課が設置されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による一般国道６号牛久土浦バイパス建設事業に伴って実施した，茨城県牛久市の小馬様台遺跡と山王前遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって，小馬様台遺跡においては，これまで周知されていなかった古墳時代後期の古墳１基を検出することができました。また，山王前遺跡においては，縄文時代早期の竪穴建物跡や炉穴が多数確認でき，同時期の生活の一端を窺い知ることができました。

本書が，学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深め，教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが，発掘調査から本書の刊行に至るまで，多大な御協力を賜りました委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所に対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，牛久市教育委員会をはじめ，御指導，御協力いただきました関係各位に対し，心から感謝申し上げます。

令和２年３月

公益財団法人茨城県教育財団
理 事 長　小 野 寺　　俊

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により，公益財団法人茨城県教育財団が平成29･30年度に発掘調査を実施した茨城県牛久市城中町小馬様台1616－３番地ほかに所在する小馬様台（こまさまだい）遺跡，及び茨城県牛久市城中町山王前310－３番地ほかに所在する山王前（さんのうまえ）遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は，以下のとおりである。

調査　平成30年１月１日～３月31日

　　平成30年４月１日～12月31日

整理　平成31年４月１日～令和２年３月31日

3　発掘調査は，副参事兼調査課長白田正子のもと，以下の者が担当した。

平成29年度

首席調査員兼班長　　奥沢　哲也

次　席　調　査　員　　作山　智彦

調　　査　　員　　澤邉　雄太

平成30年度

首席調査員兼班長　　本橋　弘巳

首　席　調　査　員　　獅子内一成

次　席　調　査　員　　野内智一郎

4　整理及び本書の執筆・編集は，整理課長皆川修のもと，以下の者が担当した。

首　席　調　査　員　　獅子内一成

5　本書の執筆担当は，下記のとおりである。

首　席　調　査　員　　獅子内一成　　第１章～第４章第３節１⑶，⑷編集，⑸～第４節

パリノ・サーヴェイ株式会社　　第４章第３節１⑷，⑹SK52補足，２⑴SI７・19補足

6　骨貝同定，玦状耳飾の石材鑑定，炭化材の樹種同定を，パリノ･サーヴェイ株式会社に委託し，その成果は，第４章第３節１⑷，⑹SK52，２⑴SI７・19に掲載した。

7　本書の作成にあたり，山王前遺跡の第22号土坑出土の土器型式について，牛久市文化財保護審議会副会長の斉藤弘道氏にご指導いただいた。

8　本書の作成にあたり，山王前遺跡の第１号遺物包含層68番の剥片，第１号道路跡の石祠の石材について，茨城大学名誉教授田切美智雄氏にご指導いただいた。

9　本書の作成にあたり，山王前遺跡の縄文時代早期の土器型式について，栃木県茂木町教育委員会生涯学習課埋蔵文化財調査員中村信博氏にご指導いただいた。

10　本遺跡の実測図・写真等の資料は，茨城県埋蔵文化財センターにて，出土遺物は牛久市教育委員会にて保管されている。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し，小馬様台遺跡についてはX＝－4,160 m，Y＝＋26,880 mの交点，山王前遺跡についてはX＝－4,400 m，Y＝＋27,080 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ1，2，3…とし，「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…j，西から東へ1，2，3，…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構　F－炉跡　FP－炉穴　HG－遺物包含層　PG－ピット群　SD－溝跡　SF－道路跡
SI－竪穴建物跡　SK－土坑　TM－古墳　TP－陥し穴

土層　K－撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は小馬様台遺跡は500分の1，山王前遺跡は400分の1で，各遺構の実測図については原則として60分の1の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は，原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は，個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

焼土・赤彩・釉・被熱痕　　火床面・燃焼部・繊維土器断面・黒色処理

粘土・竈部材　　柱当り・煤

●土器　○土製品　□石器・石製品　△金属製品　－－－－－ 硬化面

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また，土層解説中の含有物については，各々総量で記述した。

5　遺構一覧表・遺物観察表の表記は，次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm，cm，gで示した。なお，現存値は（　）を，推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし，本文，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は，残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6　竪穴建物跡の「主軸」は，炉，竈を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N－10°－E）。

7　今回の報告分で，調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

山王前遺跡

変更　FP 1→F35，PG 2P 1→PG 1P 2，PG 2P 2→PG 1P 1，PG 4P 1→SK126，PG 5P 1→SI26 P 9，PG 5P 2→SI26 P 4，SX 1（平成29年度）→第1号段切状遺構，SX 1（平成30年度）→SK127，石積塚→SF 1

欠番　SI12，SK54，SK67，SK71，SK118，SK124

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
小馬様台遺跡・山王前遺跡の概要 …… 1
第１章　調査経緯 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査経過 …… 4
第２章　位置と環境 …… 5
　第１節　位置と地形 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
第３章　小馬様台遺跡 …… 11
　第１節　調査の概要 …… 11
　第２節　基本層序 …… 11
　第３節　遺構と遺物 …… 15
　　１　古墳時代の遺構と遺物 …… 15
　　古　墳 …… 15
　　２　江戸時代の遺構と遺物 …… 19
　　道路跡 …… 19
　　３　時期不明の遺構 …… 20
　　⑴　土　坑 …… 20
　　⑵　溝　跡 …… 23
　　⑶　遺構外出土遺物 …… 23
　第４節　総　括 …… 27
第４章　山王前遺跡 …… 29
　第１節　調査の概要 …… 29
　第２節　基本層序 …… 29
　第３節　遺構と遺物 …… 30
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 30
　　⑴　竪穴建物跡 …… 30
　　⑵　炉　穴 …… 53
　　⑶　炉　跡 …… 126
　　⑷　炉穴・炉跡出土遺物の骨貝同定について …… 135
　　⑸　陥し穴 …… 136
　　⑹　土　坑 …… 137
　　第52号土坑　玦状耳飾の自然科学分析 …… 140

(7) 遺物包含層 …… 158
2　古墳時代の遺構と遺物 …… 168
(1) 竪穴建物跡 …… 168
第７号竪穴建物跡の炭化材の分析 …… 187
第19号竪穴建物跡の炭化材の分析 …… 193
(2) 土　坑 …… 196
3　鎌倉・室町時代の遺構と遺物 …… 198
(1) 段切状遺構 …… 198
(2) 溝　跡 …… 200
(3) 土　坑 …… 201
4　江戸時代の遺構と遺物 …… 202
道路跡 …… 202
5　時期不明の遺構と遺物 …… 205
(1) 炉　跡 …… 205
(2) 土　坑 …… 206
(3) 溝　跡 …… 207
(4) ピット群 …… 209
(5) 遺構外出土遺物 …… 209
第４節　総　括 …… 213
写真図版 …… PL 1 ～ PL38
抄　録
付　図

小馬様台遺跡・山王前遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

小馬様台遺跡・山王前遺跡は牛久市南西部，牛久沼に注ぐ稲荷川と根古屋川に挟まれた標高約 24 mの台地部及び谷津傾斜部に位置しています。一般国道６号牛久土浦バイパス新設に伴い，遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため，茨城県教育財団が平成 29・30 年度に小馬様台遺跡の 4,173㎡，山王前遺跡の 7,904㎡について発掘調査を行いました。

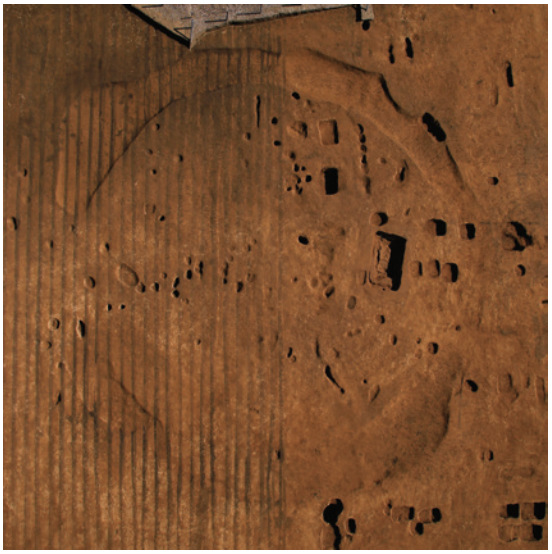
小馬様台遺跡の調査の内容と成果

古墳時代の古墳１基，江戸時代の道路跡１条などが見つかりました。主な出土遺物は，縄文土器，土師器，須恵器，土師質土器，陶器などです。

古墳は，周溝を含む外径が 26 mほどの円墳です。埋葬施設は１か所で，石

小馬様台遺跡・山王前遺跡　調査区遠景（南東から）

材が抜き取られていました。埋葬施設が墳丘南側の裾部近くに構築されていることから，古墳時代後期のいわゆる「変則的古墳」と考えられます。古墳の立地からみて，眼下に低地を望む台地縁辺部に位置していることも分かりました。当遺跡の周辺には，明神塚古墳や山王塚古墳などが築造されており，この地も古墳時代の墓域として利用されていることが分かりました。

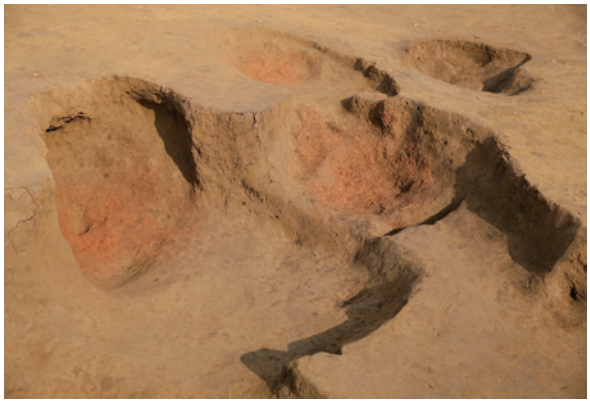


古墳全景（鉛直）

山王前遺跡の調査の内容と成果

当遺跡は，台地部及び谷津傾斜部に位置しています。台地部を中心に，縄文時代早期の竪穴建物跡 15 棟，炉穴 95 基，陥し穴 1 基のほか，古墳時代中・後期の竪穴建物跡 10 棟，江戸時代の道路跡 2 条などが見つかりました。主な出土遺物は，縄文土器，土師器，須恵器，土製品，石器，石製品，銭貨などです。

今回の調査で，縄文時代早期の竪穴建物跡と炉穴が同じ場所に存在する集落跡であることが分かり，特筆されます。炉穴は同じ場所に数回作り変えているものや，天井部が残っている煙道付炉穴も見つかりました。また，炉穴使用後の窪地に，食した貝を廃棄した地点貝塚や，石製品の玦状耳飾が出土した土坑など，この時代の集落を考える上で貴重な資料となりました。



検出した炉穴群

谷津傾斜部については，遺物包含層が大部分を占めていました。中世から江戸初期に機能していた牛久城の外部施設の一部にあたり，防御施設とみられる段切状遺構の一部も確認することができました。

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は，牛久市において，一般国道６号牛久土浦バイパス新設に係る整備事業を進めている。

平成 24 年３月 28 日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに一般国道６号牛久土浦バイパス新設地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は，平成 24 年４月 17 日に現地踏査を実施した。また，同委員会は，平成 27 年２月 24 日，平成 28 年３月１日，平成 29 年７月 12・19 日，９月 14 日，11 月 16 日に試掘調査を実施した。

平成 27 年５月 20 日，平成 28 年３月 23 日，平成 29 年 11 月 25 日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに事業地内に小馬様台遺跡，山王前遺跡が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成 29 年 11 月 27 日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第 94 条に基づく土木工事の通知を提出した。平成 29 年 11 月 27 日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると決定し，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

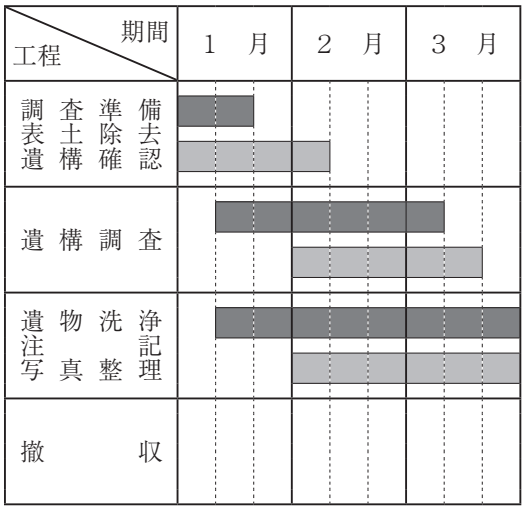
平成 29 年 11 月 28 日及び平成 30 年２月 26 日，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は，茨城県教育委員会教育長あてに，一般国道６号牛久土浦バイパス新設に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成 29 年 11 月 28 日及び平成 30 年２月 27 日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに，小馬様台遺跡，山王前遺跡について，発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて調査機関として，公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成 30 年１月１日から３月 31 日まで及び平成 30 年４月１日から 12 月 31 日まで発掘調査を実施した。

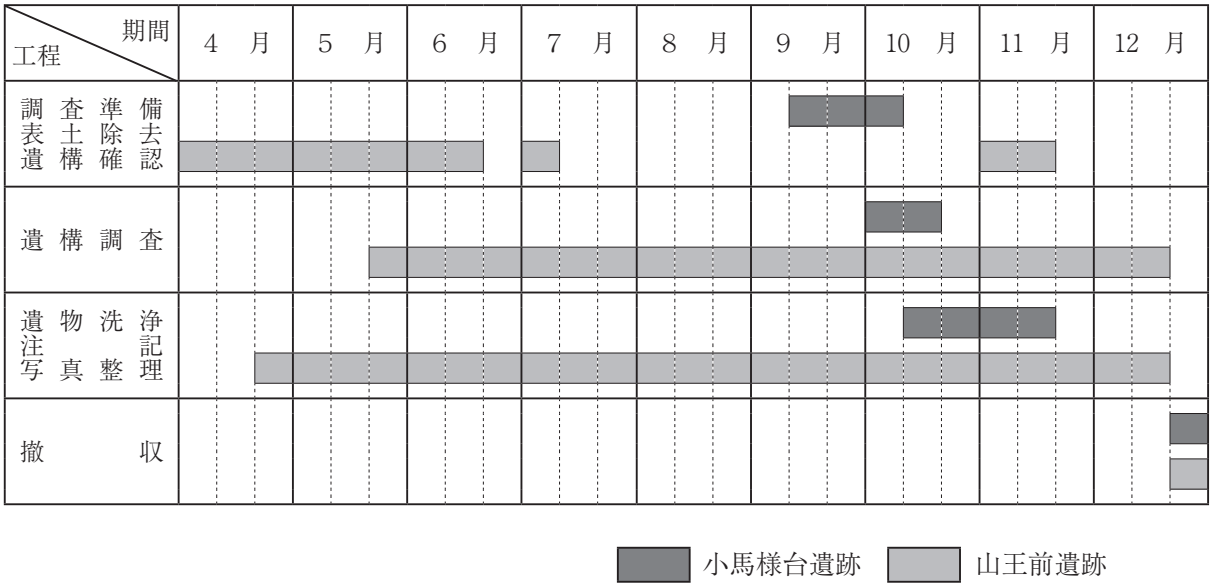
第２節　調　査　経　過

小馬様台遺跡の調査は，平成 30 年１月１日から３月 31 日までの３か月間と平成 30 年９月１８日から 11 月 29 日までの約３か月間，山王前遺跡の調査は平成 30 年１月１日から 12 月 31 日の 12 か月間にわたって実施した。以下，その概要を表で記載する。

平成 29 年度



平成 30 年度



第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

小馬様台遺跡は茨城県牛久市城中町小馬様台1616－3番地ほかに，山王前遺跡は茨城県牛久市城中町山王前310－3番地ほかに所在している。

牛久市は，茨城県の南部に位置し，標高25～28 mの洪積台地である筑波・稲敷台地と，稲荷川や小野川，乙戸川，桂川水系の沖積低地からなっている。筑波・稲敷台地には，小野川や乙戸川，桂川とその支流が樹枝状に入り込み，台地は複雑な地形となっている。牛久市の西部を北から南へ流れる稲荷川は，小野川からつくば市内で分流し，市の西端に形成されている牛久沼に流れ込み，更に小貝川へと合流している。

筑波・稲敷台地は，第四紀洪積世古東京湾時代に堆積し，貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤としている。その層の上にシルト礫や軽石を有し，斜交葉理のある砂層・礫層である竜ヶ崎層，さらに粘着性の高い青灰色から灰色の火山灰質粘土層である常総粘土層，褐色の関東ローム層が堆積し，最上部は腐食土層となっている[1)]。

両遺跡は，牛久市の南西部，牛久沼に注ぐ稲荷川と根古屋川に挟まれた標高約24 mの舌状台地上に位置している。遺跡が立地する台地の縁辺部には，樹枝状に入り込んだ谷津が発達した環境であるため，水利の便に富み，人々の生活活動の舞台として土地利用されたものと考えられる。調査前の遺跡の現況は，畑地，山林である。

第2節　歴　史　的　環　境

小馬様台遺跡及び山王前遺跡が所在する稲荷川と根古屋川に挟まれた台地上や牛久沼東部の低地部，また，当遺跡から南西に位置する稲敷台地の端部が半島状に張り出した標高約20mの若柴地区（龍ケ崎市）は，古くから人々の生活が営まれてきた地域である。ここでは，『茨城県遺跡地図』[2)]に登録されている当該地域の主な遺跡を中心に，時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は，当遺跡の南西部，根古屋川の対岸に位置する城中（じょうちゅう）B遺跡[3)]〈52〉が挙げられる。平成22年に発掘調査が行われ，AT層より下位の可能性をもつ珪質頁岩製のナイフ形石器が出土している。また，牛久沼西岸の細長い台地先端部に位置する泊崎（はつさき）城址[4)]〈77〉では，黒曜石のナイフ形石器などが出土している。隣接する龍ケ崎市の沖餅（おきもち）遺跡[5)]においては，頁岩を素材とした石器（船底形石器，掻器，削器）などが出土している。これら旧石器時代の遺跡は，小野川や稲荷川沿いの小支谷付近に多くみられ，その谷沿いか谷頭近辺に多い。このような場所は，人々が水を得るだけでなく動物などもよく集まる場所であり，水場は同時に狩猟場であったとも考えられる[6)]。

縄文時代の遺跡は，稲荷川左岸から牛久沼東部にかけての台地縁辺部で，縄文前期から晩期の土器が表面採取されている。城中（じょうちゅう）貝塚[7)]〈11〉では縄文早期から晩期の土器や石器，貝刃が出土している。また，山中（やまなか）貝塚[8)]〈59〉においても，早期から前期の鵜ヶ島台式，茅山式，浮島式，諸磯b式などの土器が採取されている。当遺跡北部の田宮平（たくうだいら）遺跡[9)]では，縄文時代中・後期（大木式・五領ケ台式・称名寺式）の土器片，石斧，磨石などを表面採集している。小野川・稲荷川流域の天宝喜（あまぼうき）貝塚，天宝喜C遺跡，小茎（おぐき）貝塚では，縄文前期から晩期の土

器が表面採取され，中でも天宝喜Ｃ遺跡では，広い範囲で縄文中期の土器（阿玉台式・加曽利Ｅ式）が確認された。また天宝喜Ｃ遺跡，小茎貝塚では，呪術具と考えられる土版が出土している。

弥生時代の遺跡は，中期の遺構は少数であり，桜川村殿内遺跡で確認された再葬墓がある。また，中期後半以降の集落遺跡としては，美浦村笹山遺跡や龍ケ崎市屋代遺跡，長峰遺跡がみられる程度である。当遺跡周辺では城中Ｂ遺跡があり，南関東系土器２点が出土している。

古墳時代の遺跡は，東城台遺跡〈51〉，湯崎遺跡〈55〉，勘定遺跡〈58〉，天神台遺跡〈60〉，市北部下根東猫穴地区のヤツノ上遺跡[10]，馬場遺跡[11]において，古墳時代中期の集落跡が確認され，この頃に突如いくつもの大集落が形成される様子が伺える。また，山王塚古墳〈３〉，明神塚古墳群〈４〉は古墳時代後期の築造として周知されており，明神塚古墳群では，複合口縁壺が後円部西側の周溝で確認され，本古墳の築造時期を示すものと推測された。大明神西遺跡〈17〉では，古墳時代前期から後期の土師器片が採集されている。古墳時代の遺跡は，大部分が河川あるいは河川から入り込んでいる支谷に面した舌状台地上や台地縁辺部に存在している。このことは水田を経営していた河川の後背湿地や，谷津に面した高燥の地を選んだことによると考えられる。牛久市域における集落の継続性をみると，古墳時代を通じて継続する集落はわずか２か所と少ない。発掘調査の行われた北部ニュータウンの遺跡群は，中期から後期初頭までの間に 250 棟の竪穴建物がつくられたが，その前後の時期の住居は 10 棟未満である。一方，牛久市の南部に位置する姥神遺跡[12]では，前期・後期の集落は存在するものの，中期の遺構は確認されていない。このような状況から，古墳時代の生産活動の中心は，稲作であったと思われるが，先祖代々の土地を守り続けるというものではなく，様々な契機に離合集散を繰り返してきた当時の人々の様子が伺える。

奈良・平安時代の当地域は，平安時代の承和年間（931 年～ 938 年）に源順によって撰修された「和名類聚抄」によると，河内郡河内郷に属していたと推定されている。牛久市域はその他に，信太群の子方郷，志万郷に属していたと推定されている。この頃の遺跡としては，城中Ｂ遺跡があり，竪穴建物跡が６棟確認され，当該期の土師器や須恵器も出土している。奥原に存在する姥神遺跡では，弥生時代から平安時代にかけての竪穴建物跡 156 棟や掘立柱建物跡が確認され，「仲止夫」「夫」「門」などの墨書土器や灰釉陶器宝珠硯などが出土している。また，稲荷川右岸から牛久沼東部にかけての一本榎遺跡〈18〉，大明神西遺跡，稲荷台遺跡〈10〉では，集落跡は確認されなかったが，土師器片・須恵器片が表面採取されている。

鎌倉時代になると河内郡は，公領の河内郡と大井荘に分かれ，当遺跡周辺は公領河内郡に属することになるが，その後，南北朝時代から室町時代にかけて小田氏の支配下となる。さらに時代を経ると，小田氏一族の岡見氏が台頭し，当遺跡から南南西へわずか約１kmほどのところに位置する牛久城を居城として，当地域を支配していく。岡見氏の支城として当遺跡周辺では，稲荷川左岸に東林寺城跡〈79〉，高崎城跡がある。戦国期，当地域は北条・岡見氏と反対勢力の佐竹・多賀谷氏が激しく対立した境目であり，戦国末期に至るまで合戦のやむことのない地域であった。また，中世の遺跡として明神遺跡[13]〈5〉では，16 世紀から 17 世紀初頭までの掘立柱建物跡，堀跡，溝跡が検出されており，その時期に当たる施釉陶器が確認されている。この中世の遺構群は，牛久城の外郭部を構成する曲輪の一つである。台地を縦横に区切る薬研堀が確認され，その内側には建物の柱跡や土坑が密集している状況である。

近世になると当地域は牛久藩となる。慶長６年（1601 年）には，牛久城主であった由良氏に代わり，山口重政が初代牛久藩主となった。その後，重政は大久保長安事件で改易となるが，大阪の夏の陣などの功績により，再度牛久藩に任命される。寛文九年（1669 年）には牛久藩二代藩主の山口弘隆によって，稲荷川左岸に牛久陣屋が築かれた。明治時代には，一時牛久県庁として利用されたが，新治県との統合によりその役目を終

える。現在は陣屋城跡[14]〈14〉として土塁や空堀が見られ，当時の様子を偲ぶことができる。

※文中の〈　〉内の番号は，第１図及び表１の該当番号と同じである。

註

１）日本の地質「関東地方」編集委員会 『日本の地質３　関東地方』 共立出版　1986 年 10 月

２）茨城県教育庁文化課編 『茨城県遺跡地図 地図編』 茨城県教育委員会　2001 年３月

３）牛久市教育委員会「城中Ｂ遺跡　アンテナ基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」『牛久市文化財調査報告第１集』 2010 年 10 月

４）茎崎町史編さん委員会 『茎崎町史』 茎崎町　1994 年３月

５）渡辺俊夫『沖餅遺跡　竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書３』茨城県教育財団文化財調査報告第３集 1980 年３月

６）茨城県史編集委員会 『茨城県史 原始古代編』茨城県　1985 年３月

７）牛久市史編さん委員会 『牛久市史　原始古代中世』牛久市　2004 年３月

８）牛久市史編さん委員会 『牛久市史料　原始・古代－考古資料編－』 牛久市　1999 年８月

９）兼子博史『田宮平遺跡　都市計画道路田宮・中柏田線整備事業地内埋蔵文化財報告書』 茨城県教育財団文化財調査報告第 410 集　2016 年３月

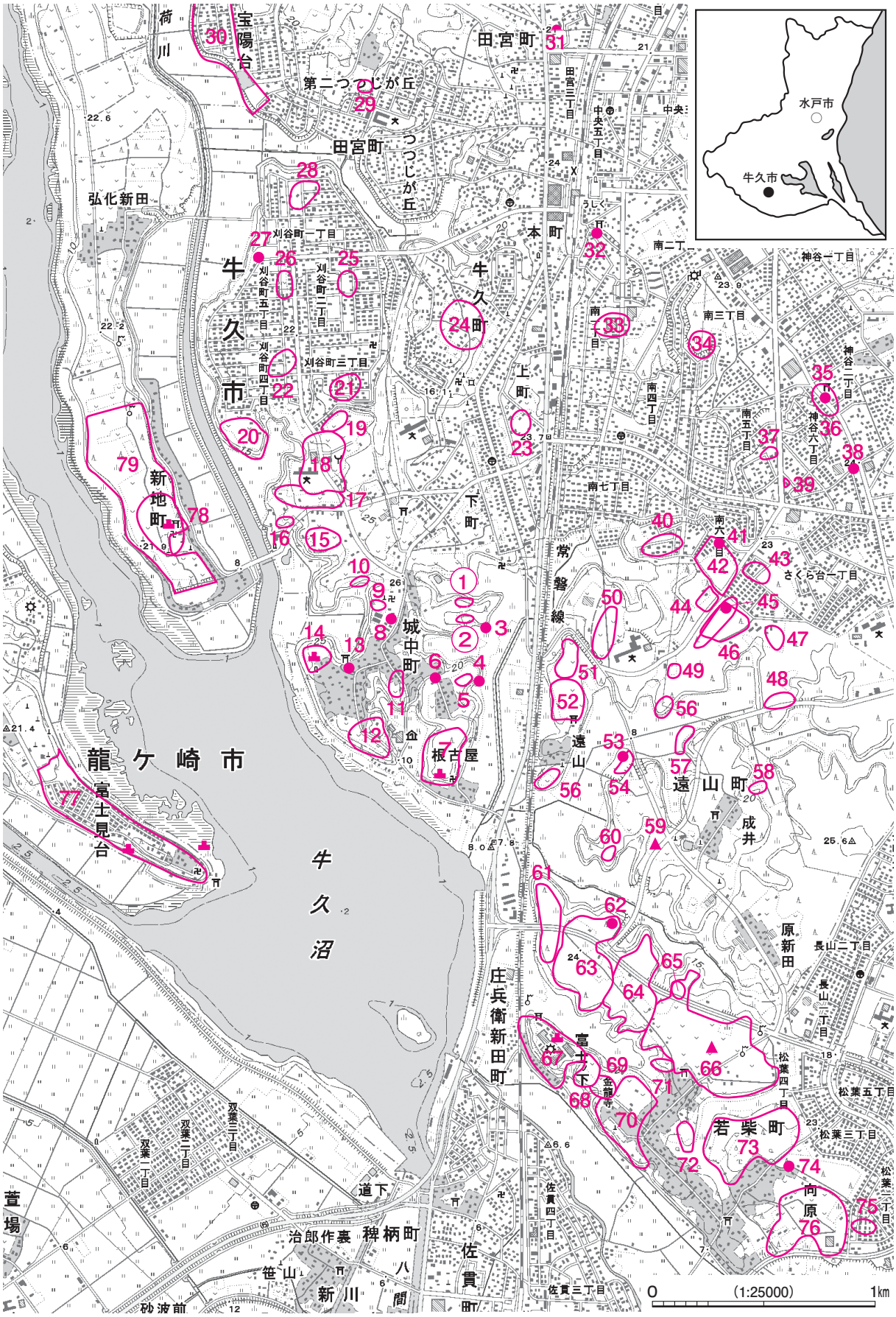
10）小高五十二 『ヤツノ上遺跡　牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）』茨城県教育財団文化財調査報告第 81 集　1993 年３月

11）白田正子 『馬場遺跡・行人田遺跡　牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）』茨城県教育財団文化財調査報告第 106 集　1996 年３月

12）註８と同じ

13）牛久市教育委員会『明神遺跡　太陽光発電設備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』牛久市文化財調査報告第 10 集 2010 年 10 月

14）牛久市史編さん委員会 『牛久市史料 近世１（牛久助郷一揆）』牛久市　2001 年１月

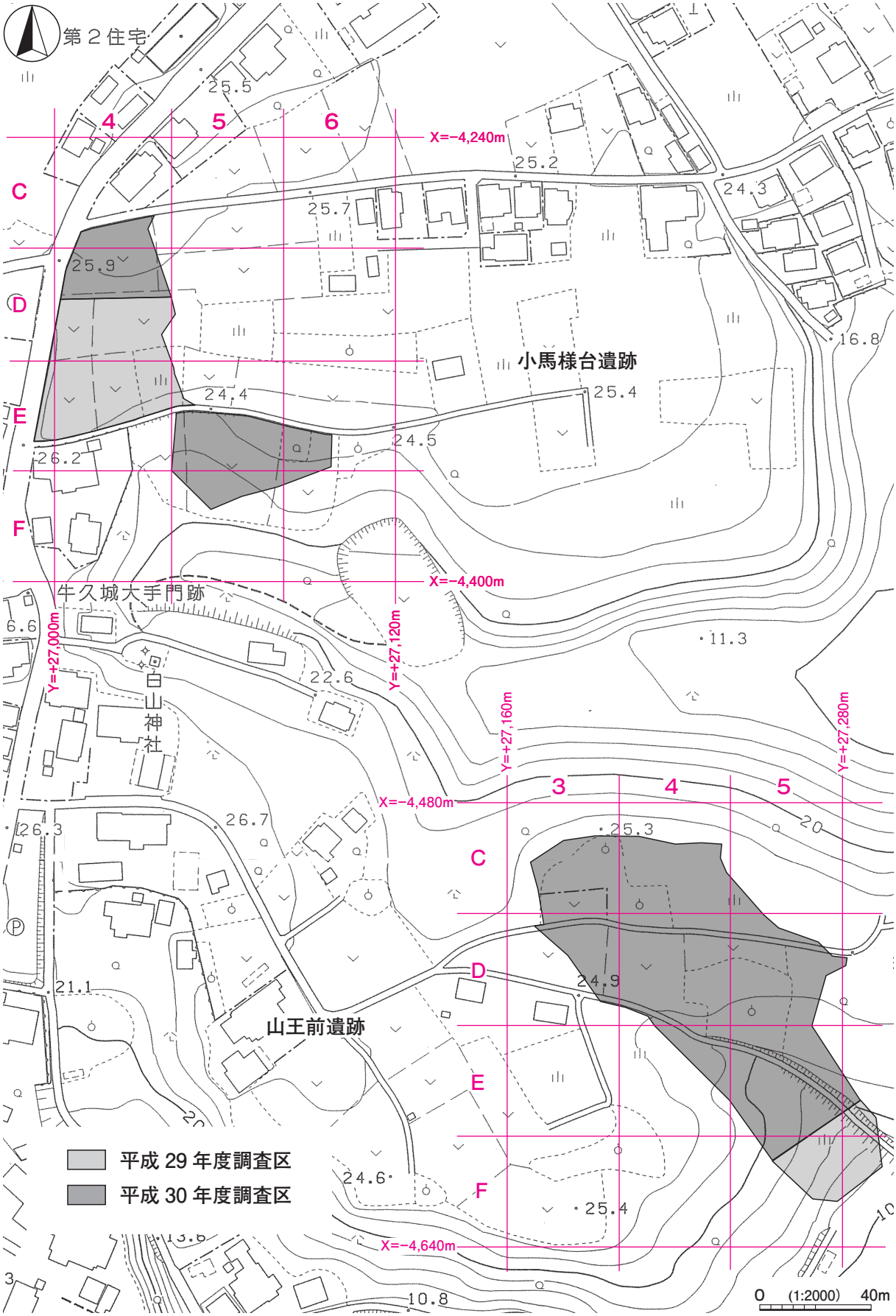


第１図　小馬様台遺跡・山王前遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の１「牛久」）

表１　小馬様台遺跡・山王前遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	小馬様台遺跡				○			○
②	山王前遺跡		○		○		○	○
3	山王塚古墳				○			
4	明神塚古墳群				○		○	
5	明神遺跡		○		○		○	
6	水神塚古墳				○			
7	牛久城跡						○	
8	愛宕神社古墳				○			
9	谷田部宿遺跡		○					
10	稲荷台遺跡		○					
11	城中貝塚		○		○	○	○	
12	衛門廓遺跡				○			○
13	稲荷塚古墳				○	○		
14	陣屋城跡							○
15	水井神台遺跡		○		○			
16	新地貝塚		○		○		○	
17	大明神西遺跡		○		○	○		
18	一本榎遺跡		○		○	○	○	
19	梶窪遺跡				○	○		
20	弥平太遺跡				○	○		
21	刈谷遺跡		○		○			
22	六万部B遺跡				○	○		
23	北浦遺跡		○					○
24	大流遺跡		○					
25	六万部A遺跡				○			
26	城中A遺跡		○	○				
27	刈谷古墳				○			
28	石瓦遺跡		○		○			
29	笹塚遺跡		○					
30	天宝喜西遺跡		○					○
31	田宮一里塚							○
32	富士山古墳				○			
33	富士塚古墳		○					
34	牛久遺跡		○	○	○			
35	蛇喰古墳				○			
36	河原代原遺跡		○					
37	貝塚台遺跡		○					
38	貝塚台古墳		○		○			
39	神谷遺跡		○		○			
40	南A遺跡		○					

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
41	甲塚古墳				○			
42	甲塚遺跡		○		○			
43	藤窪遺跡		○					
44	甲塚B遺跡		○					
45	桜塚古墳				○			
46	桜塚遺跡		○		○			
47	中ノ台A遺跡		○	○	○			
48	中ノ台B遺跡		○					
49	鳳王前B遺跡		○		○			
50	向台遺跡		○		○			
51	東城台遺跡		○		○			
52	城中B遺跡	○	○	○	○	○	○	○
53	杉下古墳				○			
54	杉下遺跡		○					
55	湯崎遺跡				○			
56	鳳王前A遺跡		○					
57	反町遺跡		○		○			
58	勘定遺跡				○			
59	山中貝塚		○					
60	天神台遺跡		○		○			
61	馬場台第3遺跡		○		○	○		
62	馬場台古墳群				○			
63	馬場台第2遺跡		○		○	○		
64	馬場台第1遺跡		○		○	○		
65	馬場台塚							○
66	宮後貝塚		○					
67	八幡台城跡						○	
68	八幡作遺跡		○		○	○		
69	八幡作貝塚		○					
70	上町，児塚遺跡				○	○		
71	宮後，尾ノ作遺跡				○	○		
72	砂田遺跡				○	○		
73	野中遺跡				○	○		
74	林古墳群				○			
75	松葉塚群							○
76	林遺跡跡		○		○	○		
77	泊崎城址	○	○			○	○	○
78	身上遺跡		○		○		○	
79	東林寺城跡						○	



第２図　小馬様台遺跡・山王前遺跡調査区設定図（牛久市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第３章　小 馬 様 台 遺 跡

第１節 調 査 の 概 要

小馬様台遺跡は，牛久市南西部，稲荷川と根古屋川に挟まれた標高約 23 ｍの台地上に所在している。調査は２次に分かれて実施されており，平成 29 年度の調査面積は 2,091㎡，平成 30 年度の調査面積は 2,082㎡である。調査前の現況は畑地である。

調査の結果，古墳１基（古墳時代），土坑 20 基（時期不明），溝跡４条（時期不明），道路跡１条（江戸時代以降）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に５箱分が出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢），土師器（坏・高坏・器台・壺・甕），須恵器（瓶・提瓶），土師質土器（内耳鍋），陶器（碗・天目茶碗・皿・鉢・擂鉢・御神酒徳利），磁器（碗），土製品（管状土錘・土器片錘・紡錘車・泥面子），石器（細石刃・敲石），石核，剥片，板石片，金属製品（煙管），銭貨（寛永通寶），人骨片などである。

第２節 基　本　層　序

調査区北東部（Ｄ ４e0 区），調査区北西部（Ｅ ６h3 区）の台地平坦部にテストピットを設定し，基本土層（第３図）の観察を行った。

第１層は，褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 15 ～ 25㎝である。

第２層は，明褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 10 ～ 35㎝である。

第３層は，明褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 10 ～ 30㎝である。

第４層は，黄褐色を呈するハードローム層である。明黄褐ハードロームブロックを少量含む。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 10 ～ 35㎝である。

第５層は，黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 15 ～ 35㎝である。

第６層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 20 ～ 35㎝である。

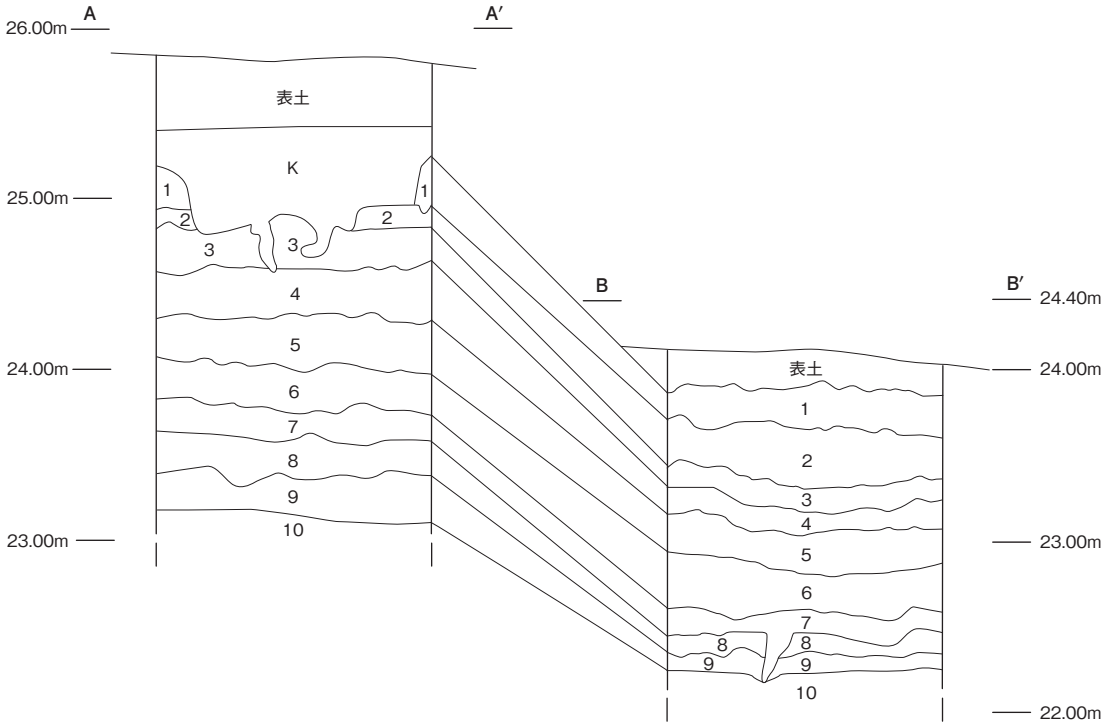
第７層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 10 ～ 40㎝である。

第８層は，黄褐色を呈するハードローム層である。シルトを少量含む。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は 10 ～ 30㎝である。

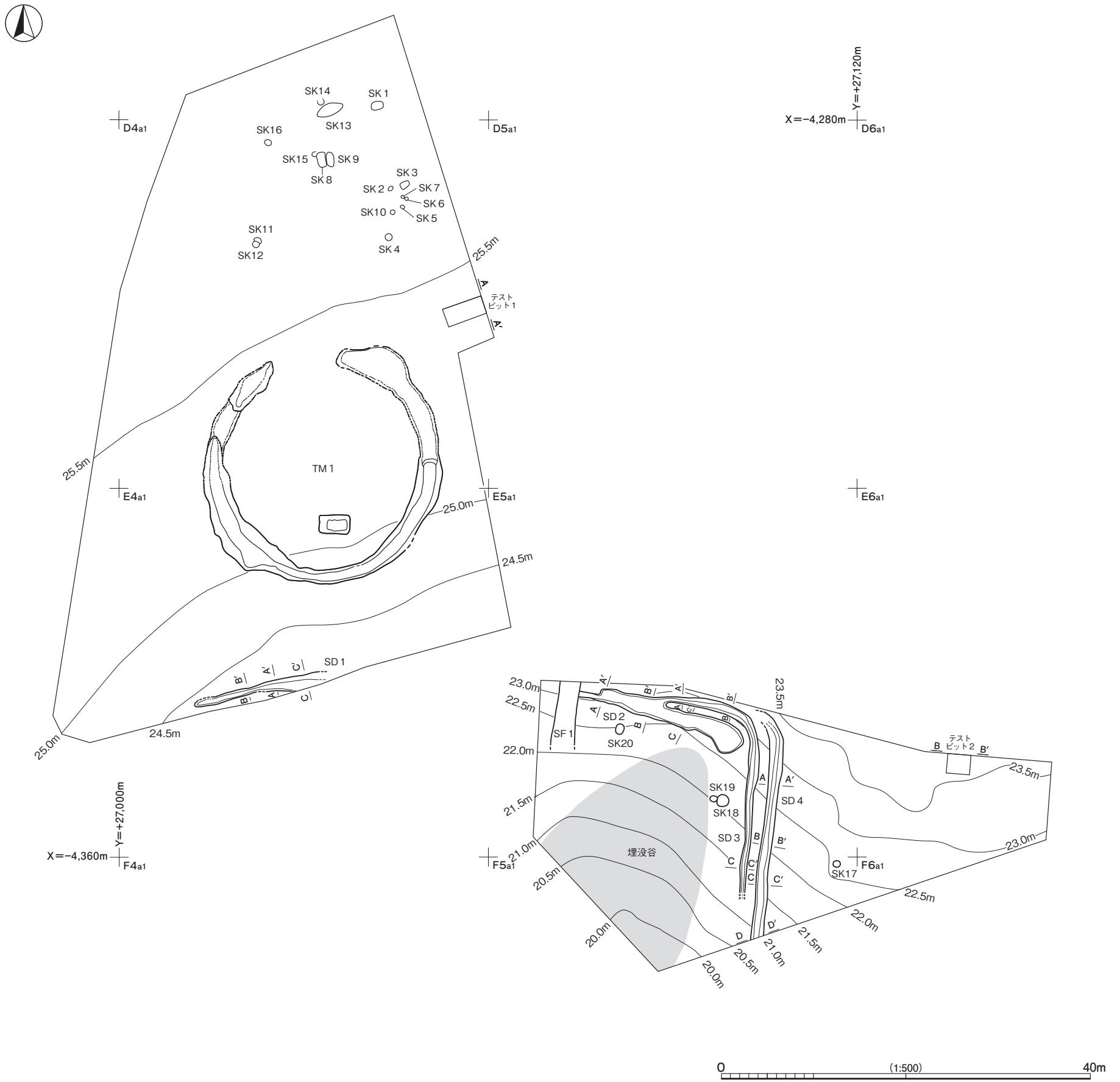
第９層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強く，層厚は７ ～ 30㎝である。

第 10 層は，黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で，締まりは強い。第 10 層の下層は未掘であるため，本来の層厚は不明である。

遺構は，主に第１層上面で確認した。


A
A′
26.00m
25.00m
24.00m
23.00m
表土
K
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
B
B′
24.40m
24.00m
23.00m
22.00m
表土

第３図　基本土層図



第４図　小馬様台遺跡遺構全体図

第３節 遺 構 と 遺 物

１　古墳時代の遺構と遺物

今回の調査では，調査区中央部において古墳１基を確認した。周辺には，古墳がいくつか確認されているが，当遺跡に古墳が存在することは，周知されていなかった。以下，遺構と遺物について記述する。

古墳

第１号墳（第５～７図　PL ２）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区中央部のＤ４g4 ～ Ｅ４c8 区，標高 25 mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況　墳丘から周溝上部にかけて削平されている。埋葬施設は，後世の土地改変によって撹乱され，石片が散乱している状況であった。

規模と形状　墳丘は失われているが，周溝の形状から円墳と考えられる。確認できた規模は，内径 20.6 m，外径 26.0 mである。

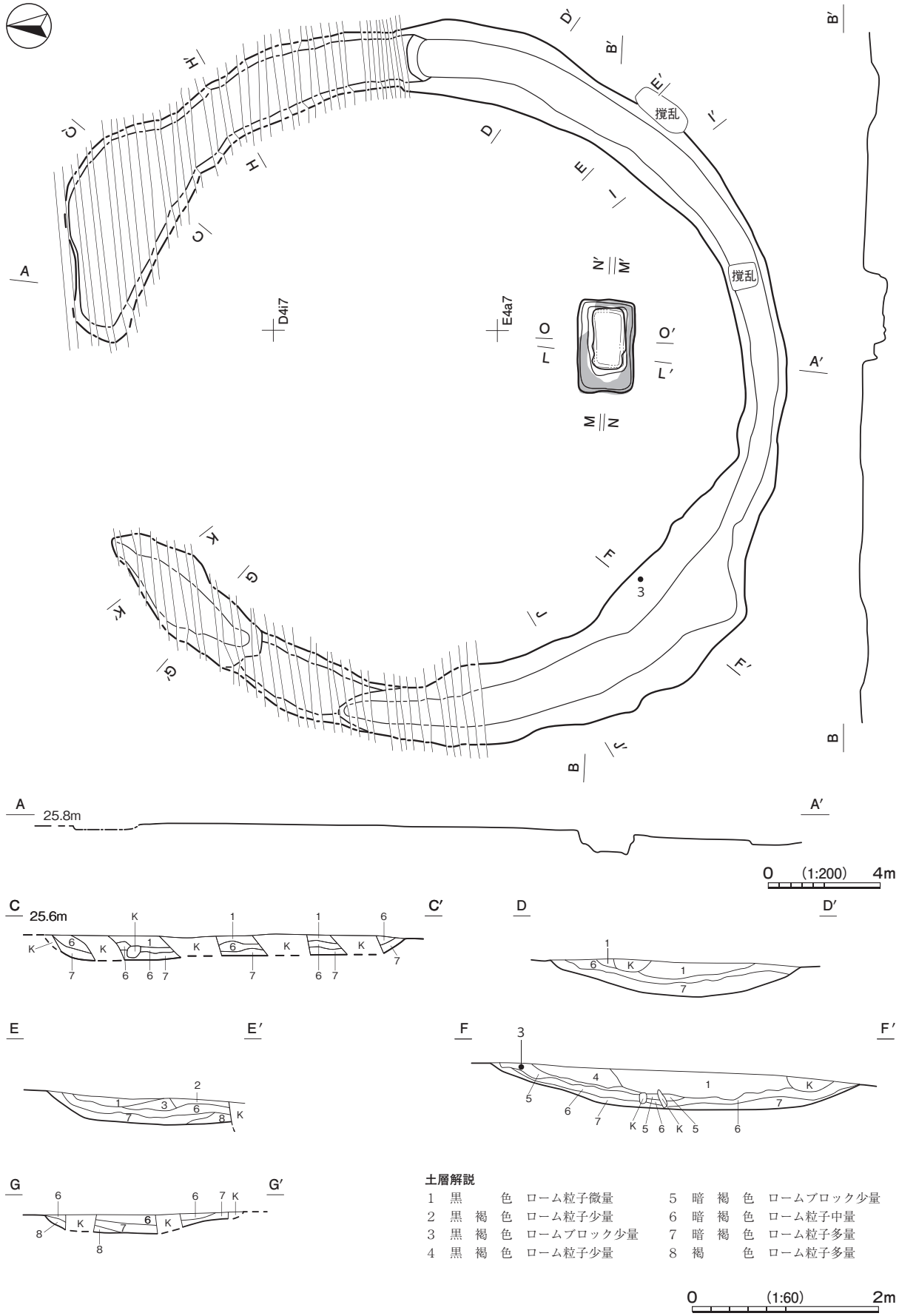
周溝　北部を除き，周回している。上幅 1.5 ～ 4.0 m，下幅 0.5 ～ 3.4 mで，深さは 10 ～ 28cmである。外縁部は北東部及び南西部で大きく膨らみ，北東軸で 3.90 m，南西軸で 4.10 mと広くなっている。底面は平坦である。壁は外傾しており，断面は浅いＵ字状である。

覆土　８層に分層できる。周囲から土砂が流れ込んだ堆積状況を示していることから，自然堆積である。第４・５層は墳丘からの流入土である。

埋葬施設　墳丘南側の裾部近くに位置している。中央部は撹乱を受け，石材が抜き取られている状況であるが，箱式石棺であったとみられる。側石，床石等の状況は不明であるが，棺を固定していた層の断面から，側石はほぼ直角に立ち上がっているとみられる。掘方の規模と形状は，内法で長軸 2.10 m，短軸 1.10 mの長方形で，長軸方向は，Ｎ－ 92 °－ Ｅである。確認面から底面までの深さは 73 ～ 84cmである。石材は雲母片岩を厚さ２～５cm程の板状に加工したものを使用し，周囲に粘土を充填している。掘方は，中に段を有し，確認面から 40cmまでのところで北側と西側に平坦な面をもち，長軸 3.28 m，短軸 2.02 mの長方形に掘りくぼめている。さらに長軸 2.50 m，短軸 1.38 mの長方形に 25cmほど掘り込まれている。壁際では側石を立てるために溝状に 15cm掘り下げている。

遺物出土状況　土師器片 49 点（坏 12，壺１，甕類 36），須恵器片４点（瑕１，提瓶１，甕類２），土師質土器片１点（内耳鍋），板石片 386 点（雲母片岩）が出土している。１・２は周溝東側覆土中から，３は周溝西側の覆土上層から出土している。

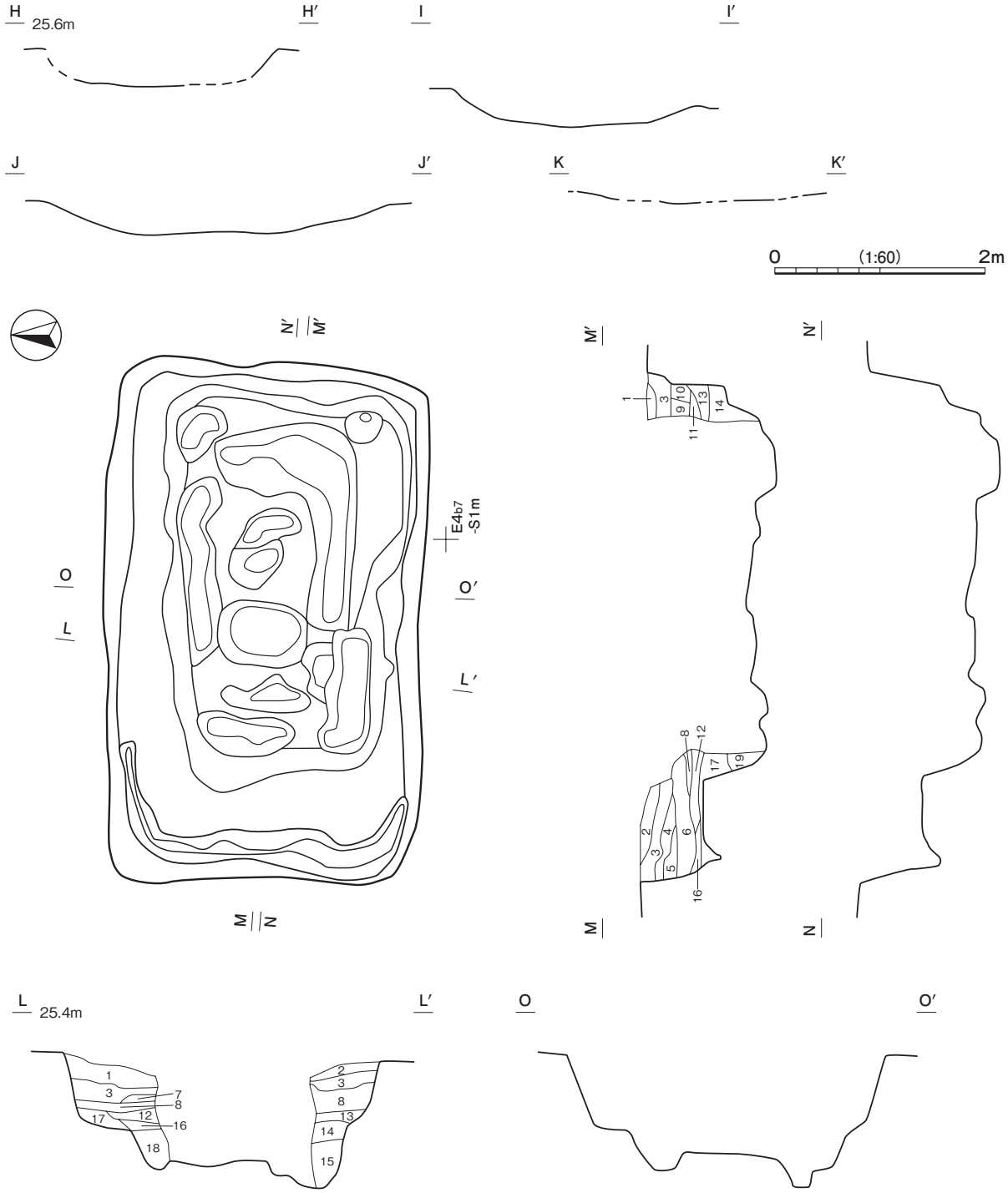
所見　墳丘は失われているが，主体部は南側の裾部に位置しており，いわゆる変則的古墳である可能性が考えられる。主体部の旧状は不明であるが，出土した石材と遺構の形状から箱式石棺が構築されていたと考えられる。副葬品については不明である。築造年代は埋葬施設の構築形態や周溝の出土遺物から後期の６世紀後半と思われ，６世紀末から７世紀前葉にかけて造営された変則的古墳の時期とも重なってくる。



土層解説

1	黒	色	ローム粒子微量	5	暗 褐	色	ロームブロック少量
2	黒 褐	色	ローム粒子少量	6	暗 褐	色	ローム粒子中量
3	黒 褐	色	ロームブロック少量	7	暗 褐	色	ローム粒子多量
4	黒 褐	色	ローム粒子少量	8	褐	色	ローム粒子多量

第５図　第１号墳実測図(1)

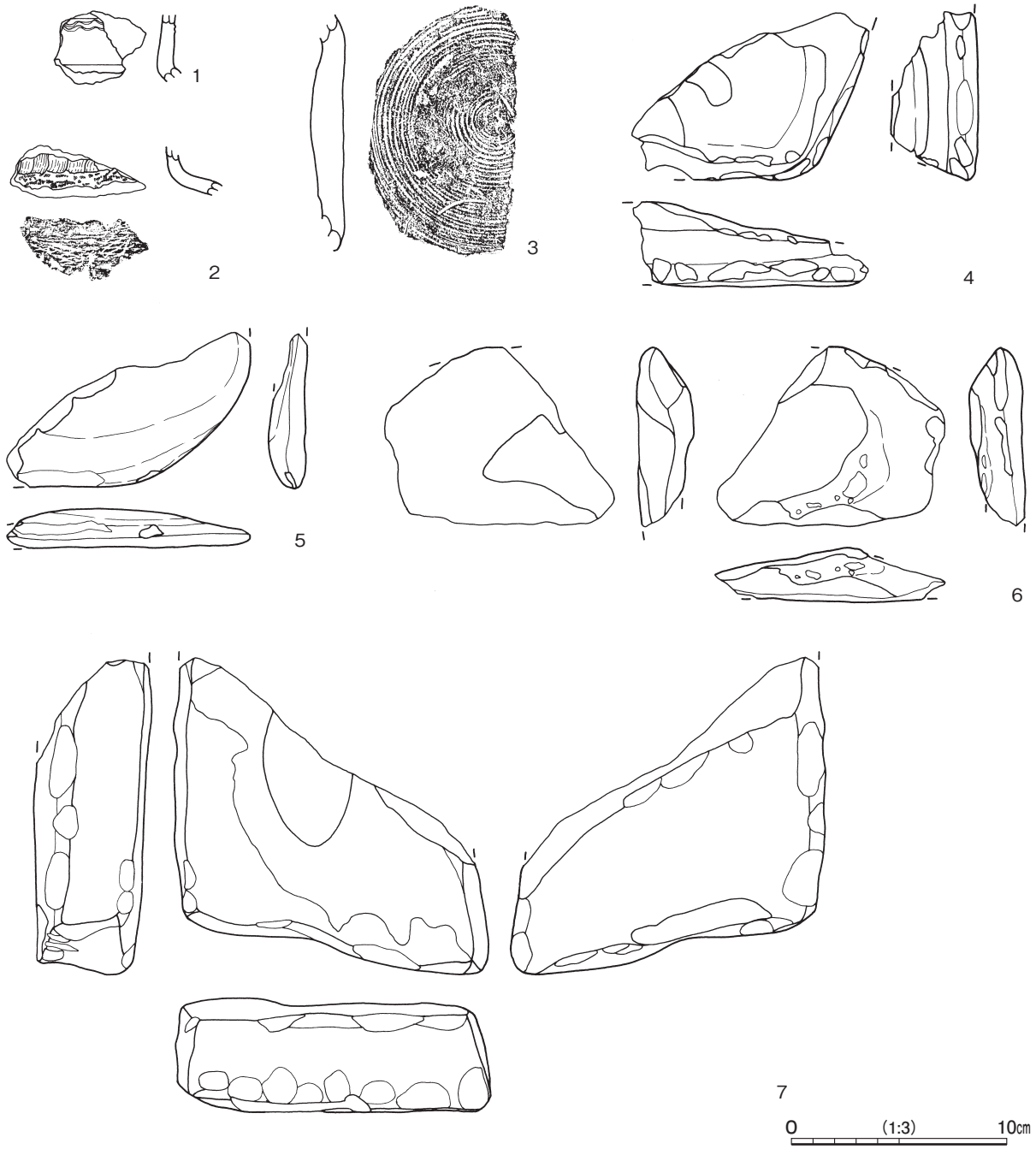


主体部土層解説

1　黒　褐　色　灰白色粘土ブロック多量，ロームブロック中量
2　黒　褐　色　灰白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量
4　黒　　色　ロームブロック少量
5　黒　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック多量
7　暗　褐　色　灰白色粘土ブロック多量，ロームブロック少量
8　暗　褐　色　灰白色粘土ブロック多量，ロームブロック中量
9　黒　　色　灰白色粘土ブロック多量，ロームブロック少量
10　黒　　色　灰白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量
11　黒　　色　ロームブロック・灰白色粘土ブロック少量
12　褐　　色　ロームブロック中量
13　黒　褐　色　灰白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量
14　黒　褐　色　灰白色粘土ブロック多量，ロームブロック少量
15　黒　褐　色　灰白色粘土ブロック中量，ロームブロック少量
16　暗　褐　色　灰白色粘土ブロック多量
17　暗　褐　色　ロームブロック多量
18　黒　褐　色　ロームブロック中量
19　黒　　色　ロームブロック多量，灰白色粘土ブロック少量

0　(1:40)　1m

第６図　第１号墳実測図(2)



第７図　第１号墳出土遺物実測図

第１号墳出土遺物観察表（第７図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	瓶	－	(3.4)	－	長石・石英	黄灰	普通	頸部に櫛歯状工具による波状文	周溝東側 覆土中	５％　PL ３
2	土師器	壺	－	(2.4)	－	長石・石英	橙	普通	附加条２種の縄文　頸部の左側に櫛描き文	周溝東側 覆土中	５％
3	須恵器	提瓶	－	(10.9)	－	長石・石英	暗灰黄	普通	体部外面カキ目　内面に指頭痕	周溝西側 覆土上層	５％　PL ３

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
4	板石	(7.8)	(11.0)	(4.0)	(290.10)	雲母片岩	側縁部剥離痕	主体部 覆土中	PL ３
5	板石	(7.0)	(11.3)	1.8	(122.42)	雲母片岩	側縁部剥離痕	主体部 覆土中	PL ３
6	板石	(8.3)	(10.6)	(2.6)	(202.34)	雲母片岩	側縁部剥離痕	主体部 覆土中	PL ３
7	板石	(14.7)	14.7	5.4	(1403.4)	雲母片岩	側縁部剥離痕	主体部 覆土中	

2　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，道路跡１条を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

道路跡

第１号道路跡（第８図　PL ２）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区南部のＥ５f2 ～Ｅ５h3 区，標高 22 ～ 23 mほどの台地斜面部に位置している。

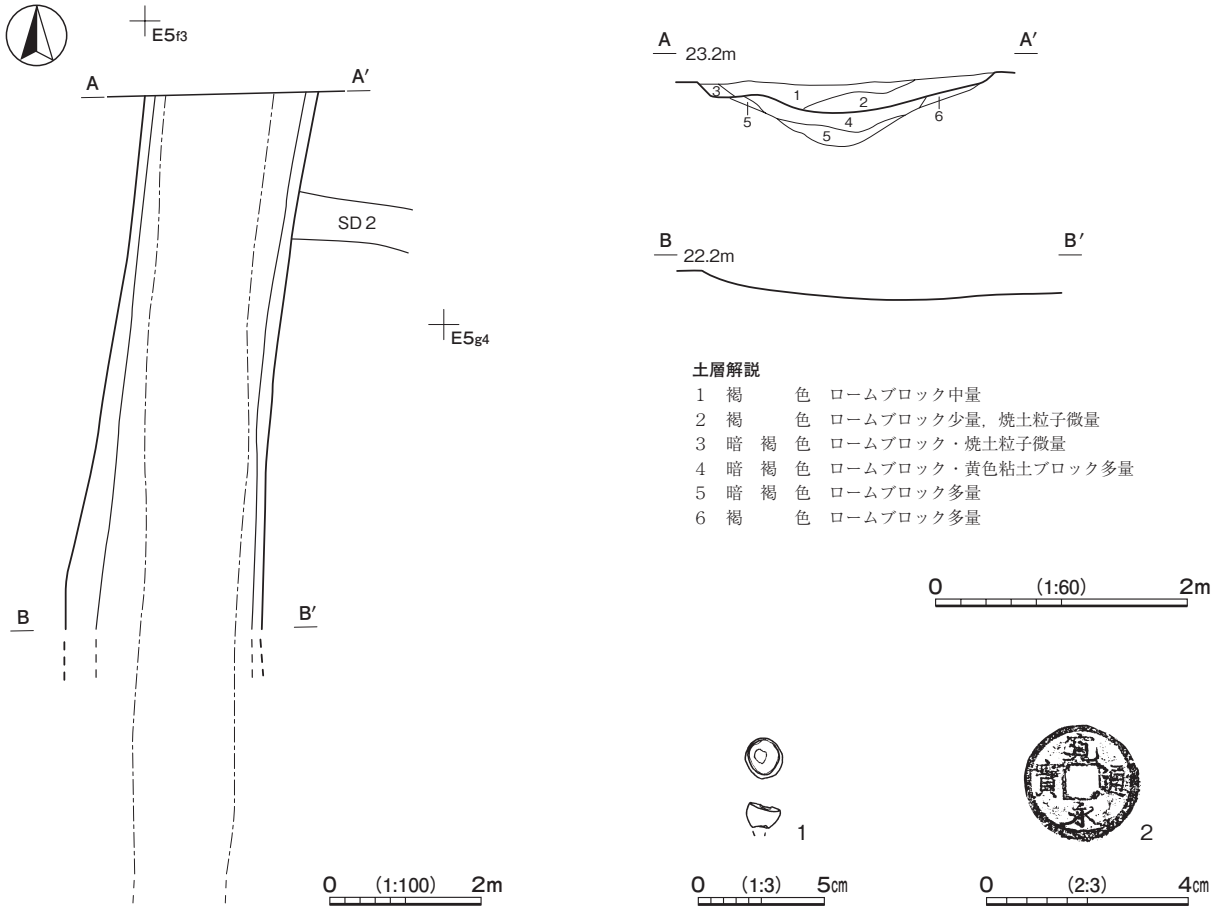
重複関係　第２号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北側が調査区域外に延び，南側が削平されているため，長さは 10.4 mしか確認できなかった。浅いＵ字状に掘り下げられ，上幅 2.10 ～ 2.56 m，下幅 1.85 ～ 2.05 m，深さ 48㎝で路面の深さは 28㎝である。Ｅ５f2 区から南方向（N － 172° － W）に直線状に延びている。硬化面は幅 1.25 ～ 1.40 mを確認した。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第４～６層は不規則な粘土ブロックの堆積であることから掘方で，人為に埋め戻された可能性がある，第４層上面は踏み固められ路面として使用されている。

遺物出土状況　金属製品１点（煙管），銭貨２点（寛永通寶）が覆土中から出土している。

所見　硬化面は北側から南側に向かって緩やかに低くなっている。南方向へ直線状に延びる硬化面を確認していることから，道路跡と考えられる。地界を道として使用しており，時期は出土遺物から江戸時代と考えられる。



第８図　第１号道路跡・出土遺物実測図

第１号道路跡出土遺物観察表（第８図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
1	煙管	(1.5)	1.6	(1.0)	(1.7)	銅	火皿部	覆土中	

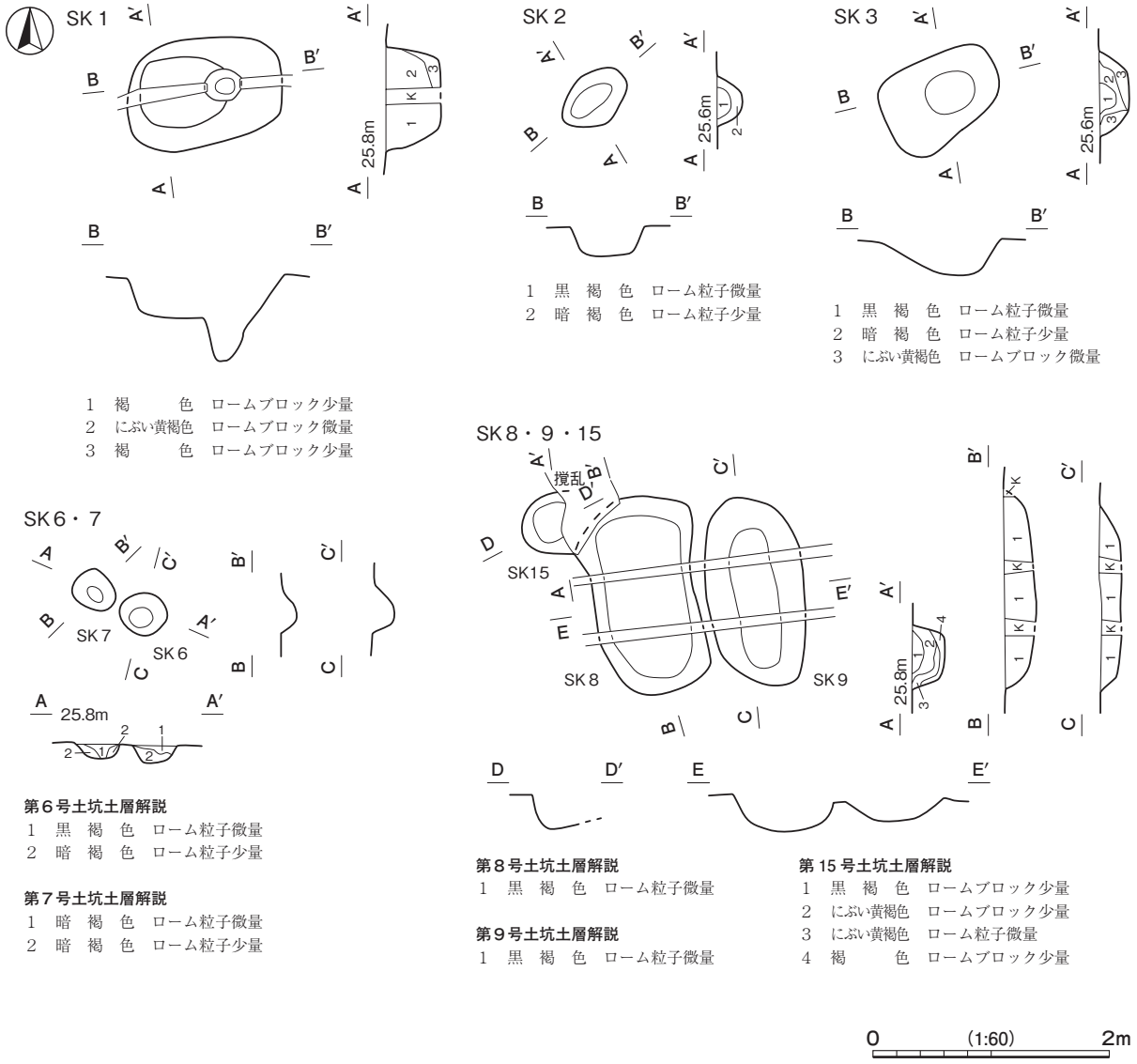
番号	銭　種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
2	寛永通寶	2.3	0.6	0.15	(9.5)	鉄	1739	元文期亀戸銭	覆土中	PL 3

3　時期不明の遺構

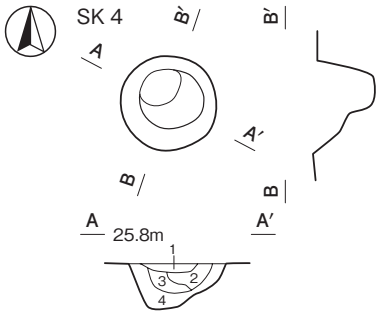
時期が明確にできなかった土坑 20 基，溝跡４条を確認した。以下，遺構について記述する。

(1)　土　坑

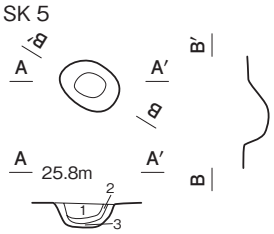
今回の調査で，時期や性格が不明な土坑については，実測図（第９～ 12 図），土層解説及び一覧表を掲載する。



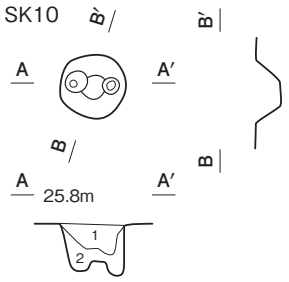
第９図　時期不明の土坑実測図 (1)



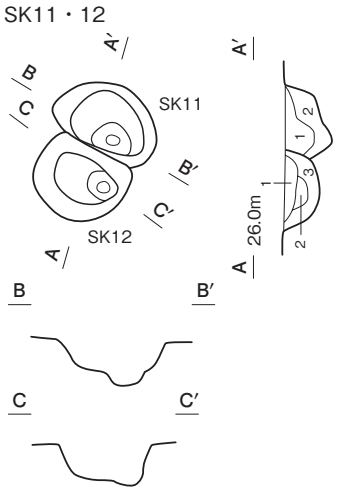
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

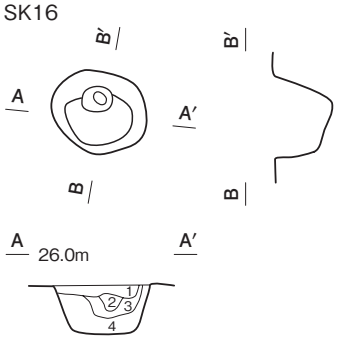


1　褐　　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック微量

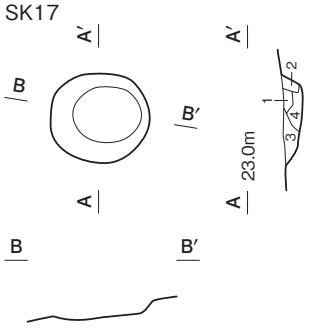


1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック微量





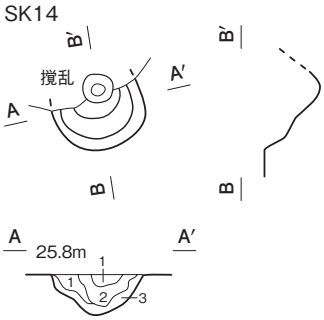
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量



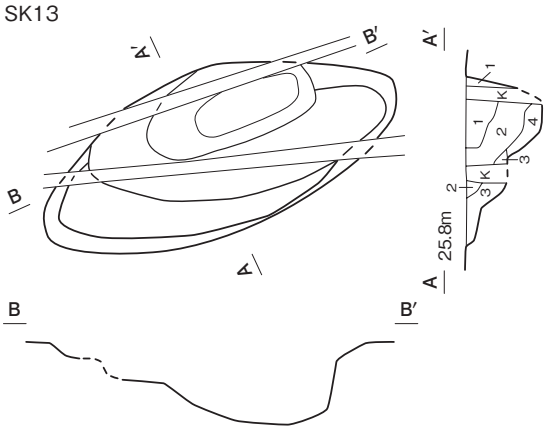
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

第 11 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

第 12 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量



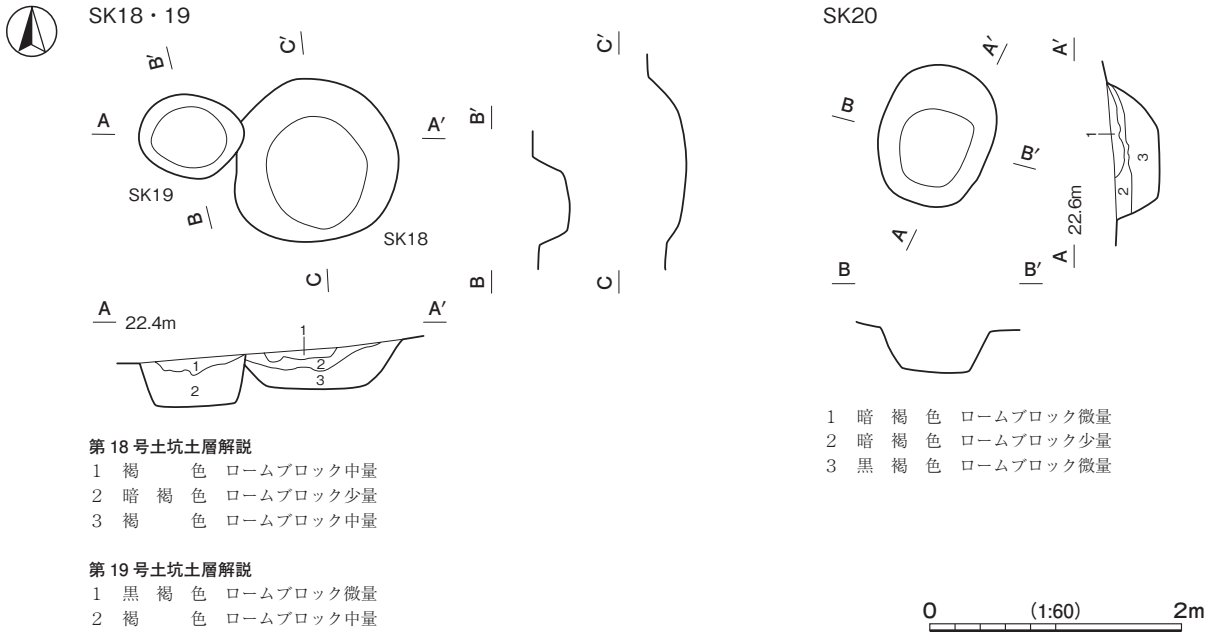
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量



1　褐　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量

0　(1:60)　2m

第 10 図　時期不明の土坑実測図 (2)



第 18 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 19 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ロームブロック微量

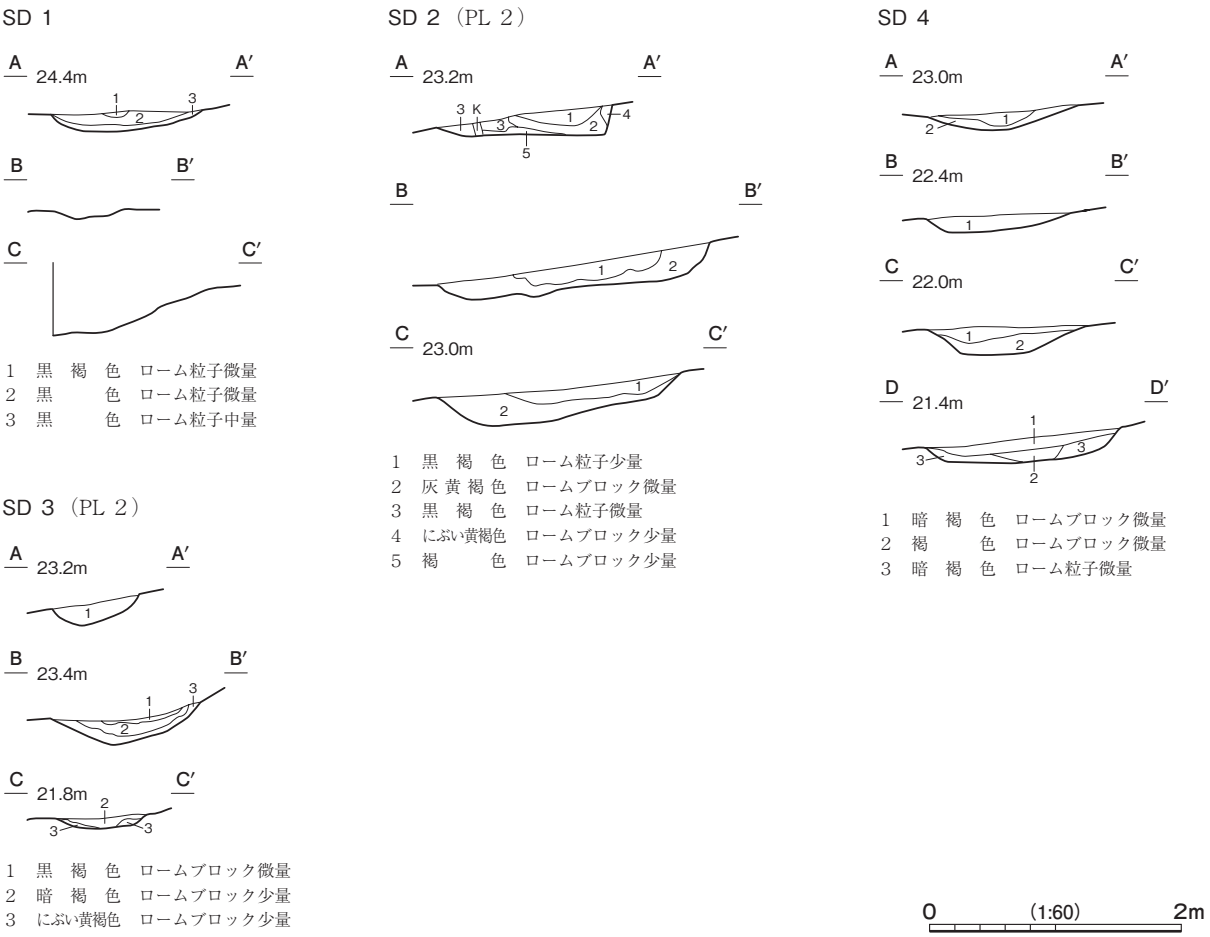
第 11 図　時期不明の土坑実測図 (3)

表２　時期不明の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	C 4 j8	N − 82° − E	隅丸長方形	1.32 × 0.88	74	有段	ほぼ直立 外傾	自然	土師器	
2	D 4 b8	N − 47° − E	楕円形	0.62 × 0.40	24	平坦	外傾	自然		
3	D 4 b8	N − 65° − E	隅丸長方形	1.02 × 0.68	30	皿状	緩斜	自然	縄文土器	
4	D 4 d8	−	円形	0.78 × 0.74	32	皿状	外傾 緩斜	自然		
5	D 4 c8	N − 62° − W	楕円形	0.48 × 0.38	18	皿状	緩斜	自然		
6	D 4 c8	−	円形	0.40 × 0.38	18	皿状	緩斜	自然		
7	D 4 c8	N − 57° − W	楕円形	0.40 × 0.30	12	皿状	緩斜	自然		
8	D 4 b6	N − 12° − W	隅丸長方形	1.68 × 0.85	30	皿状	緩斜	自然	土師器	SK15 と重複
9	D 4 b6	N − 10° − W	楕円形	1.60 × 0.83	20	皿状	緩斜	自然		
10	D 4 c8	−	円形	0.52 × 0.50	20	有段	外傾 緩斜	自然		
11	D 4 d4	N − 57° − W	［楕円形］	0.86 × （0.54）	38	有段	外傾	自然		本跡→ SK12
12	D 4 d4	N − 60° − W	楕円形	0.76 × 0.56	34	有段	外傾	自然		SK11 →本跡
13	C 4 j6	N − 68° − E	楕円形	3.00 × 1.32	66	平坦	ほぼ直立 外傾	自然		
14	C 4 j6	−	［円形･楕円形］	0.72 × （0.60）	64	有段	緩斜	自然	縄文土器	
15	D 4 a6	−	［円形･楕円形］	0.53 × （0.34）	29	平坦	外傾	自然		SK ８と重複
16	D 4 a5	N − 65° − W	楕円形	0.78 × 0.64	46	有段	ほぼ直立 外傾	自然	縄文土器	
17	F 5 a0	−	円形	0.78 × 0.72	16	平坦	緩斜	自然		
18	E 5 i7	−	円形	1.30 × 1.30	22	皿状	緩斜	自然		本跡→ SK19
19	E 5 i7	N − 90°	楕円形	0.84 × 0.66	26	平坦	外傾	自然		SK18 →本跡
20	E 5 g4	N − 20° − E	楕円形	1.12 × 0.88	32	平坦	緩斜	自然		

(2) 溝　跡

今回の調査で，時期や性格が不明な溝跡については，実測図（第 12 図），土層解説及び一覧表を掲載する。



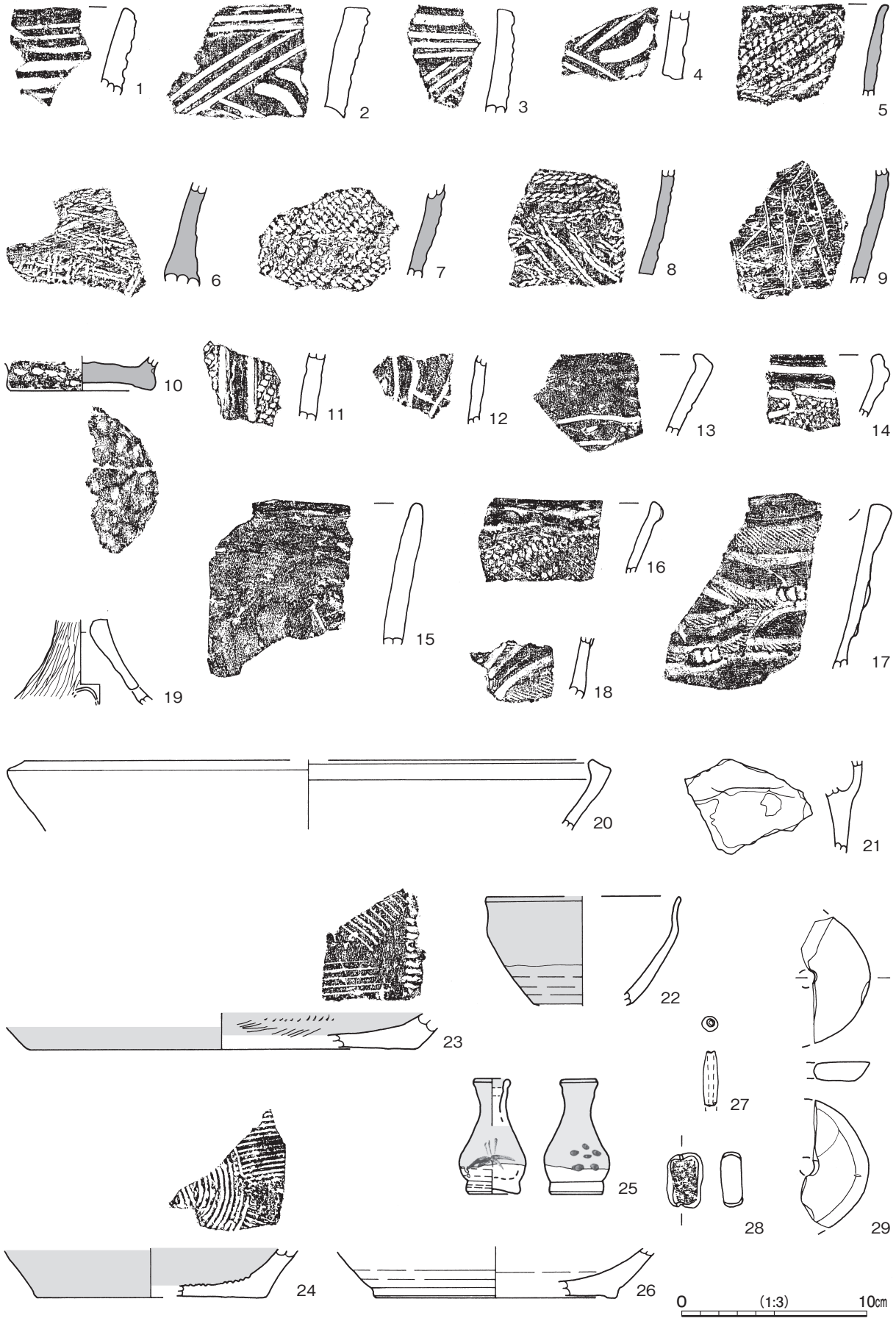
第 12 図　時期不明の溝跡実測図

表３　時期不明の溝跡一覧表

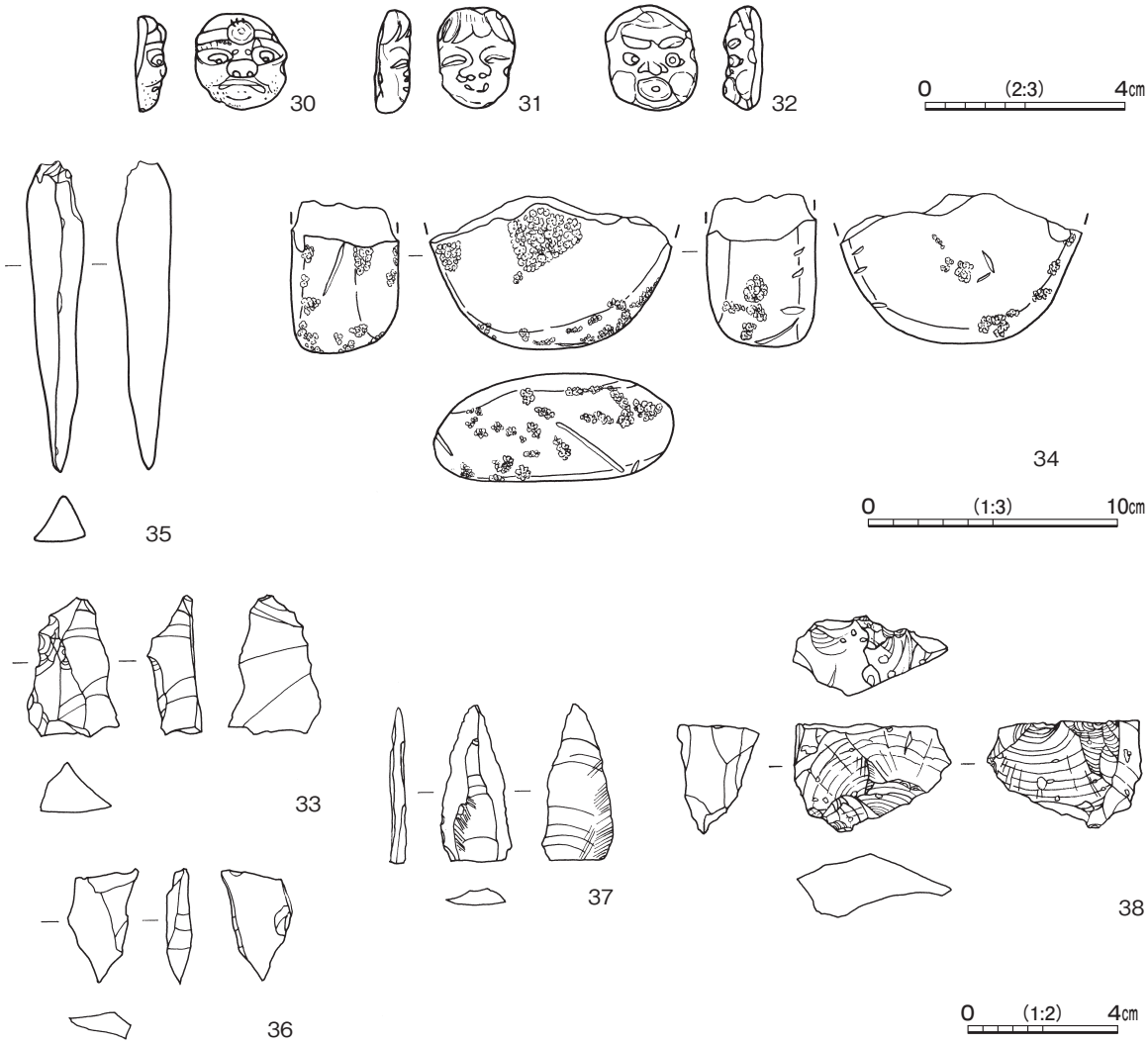
番号	位　置	方　向	平面形	規　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ(cm)					
1	E 4 f3 ～ E 4 f6	N － 88° － E	直線	(13.60)	0.64 ～ 1.48	0.20 ～ 0.98	36	浅い U 字状	緩斜	自然	縄文土器	
2	E 5 f3 ～ E 5 h7	N － 105° － E	直線	(18.54)	0.72 ～ 3.04	0.36 ～ 2.52	32	浅い U 字状	緩斜	自然	縄文土器，土師質土器	本跡→ SF 1 SD 3 と重複
3	E 5 f5 ～ F 5 a7	N － 102° － E N － 184° － E	L 字状	(28.16)	0.54 ～ 1.16	0.18 ～ 0.64	20	浅い U 字状	緩斜	自然	土師質土器	SD 2 と重複
4	E 5 g8 ～ F 5 c8	N － 186° － E	[L 字状]	(22.80)	1.16 ～ 1.52	0.28 ～ 0.72	22	浅い U 字状	緩斜	自然	土師質土器，陶器	

(3) 遺構外出土遺物

今回の調査で，遺構に伴わない遺物については，実測図（第 13・14 図）及び観測表を掲載する。



第 13 図　遺構外出土遺物実測図 (1)



第 14 図　遺構外出土遺物実測図 (2)

遺構外出土遺物観察表（第 13・14 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英	褐灰	普通	半截竹管による沈線	表土	5％ 早期条痕文系
2	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	半截竹管による沈線	SD 1 覆土中	5％　PL 3 早期条痕文系
3	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	半截竹管による沈線	SD 2 覆土中	5％ 早期条痕文系
4	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・ 雲母	黒褐	普通	半截竹管による沈線	SD 2 覆土中	5％ 早期条痕文系
5	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	褐	普通	単軸絡条帯 1 種　軸：右撚り　巻き縄：右撚り	TM 1 覆土中	5％ 黒浜式
6	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	単軸絡条帯 1 種　軸：右撚り　巻き縄：右撚り	SD 2 覆土中	5％ 黒浜式
7	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	長石・石英・ 雲母・繊維	明褐	普通	単節縄文 LR	TM 1 覆土中	5％ 黒浜式
8	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	長石・石英・ 雲母・繊維	明褐	普通	単軸絡条帯 1 種　軸：右撚り　巻き縄：右撚り	表土	5％　PL 3 黒浜式
9	縄文土器	深鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・ 繊維	褐	普通	沈線による格子目文	表土	5％ 黒浜式
10	縄文土器	深鉢	－	(1.9)	[7.8]	長石・石英・ 繊維・針状物質	橙	普通	刺突文　底部指頭痕	TM 1 覆土中	5％ 黒浜式
11	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・ 雲母	橙	普通	単節縄文 RL に施文後，沈線間すり消し	TM 1 覆土中	5％ 加曽利 E 式
12	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・ 雲母	黄橙	普通	沈線に刺突文	SK15 覆土中	5％ 称名寺式
13	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・ 雲母	にぶい黄橙	普通	沈線に刺突文	表土	5％ 称名寺式
14	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	地文に単節縄文 RL を施文後，懸垂文	表土	5％ 堀之内式
15	縄文土器	深鉢	－	(7.7)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部ナデ調整	表土	5％ 後期前半

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
16	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	単節縄文 LR	表土	５％ 加曽利Ｂ１式
17	縄文土器	深鉢	－	(8.8)	－	長石・石英・ 雲母	橙	普通	口縁部隆起帯に単節縄文 RL　貼付文に縦位の刻み	TM １覆土中	５％　PL ３ 安行２式
18	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	単節縄文 RL　工具による沈線	TM １覆土中	５％ 安行２式
19	土師器	器台	－	(4.2)	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面磨き　脚部円孔４か所	SD ２覆土中	30%　PL ３
20	土師質土器	内耳鍋	[30.6]	(3.7)	－	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	外・内面ナデ調整	SD ４覆土中	５％
21	土師質土器	内耳鍋	－	(5.1)	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	黒褐	普通	外・内面ナデ調整	SD ２覆土中	５％

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
22	陶器	天目茶碗	[10.4]	(5.9)	－	長石・石英 褐　にぶい黄橙	外・内面ロクロナデ　外面施釉	鉄釉	瀬戸・美濃	SD ４覆土中	10%
23	陶器	擂鉢	－	(1.9)	[21.0]	長石・石英 明赤褐	外・内面ハケ目調整　６条の擂目ヵ	－	在地	表土	５％
24	陶器	擂鉢	－	(2.1)	[12.4]	長石・石英・ 赤色粒子　黒褐	ロクロ成形　外・内面施釉　８条の擂目ヵ	鉄釉	瀬戸・美濃	表土	10%　PL ３
25	陶器	御神酒徳利	1.7	6.2	2.7	長石　灰白 にぶい黄褐	ロクロ成形　外・内面施釉	長石釉	瀬戸・美濃	表土	100%　PL ３
26	陶器	鉢	－	(2.8)	[13.0]	長石・石英 灰白	ロクロ成形　外・内面施釉	灰釉	瀬戸・美濃	表土	５％

番号	器　種	径	長さ(厚さ)	孔径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
27	管状土錘	0.8	(3.0)	0.3	(1.92)	長石・石英	灰褐	ナデ調整	表土	
29	紡錘車	[6.8]	1.0	[1.0]	(27.01)	長石・雲母	褐灰	全面ナデ調整	表土	PL ３

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
28	土器片錘	2.9	1.9	1.1	6.65	長石・石英	にぶい褐	周縁部研磨　両端に刻み	表土	
30	泥面子	1.9	1.8	0.6	1.40	長石・石英	橙	天狗ヵ	表土	PL ３
31	泥面子	2.1	1.5	0.7	2.00	長石	橙	おかめヵ	表土	PL ３
32	泥面子	2.1	1.8	0.8	1.97	長石・雲母	にぶい橙	ひょっとこヵ	表土	PL ３

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
33	細石刃	3.7	2.5	1.5	8.36	石英	使用痕　二次調整痕	表土	
34	敲石	(6.2)	(9.2)	4.4	(371.03)	安山岩	側縁部に敲打痕	表土	
35	剥片	12.5	2.2	1.9	44.35	頁岩	厚みのある二次調整の縦長剥片　上端部に打瘤痕	表土	
36	剥片	3.1	1.9	0.7	2.39	頁岩	縦長剥片	表土	
37	剥片	4.2	1.9	0.5	2.86	チャート	上端縁部に使用痕	表土	
38	石核	2.9	4.1	2.1	17.32	黒曜石	不定形の剥片の剥離痕	表土	

第４節 総　　括

１　はじめに

調査の結果，古墳時代の古墳１基，江戸時代の道路跡１条，時期不明の土坑 20 基，溝跡４条を確認した。ここでは，確認できた遺構と遺物について時代ごとに概観し，若干の考察を加えてまとめとしたい。

２　各時代の様相

⑴　縄文時代

当該期の遺構は確認できなかったが，調査区域内の古墳や台地斜面部の表土中において，縄文時代早期から後期までの土器片が出土している。縄文時代早期の土器片は，沈線文系や貝殻条痕文（茅山下層式）であり，これらは後述する山王前遺跡から出土している土器と同時期である。年代の詳細は，山王前遺跡の総括において述べることとするが，出土遺物から当遺跡の周辺に縄文時代の生活域があったものとみられる。

⑵　古墳時代

ア　古墳について

調査の結果，古墳１基を確認し，周溝と主体部を検出した。墳丘及び埋葬施設の上層辺りまで削平されているが，その周溝の形状から円墳と推定される。周溝は北側において途切れているか削平により湮滅したかは不明であるが，規模は外径で 26 ｍと想定される。築造年代を判断する出土遺物は須恵器（瓿，提瓶）と土師器（壺）のみであった。当遺跡の周辺を見てみると，南方約 2.5㎞に山王塚古墳，水神塚古墳と首長墓と目される明神塚１号墳があり，これらは台地先端に位置しており，当遺跡は根古屋川流域の古墳を支える集落と考えられる。

イ　埋葬施設について

埋葬施設は墳丘の南側の裾に位置し，その規模は内法で長軸 2.10 ｍ，短軸 1.10 ｍの広さがあり，高さはその封土下にあったと思われる。埋葬施設の長軸は円墳の中心に対して直角であった。これらのことは，合葬（追葬）を前提に構築されたいわゆる変則的古墳の可能性も考えられる。埋葬施設の規模については，十分な大きさをもち，成人の伸展葬が可能な容量をもっている。また，埋葬施設の石材は抜き取られており，石棺内からは人骨片と石材の雲母片岩の一部が遺存していた。埋葬施設の掘方は，段をもつような構造が検出され，確認面から 40㎝のところで一度，平坦な面を作り，そこからさらに約 25㎝堀りくぼめて底部に至る形状が確認された。期例として田宮古墳群と大谷貝塚が挙げられる。新治郡新治村大字高岡字内山（現在の土浦市高岡）の田宮古墳群において，第７号墳の墳丘は削平により失われているが，規模は残存する周構から推測された外径で，約 25m の古墳と報告されている。その埋葬主体部は，本墳の南西側に片寄って検出されており，長軸 3.10 ｍ，短軸 2.15 ｍの長方形を呈し，雲母片岩の板石を組み合わせた箱式石棺である。時期は主体部の箱式石棺という型式および検出位置，出土遺物から，古墳時代後期の６世紀代と比定している[1)]。また，茨城県南部，霞ヶ浦南西岸の稲敷郡美浦村大字大谷の大谷貝塚の第１号墳において，地山を掘り込んだ地下式の箱式石棺が検出され，その掘方は２段の構造となっている。上段の掘り込みは，長軸 3.05 ｍ，短軸 2.29 ｍの長方形で，深さ 26 ～ 35㎝である。壁は直立し，底面はほぼ平坦である。その内側の下段の掘り込みは，長軸 2.41 ｍ，短軸 1.27

mの長方形で，上段の底面からの深さは８～21cmである。底面はほぼ平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。東壁と北壁の一部に沿って，４～６条の溝状の掘り込みが認められ，石棺を構成した板石を据えた痕跡と考えられるものがある。時期は古墳時代後期の７世紀後半と推測している[2)]。これらの調査報告も併せると，小馬様台遺跡の古墳は，埋葬施設の構造や箱式石棺と比定できることから，同時期の古墳時代後期６世紀後半と考えられる。

⑶　江戸時代

道路跡について

今回の調査で道路跡１条を確認している。今回の調査では，調査区域外に延びるため，硬化面の長さを10.4 m，幅 2.10 ～ 2.56 mしか確認できなかった。出土遺物は，金属製品（煙管），銭貨（寛永通寶）のみである。銭貨は鉄製であり，書体の跳ねに独特な特徴をもつ元文期亀戸銭に比定される。道路跡は構造と出土遺物から，時期は江戸時代のものと考えられる。

３　おわりに

当遺跡に周知されていなかった古墳の存在を確認し，それに伴う埋葬施設の構造を捉えられた点は，今回の貴重な成果であった。当該期における古墳構築に係る解明の一助となれば幸いである。また，道路跡についても，形状，年代や用途などの調査結果を加えられた点は，一つの成果といえる。今後の周辺調査例の増加を待ち，さらに小馬様台遺跡の全容が明らかになっていくことを期待したい。

註

１）斉藤弘道　『田宮古墳群　一般国道 125 号道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 57 集　1990 年３月

２）駒澤悦郎　『大谷貝塚　国道 125 号大谷バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書２』茨城県教育財団文化財調査報告第 317 集　2009 年３月

第４章　山　王　前　遺　跡

第１節　調　査　の　概　要

山王前遺跡は，牛久市の西部，根古屋川右岸の谷津傾斜部標高約 24 ｍと台地部に所在している。調査は二次に渡って実施されており，平成 29 年度は調査面積は 800㎡，平成 30 年度は調査面積は 7,104㎡である。調査前の現況は畑地，山林である。

調査の結果，竪穴建物跡 26 棟（縄文時代 16，古墳時代 10），炉穴 95 基（縄文時代），炉跡 35 基（縄文時代 34，時期不明１），陥し穴１基（縄文時代），土坑 124 基（縄文時代 102，古墳時代３，鎌倉・室町時代２，時期不明 15），段切状遺構１か所（鎌倉･室町時代），溝跡７条（鎌倉･室町時代２，時期不明５），道路跡２条（江戸時代），ピット群２か所（時期不明），遺物包含層２か所（縄文時代）を確認した。

遺物は，遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に 59 箱分が出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢），土師器（坏・椀・高台付坏・坩・高坏・壺・小形壺・有段口縁壺・甕・小形甕・甑），須恵器（坏・取鍋ヵ・瑳），陶器（擂鉢），土製品（勾玉・土玉・支脚・紡錘車・泥面子），石器（スクレイパー・石刃・鏃・磨製石斧・磨石・凹石・砥石），石製品（有孔円板・玦状耳飾・石祠），剥片，銭貨（文久永寶）などである。

第２節　基　本　層　序

調査区北東部の台地平坦部（C ５i2 区），北部の緩斜面部（C ４d9 区）にテストピットを設定し，基本土層（第 15 図）の観察を行った。

第１層は，黒褐色を呈する表土層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 12 ～ 50cmである。

第２層は，黄褐色を呈する表土層である。粘性は普通で，締まりはやや弱く，層厚は 18 ～ 38 cmである。

第３層は，黒褐色を呈する表土層である。粘性は普通で，締まりはやや弱く，層厚は 12 ～ 48cmである。

第４層は，褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 25 ～ 50cmである。

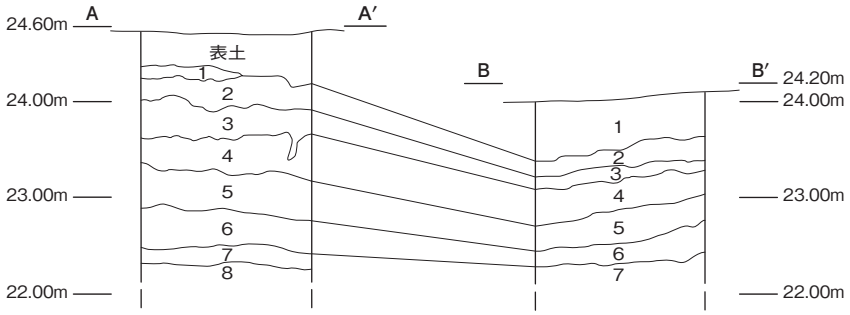
第５層は，明黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性は強く，締まりは普通で，層厚は 28 ～ 48cmである。

第６層は，明黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く，層厚は 18 ～ 48cmである。

第７層は，黄褐色を呈するハードローム層である。砂質粒子を少量含み，粘性は普通で，締まりは強い。下層は未掘であるため，本来の層厚は不明である。

第８層は，にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。下層は未掘であるため，本来の層厚は不明である。

遺構は，主に第４層上面で確認した。



第 15 図　基本土層図

第3節 遺 構 と 遺 物

1　縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡16棟，炉穴95基，炉跡34基，陥し穴1基，土坑102基，遺物包含層2か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。また，口縁部片で茅山下層式土器の古段階・新段階が分かるものは出土点数を記載した。

(1)　竪穴建物跡

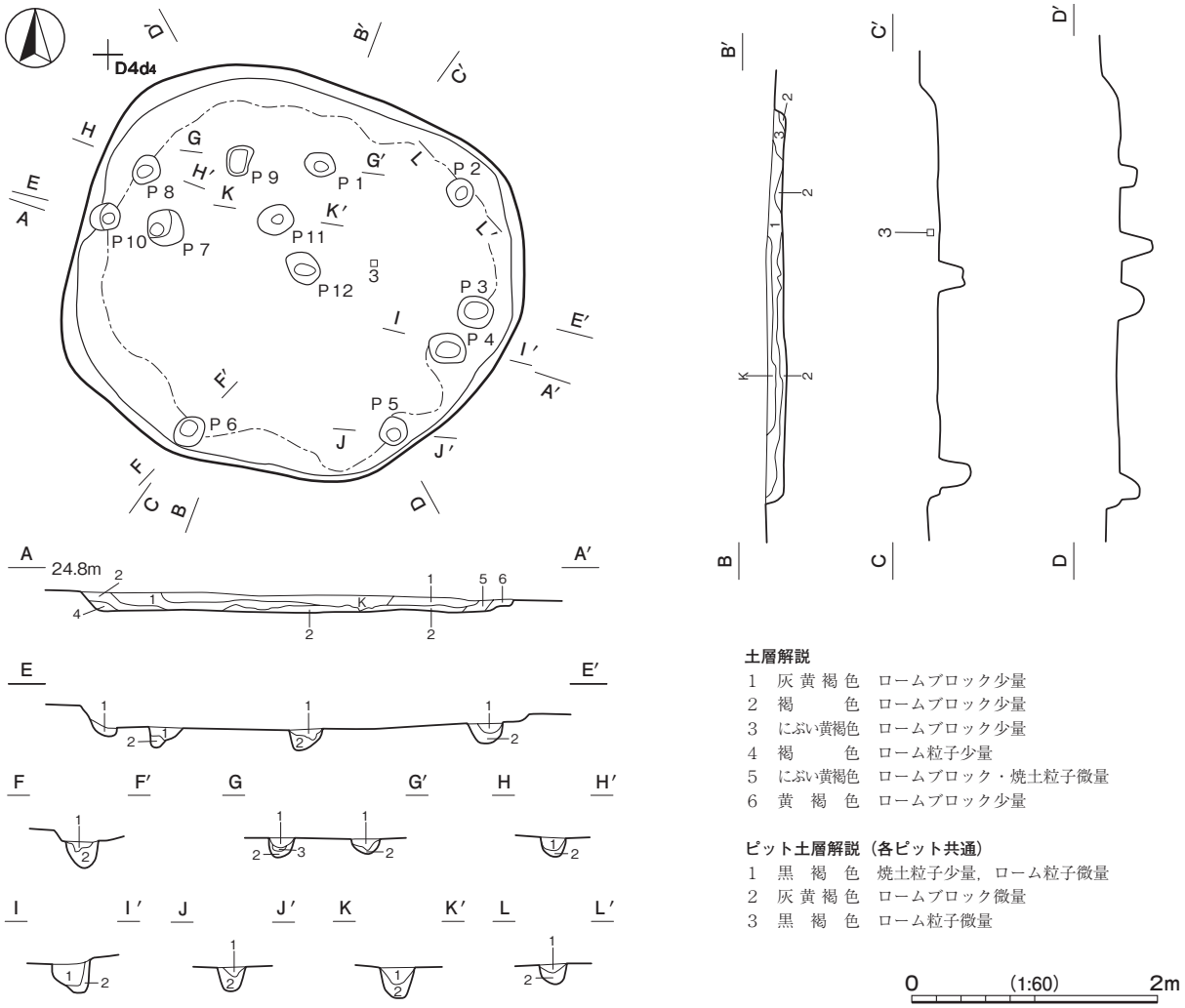
第8号竪穴建物跡（第16・17図　PL 5）

調査年度　平成30年度

位置　調査区中央部のD 4 d4区，標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径3.64 m，短径3.25 mの楕円形で，長径方向はN－71°－Wである。壁は高さ4～14cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。



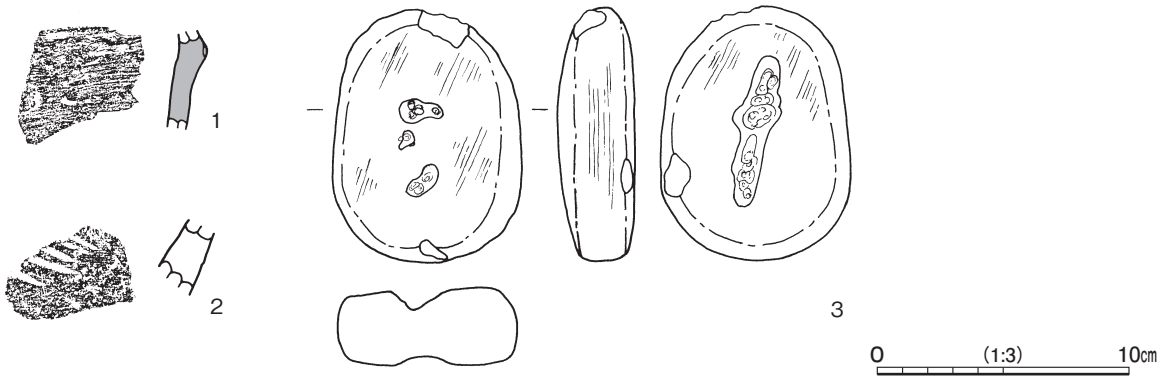
第16図　第8号竪穴建物跡実測図

ピット　12 か所。深さ 10 ～ 25cmの柱穴である。ただし，Ｐ10 は深さ 10cmほどと浅いため，補助柱穴とも考えられる。P11・P12 については性格不明である。

覆土　６層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 35 点（深鉢，口縁部片は古段階１・新段階３），石器１点（凹石），剥片１点が出土している。３は中央部の覆土中層から，１は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。２は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 17 図　第８号竪穴建物跡出土遺物実測図

第８号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 17 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	隆帯に棒状の工具による刻み	覆土中	５％　PL23 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	斜位の細沈線　尖底土器	覆土中	５％　PL23 三戸式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
3	凹石	10.1	7.5	3.1	(315.19)	安山岩	表裏両面に凹み	覆土中層	PL33

第９号竪穴建物跡（第 18・19 図　PL ５）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５d1 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 86・87 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　短径 4.10 m，長径は 5.24 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 32 °－ Ｗと推定できる。壁は高さ５～ 10cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

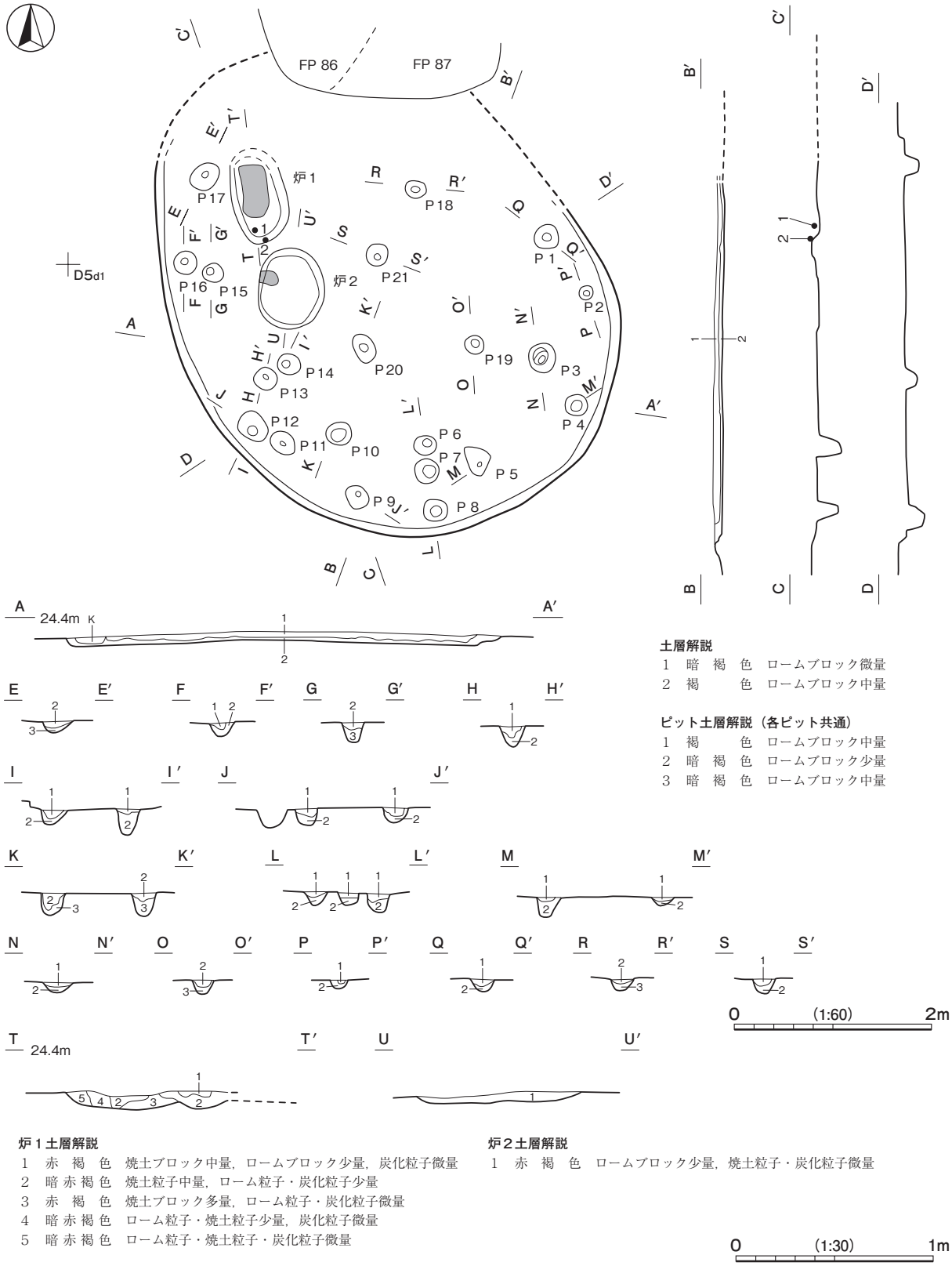
炉　２か所。炉１は北西部に付設されている。長径 1.00 m，短径 0.56 mの楕円形で，深さ 10cmの地床炉である。炉床面は火熱を受け赤変硬化している。炉２は炉１の南側に位置し，長径 0.82 m，短径 0.68 mの楕円形で，深さ６cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けわずかに赤変硬化している。新旧関係は不明である。

ピット　21 か所。Ｐ１～ P17 は，深さ 10 ～ 25cmの柱穴である。P18 ～ P21 については，性格不明である。

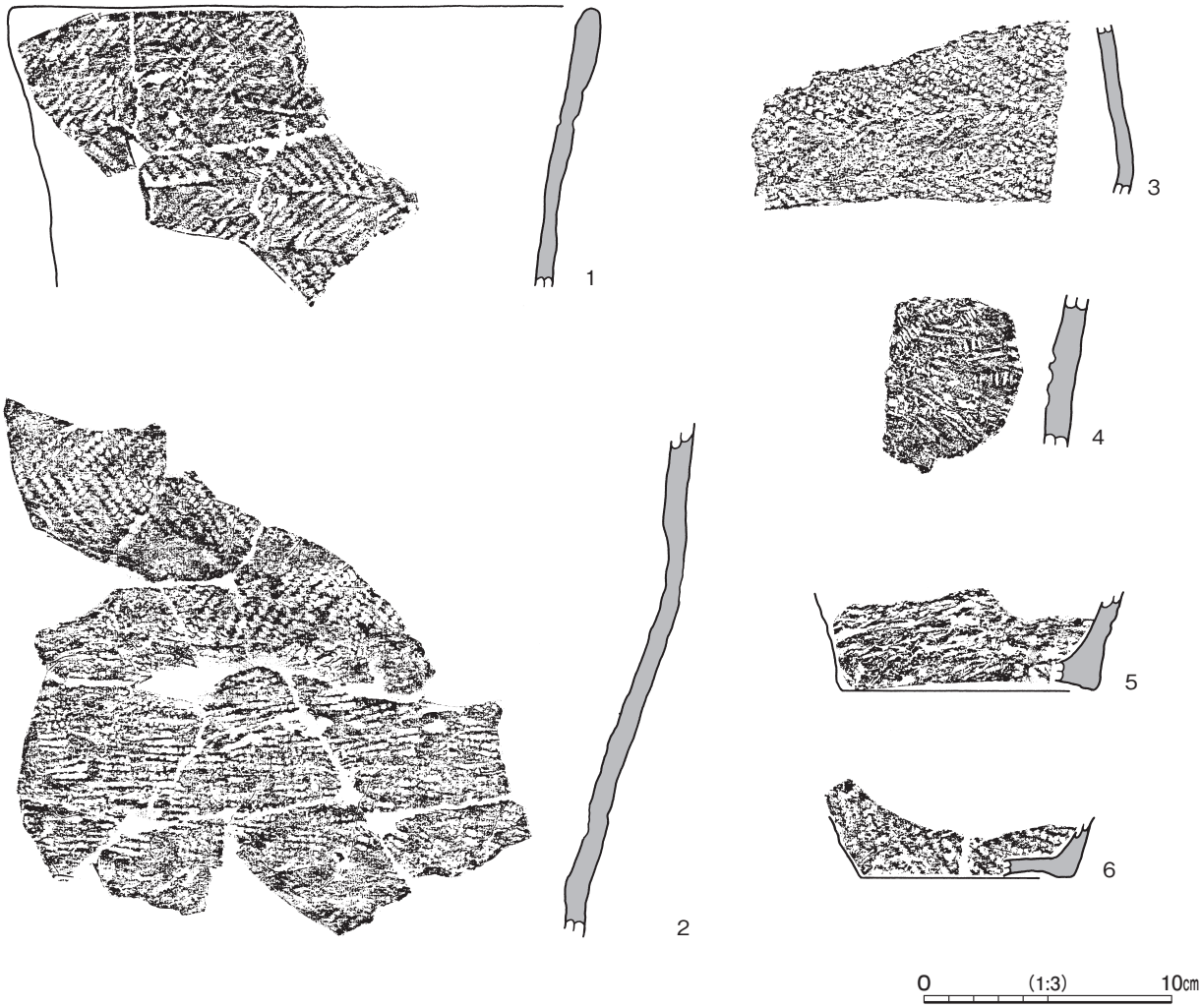
覆土　２層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片 143 点（深鉢，口縁部片は古段階１・新段階 13），石器１点（磨石），剥片１点が出土している。１は炉１覆土中層から，２は炉１覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から前期前半と考えられる。



第 18 図　第９号竪穴建物跡実測図



第 19 図　第９号竪穴建物跡出土遺物実測図

第９号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 19 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	[23.2]	(11.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	単節羽状縄文	炉１覆土中層	５％　PL23 黒浜式
2	縄文土器	深鉢	－	(20.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	単節羽状縄文	炉１覆土上層	５％　PL23 黒浜式
3	縄文土器	深鉢	－	(6.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	単節羽状縄文	覆土中	５％ 黒浜式
4	縄文土器	深鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	絡条体圧痕文	覆土中	５％ 早期終末
5	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	10.2	長石・石英・繊維	赤褐	普通	外・内面ナデ調整	覆土中	５％　PL33 黒浜式
6	縄文土器	深鉢	－	(2.4)	8.6	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面単節 RL 縄文　内面ナデ調整	覆土中	５％　PL33 黒浜式

第 10 号竪穴建物跡（第 20 図　PL ５）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５e1 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第５号竪穴建物，第 17・36・37・40・41・44・94・95 号炉穴に掘り込まれている。

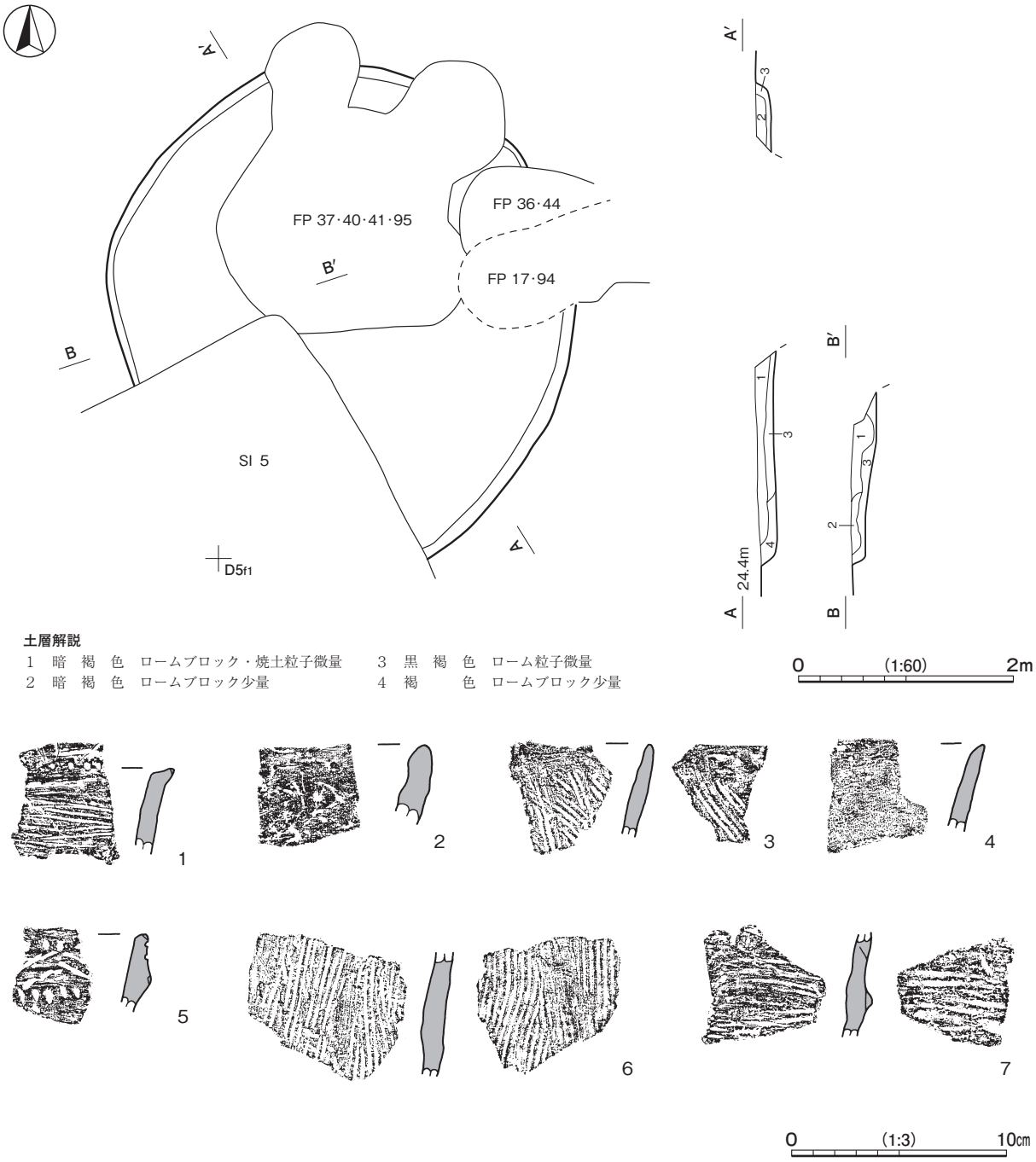
規模と形状　長径 4.38 m，短径 4.10 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 43°－ Ｗと推定できる。また，炉跡やピットは確認できなかった。壁は高さ 12 ～ 14cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 91 点（深鉢，口縁部片は古段階３・新段階 11）が出土している。遺物は主に北西側の覆土中から多く出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。本跡を掘り込んでいる第 40・41 号炉穴からも同じ早期後葉の土器が出土していることから，土器形式による時期差は認められない。



第 20 図　第 10 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 20 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	口唇部外に刻み　外面貝殻条痕文　内面に指頭痕	覆土中	5％　PL23 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部外に刻み　外・内側にナデ調整	覆土中	5％　PL23 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL23 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	外・内面ナデ調整	覆土中	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰褐	普通	口唇部外に刻み　隆帯に棒状の工具による刻み	覆土中	5％　PL23 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL23 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・繊維	赤褐	普通	外面隆帯貼付後ナデ調整　外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL23 茅山下層式

第 11 号竪穴建物跡（第 21・22 図　PL 6）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ 4c0 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　北部は撹乱を受けているため，長径 2.72 m，短径は 1.36 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。壁は高さ 20 ～ 23cmで，外傾している。

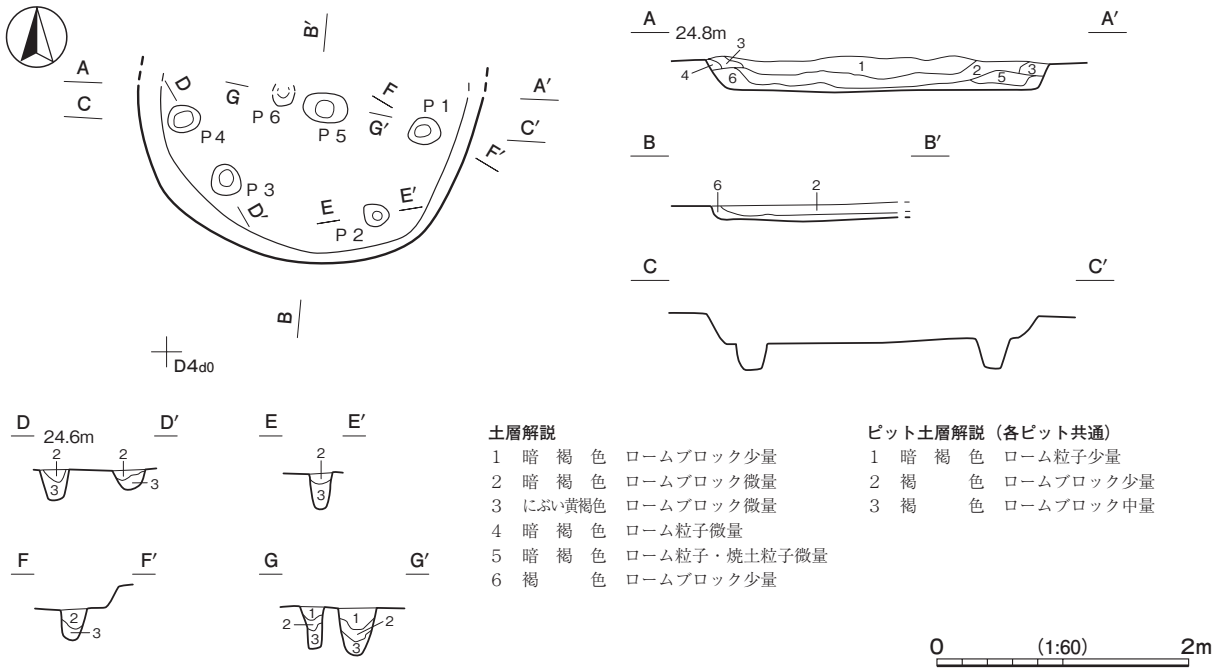
床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

ピット　6か所。Ｐ 1 ～Ｐ 4 は深さ 15 ～ 40cmの柱穴である。Ｐ 5・Ｐ 6 は性格不明である。

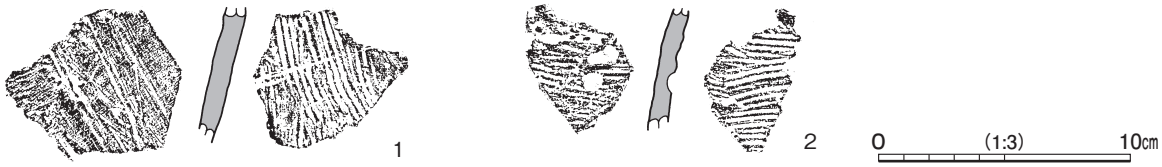
覆土　6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 15 点（深鉢，口縁部片は新段階 1）が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 21 図　第 11 号竪穴建物跡実測図



第 22 図　第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 22 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL23 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 13 号竪穴建物跡（第 23・24 図　PL 6）

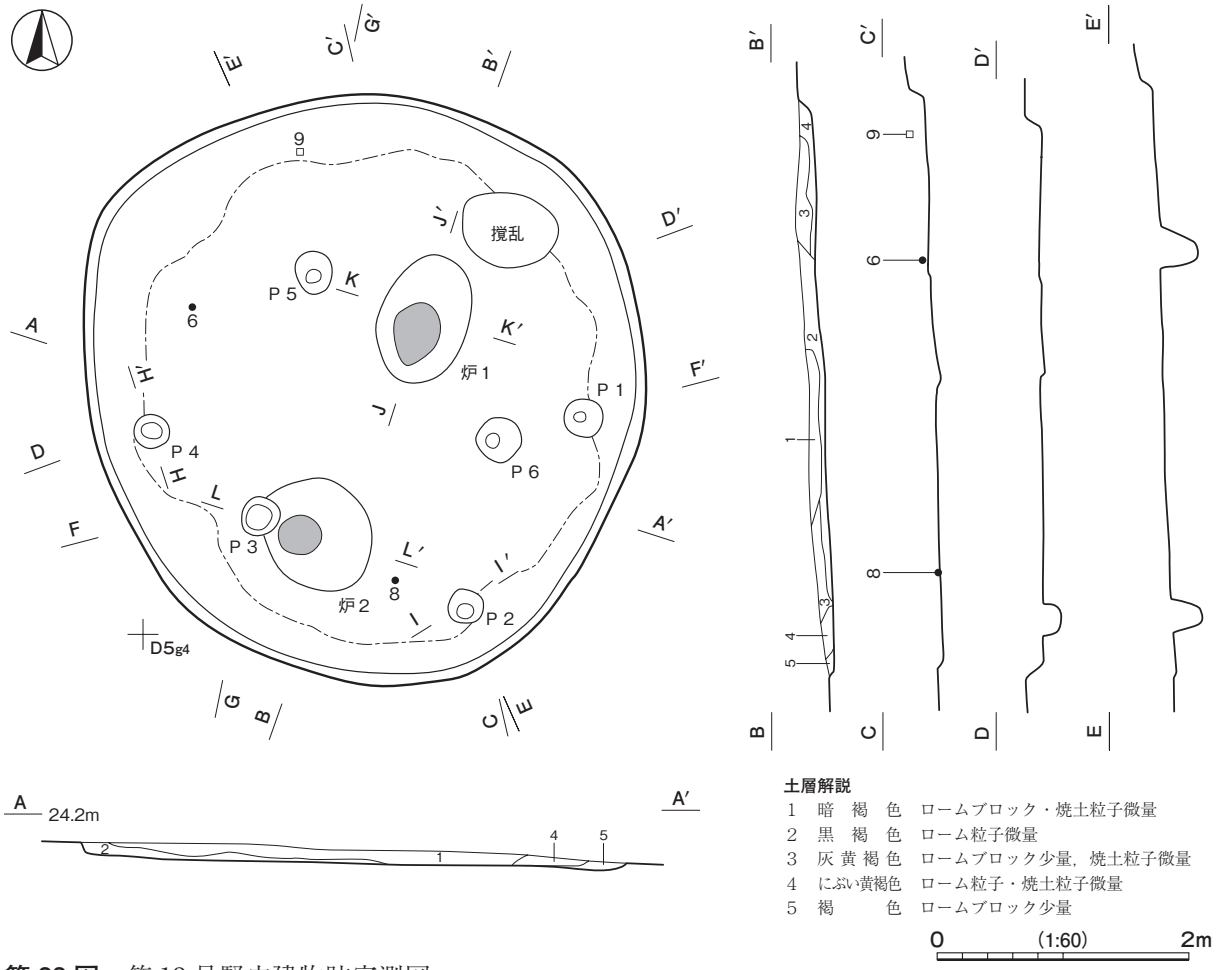
調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５f4 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 4.76 m，短径 4.46 mの円形である。壁は高さ８ ～ 12cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，全体的に踏み固められている。

炉　２か所。炉１は北東部に位置している。長径 1.05 m，短径 0.70 mの楕円形で，深さ 10cmの地床炉である。



第 23 図　第 13 号竪穴建物跡実測図

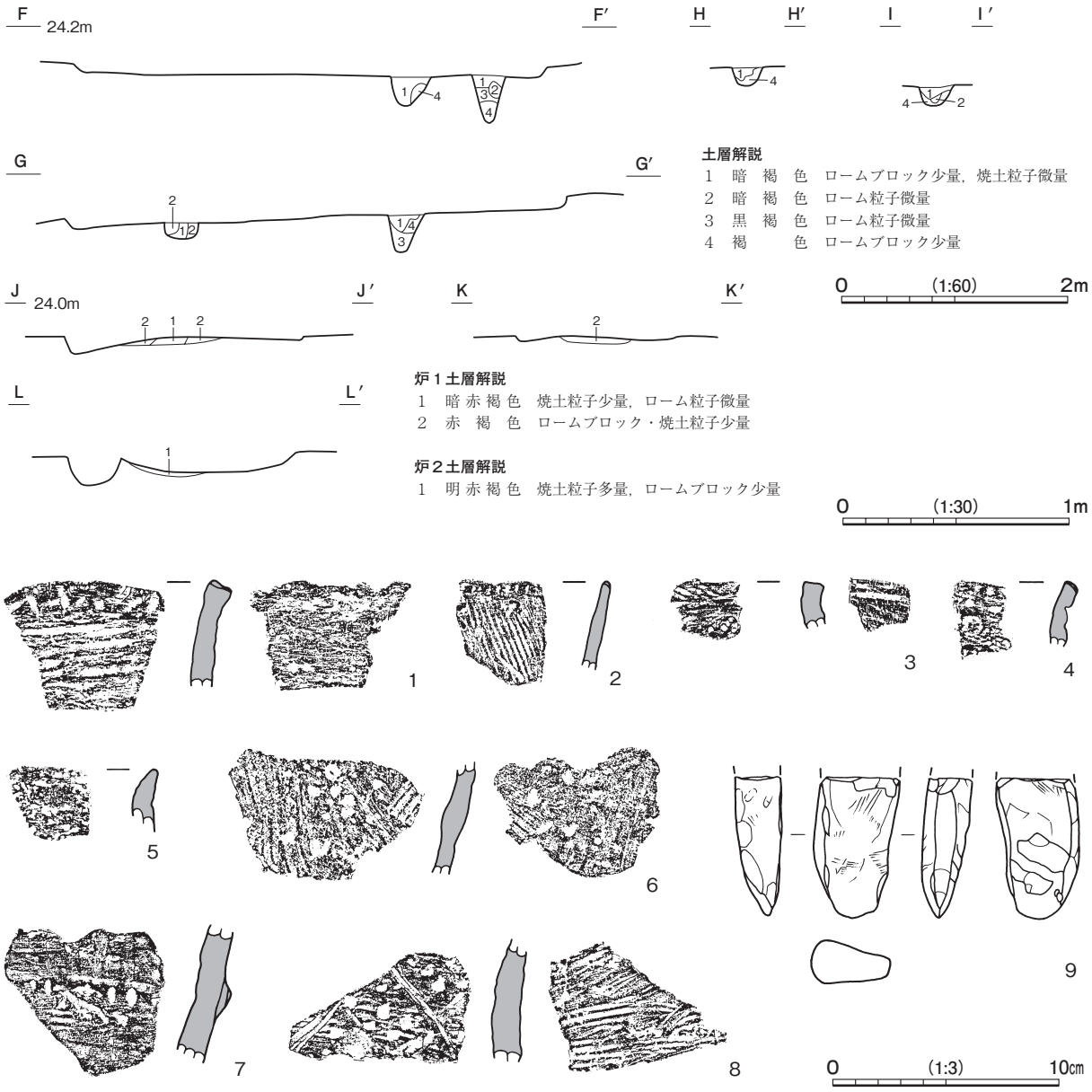
第２層上面が炉床面であり，火熱を受け赤変硬化している。炉２は炉１の南西側に位置し，長径 1.00 m，短径 0.8 mの楕円形で，深さ 7.5cmの地床炉である。第１層上面が炉床面であり，火熱を受け赤変硬化している。炉２を廃棄してから，Ｐ３の柱穴を付設したと考えられ，炉１はその作り替えの可能性がある。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ６は，深さ 15～ 40cmの柱穴である。Ｐ３は炉２の廃棄後の浅い柱穴であることから，補助柱穴の可能性も考えられる。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 118 点（深鉢，口縁部片は古段階２・新段階４），石器１点（磨製石斧）が出土している。８は南部の床面から，６は北西部の覆土下層から，９は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。１～５は北西部，７は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 24 図　第 13 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 13 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 24 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	口唇部に格子状の刻み　外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％　PL23 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に細い沈線の刻み　外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(2.0)	－	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	口唇部内削状　口唇部上に斜位の条痕	覆土中	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	口唇部に刻み　口縁部に刺突	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口縁部ナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文	覆土下層	５％　PL23 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい黄橙	普通	隆帯に棒状の工具による刻み　工具による凹線	覆土中	５％　PL23 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面に沈線・刺突　内面貝殻条痕文	床面	５％　PL23 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
9	磨製石斧	(6.2)	3.8	2.1	(67.96)	砂岩	表裏刃部に研磨痕	覆土上層	PL34

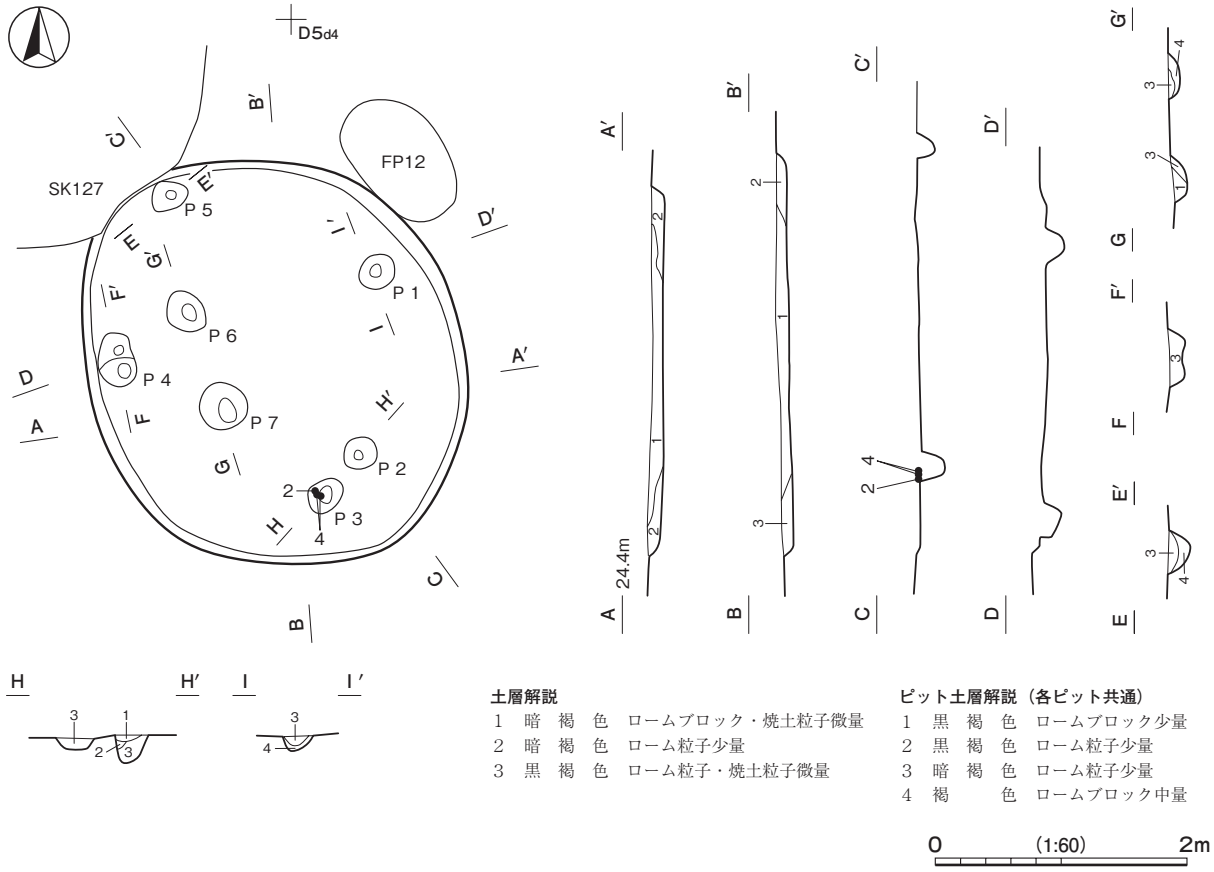
第 14 号竪穴建物跡（第 25・26 図　PL ６）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５d3 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 127 号土坑に掘り込まれている。第 12 号炉穴と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 3.50 m，短径 3.02 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 38°－ Ｗである。壁は高さ５～ 12㎝で，外傾している。



第 25 図　第 14 号竪穴建物跡実測図

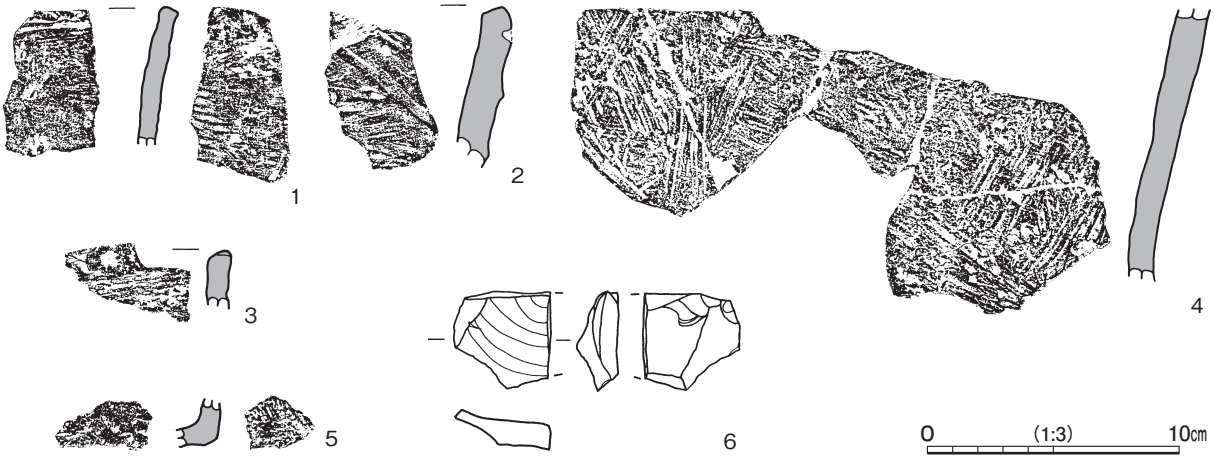
床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ７は深さ 10 ～ 25cmで，位置と形状から柱穴と考えられる。Ｐ４は底面にくぼみが２か所確認できることから，立て替えの可能性がある。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片 45 点（深鉢，口縁部片は古段階１・新段階６），剥片１点が出土している。２・４は南部の覆土下層から，１・３・５・６は北東部の覆土中から，それぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 26 図　第 14 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 14 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 26 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	口唇部に竹管による刻み　指頭痕	覆土中	５％　PL24 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐灰	普通	口縁部に幅広の凹線	覆土下層	５％　PL24 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(2.3)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	口唇部に竹管による刻み　ナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(11.8)	－	長石・石英・繊維	灰黄褐	普通	外面棒状の工具による沈線　内面貝殻条痕文	覆土下層	５％　PL24 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(1.9)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
6	剥片	3.9	(3.8)	1.7	(21.30)	滑石	右側面に折れ面	覆土中	

第 15 号竪穴建物跡（第 27 図　PL ７）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５f3 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 22 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　径約 3.0 mのほぼ円形である。壁は高さ８～ 14cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

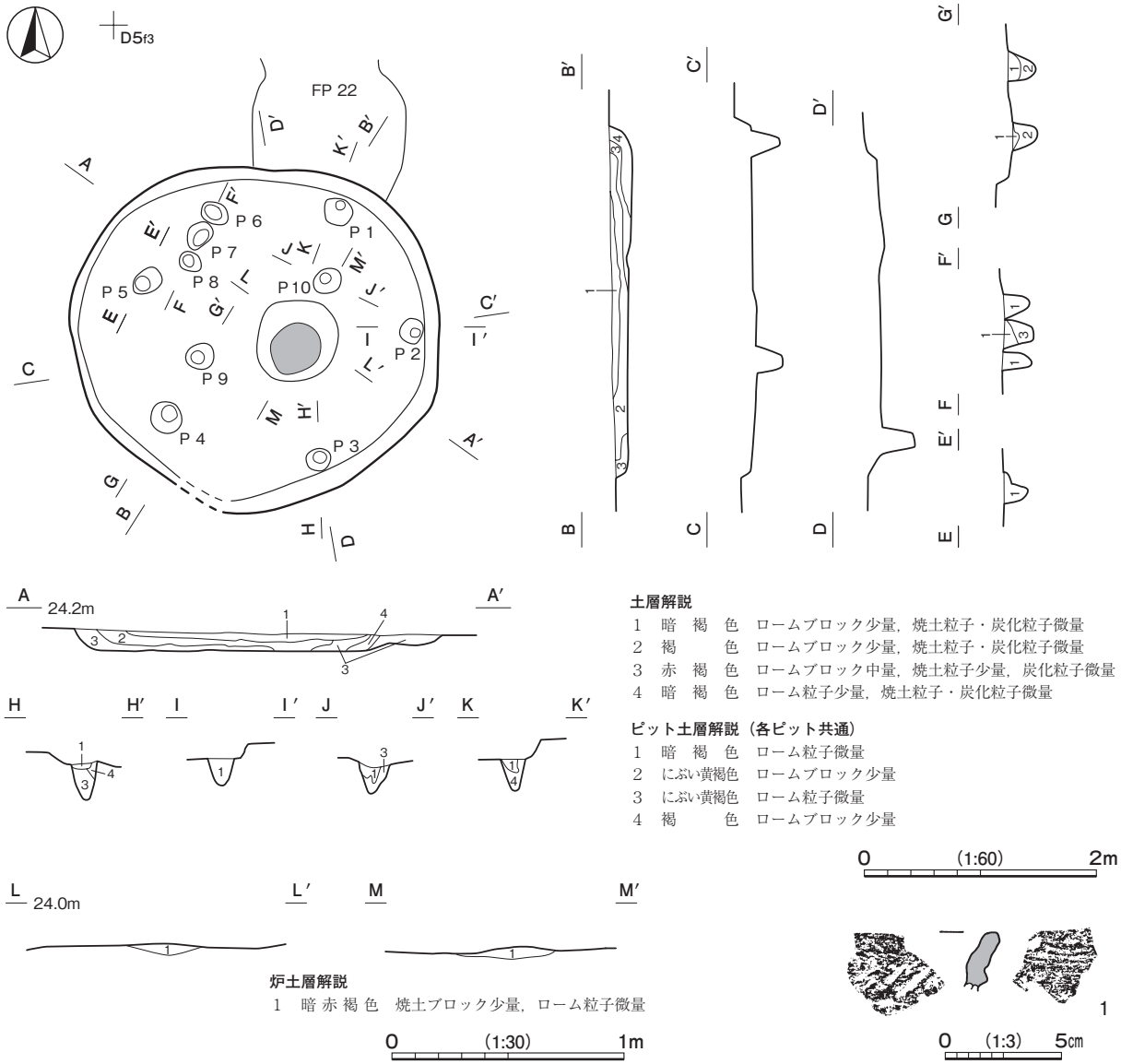
炉　中央部やや東側に位置している。径 0.7 mの円形の地床炉である。第１層上面が炉床面であり，火熱を受け赤変硬化している。

ピット　10か所。Ｐ１～Ｐ６は深さ46～60cmで，位置と形状から柱穴と考えれる。Ｐ７～P10については性格不明である。Ｐ６～Ｐ８の３か所が近接していることから，立て替えの可能性がある。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片12点（深鉢，口縁部片は古段階１）が出土している。１はＰ８の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第27図　第15号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第15号竪穴建物跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	口縁部に棒状の工具による沈線	Ｐ８覆土中	５％ 茅山下層式

第 17 号竪穴建物跡（第 28・29 図　PL ７）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ５j1 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 3.85 m，短径 3.27 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 62°－ Ｗである。壁は高さ５～ 12cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

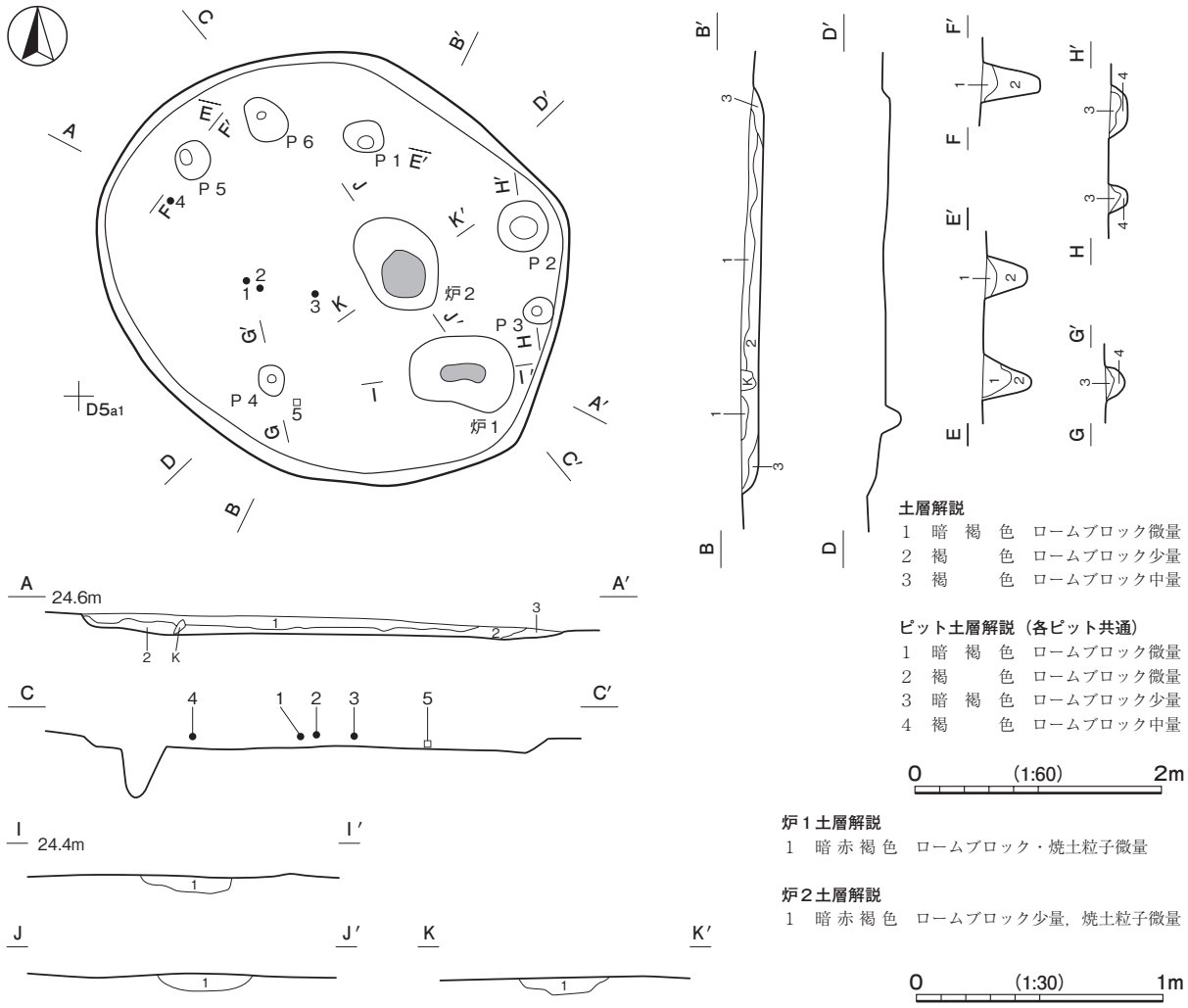
炉　２か所。炉１は南東部に位置している。長径 0.85 m，短径 0.55 mの楕円形の地床炉である。第１層上面が炉床面であり，火熱を受け赤変硬化している。炉２は炉１の北西に位置している。長径 0.86 m，短径 0.62 mの楕円形の地床炉である。第１層上面が炉床面であり，火熱を受け赤変硬化している。新旧関係は不明である。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ６は深さ 15 ～ 20cmで，壁際を弧状に巡っていることから柱穴と考えられる。

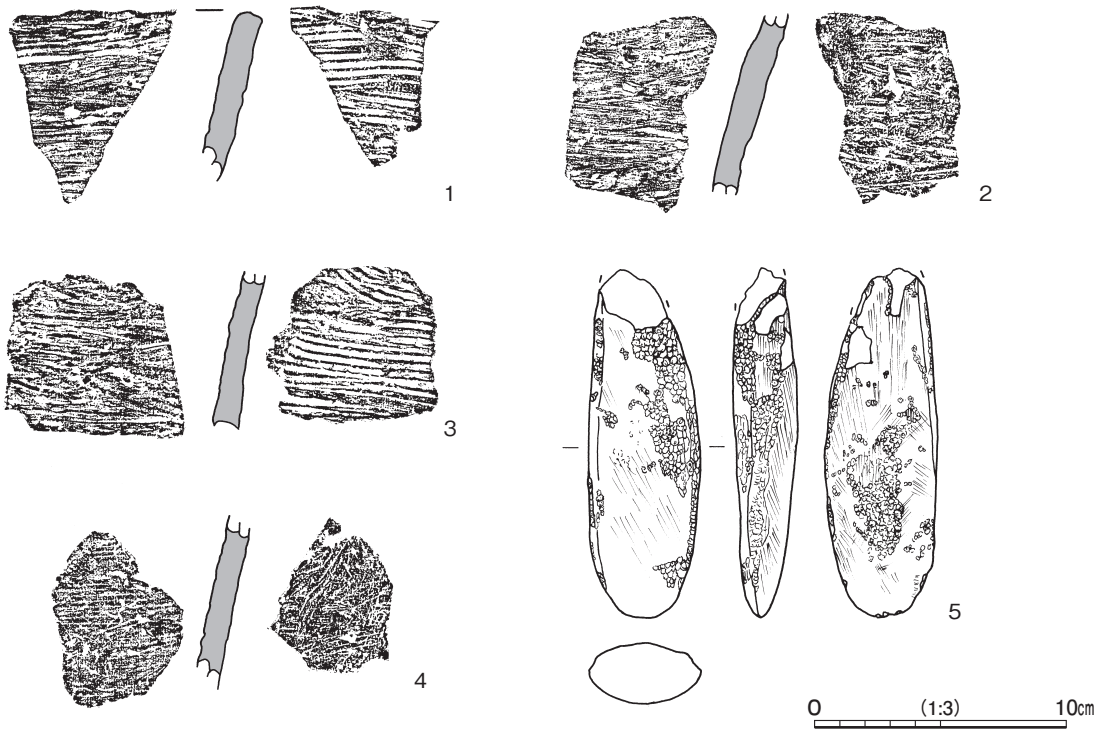
覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片８点（深鉢，口縁部片は新段階１），石器１点（磨製石斧）が出土している。５は南部の床面から，１～３は中央部，４は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 28 図　第 17 号竪穴建物跡実測図



第 29 図　第 17 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 17 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 29 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文後に外面ナデ調整	覆土中層	５％　PL24 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中層	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中層	５％　PL24 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(7.0)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	内面に板状の工具によるナデ調整	覆土中層	５％ 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
5	磨製石斧	(13.9)	4.5	2.6	(241.10)	安山岩	乳棒状　上部右側の側縁部に敲打痕	床面	PL33

第 18 号竪穴建物跡（第 30 図　PL ７）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ４j0 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 48・56 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　径 3.74 mの不整円形である。壁は高さ８ ～ 13cmで，緩やかに外傾している。

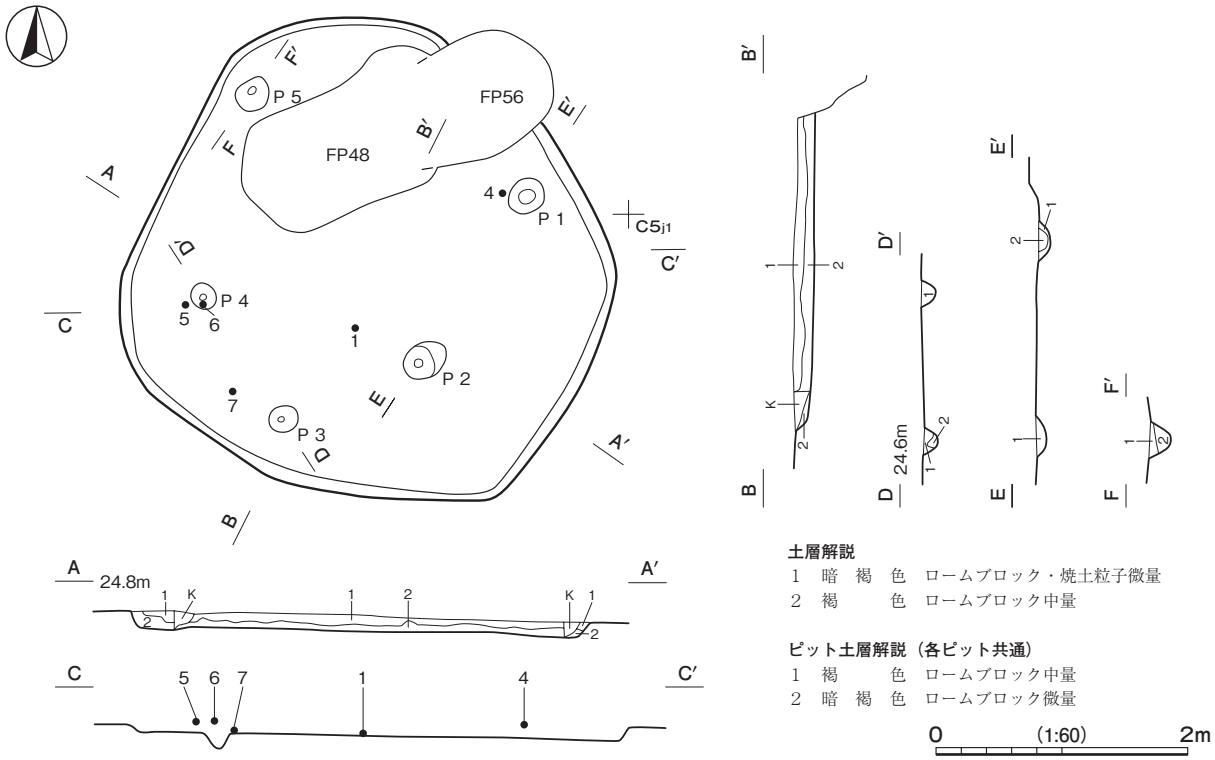
床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

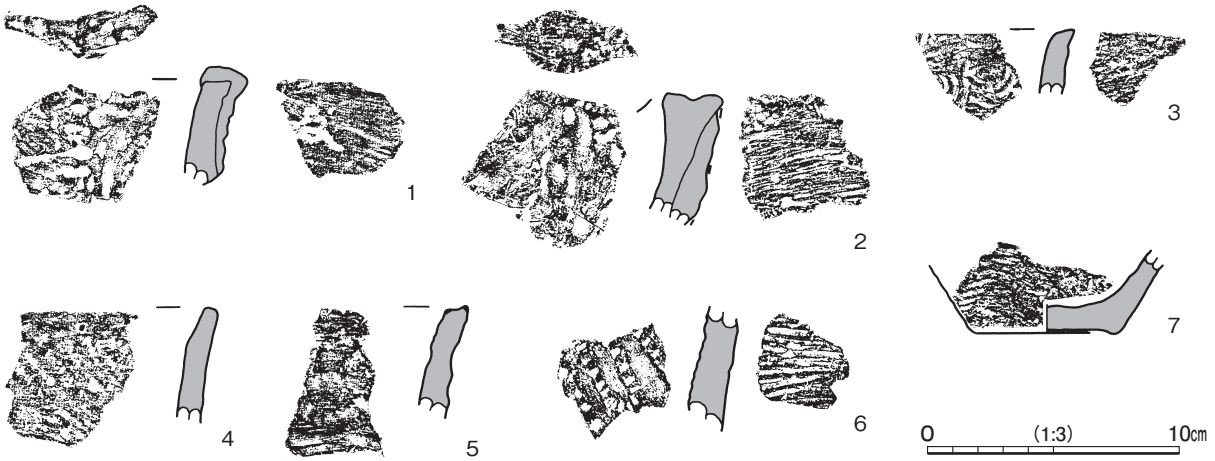
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ５は深さ８～ 16cmで，位置と形状から柱穴と考えれる。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 94 点（深鉢，口縁部片は古段階５・新段階４）が出土している。１は中央部の床面，７は南西部の覆土下層から，４は北東部，５・６は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。２は南東部，３は南西部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。





第 30 図　第 18 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 18 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 30 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・繊維	褐灰	普通	縦の隆帯に棒状の工具による刻み 波状口縁の波頂部	床面	5％　PL24 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・雲母・繊維	赤褐	普通	縦の隆帯に棒状の工具による刻み　外面工具による凹線　内面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL24 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外面弧線文	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	口縁部に竹管文　内面貝殻条痕文	覆土上層	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	外面指頭による凹線	覆土上層	5％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	蛇行状に刺突	覆土上層	5％　PL24 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	[5.5]	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻腹縁圧痕文　底部ナデ調整	覆土下層	5％　PL33 茅山下層式

第 20 号竪穴建物跡（第 31 図　PL ８）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４a7 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 21 号竪穴建物跡，第 72・75 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 2.90 m，短軸は 2.48 mの隅丸方形で，長軸方向はＮ－ 81°－ Ｗである。壁は高さ８ ～ 13 cmで，外傾している。

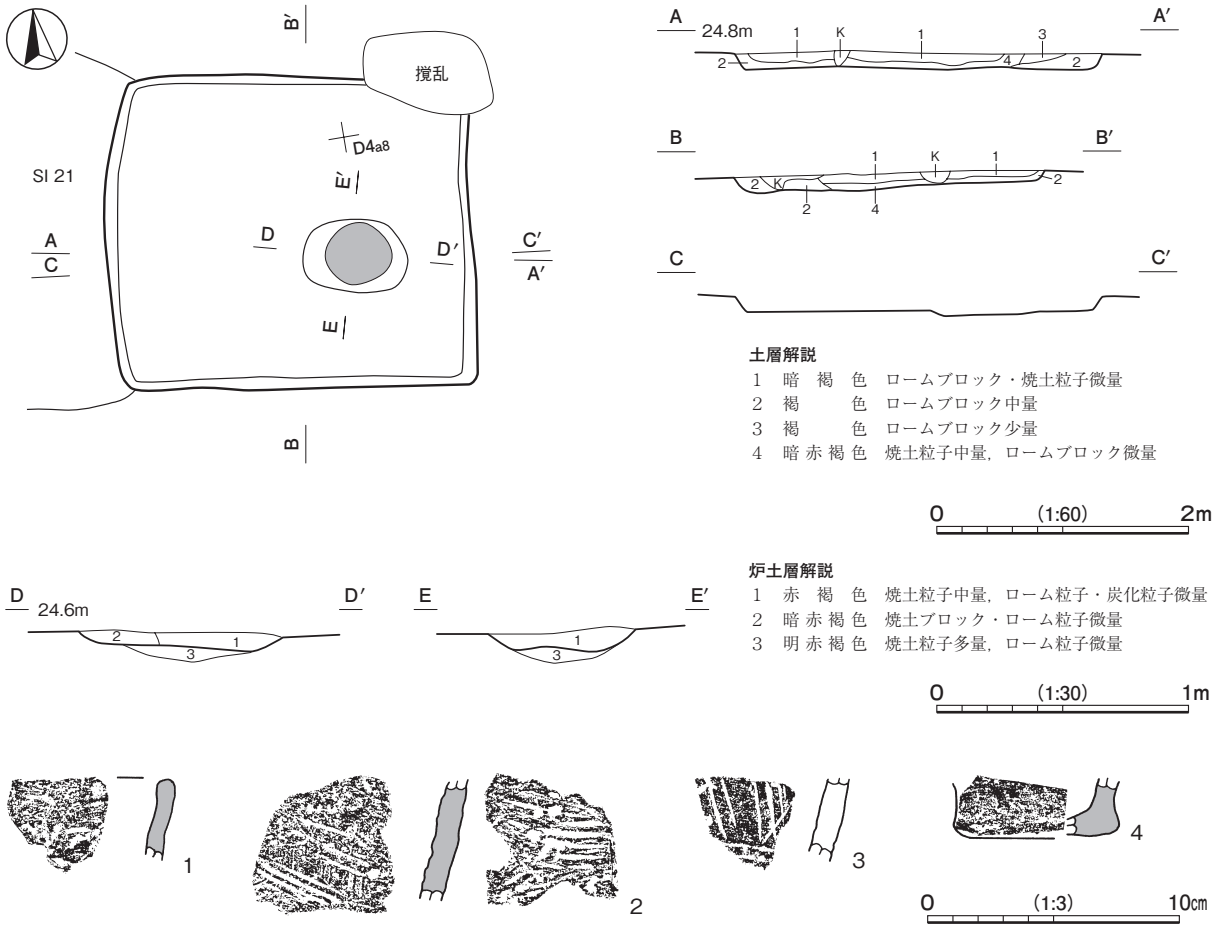
床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

炉　中央部やや東側に位置している。長径 0.84 m，短径 0.58 mの楕円形で，深さ 10cmの地床炉である。第３層上面が炉床面であり，火熱を受け赤変硬化している。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 26 点（深鉢，口縁部片は新段階３）が出土している。２は南東部，１・４は南西部の覆土中からそれぞれ出土している。３は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 31 図　第 20 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 20 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 31 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	棒状の工具による補修痕の穴ヵ	覆土中	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ PL24 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英	橙	普通	縦・横位の細沈線	覆土中	5％ PL24 三戸式
4	縄文土器	深鉢	－	(2.4)	[6.6]	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	底部内側にナデ調整	覆土中	5％ PL33 茅山下層式

第 21 号竪穴建物跡（第 32・33 図　PL ８）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４a7 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 72 ～ 75 号炉穴を掘り込み，第 20 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　東部を第 20 号竪穴建物に掘り込まれているため，長径 3.15 mで，短径は 2.65 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。壁は高さ６～９㎝で，外傾している。

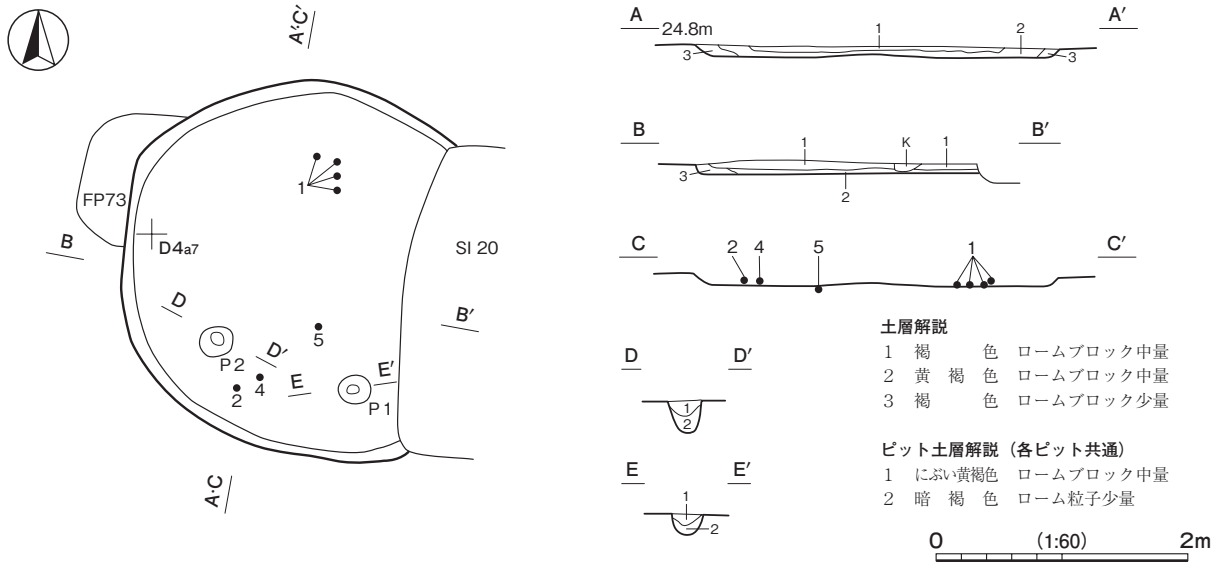
床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

ピット　２か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ 15・25㎝で，位置と形状から柱穴と考えられる。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 47 点（深鉢，口縁部片は古段階３・新段階３）が出土している。１は北部，５は中央部の床面から，２・４は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。３は南西部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 32 図　第 21 号竪穴建物跡実測図

第 33 図　第 21 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 21 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 33 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(13.3)	－	長石・石英 繊維	灰褐	普通	鋸歯状文	床面	５％　PL24 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(2.9)	－	長石・石英 繊維	灰褐	普通	口唇部棒状の工具による刻み　外面貝殻条痕文	覆土下層	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(2.5)	－	長石・石英 繊維	灰褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英 赤色粒子・繊維	明褐	普通	横位の隆帯　内面貝殻条痕文	覆土下層	５％　PL24 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	長石・石英 雲母・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	床面	５％ 茅山下層式

第 22 号竪穴建物跡（第 34 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ３b7 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 62・63・68・80 号炉穴に掘り込まれている。第 64・71 号炉穴との重複関係は不明である。

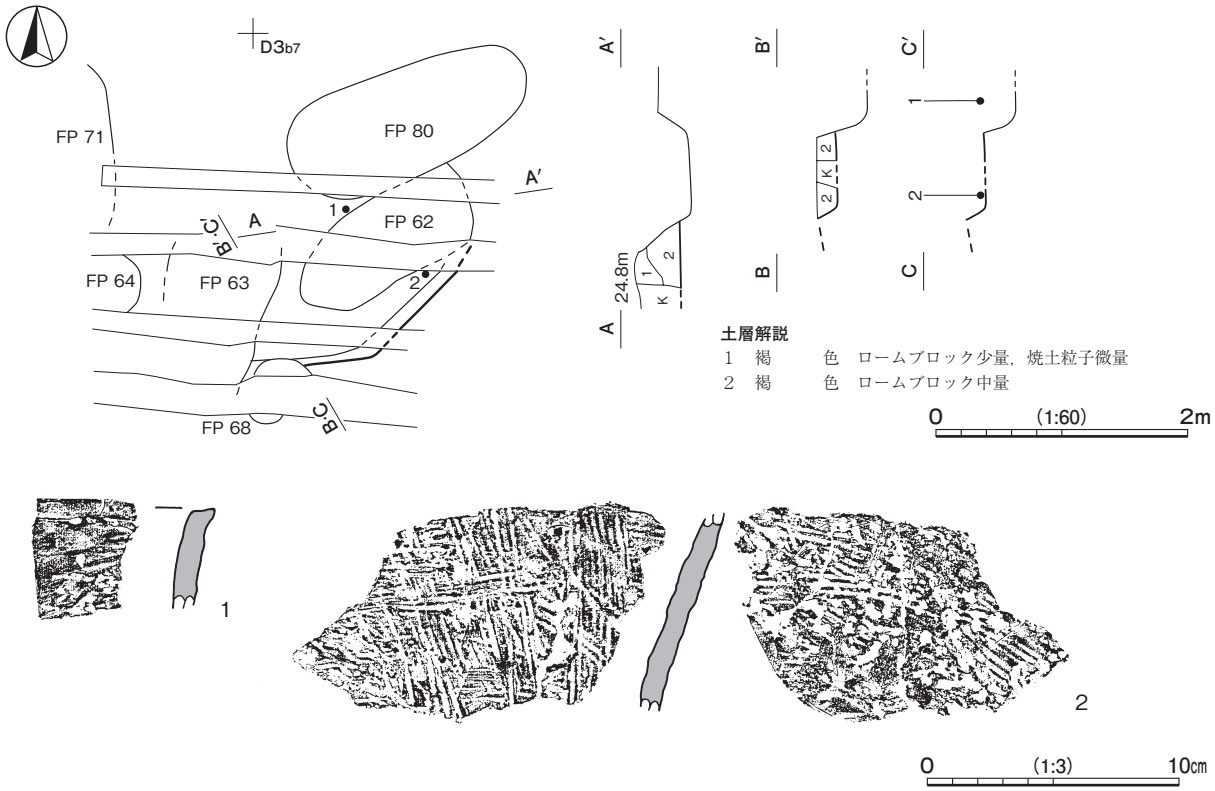
規模と形状　中央部･西部が撹乱されており，中央から北東部を第 62･63･80 号炉穴に掘り込まれているため，南東部の壁しか確認できなかった。平面形は不明である。壁は高さ 18 ～ 32cmで，外傾している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 11 点（深鉢，口縁部片は新段階１），石器１点（磨石）が出土している。１・２は床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 34 図　第 22 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 22 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 34 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・雲母・繊維	黒褐	普通	外面貝殻条痕文	床面	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(7.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	板状工具によるナデ調整　外・内面貝殻条痕文	床面	5％　PL24 茅山下層式

第 23 号竪穴建物跡（第 35 図　PL ８）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ４i6 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 4.10 m，短径 3.84 mの円形である。壁は高さ８～ 12cmで，外傾している。

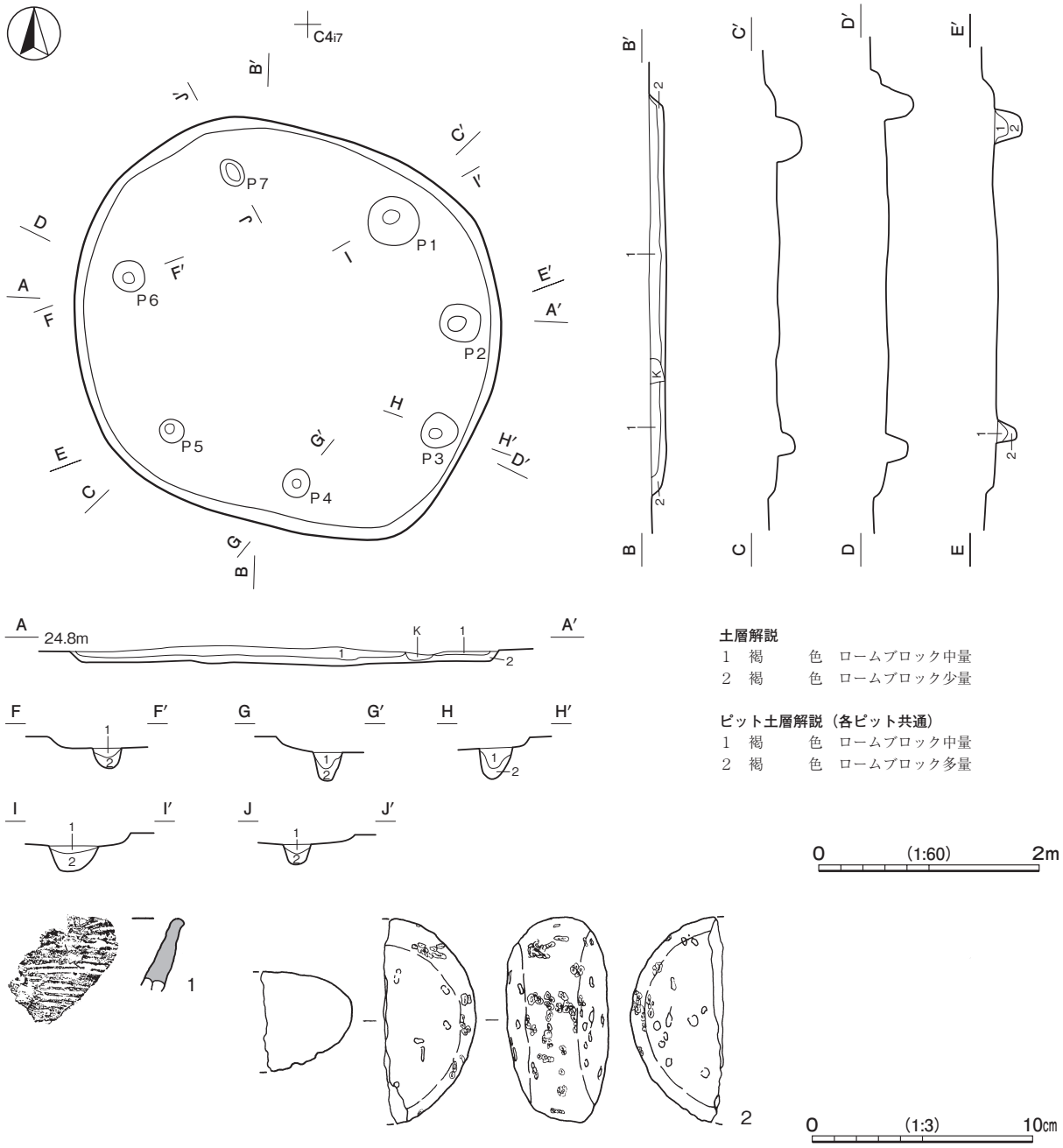
床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ７は，深さ 15 ～ 30cmで，位置と形状から柱穴と考えられる。

覆土　２層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片４点（深鉢，口縁部片は新段階１），石器１点（磨石）が出土している。１は北東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 35 図　第 23 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 23 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 35 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL24 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
2	磨石	(9.3)	(4.2)	(4.7)	(194.73)	安山岩	敲石としても併用	覆土中	PL34

第 24 号竪穴建物跡（第 36 図　PL 9）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ３i8 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 84 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.52 m，短軸 4.34 mの隅丸方形で，長軸方向はN － 12° － W である。壁は高さ 10 ～ 12cmで，外傾している。

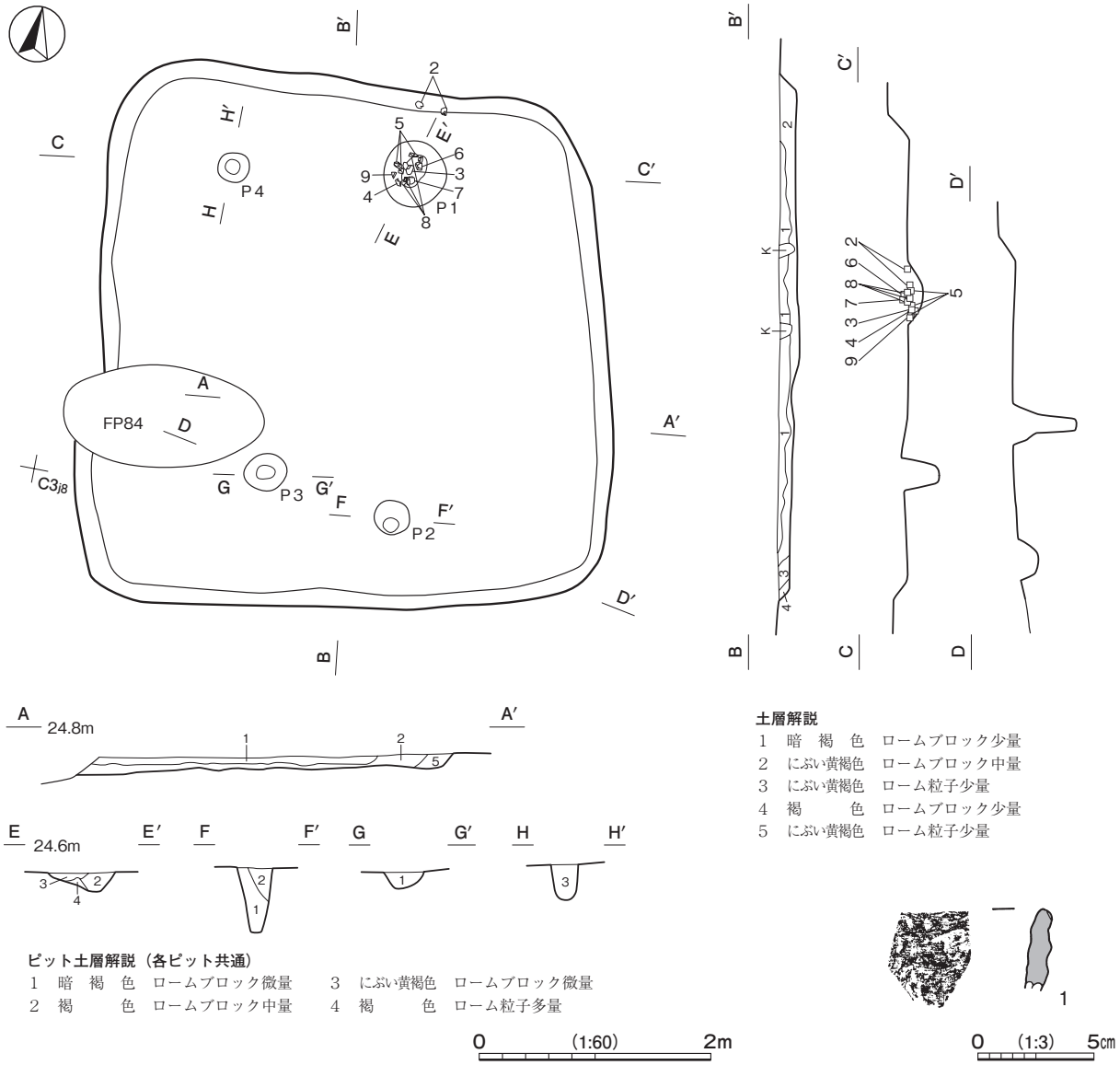
床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は，深さ 15 ～ 56cmで，位置と形状から柱穴と考えられる。Ｐ１は使用後，被熱を受けて破棄された礫を充填している。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 35 点（深鉢，口縁部片は古段階１・新段階１），礫８点が出土している。１は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。また，Ｐ１の壁面は焼けていないことから，礫は使用後にＰ１へ破棄されたと推定できる。



第 36 図　第 24 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 24 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 36 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	口唇部に棒状の工具による刻み　口縁部に沈線	覆土中	5％ 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
2	焼け礫	11.2	7.3	5.4	(433.2)	安山岩	被熱痕	覆土下層	計測のみ
3	焼け礫	9.1	5.5	4.4	(214.2)	安山岩	被熱痕　被熱による割れ	P 1 覆土中層	PL33 計測のみ
4	焼け礫	(5.9)	6.2	5.1	(206.4)	泥岩	被熱痕	P 1 覆土中層	PL33 計測のみ
5	焼け礫	8.6	4.7	5.5	(164.8)	安山岩	被熱痕　被熱による割れ	P 1 覆土中層	計測のみ
6	焼け礫	(6.7)	5.2	(4.2)	(160.0)	チャート	被熱痕　被熱による割れ	P 1 覆土中層	計測のみ
7	焼け礫	(7.2)	(6.8)	(3.5)	(215.0)	泥岩	被熱痕　被熱による割れ	P 1 覆土中層	計測のみ
8	焼け礫	(4.2)	(2.9)	(3.5)	(60.0)	頁岩	被熱痕	P 1 覆土中層	計測のみ
9	焼け礫	(5.7)	(6.6)	5.2	(185.2)	安山岩	被熱痕　被熱による割れ	P 1 覆土中層	計測のみ

第 25 号竪穴建物跡（第 37・38 図　PL 9）

調査年度　平成 30 年度

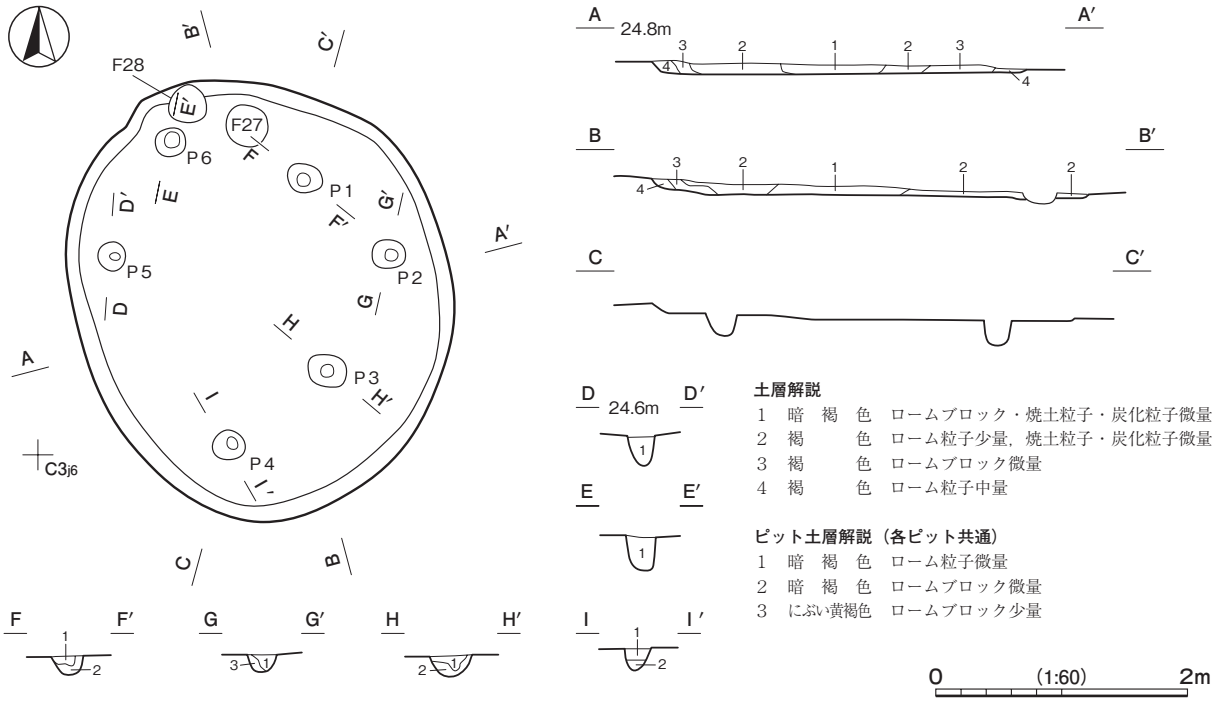
位置　調査区中央部のＣ３i6 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 27・28 号炉跡に掘り込まれている。

規模と形状　長径 3.54 m，短径 2.98 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 19°－ Ｗである。壁は高さ３～９㎝で，外傾している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ６は深さ 15 ～ 25㎝で，位置と形状から柱穴と考えられる。

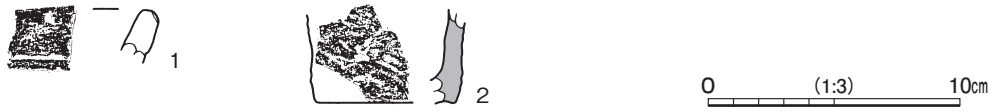


第 37 図　第 25 号竪穴建物跡実測図

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片５点（深鉢）が出土している。１・２は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，遺構の重複から早期後葉と考えられる。



第 38 図　第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 38 図）

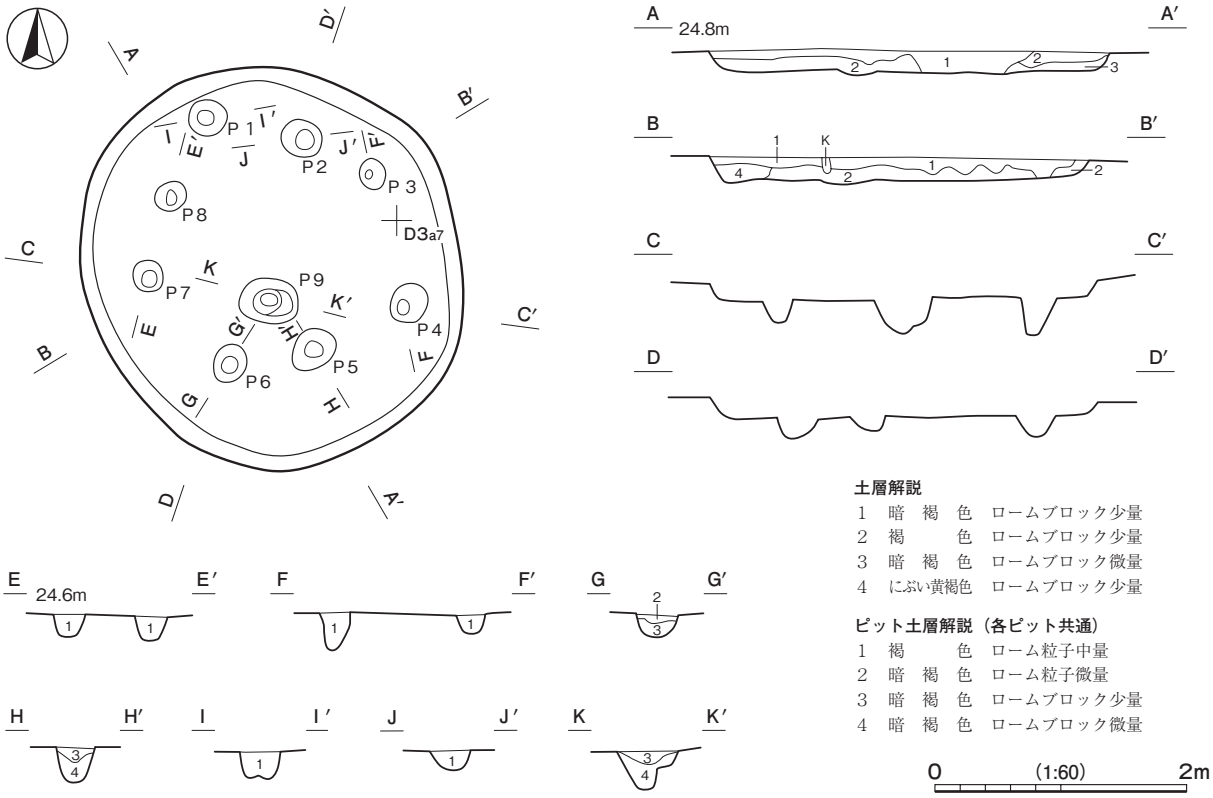
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(2.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	細沈線	覆土中	５％ 三戸式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	[5.4]	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	単節縄文ＲＬ	覆土中	５％ 黒浜式

第 26 号竪穴建物跡（第 39・40 図　PL ９）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ３a6 区，標高 24 ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　径約 3.1 ｍのほぼ円形である。壁は高さ 10 ～ 20㎝で，外傾している。



第 39 図　第 26 号竪穴建物跡実測図

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。

ピット　９か所。Ｐ１～Ｐ８は深さ 15 ～ 30cmで，位置と形状から柱穴と考えられる。Ｐ９は深さ 30cmで柱穴の可能性もあるが，ほぼ中央部にあり性格不明である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 34 点（深鉢）が出土している。３は南西部の覆土中から出土している。１・２・４は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

第 40 図　第 26 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 26 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 40 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部から口縁部にかけて条痕	覆土中	５％ 田戸下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・ 赤色粒子	明褐	普通	横位の細沈線	覆土中	５％　PL24 三戸式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・ 雲母・繊維	明赤褐	普通	隆帯に棒状の工具による刻み	覆土中	５％　PL24 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.0)	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	波状貝殻文	覆土中	５％　PL24 浮島式

表４　縄文時代竪穴建物跡一覧表

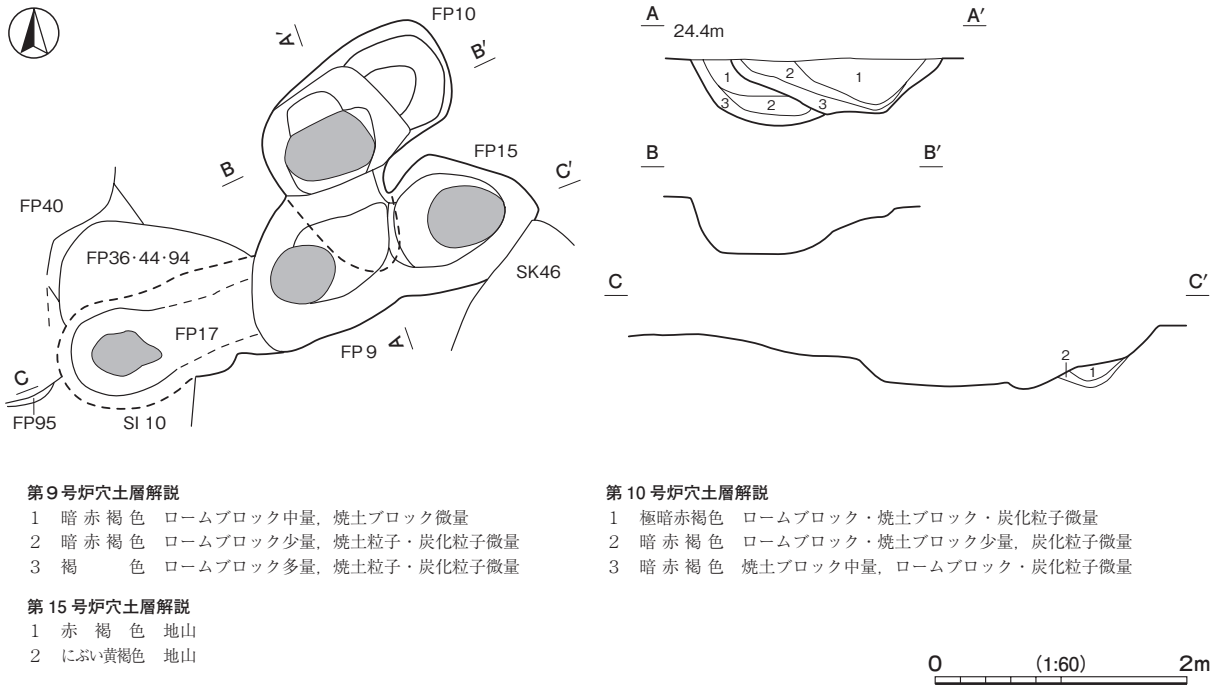
番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	(cm)			柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
8	Ｄ４d4	Ｎ－71°－Ｗ	楕 円 形	3.64 × 3.25	4 ～ 14	平坦	－	10	－	2	－	－	人為	縄文土器（三戸式・茅山下層式），石器，剥片	早期後葉	
9	Ｄ５d1	Ｎ－32°－Ｗ	［楕円形］	[5.24] × 4.10	5 ～ 10	平坦	－	17	－	4	地床炉 2	－	自然	縄文土器（黒浜式・早期終末），石器，剥片	前期前半	本跡→ FP86・87
10	Ｄ５e1	Ｎ － 43 ° Ｗ	［楕円形］	4.38 × 4.10	12 ～ 14	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	縄文土器（茅山下層式）	早期後葉	本跡→ SI5，FP17・36・37・40・41・44・94・95
11	Ｄ４c0	－	［円形･楕円形］	2.72 ×(1.36)	20 ～ 23	平坦	－	4	－	2	－	－	人為	縄文土器（茅山下層式）	早期後葉	
13	Ｄ５f4	－	円　　形	径 4.46 ～ 4.76	8 ～ 12	平坦	－	6	－	－	地床炉 2	－	人為	縄文土器（茅山下層式），石器	早期後葉	
14	Ｄ５d3	Ｎ－38°－Ｗ	楕 円 形	3.50 × 3.02	5 ～ 12	平坦	－	7	－	－	－	－	自然	縄文土器（茅山下層式），剥片	早期後葉	本跡→ SK127 F12 と重複
15	Ｄ５f3	－	円　　形	径 3.00	8 ～ 14	平坦	－	6	－	4	地床炉	－	人為	縄文土器（茅山下層式）	早期後葉	FP22 →本跡
17	Ｃ５j1	Ｎ－62°－Ｗ	楕 円 形	3.85 × 3.27	5 ～ 12	平坦	－	6	－	－	地床炉 2	－	人為	縄文土器（茅山下層式），石器	早期後葉	
18	Ｃ４j0	－	不整円形	径 3.74	8 ～ 13	平坦	－	5	－	－	－	－	人為 自然	縄文土器（茅山下層式），剥片	早期後葉	本跡→ FP48・56
20	Ｄ４a7	Ｎ－81°－Ｗ	隅丸方形	2.90 × 2.48	8 ～ 13	平坦	－	－	－	－	地床炉	－	人為	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	早期後葉	SI21，FP72・75 →本跡
21	Ｄ４a7	－	［円形･楕円形］	3.15 ×(2.65)	6 ～ 9	平坦	－	2	－	－	－	－	人為	縄文土器（茅山下層式）	早期後葉	FP72 ～ 75 → 本跡→ SI20
22	Ｄ３b7	－	不　　明	－	18 ～ 32	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	縄文土器（茅山下層式）	早期後葉	本跡→ FP62・63・68・80
23	Ｃ４i6	－	円　　形	径 3.84 ～ 4.10	8 ～ 12	平坦	－	7	－	－	－	－	自然	縄文土器（茅山下層式），石器	早期後葉	
24	Ｃ３i8	Ｎ－12°－Ｗ	隅丸方形	4.52 × 4.34	10 ～ 12	平坦	－	4	－	－	－	－	人為	縄文土器（茅山下層式），礫	早期後葉	本跡→ FP84
25	Ｃ３i6	Ｎ－19°－Ｗ	楕 円 形	3.54 × 2.98	3 ～ 9	平坦	－	6	－	－	－	－	人為	縄文土器（三戸式・黒浜式）	早期後葉	本跡→ F27・28
26	Ｄ３a6	－	円　　形	径 3.10	10 ～ 20	平坦	－	8	－	1	－	－	人為	縄文土器（三戸式・田戸下層式・茅山下層式・浮島式）	早期後葉	

(2) 炉穴

炉穴95基を確認した。その中で，重複関係にあるものや形状が明確なものについては本文と実測図を掲載する。炉穴のまとまりは位置の中で，所見はまとまりの最後に記述する。また，その他の炉穴については，実測図（第128・129図），土層解説及び一覧表で掲載する。

第９・10・15・17号炉穴

位置　調査区中央部のＤ５d2～Ｄ５e1区，標高24ｍほどの台地平坦部に位置している。４基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第９号炉穴土層解説
1　暗赤褐色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
2　暗赤褐色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第10号炉穴土層解説
1　極暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量

第15号炉穴土層解説
1　赤　褐　色　地山
2　にぶい黄褐色　地山

第41図　第９・10・15・17号炉穴実測図

第９号炉穴　（第41・42図　PL14）

調査年度　平成30年度

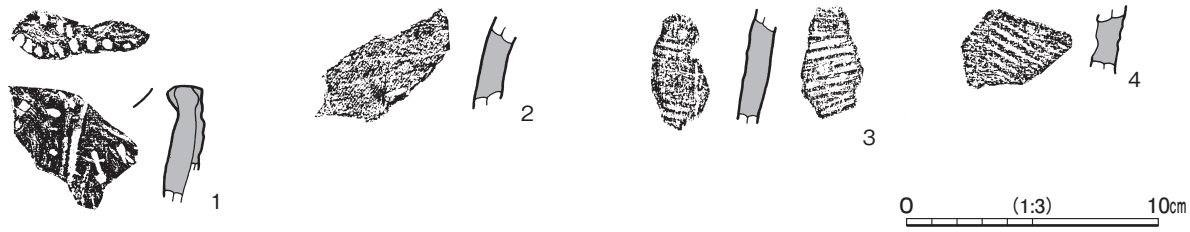
重複関係　第15・36・44号炉穴を掘り込み，第10号炉穴に掘り込まれている。第17号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　北部が第10号炉穴に掘り込まれているため，長径1.14ｍ，短径は1.10ｍしか確認できなかった。長径方向はＮ－69°－Ｅの楕円形と推定できる。南西部が燃焼部，北東部が足場である。足場は第10・15号炉穴と重複しているため，燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ50㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の南西壁寄りに位置している。長径0.56ｍ，短径0.46ｍの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片４点（深鉢）が出土している。覆土中からそれぞれ出土している。



第 42 図　第 9 号炉穴出土遺物実測図

第 9 号炉穴出土遺物観察表（第 42 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部・隆帯に丸棒状の工具による刻み	覆土中	5％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰黄褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 10 号炉穴（第 41・43 図　PL14）

調査年度　平成 30 年度

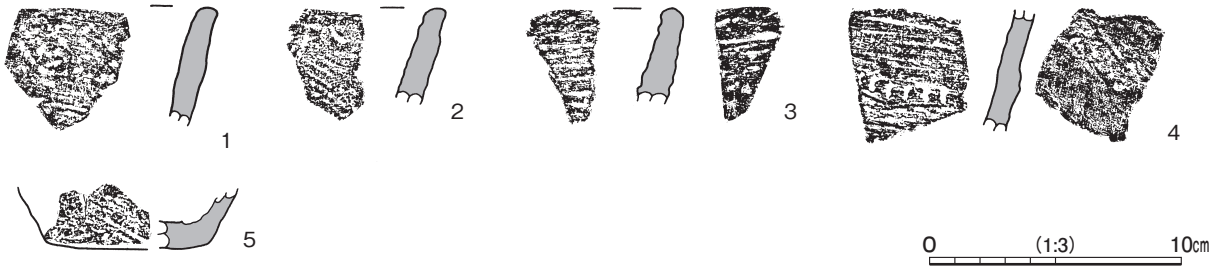
重複関係　第 9・15 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.68 m，短径 0.93 mの不定形で，長径方向はN－50°－Eである。南西部が燃焼部，北東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は深さ 44cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南西壁寄りに位置している。長径 0.76 m，短径 0.50 mの楕円形である。

覆土　3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片 28 点（深鉢）が出土している。1～5 は覆土中から出土している。



第 43 図　第 10 号炉穴出土遺物実測図

第 10 号炉穴出土遺物観察表（第 43 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	口縁部に半截竹管による刺突	覆土中	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	隆帯に竹管による刻み	覆土中	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(2.5)	[6.4]	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 15 号炉穴（第 41・44 図）

調査年度　平成 30 年度

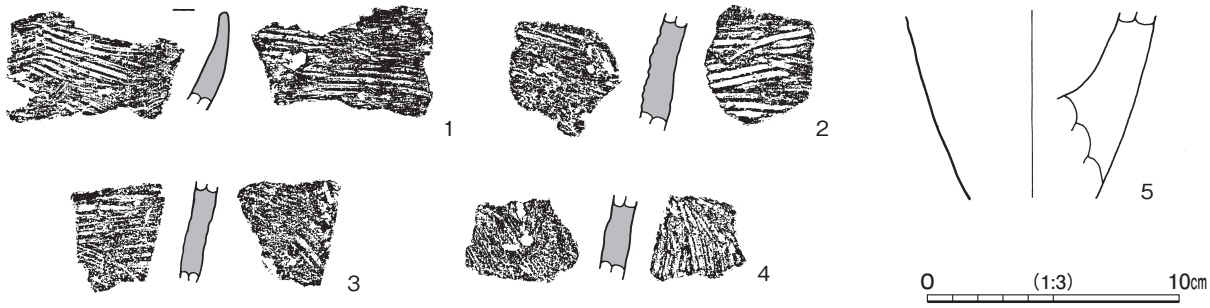
重複関係　第９・10 号炉穴，第 46 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西部が第９･10号炉穴に掘り込まれているため, 短径1.10 m, 長径は1.20 mしか確認できなかった。長径方向はN － 73° － E の楕円形と推定できる。東部が燃焼部, 西部が足場である。足場は燃焼部より深いが, 第９･10 号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推測され, 燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 51㎝で, 緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　東壁寄りに位置している。長径 0.62 m，短径 0.46 mの楕円形である。

覆土　遺存状態が悪く，堆積状況は不明である。第１・２層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 13 点（深鉢）が出土している。１～５は覆土中から出土している。５は表土からの流れ込みである。



第 44 図　第 15 号炉穴出土遺物実測図

第 15 号炉穴出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整　内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整　尖底土器	覆土中	５％ 三戸式

第 17 号炉穴（第 41 図　PL15）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 10 号竪穴建物跡，第 36・44・94・95 号炉穴を掘り込んでいる。第９・37 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　第９号炉穴と重複し，また遺存状態が悪いため，長径は 1.62 m，短径は 0.84 mしか確認できなかった。長径方向はN － 72° － E の楕円形と推定できる。南西部が燃焼部，北東部が足場と推定できる。足場は遺存状態が悪いため，燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 18㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　南西壁寄りに位置している。長径 0.58 m，短径 0.36 mの楕円形である。

覆土　遺存状態が悪く，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　縄文土器片２点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが, 茅山下層式と比定できる。

所見　４基の炉穴は，土層の切り合いと調査の状況から，初めに第 15 号炉穴を作り，使用後に足場として利用し西側に第９号炉穴が作られている。その後，北側に第 10 号炉穴が作られたと考えられる。また，第 17 号炉穴は遺存状態が悪く，第９号炉穴との新旧関係は不明である。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 17・36・37・40・41・44・94・95 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ５e1 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。８基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

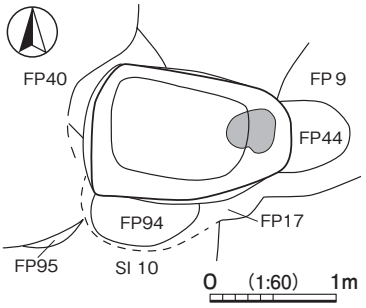
第 17 号炉穴（第 41 図）

第 17 号炉穴については，「第９・10・15・17 号炉穴」の項に記載

第 36 号炉穴（第 45 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 10 号竪穴建物跡，第 94・95 号炉穴を掘り込み，第９・17・44 号炉穴に掘り込まれている。



第 45 図　第 36 号炉穴実測図

規模と形状　第 17・94 号炉穴と重複しているため，長径は 1.60 m，短径は 1.04 mしか確認できなかった。長径方向はN － 83° － W の楕円形と推定できる。東部が燃焼部，西部が足場である。足場は，第 44 号炉穴に掘り込まれているため，燃焼部に向かった傾斜は不明である。壁は高さ 52㎝しか確認できず，外傾している。

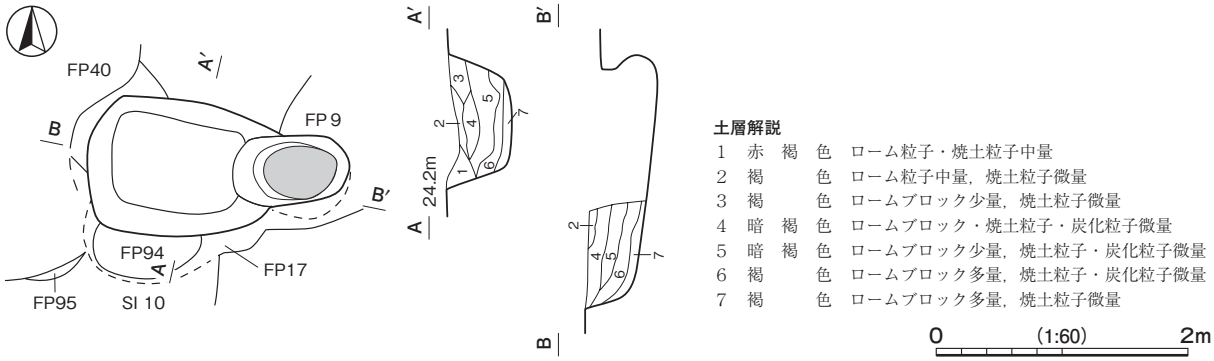
燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.38 m，短径 0.34 mの不整楕円形である。

覆土　複数の炉穴に掘り込まれているため，堆積状況は不明である。

第 44 号炉穴（第 46 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 10 号竪穴建物跡，第 36・94・95 号炉穴を掘り込み，第９・17 号炉穴に掘り込まれている。



第 46 図　第 44 号炉穴実測図

規模と形状　長径 2.08 m，短径 1.08 mの不整楕円形で，長径方向はN － 87° － W である。東部が燃焼部，西部が足場と推定でき，足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 56cmで，内彎して袋状を呈し，底面から約 34cmのところで直立している。

燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.58 m，短径 0.46 mの楕円形である。

覆土　7 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

第 37 号炉穴（第 47 図）

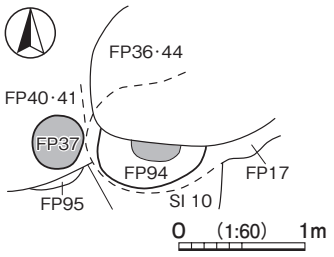
調査年度　平成 30 年度

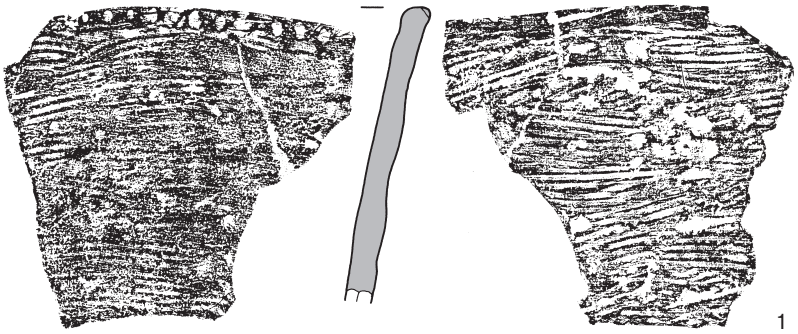
重複関係　第 10 号竪穴建物跡，第 40・41・95 号炉穴を掘り込んでいる。第 17・94 号炉穴との新旧関係は不明である。

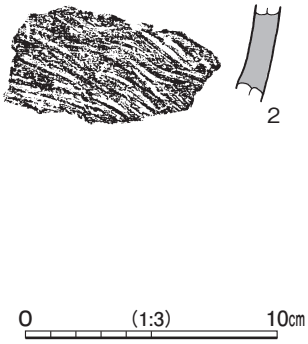
規模と形状　燃焼部しか残存していないため，長径は 0.42 m，短径は 0.38 mしか確認できなかった。長径方向，平面形は不明である。

覆土　遺存状態が悪く，堆積状況は不明である。

遺物出土状況　縄文土器片 9 点（深鉢）が出土している。1 ・ 2 は燃焼部から出土している。







第 47 図　第 37・94 号炉穴・第 37 号炉穴出土遺物実測図

第 37 号炉穴出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(11.8)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による工具による刻み　外・内面貝殻条痕文	燃焼部	5 % 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	燃焼部	5 % 茅山下層式

第 94 号炉穴（第 47 図）

調査年度　平成 30 年度

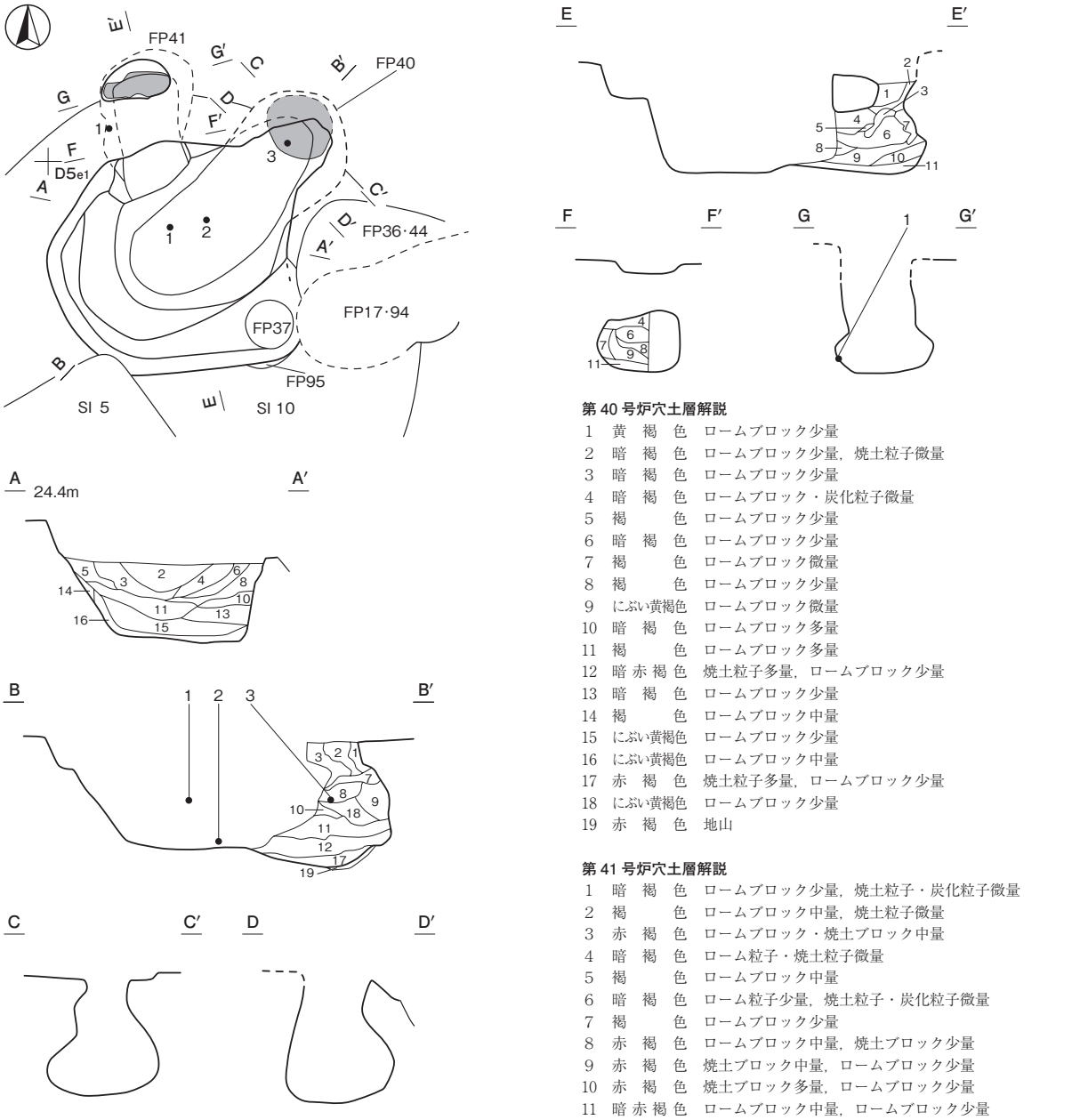
重複関係　第 10 号竪穴建物跡，第 40・41・95 号炉穴を掘り込み，第 17・36・44 号炉穴に掘り込まれている。第 37 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　複数の炉穴と重複しているため，長径 0.85 m，短径は 0.37 mしか確認できなかった。長径方向は不明である。円形あるいは楕円形と推定できる。南部が燃焼部と推定できる。第 17・36・44 号炉穴と重複

しているため，足場は不明である。壁は高さ 58cmである。

燃焼部　南壁寄りに位置している。第 36・44 号炉穴と重複しているため，長径 0.40 m，短径 0.16 mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。

覆土　遺存状態が悪く，堆積状況は不明である。



第 40 号炉穴土層解説

1　黄　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　　色　ロームブロック微量
8　褐　　色　ロームブロック少量
9　にぶい黄褐色　ロームブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック多量
11　褐　　色　ロームブロック多量
12　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，ロームブロック少量
13　暗　褐　色　ロームブロック少量
14　褐　　色　ロームブロック中量
15　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
16　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
17　赤　褐　色　焼土粒子多量，ロームブロック少量
18　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
19　赤　褐　色　地山

第 41 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　赤　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック中量
4　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック少量
8　赤　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
9　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
10　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ロームブロック少量
11　暗 赤 褐 色　ロームブロック中量，ロームブロック少量

0　(1:60)　2m

第 48 図　第 40・41 号炉穴実測図

第 40 号炉穴（第 48・49 図　PL15）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 10 号竪穴建物跡，第 95 号炉穴を掘り込み，第 5 号竪穴建物，第 17・37・94 号炉穴に掘り込まれている。第 41 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 2.88 m，短径 2.34 mの不定形で，長径方向はN － 47° － E である。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 112㎝で，壁は内彎して袋状を呈し，底面から約 85㎝のところで内傾している。

燃焼部　長径方向の北東壁寄りに位置している。長径 0.64 m，短径 0.58 mの楕円形である。

覆土　18 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第 19 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 29 点（深鉢）が出土している。2 は覆土下層，1・3 は覆土中層から出土している。

第 49 図　第 40 号炉穴出土遺物実測図

第 40 号炉穴出土遺物観察表（第 49 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(15.1)	－	長石・石英・雲母 赤色粒子・繊維	明褐	普通	口縁頂部に刻み　外・内面貝殻条痕文	覆土中層	5％　PL27 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・ 雲母・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中層	5％ 茅山下層式

第 41 号炉穴（第 48・50 図　PL15）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 10 号竪穴建物跡，第 95 号炉穴を掘り込み，第 5 号竪穴建物，第 17・37・94 号炉穴に掘り込まれている。第 40 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　第 40 号炉穴と重複しているため，短径 0.56 m，長径は 1.18 mしか確認できなかった。長径方向はN － 11° － W の楕円形と推定できる。北部に天井部が遺存している。北西部が燃焼部，南東部が足場である。足場は，第 40 号炉穴と重複しているため，燃焼部に向かった傾斜は不明である。壁は高さ 114㎝で，内彎して袋状を呈し，底面から約 60㎝のところで外傾している。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.60 m，短径 0.20 mの楕円形である。

覆土　11 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 2 点（深鉢）が出土している。1 は覆土下層から出土している。

第 50 図　第 41 号炉穴出土遺物実測図

第 41 号炉穴出土遺物観察表（第 50 図）

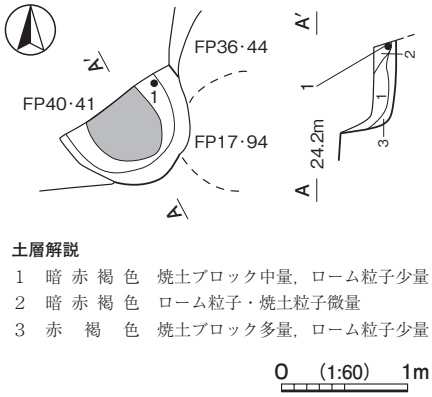
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	長石・石英・繊維	明褐	普通	外面貝殻条痕文　内面角棒状の工具によるナデ調整	覆土下層	5％ 茅山下層式

第 95 号炉穴（第 51 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 10 号竪穴建物跡を掘り込み，第 17・36・37・40・41・44・94 号炉穴に掘り込まれている。

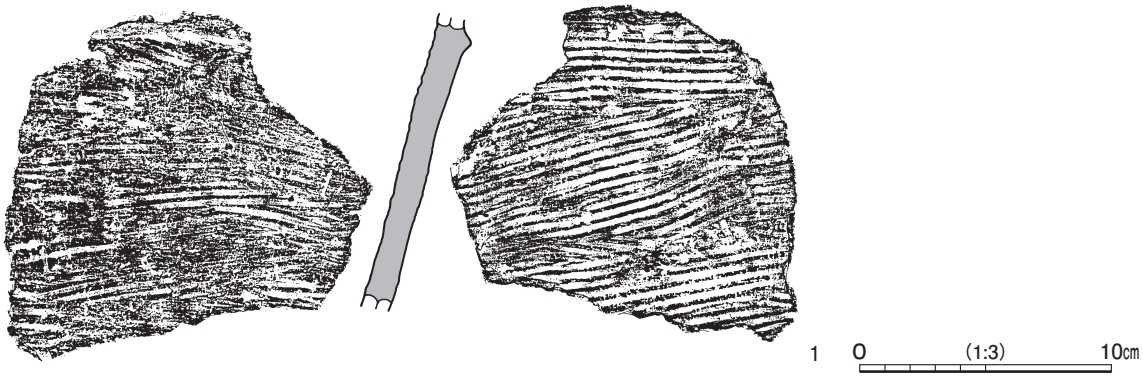
規模と形状　複数の炉穴に掘り込まれているため，長径 1.06 m，短径は 0.71 mしか確認できなかった。長径方向は不明である。円形または楕円形で，南東部が燃焼部，北西部が足場と推測される。足場は複数の炉穴に掘り込まれているため，燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 45cmで，外傾している。



燃焼部　南壁寄りに位置している。第 40・41 号炉穴と重複しているため，長径 0.54 m，短径 0.52 mしか確認できなかったが，楕円形と推定できる。

覆土　3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片 1 点（深鉢）が覆土中層から出土している。



第 51 図　第 95 号炉穴・出土遺物実測図

第 95 号炉穴出土遺物観察表（第 51 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(11.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	横位の隆帯　外・内面貝殻条痕文	覆土中層	5％　PL30 茅山下層式

所見　８基の炉穴は，土層の切り合いと調査の状況から，３つの構築に使用されていたと想定できる。ひとつは，初めに第 95 号炉穴を，使用後に北側を掘り込んで第 40・41 号炉穴が作られている。第 40・41 号炉穴の新旧関係は不明である。さらに第 40･41 号炉穴の使用後に，南部に第 37･94 号炉穴が作られている。もうひとつは，使用後の第 95 号炉穴を掘り込んで，北東側に第 36 号炉穴が作られ，使用後に第 44 号炉穴を作り，さらに第 36・44・94・95 号炉穴を掘り込んで第 17 号炉穴が作られている。また，第 40・41 号炉穴の２基については，残存する遺構の形状から煙道をともなう炉穴とみられる。時期は，遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第 11・13・14 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ５d2 ～Ｄ５e2 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。３基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

第 11 号炉穴（第 52 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

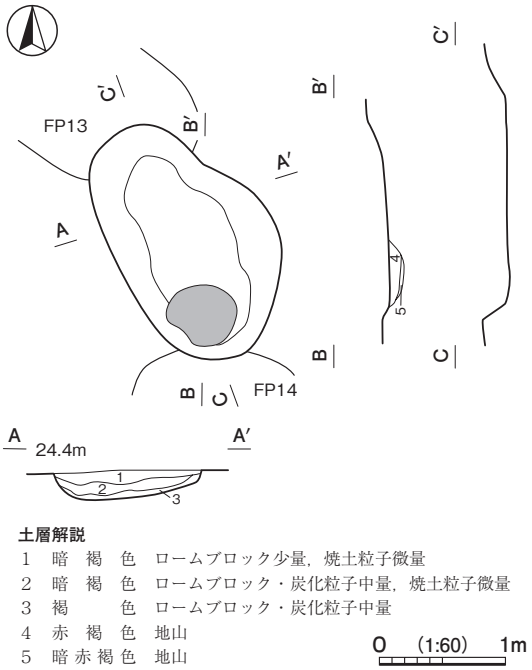
重複関係　第 13・14 号炉穴を掘り込んでいる。

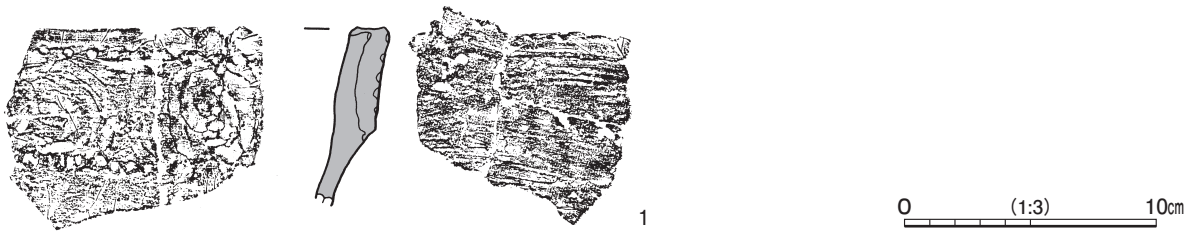
規模と形状　長径 2.00 m，短径 1.22 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 30°－ Ｗである。南部が燃焼部，北西部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 22㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。長径 0.56 m，短径 0.48 mの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第４・５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片４点（深鉢）が出土している。１は覆土中から出土している。





第 52 図　第 11 号炉穴・出土遺物実測図

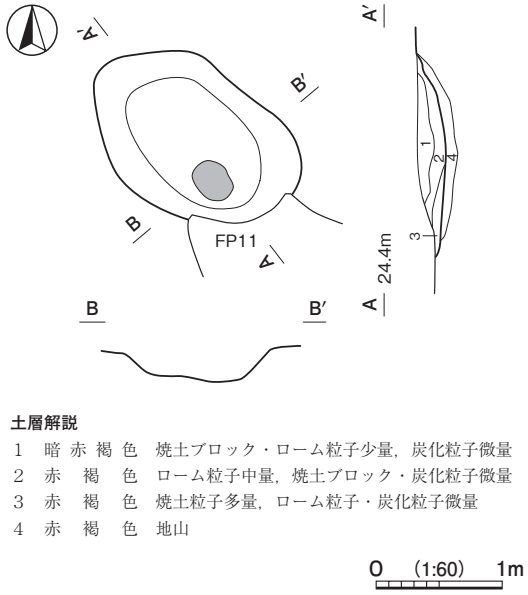
第 11 号炉穴出土遺物観察表（第 52 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英・繊維	灰黄褐	普通	口唇部隆帯に竹管による刻み　指頭による凹線の円文	覆土中	5％　PL26 茅山下層式

第 13 号炉穴（第 53 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 11 号炉穴に掘り込まれている。



土層解説

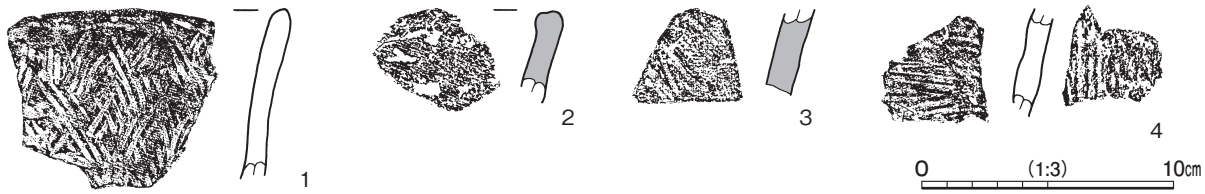
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　赤　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量，ローム粒子・炭化粒子微量
4　赤　褐　色　地山

規模と形状　長径 1.80 m，短径 1.15 mの楕円形で，長径方向はN － 58° － W である。南東部が燃焼部，北西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 22cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　南壁寄りに位置している。長径 0.34 m，短径 0.28 mの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第４・５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片４点（深鉢）が出土している。１・４は表土からの流れ込みである。２・３は覆土中から出土している。



第 53 図　第 13 号炉穴・出土遺物実測図

第 13 号炉穴出土遺物観察表（第 53 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.7)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	格子目状の細沈線	覆土中	5％ 三戸式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	丸棒状の工具による刺突	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外面棒状の工具による凹線	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	横位の細沈線	覆土中	5％ 三戸式

第 14 号炉穴（第 54 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

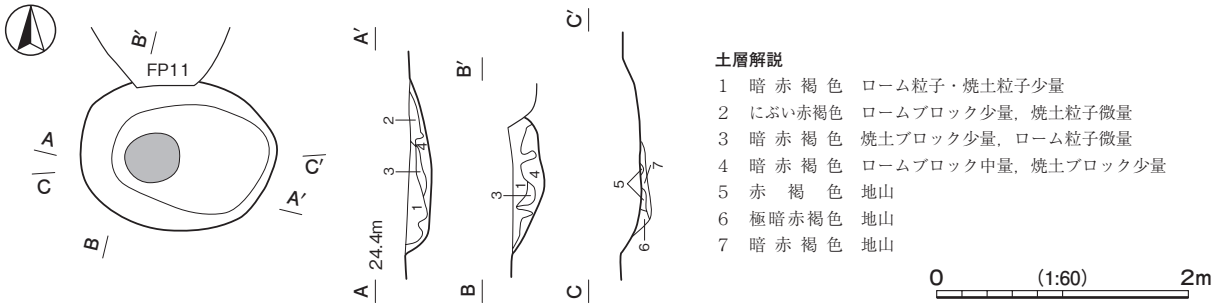
重複関係　第 11 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.54 m，短径は 1.18 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 77°－ W である。西部が燃焼部，東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 16㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　中央部からやや西壁寄りに位置している。長径 0.44 m，短径 0.38 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第５～７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片５点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが，茅山下層式と比定できる。



第 54 図　第 14 号炉穴実測図

所見　３基の炉穴は，土層の切り合いと調査の状況から，初めに第 13 号あるいは第 14 号炉穴をそれぞれ使用後，両方を掘り込むように第 11 号炉穴が作られている。時期は，遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第 19 ～ 21・27・81・82 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ４g3 区～Ｄ４h4 区，標高 24 mほどの台地緩斜面部に位置している。６基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

第 19 号炉穴（第 55 図）

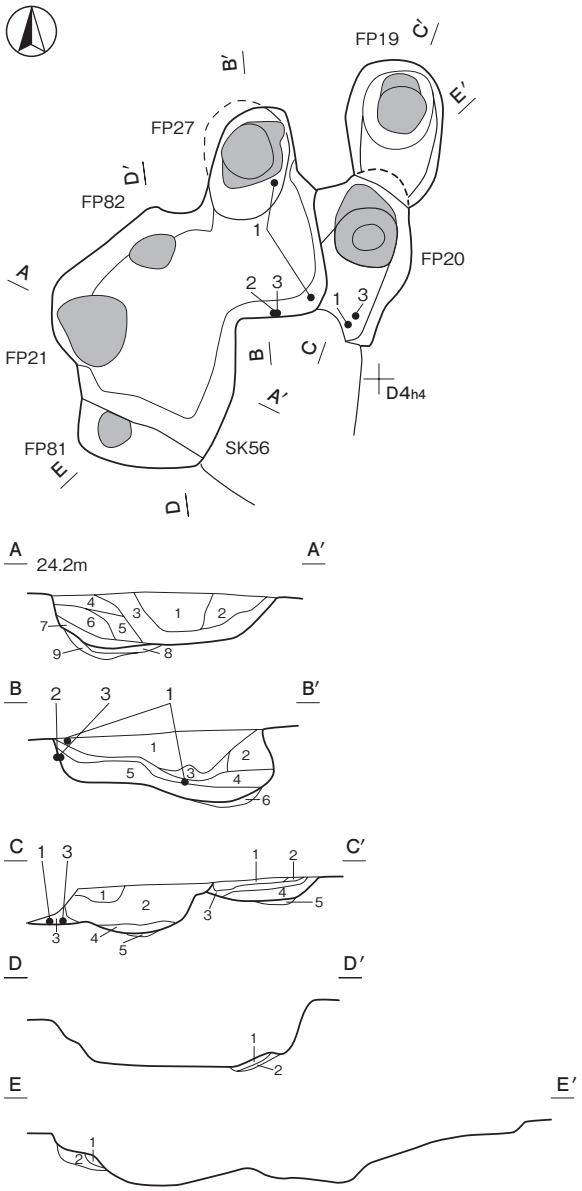
調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 20 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 20 号炉穴に掘り込まれているため，短径 0.74 m，長径は 1.06 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－０°の楕円形と推定できる。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は第 20 号炉穴と重複しているが，燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 20㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.48 m，短径 0.36 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第５層は被熱を受けた地山である。



第 19 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
5　赤　褐　色　地山

第 20 号炉穴土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　赤　褐　色　地山

第 21 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　赤　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
8　赤　褐　色　地山
9　暗 赤 褐 色　地山

第 27 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
5　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量
6　赤　褐　色　地山

第 81 号炉穴土層解説

1　にぶい赤褐色　地山
2　暗 赤 褐 色　地山

第 82 号炉穴土層解説

1　赤　褐　色　地山
2　暗 赤 褐 色　地山

0　(1:60)　2m

第 55 図　第 19 ～ 21・27・81・82 号炉穴実測図

第 20 号炉穴（第 55・56 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

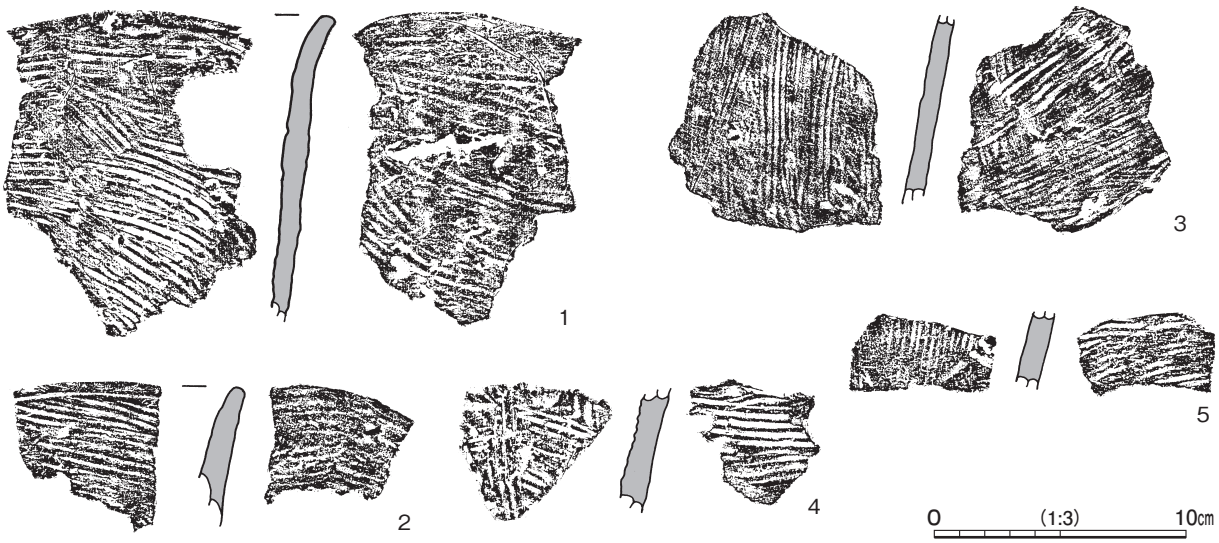
重複関係　第 19 号炉穴を掘り込み，第 27 号炉穴，第 56 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第 27 号炉穴，第 56 号土坑に掘り込まれているため，長径は 1.22 m，短径は 0.86 mしか確認できなかった。長径方向はN － 19° － E の楕円形と推定できる。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦と推定できる。壁は高さ 40cmで，外傾している。

燃焼部　長径方向の北東壁寄りに位置している。長径 0.80 m，短径 0.50 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 17 点（深鉢）が出土している。１・３は覆土下層，２・４・５は覆土中から出土している。



第 56 図　第 20 号炉穴出土遺物実測図

第 20 号炉穴出土遺物観察表（第 56 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(12.2)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外面貝殻条痕文　角棒状の工具によるナデ調整 内面貝殻条痕文	覆土下層	5％　PL26 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 21 号炉穴（第 55・57・58 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

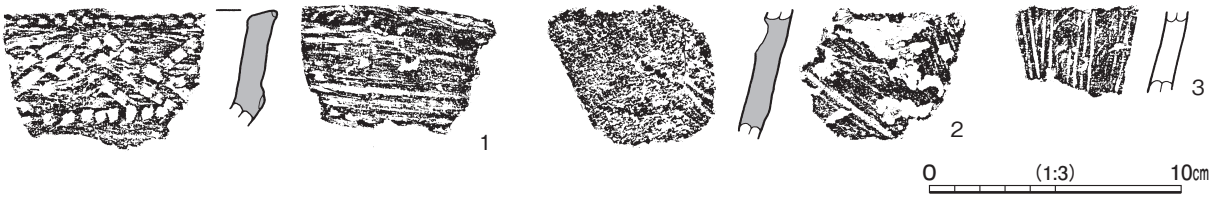
重複関係　第 81 号炉穴，第 56 号土坑を掘り込んでいる。第 82 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　第 81・82 号炉穴と重複しているため，規模，長径方向は不明である。北西部が燃焼部，南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 42㎝で，外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

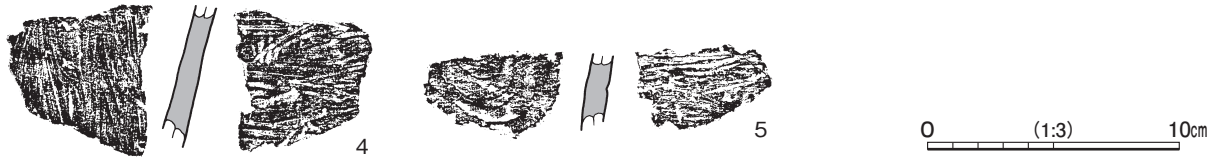
燃焼部　北西壁寄りに位置している。長径 0.56 m，短径 0.52 mの不整円形である。

覆土　７層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第８・９層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 25 点（深鉢）が出土している。１～５は覆土中から出土している。３は埋め戻しの混入である。



第 57 図　第 21 号炉穴出土遺物実測図 (1)



第 58 図　第 21 号炉穴出土遺物実測図 (2)

第 21 号炉穴出土遺物観察表（第 57・58 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部に角棒状の工具による刻み　口縁部に山形状に押引き	覆土中	５％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	内面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英	明赤褐	普通	縦位の細沈線	覆土中	５％ 三戸式
4	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外・内面棒状の工具による条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(3.0)	－	長石・石英・繊維	黒褐	普通	指頭による凹線で円文を施す	覆土中	５％ 茅山下層式

第 27 号炉穴（第 55・59・60 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 20 号炉穴，第 56 号土坑を掘り込んでいる。第 82 号炉穴との新旧関係は不明である。

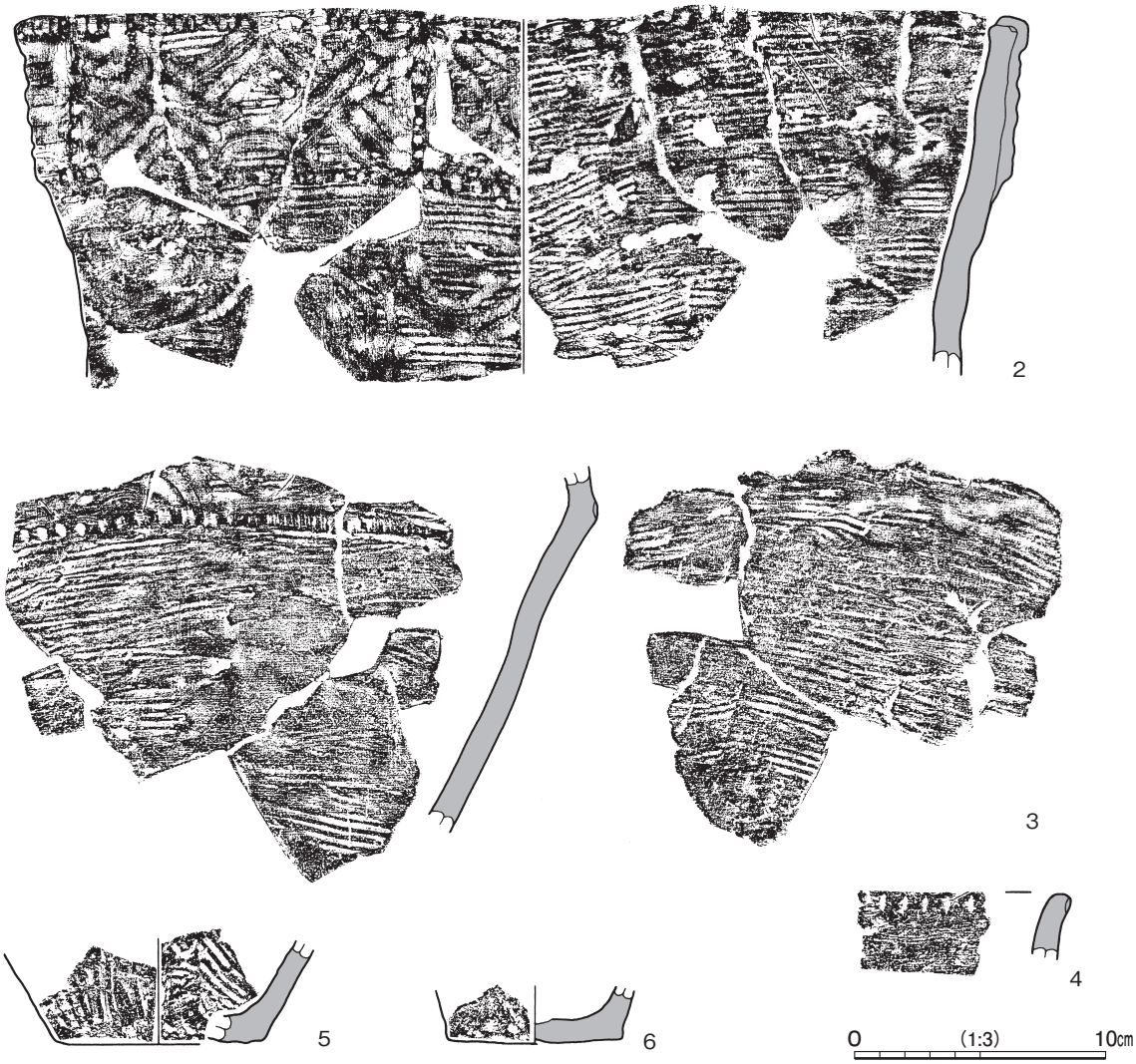
規模と形状　第 82 号炉穴と重複しているため，短径 0.92 m，長径は 1.63 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－９°－Ｗの楕円形と推定できる。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は深さ 56cmで，北側が内傾している。その他の壁は，外傾している。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.42 m，短径 0.38 mの楕円形である。

第 59 図　第 27 号炉穴出土遺物実測図 (1)

覆土　５層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第６層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 59 点（深鉢）が出土している。１は燃焼部上層と覆土下層から出土した破片が接合されたものである。２・３は覆土中層，４～６は覆土中から出土している。



第 60 図　第 27 号炉穴出土遺物実測図 (2)

第 27 号炉穴出土遺物観察表（第 59・60 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	27.5	(17.2)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	口唇部・隆帯に竹管による刻み　口縁部に板状工具による凹線を施す　補修孔１か所	燃焼部上層 覆土下層	５％　PL25 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	[38.6]	(14.3)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	隆帯に竹管の背・腹による刻み　外・内面貝殻条痕文　３と同一個体ヵ	覆土中層	５％　PL27 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(14.6)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	隆帯に竹管による刻み　外・内面貝殻条痕文　２と同一個体ヵ	覆土中層	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(2.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に棒状の工具による刻み	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	[8.2]	長石・石英・雲母・繊維	明褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(2.3)	[6.8]	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式

第 81 号炉穴（第 55 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 56 号土坑を掘り込み，第 21 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 21 号炉穴に掘り込まれているため，規模，長径方向は不明である。北西部が燃焼部，南東部が足場と推定できる。燃焼部までの傾斜は不明である。壁は深さ 24㎝で，外傾している。

燃焼部　北西壁寄りに位置している。第 21 号炉穴に掘り込まれているため，長径 0.36 m，短径は 0.26 mの円形または楕円形である。

覆土　遺存状態が悪く，堆積状況は不明である。第１・２層は被熱を受けた地山である。

第 82 号炉穴（第 55 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 56 号土坑を掘り込んでいる。第 21 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　第 21 号炉穴，第 56 号土坑と重複しているため，規模，長径方向は不明である。北西部が燃焼部，南東部が足場と推定できる。足場から燃焼部までの傾斜は不明である。壁は深さ 45㎝で，外傾している。

燃焼部　北西壁寄りに位置している。長径 0.42 m，短径は 0.28 mの楕円形である。

覆土　遺存状態が悪く，堆積状況は不明である。第１・２層は被熱を受けた地山である。

所見　６基の炉穴は，土層の切り合いと遺構の状況から，２つの構築順が想定できる。ひとつは，初めに第 19 号炉穴を，使用後に北側を掘り込んで第 20 号炉穴が作られている。もうひとつは，第 81 号炉穴が作られ，その後北側に移動するように第 21・82・27 号炉穴へと作り替えられていると推定できる。足場は，いずれも燃焼部の南東部あるいは南側の平場と考えられる。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 24・25・28 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ３h9 区～Ｄ３g9 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。３基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

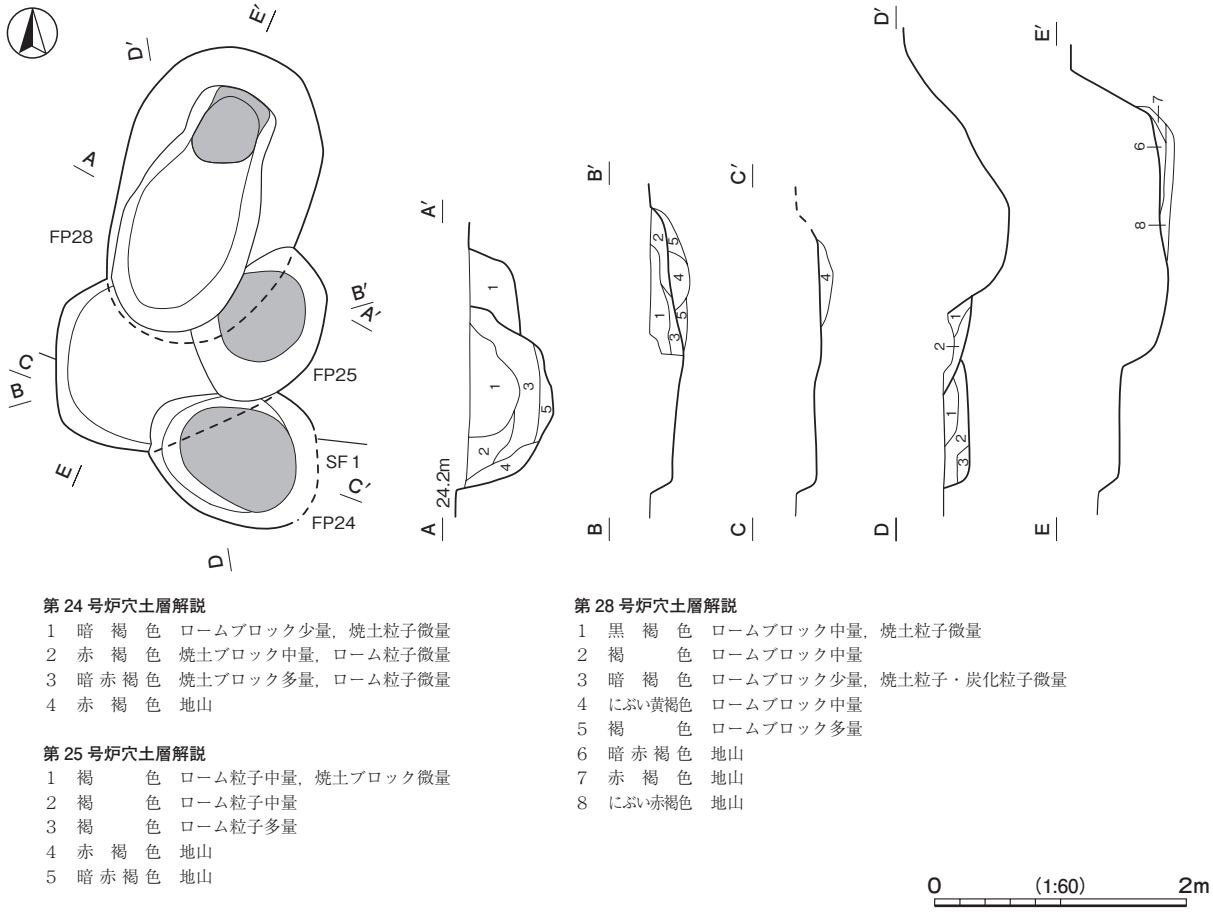
第 24 号炉穴（第 61・62 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 25 号炉穴，第１号道路に掘り込まれている。

規模と形状　第 25 号炉穴，第１号道路に掘り込まれているため，短径 1.08 m，長径は 1.36 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 75°－Ｗの楕円形と推定できる。南東部が燃焼部で足場は不明である。壁は高さ 21㎝で，外傾している。

燃焼部　中央部に位置している。長径 0.96 m，短径 0.76 mの楕円形である。



第 24 号炉穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
4　赤　褐　色　地山

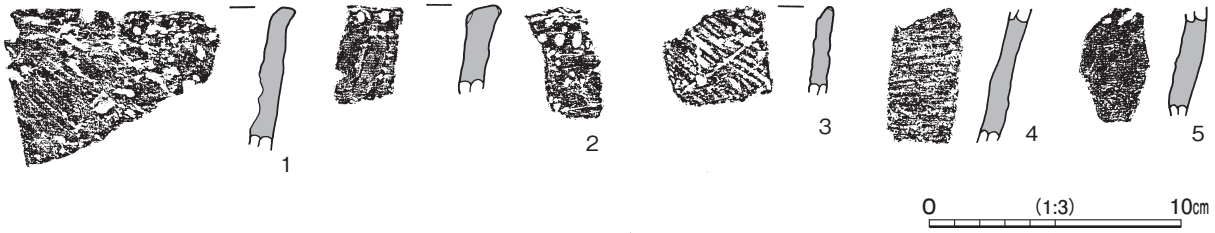
第 25 号炉穴土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ローム粒子多量
4　赤　褐　色　地山
5　暗赤褐色　地山

第 28 号炉穴土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ロームブロック多量
6　暗赤褐色　地山
7　赤　褐　色　地山
8　にぶい赤褐色　地山

第 61 図　第 24・25・28 号炉穴実測図

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 15 点（深鉢）が出土している。１～５は覆土中から出土している。



第 62 図　第 24 号炉穴出土遺物実測図

第 24 号炉穴出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に細い刻み	覆土中	5％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	口唇部両端に竹管による刻み　指頭による凹線	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	外面貝殻条痕文を施文後，沈線・刺突を施す	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	長石・石英・雲母・礫・繊維	灰褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英・雲母・礫・繊維	灰褐	普通	外・内面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5％ 茅山下層式

第 25 号炉穴（第 61・63 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 24 号炉穴を掘り込み，第 28 号炉穴，第 1 号道路に掘り込まれている。

規模と形状　第 28 号炉穴，第 1 号道路に掘り込まれているため，長径 2.33 m，短径は 1.43 mしか確認できなかった。長径方向はN － 62° － E の楕円形と推定できる。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 20㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北東壁寄りに位置している。第 28 号炉穴に掘り込まれているため，長径 0.78 m，短径 0.63 mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第４・５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片８点（深鉢）が出土している。１～４は覆土中から出土している。２は表土からの流れ込みである。

第 63 図　第 25 号炉穴出土遺物実測図

第 25 号炉穴出土遺物観察表（第 63 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(2.2)	－	長石・石英・金雲母・繊維	暗褐	普通	口唇部両端に竹管による刻み	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 三戸式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	－	長石・石英・雲母・繊維	赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式

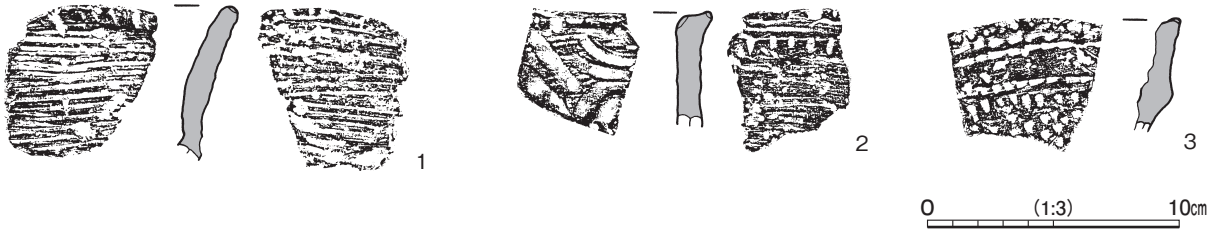
第 28 号炉穴（第 61・64・65 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 25 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 2.40 m，短径 1.50 mの楕円形で，長径方向はN － 20° － E である。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 64㎝で，外傾している。

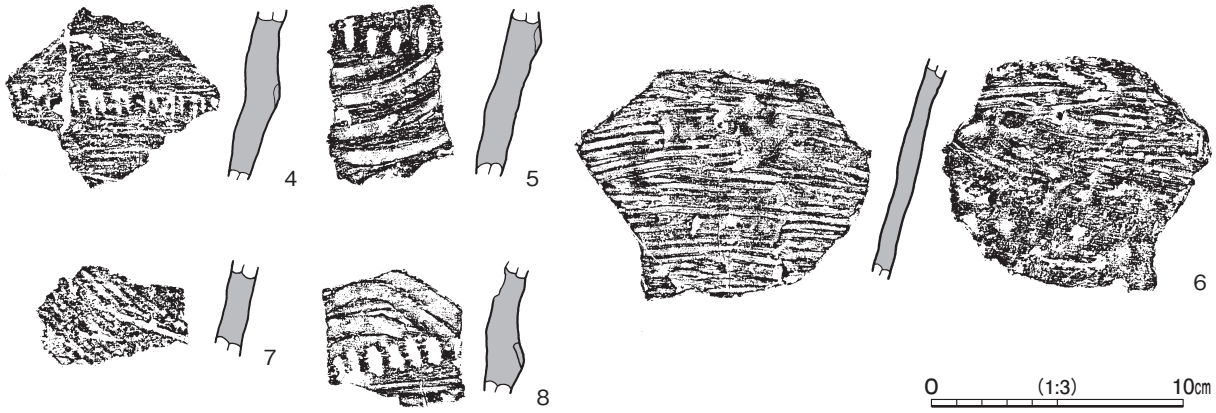
燃焼部　長径方向の北東壁寄りに位置している。長径 0.60 m，短径 0.48 mの不整楕円形である。



第 64 図　第 28 号炉穴出土遺物実測図 (1)

覆土　５層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第６～８層は，被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 16 点（深鉢）が出土している。１～８は覆土中から出土している。



第 65 図　第 28 号炉穴出土遺物実測図 (2)

第 28 号炉穴出土遺物観察表（第 64・65 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	灰褐	普通	口唇部に棒状の工具による刻み　外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	５％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・雲母・繊維	暗褐	普通	口唇部両端に竹管による刻み　口縁部に指頭による凹線の弧線文	覆土中	５％　PL26 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刻み　口縁部に竹管による押引き・刺突	覆土中	５％　PL26 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	褐	普通	隆帯に竹管による刻み　外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	－	長石・石英・雲母・繊維	暗褐	普通	隆帯に竹管による刻み　指頭による凹線の弧線文	覆土中	５％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(8.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文　内面棒状の工具による条痕ヵ	覆土中	５％ 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石・石英・雲母・礫・繊維	にぶい赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	暗褐	普通	隆帯に竹管による刻み　指頭による凹線の弧線文	覆土中	５％ 茅山下層式

所見　３基の炉穴は，土層の切り合いと調査の状況から，初めに南西側の平場を足場として第 24 号炉穴を，使用後に北側へ燃焼部を作り替えて第 25 号炉穴が作られている。その後，さらに北側を掘り込んで第 28 号炉穴が作られている。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 29 ～ 35 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ４g1 ～Ｄ４h1 区，標高 24 mほどの台地緩斜面部に位置している。７基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

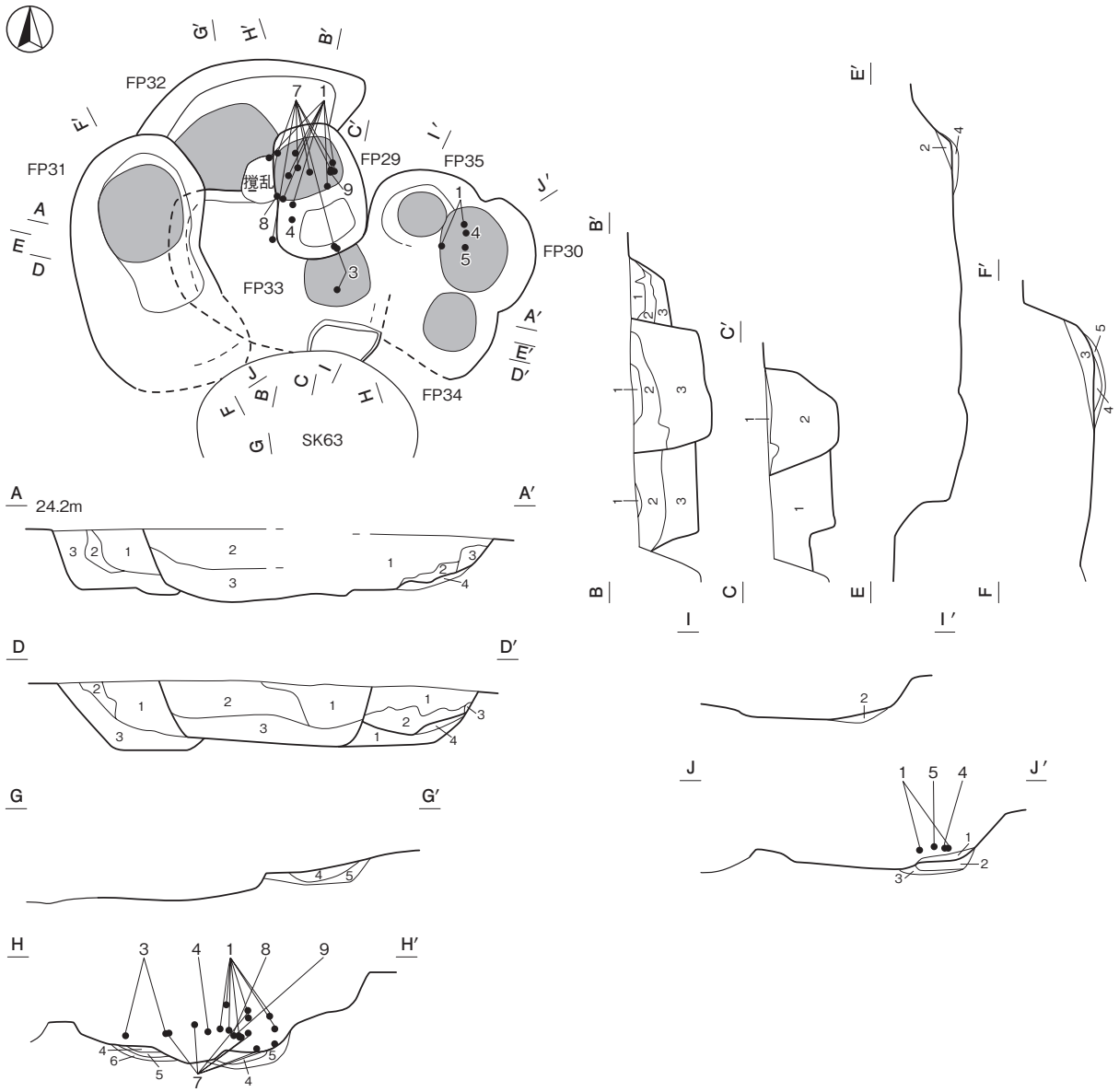
第 29 号炉穴（第 66 ～ 68 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 32・33・35 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.15 m，短径 0.76 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 12°－ Ｗである。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 62cmで，外傾している。

燃焼部　長径方向の北西壁寄りに位置している。長径 0.62 m，短径 0.48 mの不整楕円形である。



第 29 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量

第 30 号炉穴土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　地山
3　にぶい赤褐色　地山

第 31 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量
4　赤　褐　色　地山
5　にぶい赤褐色　地山

第 32 号炉穴土層解説

1　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　暗 赤 褐 色　地山
5　赤　褐　色　地山

第 33 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
4　暗 赤 褐 色　地山
5　赤　褐　色　地山
6　にぶい赤褐色　地山

第 34 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
3　赤　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
4　赤　褐　色　地山

第 35 号炉穴土層解説

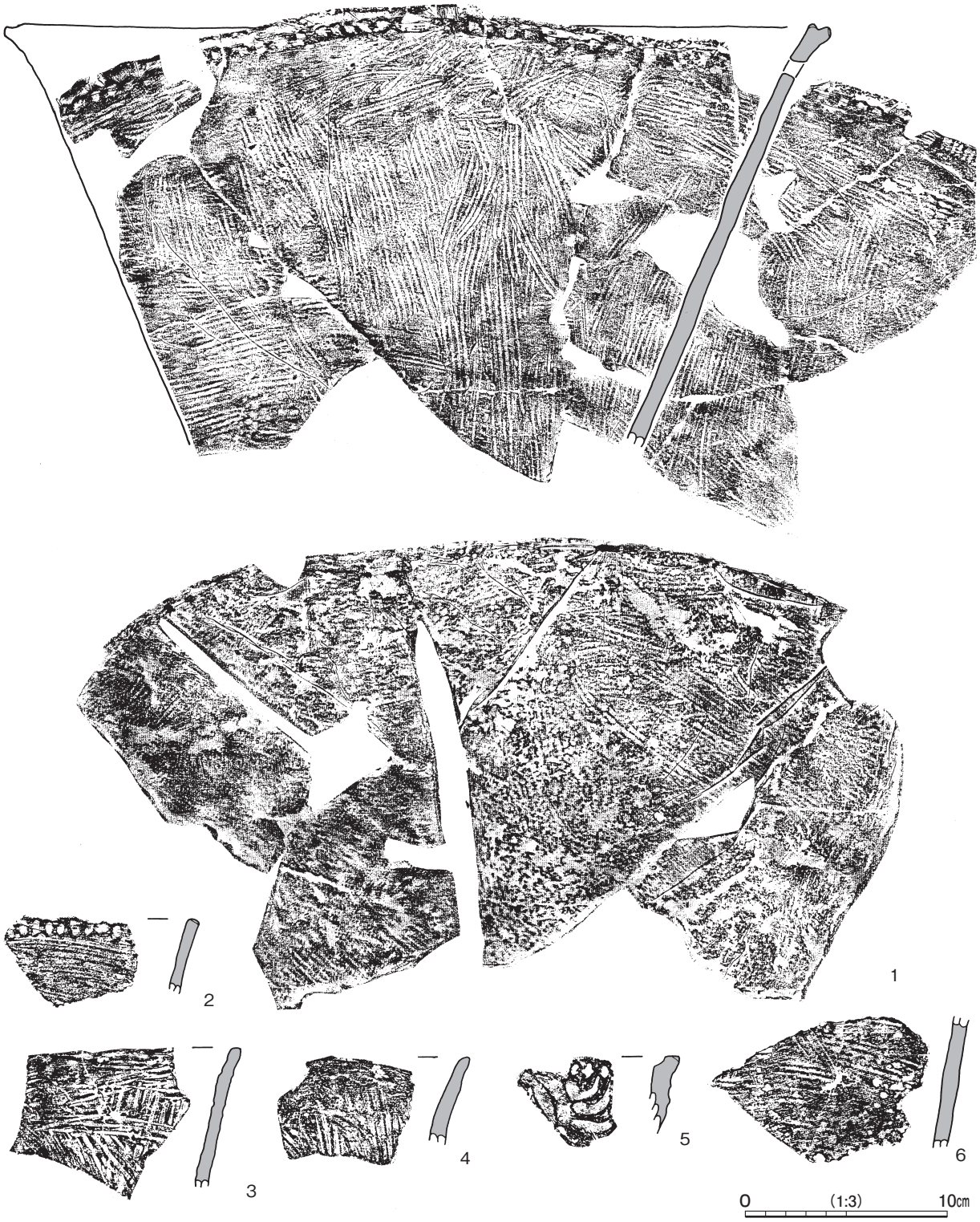
1　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　地山

0　(1:60)　2m

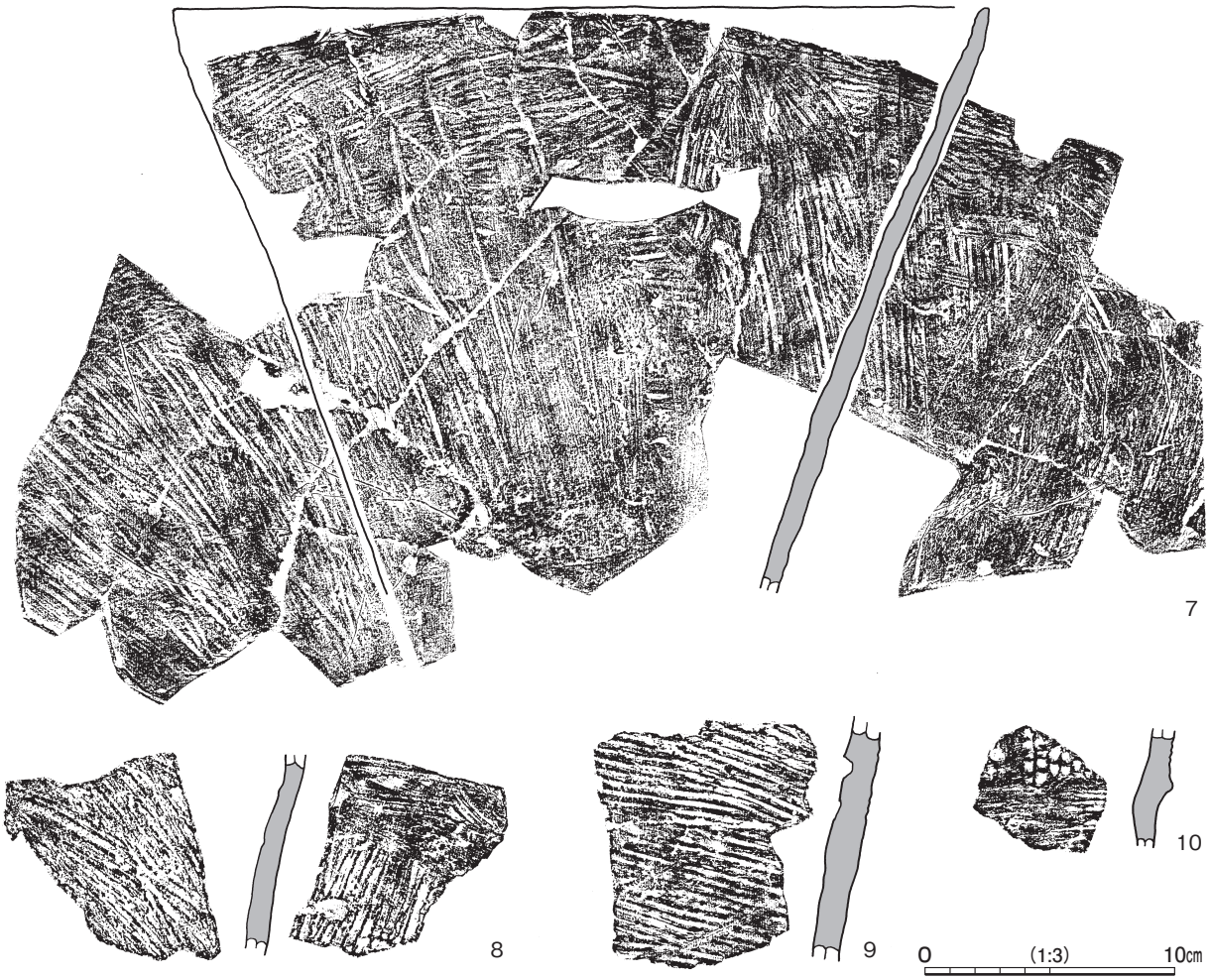
第 66 図　第 29 ～ 35 号炉穴実測図

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片 88 点（深鉢）が出土している。７は燃焼部から覆土中層にかけて出土している。１は第 32 号炉穴の覆土中層と，覆土下層から中層にかけて出土した破片がそれぞれ接合している。３は覆土下層と第 33 号炉穴の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合している。４・８・９は覆土下層，２・５・６・10 は覆土中から出土している。



第 67 図　第 29 号炉穴出土遺物実測図 (1)



第 68 図　第 29 号炉穴出土遺物実測図 (2)

第 29 号炉穴出土遺物観察表（第 67・68 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	[39.2]	(21.0)	–	長石・石英・繊維	褐	普通	口唇部に棒状の工具による刻み　外・内面貝殻条痕文　補修孔１か所	覆土下層～中層 FP32 覆土中層	20%　PL25 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	–	(3.7)	–	長石・石英・繊維	褐灰	普通	口唇部に竹管による刻み　外面棒状の工具による条痕〃	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	–	(6.9)	–	長石・石英・繊維	灰褐	普通	外面貝殻条痕文，内面棒状の工具による条痕	覆土下層 FP33 覆土下層	5％　PL27 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	–	(4.4)	–	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土下層	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	–	(3.8)	–	長石・石英・繊維	灰黄褐	普通	口唇部に竹管による刻み　指頭による凹線で弧線文を施す	覆土中	5％　PL27 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	–	(6.4)	–	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	[32.4]	(23.5)	–	長石・石英・繊維	灰褐	普通	外・内面貝殻条痕文	燃焼部～覆土中層	30%　PL25 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	–	(8.1)	–	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5％　PL27 茅山下層式
9	縄文土器	深鉢	–	(9.8)	–	長石・石英・繊維	褐灰	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5％ 茅山下層式
10	縄文土器	深鉢	–	(4.9)	–	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	竹管による押引き・刺突　内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 30 号炉穴（第 66・69 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 33・34・35 号炉穴と重複しているが，新旧関係は不明である。

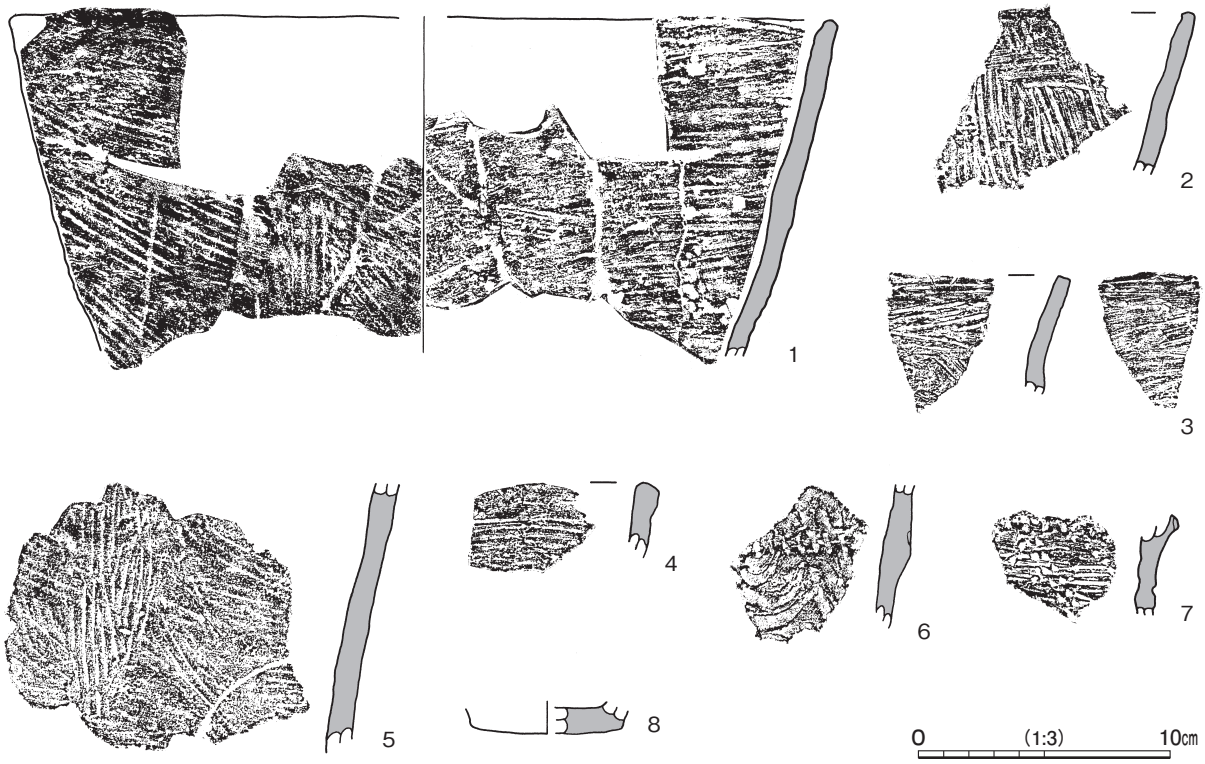
規模と形状　第 34・35 号炉穴と重複しているため，長径は 0.95 m，短径は 0.82 mしか確認できなかった。平

面形は不明である。壁は高さ50㎝で，外傾している。

燃焼部　西壁寄りに位置している。長径0.72 m，短径0.58 mの楕円形である。

覆土　単一層である。ロームブロックが不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第２・３層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片90点（深鉢）が出土している。１・４・５は覆土下層，２・３・６～８は覆土中から出土している。



第69図　第30号炉穴出土遺物実測図

第30号炉穴出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[32.4]	(13.4)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	10%　PL27 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英・雲母・繊維	灰黄褐	普通	外面貝殻条痕文，内面棒状の工具による条痕	覆土中	5％　PL27 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.0)	－	長石・石英・雲母・繊維	灰褐	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土下層	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(10.7)	－	長石・石英・雲母・礫・繊維	明赤褐	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土下層	5％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	長石・石英・雲母・繊維	黒褐	普通	隆帯に竹管による刻み　指頭による凹線で弧線文を施す	覆土中	5％ 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい黄褐	普通	口縁部に山形状に連続刺突	覆土中	5％　PL27 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	－	(1.3)	[6.1]	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	外面ナデ調整	覆土中	5％ 茅山下層式

第31号炉穴（第66・70図）

調査年度　平成30年度

重複関係　第32号炉穴を掘り込み，第33号炉穴，第63号土坑に掘り込まれている。

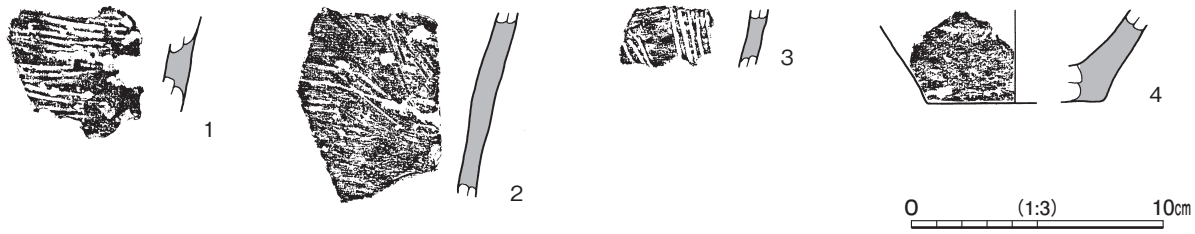
規模と形状　北側の燃焼部の配置から短径1.18 m，長径は2.18 mで，長径方向はN－17°－Wの楕円形と推

定できる。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦であるが，第33号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推定でき，燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ60cmで，外傾している。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.86 m，短径0.72 mの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４・５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片９点（深鉢）が出土している。１～４は覆土中から出土している。



第70図　第31号炉穴出土遺物実測図

第31号炉穴出土遺物観察表（第70図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	灰褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(2.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	黒褐	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土中	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	[7.0]	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式

第32号炉穴（第66図）

調査年度　平成30年度

重複関係　第29・31・33号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第29・31・33号炉穴に掘り込まれているため，長径は1.65 m，短径は1.05 mしか確認できなかった。長径方向と形状は不明である。南西部が燃焼部，北東部が足場と考えられる。足場から燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ17cmで，外傾している。

燃焼部　南西壁寄りに位置している。第29・31号炉穴との重複と撹乱を受けていることから，長径は0.78 m，短径は0.74 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４・５層は被熱を受けた地山である。

第33号炉穴（第66図　PL16）

調査年度　平成30年度

重複関係　第31・32・34・35号炉穴を掘り込み，第29号炉穴，第63号土坑に掘り込まれている。第30号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　複数の炉穴と重複しているため，長径は 2.00 m，短径は 1.20 mしか確認できなかった。長径方向はN－78°－Wの楕円形と推定できる。東部が燃焼部，西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 58㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。第 29 号炉穴に掘り込まれているため，長径 0.58 m，短径は 0.54 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４～６層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢）が出土している。細片のため図示できないが，茅山下層式と比定できる。

第 34 号炉穴（第 66 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 35 号炉穴を掘り込み，第 33 号炉穴に掘り込まれている。第 30 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　複数の炉穴と重複しているため，長径は 1.20 m，短径は 0.70 mしか確認できなかった。長径方向と形状については不明である。南東部が燃焼部，北西部が足場と推定できる。足場から燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 45㎝で，外傾している。

燃焼部　東壁寄りに位置している。長径 0.48 m，短径 0.44 mの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４層は被熱を受けた地山である。

第 35 号炉穴（第 66 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 29・33・34 号炉穴に掘り込まれている。第 30 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　複数の炉穴と重複しているため，長径は 0.70 m，短径は 0.95 mしか確認できなかった。長径方向と形状については不明である。北部が燃焼部，南部が足場である。足場から燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 45㎝で，外傾している。

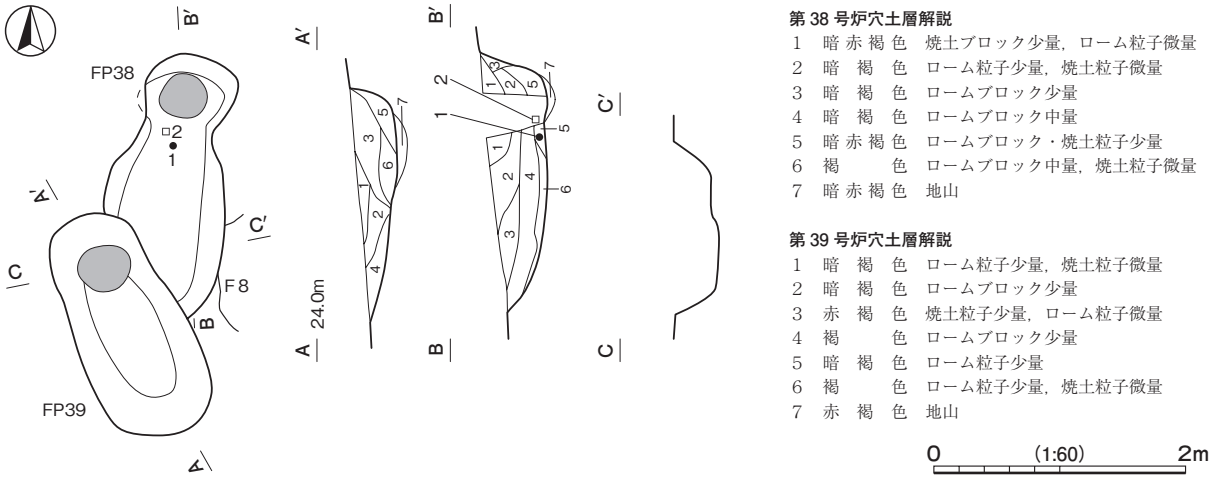
燃焼部　北壁寄りに位置している。長径 0.44 m，短径 0.38 mの楕円形である。

覆土　単一層である。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第２層は被熱を受けた地山である。

所見　７基の炉穴は，土層の切り合いと遺構の状況から，３つの構築順が想定できる。１つ目は，初めに第 32 号炉穴を，使用後に南西側を掘り込んで第 31 号炉穴が作られている。２つ目として，初めに第 35 号炉穴を，その後南側に移動するように第 30・34 号炉穴へと作り替えられている可能性が高い。３つ目として，第 31・34 号炉穴を掘り込んで第 33 号炉穴を，使用後に北側へ移動し第 29 号炉穴が作られていると推定できる。時期は，遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第38・39号炉穴

位置　調査区中央部のＤ４h7区，標高23ｍほどの台地緩斜面部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第71図　第38・39号炉穴実測図

第38号炉穴（第71・72図　PL16）

調査年度　平成30年度

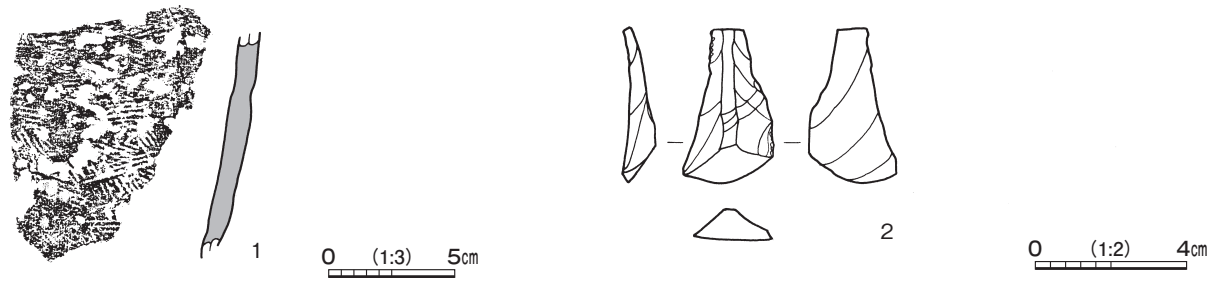
重複関係　第39号炉穴に掘り込まれている。第８号炉跡との新旧関係は不明である。

規模と形状　第39号炉穴に掘り込まれているため，短径0.97ｍ，長径は1.72ｍしか確認できなかった。長径方向はＮ－11°－Ｅの不整楕円形と推定できる。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ50㎝で，外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径0.38ｍ，短径0.36ｍの円形である。

覆土　６層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢），剥片１点が出土している。１・２は燃焼部近くの覆土下層から出土している。



第72図　第38号炉穴出土遺物実測図

第38号炉穴出土遺物観察表（第72図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(8.8)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	５％ 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
2	剥片	4.1	2.4	0.8	5.50	頁岩	縦長剥片　使用痕有	覆土下層	

第 39 号炉穴（第 71 図　PL16）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 38 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 1.87 m，短径 0.90 mの楕円形で，長径方向はN － 26° － W である。北西部が燃焼部，南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 40㎝で，緩やかに立ち上がっている。

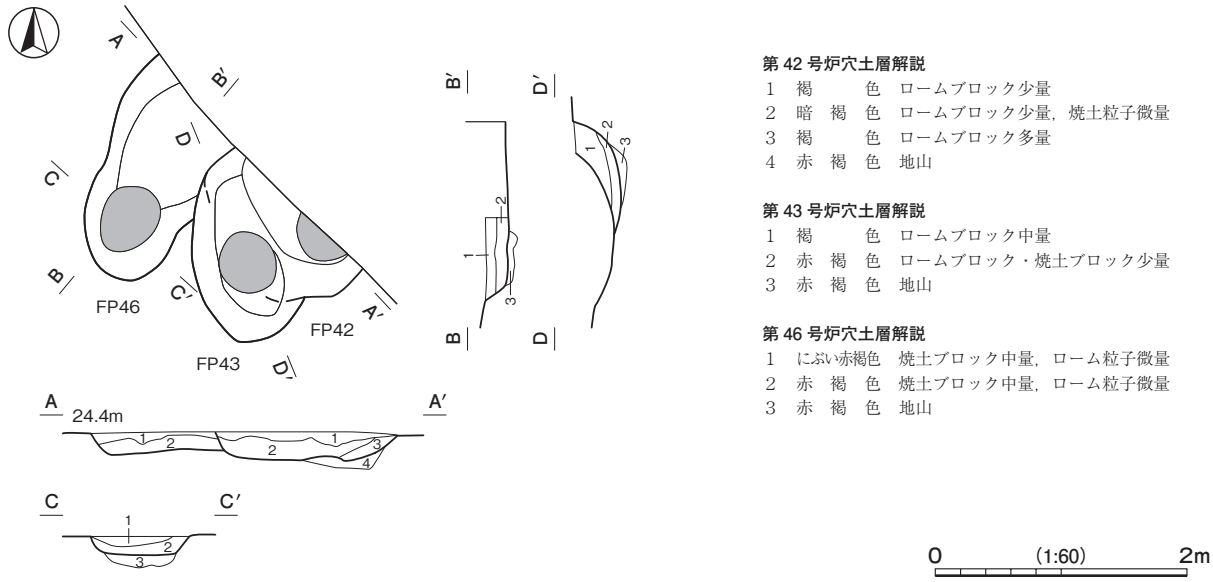
燃焼部　長径方向の北西壁寄りに位置している。長径 0.44 m，短径 0.36 mの楕円形である。

覆土　６層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第７層は被熱を受けた地山である。

所見　２基の炉穴は，土層の切り合いと遺構の状況から初めに第 38 号炉穴を，使用後に北西側を掘り込んで第 39 号炉穴が作られている。時期は，遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第 42・43・46 号炉穴

位置　調査区中央部のＣ５h1 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。３基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第 73 図　第 42・43・46 号炉穴実測図

第 42 号炉穴（第 73 図　PL17）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 43・46 炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　北東部が調査区域外のため，長径は 1.40 m，短径は 0.60 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 39°－ W の楕円形と推定できる。南東部が燃焼部，北西部が足場である。足場から燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 25㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の南東壁寄りに位置している。北東部が調査区域外のため，長径 0.52 m，短径は 0.22 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定される。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４層は被熱を受けた地山である。

第 43 号炉穴（第 73 図　PL17）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 46 号炉穴を掘り込み，第 42 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 42 号炉穴に掘り込まれているため，長径は 1.50 m，短径は 0.78 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－８°－ W の楕円形と推定できる。南部が燃焼部，北部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩かに傾斜している。壁は高さ 35㎝で，外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。長径 0.50 m，短径 0.46 mの楕円形である。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第３層は被熱を受けた地山である。

第 46 号炉穴（第 73 図　PL17）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 42・43 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 42･43 号炉穴に掘り込まれているため，長径は 1.45 m，短径は 0.95 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 26°－ E の楕円形と推定できる。南西部が燃焼部，北東部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 18㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南西壁寄りに位置している。長径 0.54 m，短径 0.44 mの楕円形である。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第３層は被熱を受けた地山である。

所見　３基の炉穴は，土層の切り合いと調査の状況から初めに第 46 号炉穴が作られ，使用後に南東側を掘り込んで第 43・42 号炉穴の順に作られている。時期は，遺構の形状から早期後葉である。

第 45・69 号炉穴，第 16 号炉跡

位置　調査区中央部のＣ５h1 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。３基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

第 45 号炉穴（第 74 図　PL17）

調査年度　平成 30 年度

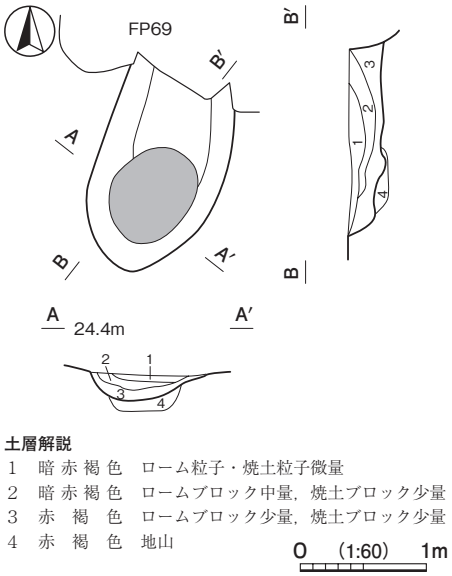
重複関係　第 69 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 69 号炉穴に掘り込まれているため，短径 1.02 m，長径は 1.58 m しか確認できなかった。長径方向はＮ－ 15°－ Ｅの楕円形と推定できる。南部が燃焼部，北部が足場である。足場から燃焼部まではほぼ平坦である。壁は高さ 32㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。長径 0.80 m，短径 0.62 mの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第４層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 21 点（深鉢）が出土している。２・３は表土からの流れ込みである。



第 74 図　第 45 号炉穴・出土遺物実測図

第 45 号炉穴出土遺物観察表（第 74 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刻み　外面角棒状の工具による凹線	覆土中	５％　PL27 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 三戸式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	区画内に沈線を充填　円形竹管文を刺突	覆土中	５％ 鵜ヶ島台式

第 69 号炉穴（第 75 図）

調査年度　平成 30 年度

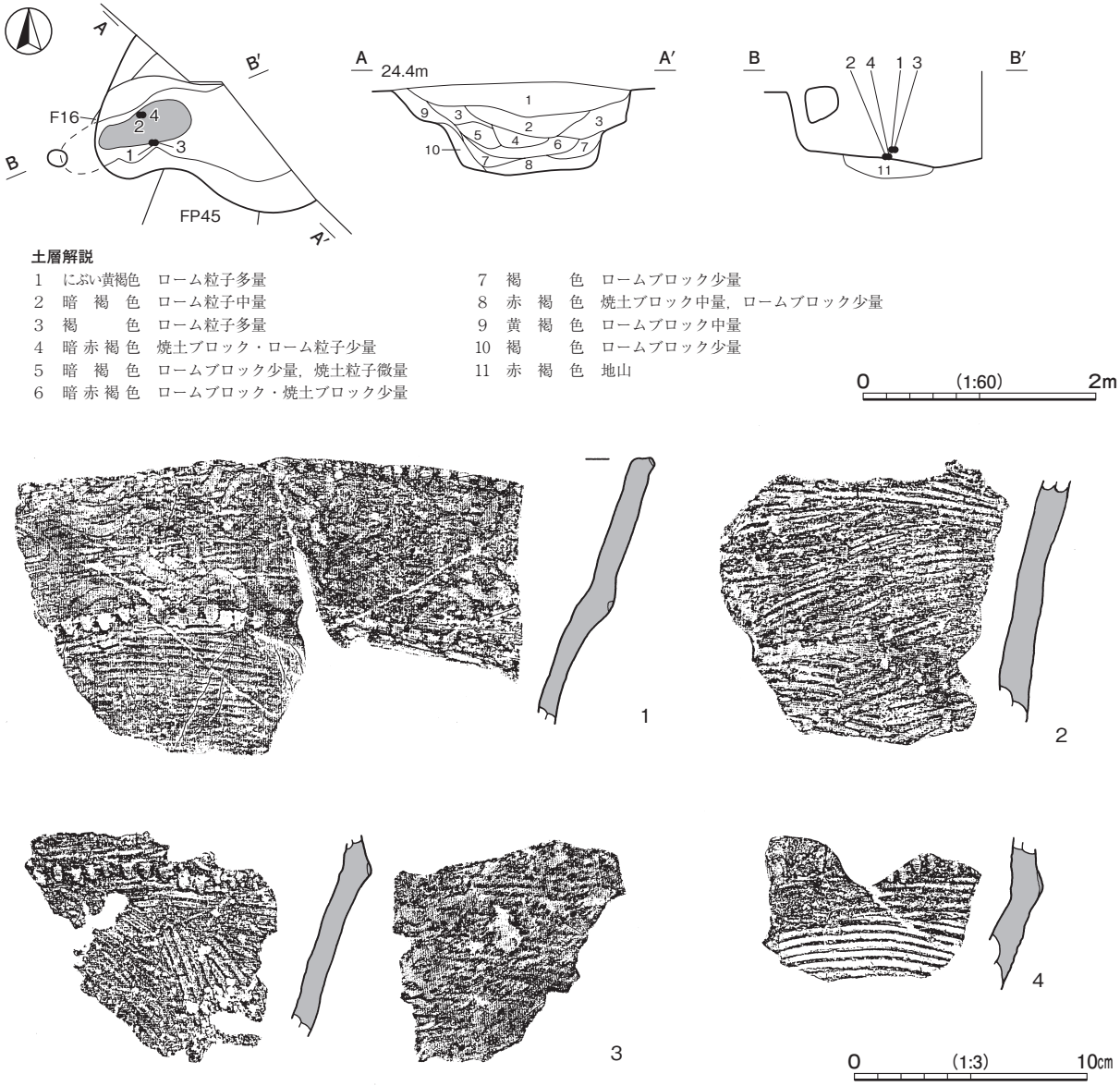
重複関係　第 45 号炉穴を掘り込み，第 16 号炉跡に掘り込まれている。

規模と形状　北東部が調査区域外のため，長径は 1.68 m，短径は 1.40 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 70°－ Ｅの不定形である。南西部に天井部が遺存している。西部が燃焼部，東部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 67㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の西壁寄りに位置している。長径 0.82 m，短径 0.30 mの不整楕円形である。

覆土　10 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第 11 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 28 点（深鉢）が出土している。１～４は覆土下層から出土している。



第 75 図　第 69 号炉穴・出土遺物実測図

第 69 号炉穴出土遺物観察表（第 75 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(11.5)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	口唇部・隆帯に竹管による刻み　外面貝殻条痕文	覆土下層	5％　PL29 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(10.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5％　PL29 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(8.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	隆帯に竹管による刻み　外面棒状の工具による条痕　内面貝殻条痕文	覆土下層	5％　PL29 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土下層	5％ 茅山下層式

第 16 号炉跡（第 76 図　PL21）

調査年度　平成 30 年度

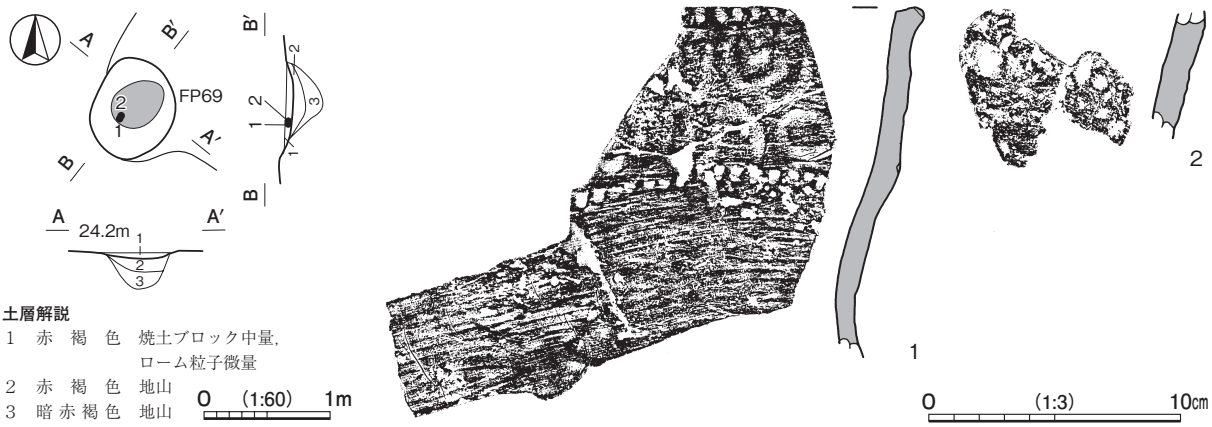
重複関係　第 69 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 0.82 m，短径 0.63 mの楕円形で，長径方向はN － 17° － E の地床炉である。壁は高さ 14cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径 0.46 m，短径 0.34 mの楕円形である。

覆土　単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第２・３層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片６点（深鉢）が出土している。１・２は燃焼部から出土している。



第 76 図　第 16 号炉跡・出土遺物実測図

第 16 号炉跡出土遺物観察表（第 76 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(13.9)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	口唇部・隆帯に竹管による刻み・刺突　指頭による凹線で円文を施す	燃焼部	５％　PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文	燃焼部	５％ 茅山下層式

所見　２基の炉穴と１基の炉跡は，土層の切り合いと遺構の状況から初めに第 45 号炉穴が作られ，使用後に北側を掘り込んで，第 69 号炉穴，第 16 号炉跡の順に作られている。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 47・51 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ５a3 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

第 47 号炉穴（第 77 図　PL17）

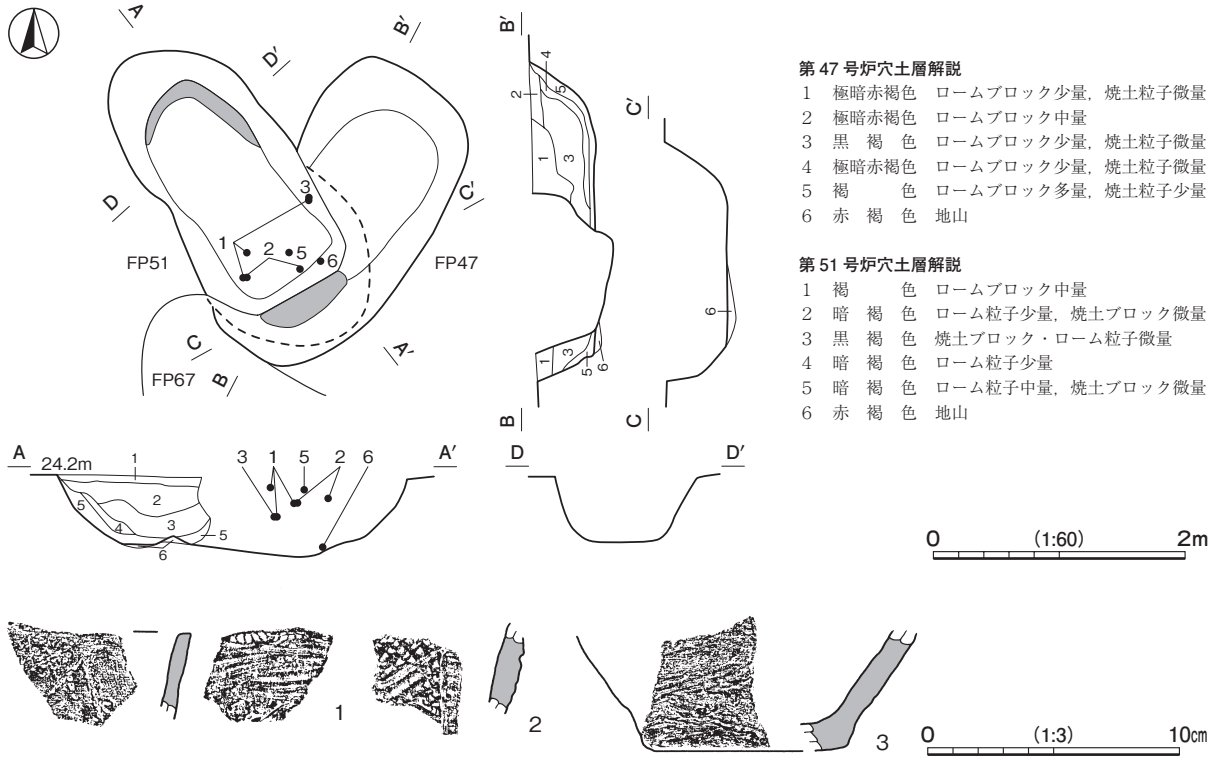
調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 67 号炉穴を掘り込み，第 51 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　長径 2.50 m，短径 1.28 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 32°－ Ｅである。南西部が燃焼部，北東部が足場である。足場から燃焼部まではほぼ平坦である。壁は高さ 48cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南西壁寄りに位置している。第 51 号炉穴に掘り込まれているため，長径は 0.72 m，短径は 0.20 mしか確認できなかった。

覆土　５層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第６層は被熱を受けた地山である。



第 77 図　第 47・51 号炉穴・第 47 号炉穴出土遺物実測図

遺物出土状況　縄文土器片 59 点（深鉢）が出土している。1～3 は覆土中から出土している。

第 47 号炉穴出土遺物観察表（第 77 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕と指頭によるナデ　内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	沈線による区画内に，竹管による押引きを充填	覆土中	5％　PL27 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	[8.2]	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 51 号炉穴（第 77・78 図　PL18）

調査年度　平成 30 年度

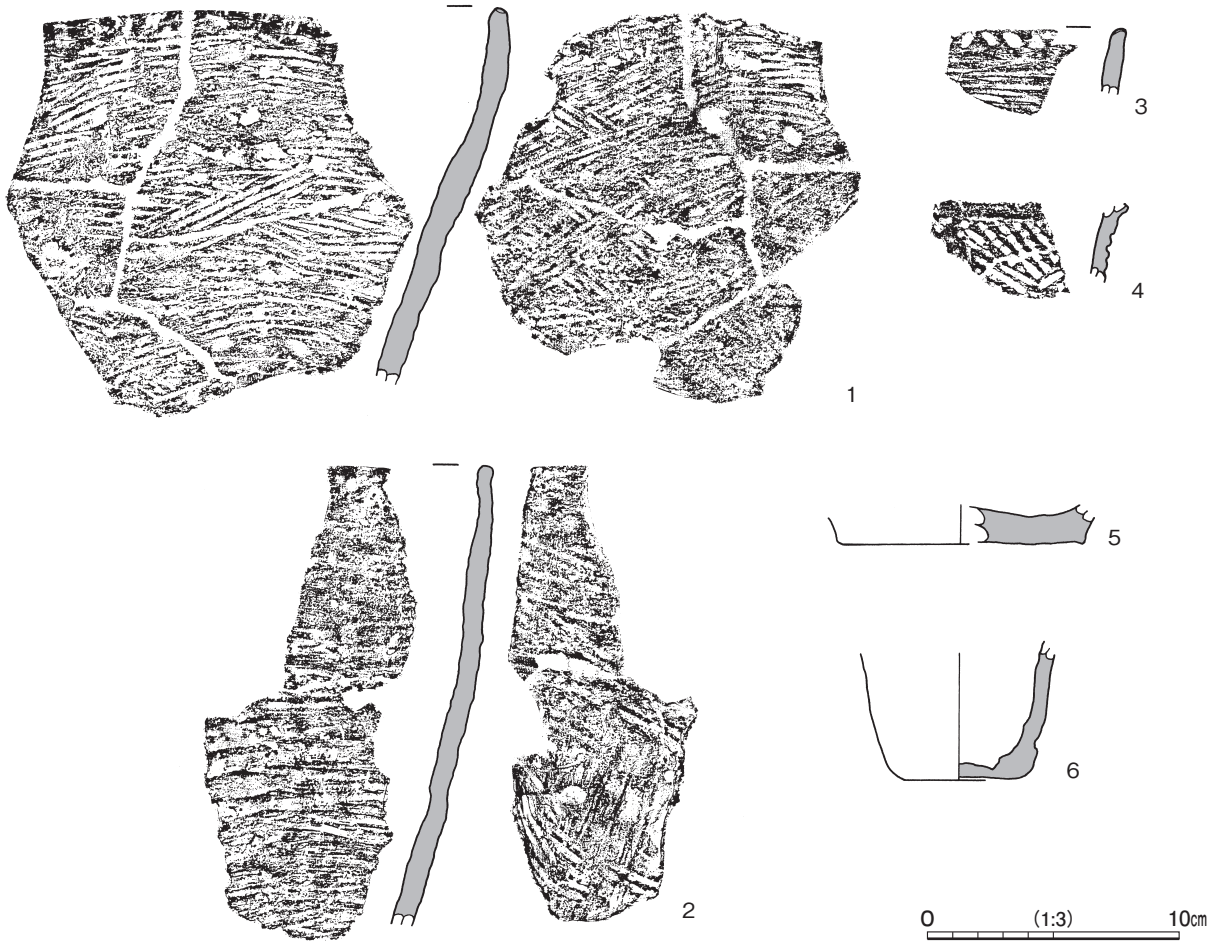
重複関係　第 47 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　第 47 号炉穴と重複しているため，短径 1.08 m，長径は 2.80 mしか確認できなかった。長径方向はN－35°－W の楕円形と推定できる。北西部が燃焼部，南東部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 51cmで，外傾している。

燃焼部　長径方向の北西壁寄りに位置している。長径 0.80 m，短径 0.62 mの楕円形である。

覆土　5 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第 6 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 57 点（深鉢）が出土している。6 は覆土下層，1～3・5 は覆土中層，4 は覆土中から出土している。



第 78 図　第 51 号炉穴出土遺物実測図

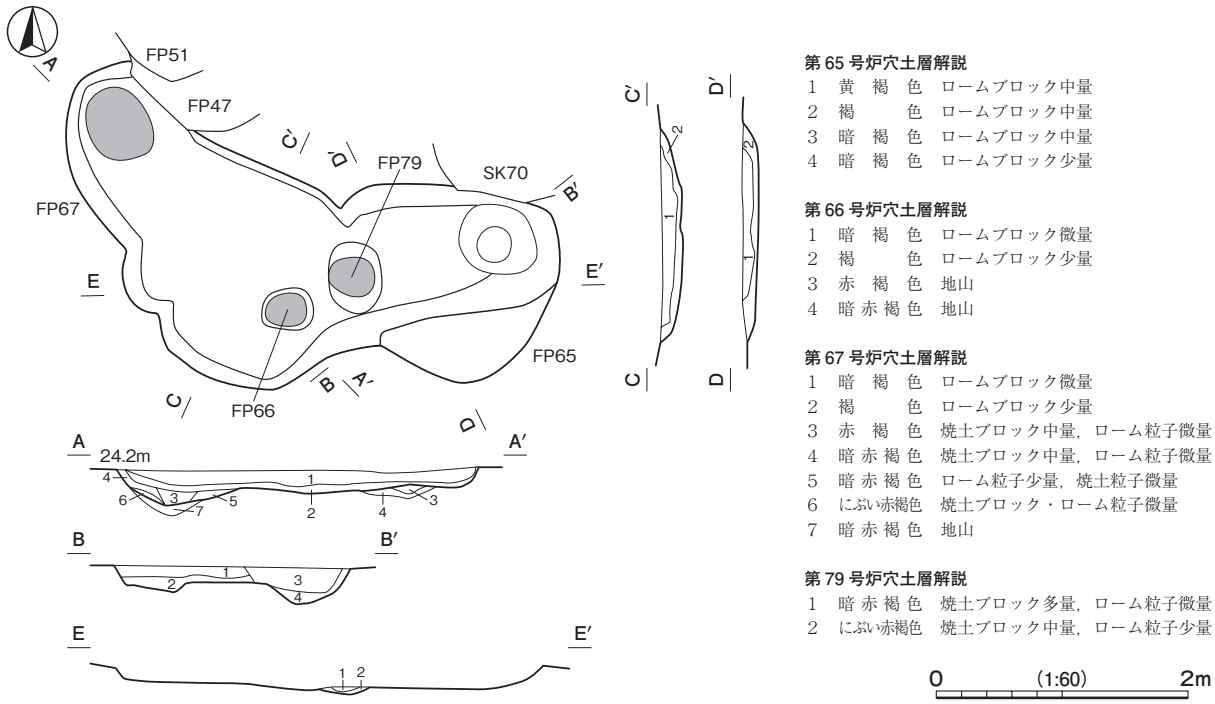
第 51 号炉穴出土遺物観察表（第 78 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(15.0)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	外面棒状の工具による条痕　内面棒状の工具による条痕ヵ	覆土中層	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(18.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	外面に貝殻条痕文・指頭によるナデ調整	覆土中層	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(2.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	口唇部に竹管による刻み　口縁部に棒状の工具による条痕	覆土中層	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.2)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	口縁部に丸棒状の工具による連続刺突	覆土中	5％　PL28 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(1.6)	[9.8]	長石・石英・繊維	褐	普通	内面貝殻条痕文	覆土中層	5％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	4.4	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外底面に指頭痕　内面貝殻条痕文	覆土下層	5％ 茅山下層式

所見　２基の炉穴は，遺構の状況から初めに第 47 号炉穴を，使用後に北西側を掘り込んで第 51 号炉穴が作られている。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 65 ～ 67・79 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ５a2 ～Ｄ５b4 区，標高 24 mほどの台地緩斜面部に位置している。４基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第 79 図　第 65 ～ 67・79 号炉穴実測図

第 65 号炉穴（第 79・80 図　PL18）

調査年度　平成 30 年度

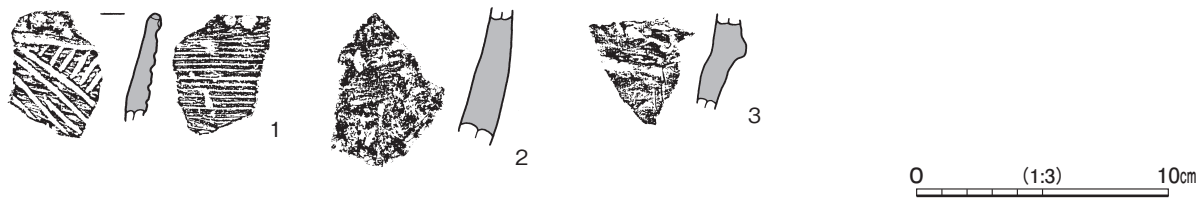
重複関係　第 70 号土坑に掘り込まれている。第 79 号炉穴とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　第 79 号炉穴と重複しているため，規模，形状，長径方向は不明である。東部が燃焼部，西部が足場と推定できる。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 28㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　東壁寄りに位置している。長径 0.30 m，短径 0.28 mの円形である。赤変硬化は確認できなかった。

覆土　4 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 5 点（深鉢）が出土している。1 ～ 3 は覆土中から出土している。1 は埋め戻しの混入である。



第 80 図　第 65 号炉穴出土遺物実測図

第 65 号炉穴出土遺物観察表（第 80 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刻み　口縁部に沈線を充填	覆土中	5％　PL28 野島式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・繊維	明褐	普通	横位の隆帯　内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 66 号炉穴（第 79 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 67・79 号炉穴と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　第 67・79 号炉穴と重複しているため，規模，長径方向は不明である。東部が燃焼部，西部が足場と推定できる。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 18㎝で，外傾している。

燃焼部　東壁寄りに位置していると推定できる。長径 0.32 m，短径 0.26 mの楕円形である。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第３・４層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが, 茅山下層式と比定できる。

第 67 号炉穴（第 79・81 図　PL18）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 47 号炉穴に掘り込まれている。第 66 号炉穴とも重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　第 66 号炉穴と重複しているため，規模は不明で，長径方向はN － 30° －Wである。形状は楕円形と推定できる。北西部が燃焼部，南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 16 ㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北西壁寄りに位置している。長径 0.34 m，短径 0.26 mの楕円形である。

覆土　６層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 10 点（深鉢）が出土している。１～３は覆土中から出土している。

第 81 図　第 67 号炉穴出土遺物実測図

第 67 号炉穴出土遺物観察表（第 81 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(2.5)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	口唇部に竹管による刻み	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	外面無文　内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	外・内面角棒状の工具による条痕	覆土中	５％ 茅山下層式

第 79 号炉穴（第 79 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 65・66 号炉穴と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　第 65・66 号炉穴と重複しているため，規模，長径方向，燃焼部と足場の位置は不明である。

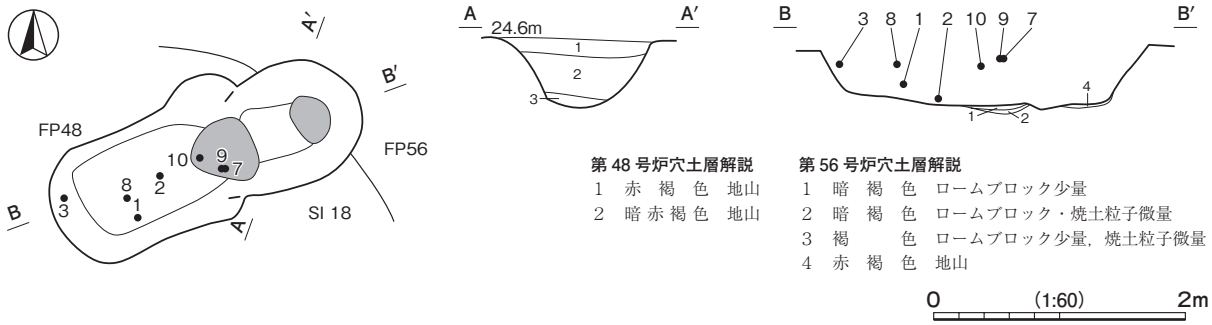
燃焼部　長径 0.36 m，短径 0.30 mの楕円形である。

覆土　２層に分層できる。ローム粒子を含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

所見　４基の炉穴の新旧関係は，覆土の堆積状況では判断できないため，構築順は不明である。

第 48・56 号炉穴

位置　調査区中央部のＣ４i0 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第 82 図　第 48・56 号炉穴実測図

第 48 号炉穴（第 82・83 図　PL18）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 18 号竪穴建物跡を掘り込み，第 56 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 56 号炉穴に掘り込まれているため，短径 0.96 m，長径は 1.79 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 63°－ Ｅの楕円形と推定できる。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 47㎝で，外傾している。

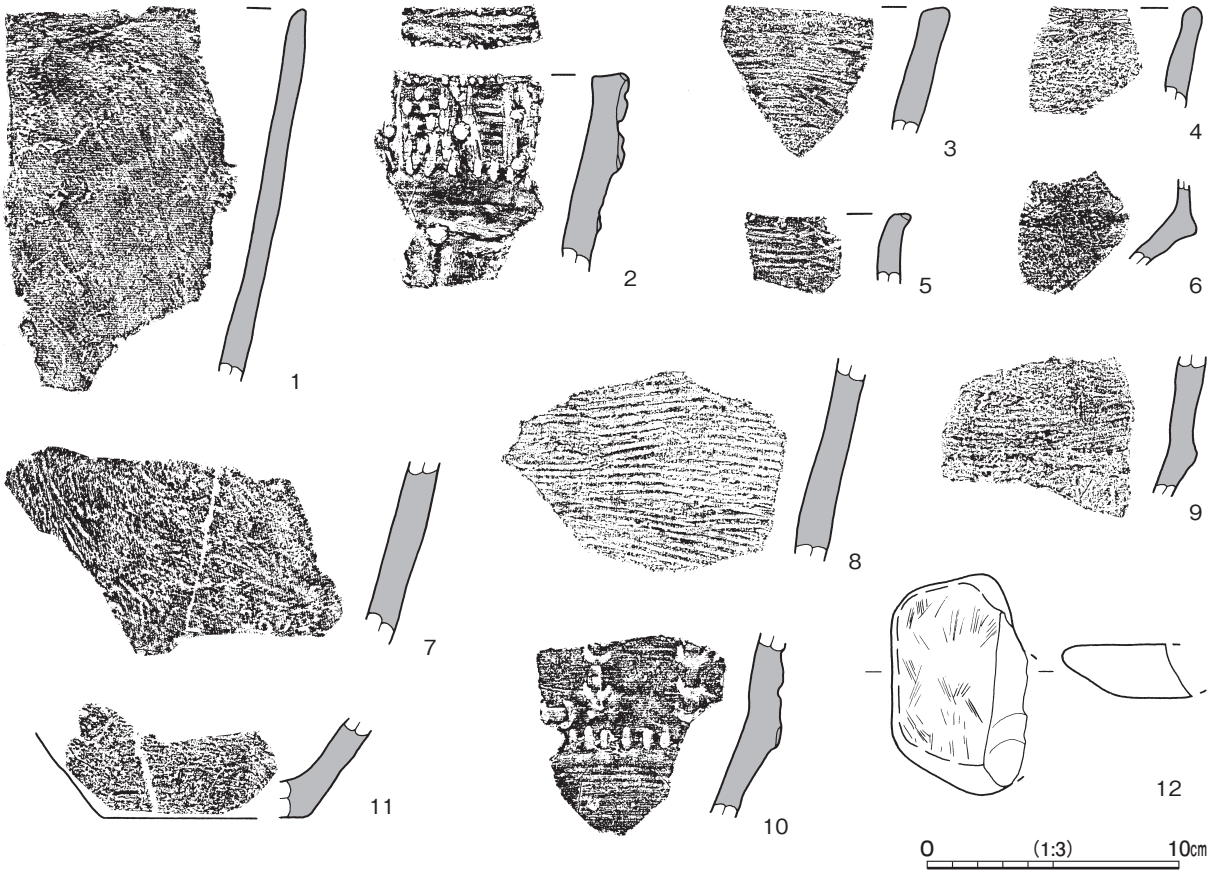
燃焼部　長径方向の北東壁寄りに位置している。長径 0.54 m，短径 0.42 mの不整楕円形である。

覆土　第 56 号炉穴に掘り込まれているため，堆積状況は不明である。第１・２層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 61 点（深鉢），石器１点（砥石）が出土している。１・２は覆土下層，３・８・10 は覆土中層，７・９は覆土上層，４～６・11・12 は覆土中から出土している。

第 48 号炉穴出土遺物観察表（第 83 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(14.8)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面無文　内面棒状の工具によるナデ調整	覆土下層	５％　PL28 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(7.9)	－	長石・石英・繊維	暗赤褐	普通	口唇部に竹管による刻み　口縁部に縦位の隆帯による区割	覆土下層	５％　PL28 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を施文後，指頭によるナデ調整	覆土中層	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外面指頭によるナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(2.7)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	口唇部に竹管による刻み　外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・繊維	明黄褐	普通	内面に棒状の工具による沈線	覆土中	５％ 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	内面貝殻条痕文	覆土上層	５％ 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	－	(8.2)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外面貝殻条痕文　内面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中層	５％　PL28 茅山下層式
9	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・繊維	赤褐	普通	横位の隆帯　外面棒状の工具による条痕ヵ	覆土上層	５％　PL28 茅山下層式



第 83 図　第 48 号炉穴出土遺物実測図

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
10	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	太い半截竹管による刺突文　胎土に多量の雲母を含む	覆土中層	5％ 茅山下層式
11	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	[8.0]	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐	普通	外・内面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5％　PL33 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
12	砥石	8.3	(5.5)	2.2	162.10	砂岩	砥石一面　片面のみ使用	覆土中	

第 56 号炉穴（第 82 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 18 号竪穴建物跡，第 48 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　第 48 号炉穴と重複しているため，短径 0.95 m，長径は 1.12 mしか確認できなかった。長径方向はN－69°－Eの楕円形と推定できる。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 47cmで，外傾している。

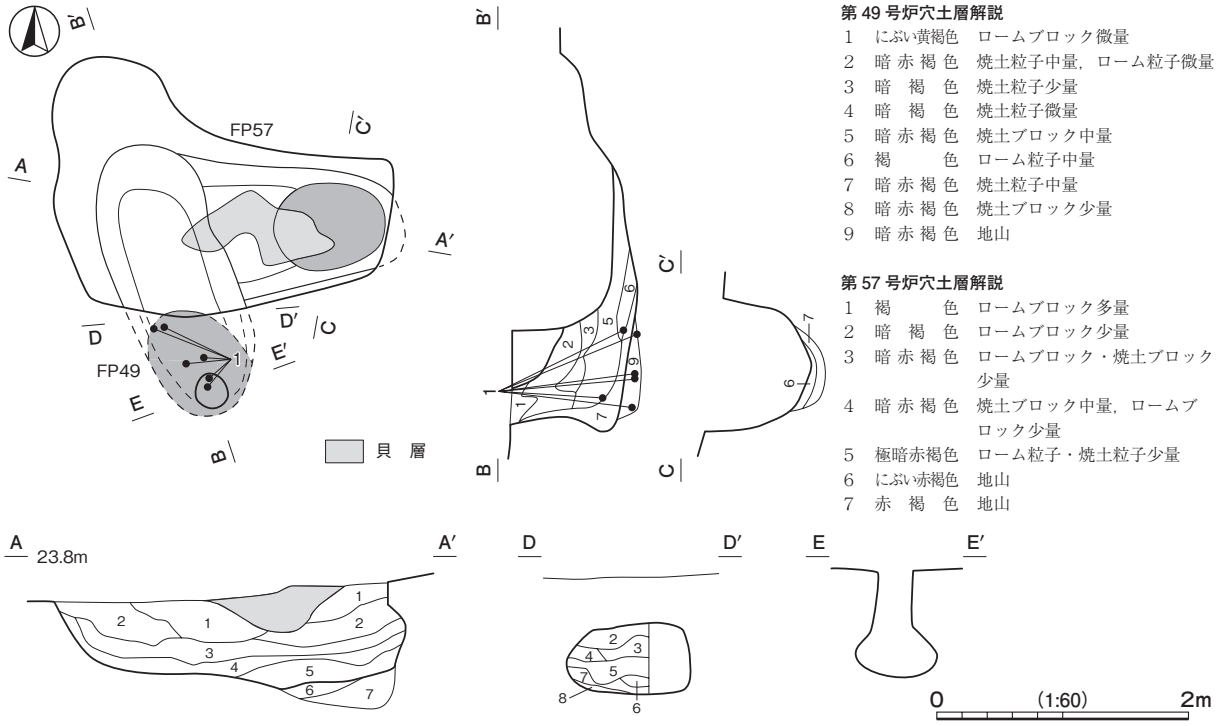
燃焼部　長径方向の北東部寄りに位置している。長径 0.42 m，短径 0.28 mの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４層は被熱を受けた地山である。

所見　２基の炉穴は，土層の切り合いと遺構の状況から初めに第 48 号炉穴を，使用後に北東側を掘り込んで第 56 号炉穴が作られている。時期は，遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第 49・57 号炉穴

位置　調査区中央部のＣ４e8 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第 49 号炉穴土層解説

1　にぶい黄褐色　ロームブロック微量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子少量
4　暗　褐　色　焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼土ブロック中量
6　褐　　色　ローム粒子中量
7　暗赤褐色　焼土粒子中量
8　暗赤褐色　焼土ブロック少量
9　暗赤褐色　地山

第 57 号炉穴土層解説

1　褐　　色　ロームブロック多量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗赤褐色　ロームブロック・焼土ブロック少量
4　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ロームブロック少量
5　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量
6　にぶい赤褐色　地山
7　赤　褐　色　地山

第 84 図　第 49・57 号炉穴実測図

第 49 号炉穴（第 84・85 図　PL17）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 57 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　長径 2.96 m，短径 0.99 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 20°－ Ｗである。南部に天井部が遺存している。南部が燃焼部, 北部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 92cmで，内彎して袋状を呈し，底面から約 25cmのところで直立している。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。長径 0.90 m，短径 0.72 mの楕円形である。

覆土　８層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第９層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片３点（深鉢）が出土している。１は燃焼部から出土している。

第 49 号炉穴出土遺物観察表（第 85 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	［30.6］	(32.6)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	明褐	普通	外・内面貝殻条痕文　補修孔１か所	燃焼部	５％　PL25 茅山下層式

第 85 図　第 49 号炉穴出土遺物実測図

第 57 号炉穴（第 84・86 図　PL17）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 49 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 2.64 m，短径 1.25 mの不定形で，長径方向はN － 89° － W である。東部が燃焼部，西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 82 cmで，内彎して袋状を呈し，底面から約 52cmのところで外傾している。

燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.92 m，短径は 0.70 mの楕円形である。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第６・７層は，被熱を受けた地山である。貝層は，覆土上層で確認され，厚さは 38cmである。

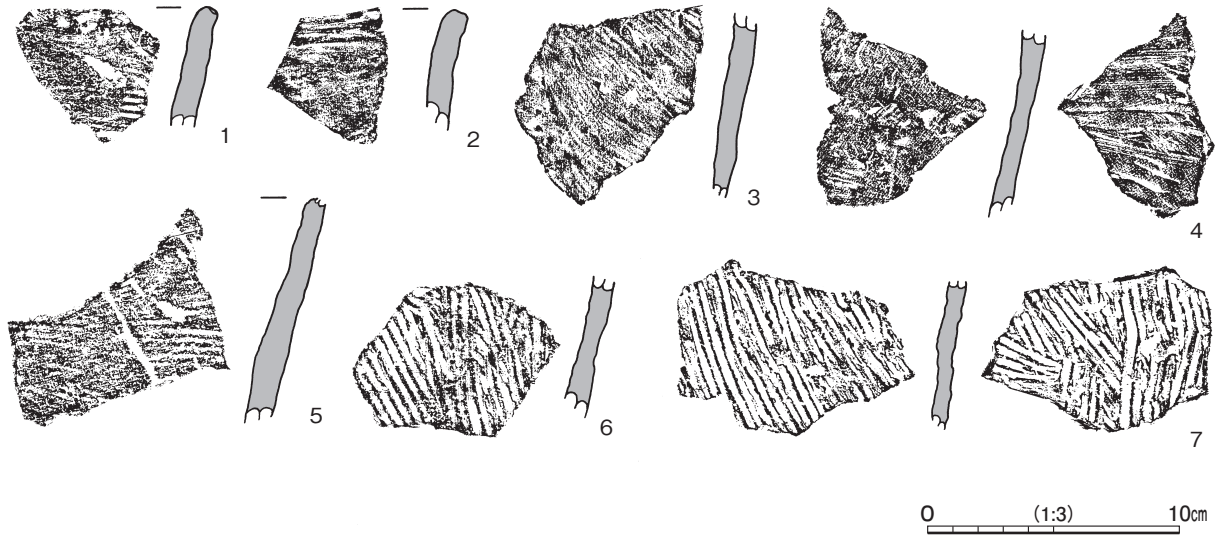
第 57 号炉穴出土貝類集計表

種別	個体数	個体数比（％）
シオフキ	1023	27.9
ハマグリ	977	26.7
アサリ	852	23.2
マガキ	297	8.0
オキシジミ	180	4.9
ハイガイ	143	3.9
スガイ	60	1.6
アカニシガイ	53	1.4
ウネナシトマヤガイ	49	1.3
レイシ	32	0.9
ウミニナ	6	0.2
総量	3,672	100.0

※－は 0.1％未満

遺物出土状況　縄文土器片 21 点（深鉢）のほか貝が出土している。２～７は貝層から出土している。１は覆土中から出土している。11 種類の貝類が確認され，総個体数は 3,672 個である。体数別の比率は，表の通りで内湾の砂質や干潟を生息域とする貝類が出土している。また，サンプルの微細物を洗い出したところ，不明な骨または貝と思われるものが確認でき，自然科学分析を行った。結果は哺乳類の歯牙の可能性があることが分かった。詳細については，「⑷　炉穴・炉跡出土遺物の骨貝同定について」で述べることとする。

所見　２基の炉穴の新旧関係については，土層の切り合いから初めに第 49 号炉穴が構築され，使用後に西側を掘り込み，第 57 号炉穴が作られたと考えられる。時期は，出土土器から早期後葉である。



第 86 図　第 57 号炉穴出土遺物実測図

第 57 号炉穴出土遺物観察表（第 86 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面角棒状の工具による凹線　内面貝殻条痕文	貝層中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(7.4)	－	長石・石英・繊維	黒褐	普通	内面貝殻条痕文	貝層中	5％　PL28 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(7.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	内面角棒状の工具による凹線	貝層中	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(8.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	口唇部に竹管による刻み	貝層中	5％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	貝層中	5％ 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	灰褐	普通	外・内面貝殻条痕文	貝層中	5％　PL28 茅山下層式

第 54・55 号炉穴

位置　調査区中央部のＣ４d2 区，標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

第 54 号炉穴（第 87 図）

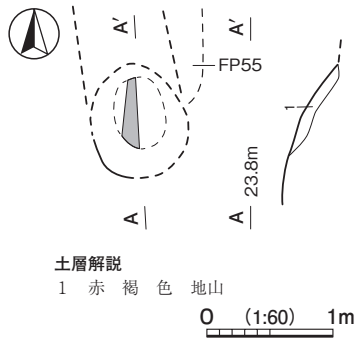
調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 55 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　遺存状態が悪いため，長径方向，規模は不明である。南部が燃焼部，北部が足場と推定できる。足場の傾斜は不明である。

燃焼部　南壁寄りに位置していると推定できる。遺存状態が悪いため，長径は 0.56 m，短径は 0.40 mの楕円形と推定できる。

覆土　遺存状態が悪いため，堆積状況は不明である。第１層は被熱を受けた地山である。



第 87 図　第 54 号炉穴実測図

第 55 号炉穴（第 88・89 図）

調査年度　平成 30 年度

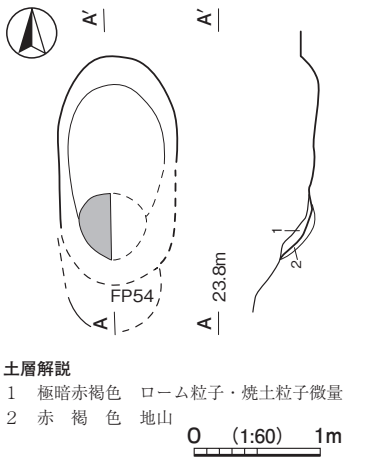
重複関係　第 54 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 54 号炉穴に掘り込まれているため，短径 0.92 m，長径は 1.81 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－０°の楕円形と推定できる。南部が燃焼部，北部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 47㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。径 0.50 mの円形と推定できる。

覆土　単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第２層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片７点（深鉢）が出土している。２は覆土中から出土している。１・３は表土からの流れ込みである。



第 88 図　第 55 号炉穴実測図

第 89 図　第 55 号炉穴出土遺物実測図

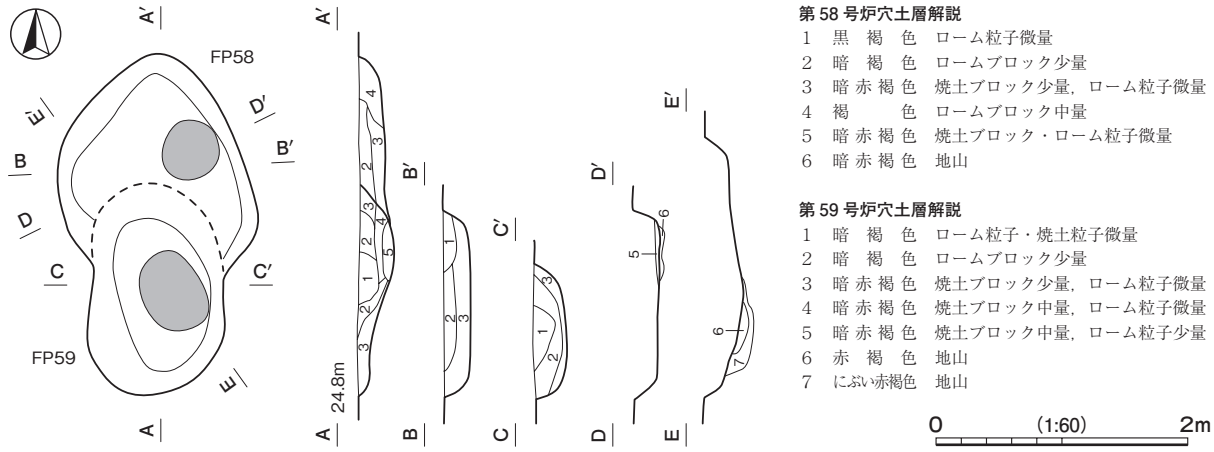
第 55 号炉穴出土遺物観察表（第 89 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(2.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部に竹管による刻み	覆土中	5％ 三戸式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面角棒状の工具による凹線	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(2.2)	－	長石・石英	灰褐	普通	横位の細沈線	覆土中	5％ 三戸式

所見　２基の炉穴は，土層の切り合いと遺構の状況から初めに第 55 号炉穴を，使用後に南側を掘り込んで第 54 号炉穴が作られている。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 58・59 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ４a6 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第 90 図　第 58・59 号炉穴実測図

第 58 号炉穴（第 90 図　PL18）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 59 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 59 号炉穴に掘り込まれているため，短径 0.90 m，長径は 1.02 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－４°－Ｗの楕円形と推定できる。北東部が燃焼部，南部が足場である。足場は，第 59 号炉穴に掘り込まれているため，燃焼部に向かった傾斜は不明である。壁は高さ 25cmで，外傾している。

燃焼部　北東壁寄りに位置している。長径 0.50 m，短径 0.46 mの円形である。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

第６層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片５点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが,茅山下層式と比定できる。

第 59 号炉穴（第 90 図　PL18）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 58 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　第 58 号炉穴と重複しているため，短径 1.04 m，長径は 1.68 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－０°の楕円形と推定できる。中央やや東寄りが燃焼部，足場は不明である。壁は高さ 30㎝で，外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　中央やや東寄りに位置している。長径 0.64 m，短径 0.46 mの楕円形である。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第６・７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片６点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが,茅山下層式と比定できる。

所見　２基の炉穴は，土層の切り合いから初めに第 58 号炉穴を，使用後に南側を掘り込んで第 59 号炉穴が作られている。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 62 ～ 64・68・70・71・80 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ３b6 ～Ｄ３b7 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。７基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

第 62 号炉穴（第 91 図　PL18）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 22 号竪穴建物跡を掘り込み，第 80 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.50 m，短径 0.66 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 60°－Ｅである。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 42㎝で，外傾している。

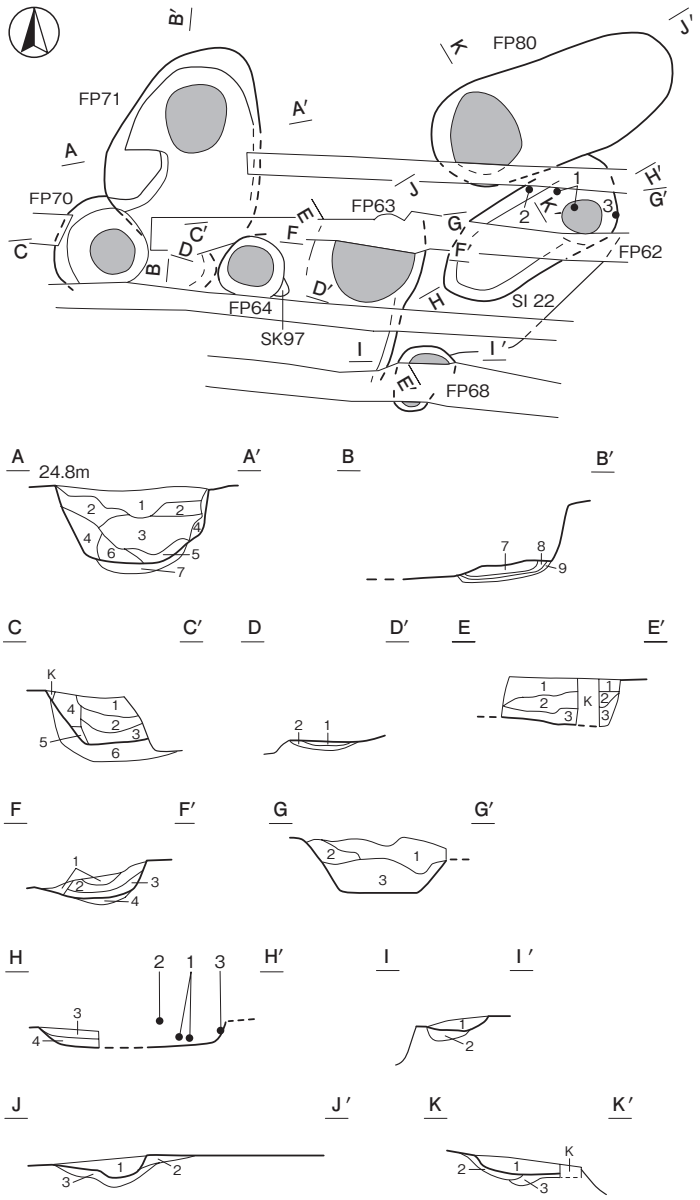
燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.34 m，短径 0.28 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片４点（深鉢）が出土している。１・３は覆土中層，２は覆土上層から出土している。４は表土からの流れ込みである。

第 62 号炉穴出土遺物観察表（第 91 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(13.2)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中層	５％　PL28 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	外面貝殻条痕文　内面貝殻条痕文	覆土上層	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英・繊維	明褐	普通	外面貝殻条痕文　内面棒状の工具による条痕	覆土中層	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	縦位の沈線後，棒状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 三戸式



第 62 号炉穴土層解説

1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第 63 号炉穴土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
4　赤　褐　色　地山

第 64 号炉穴土層解説

1　赤　褐　色　地山
2　暗 赤 褐 色　地山

第 68 号炉穴土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量
2　暗 赤 褐 色　地山

第 70 号炉穴土層解説

1　黄　褐　色　ロームブロック多量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　黄　褐　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
6　赤　褐　色　地山

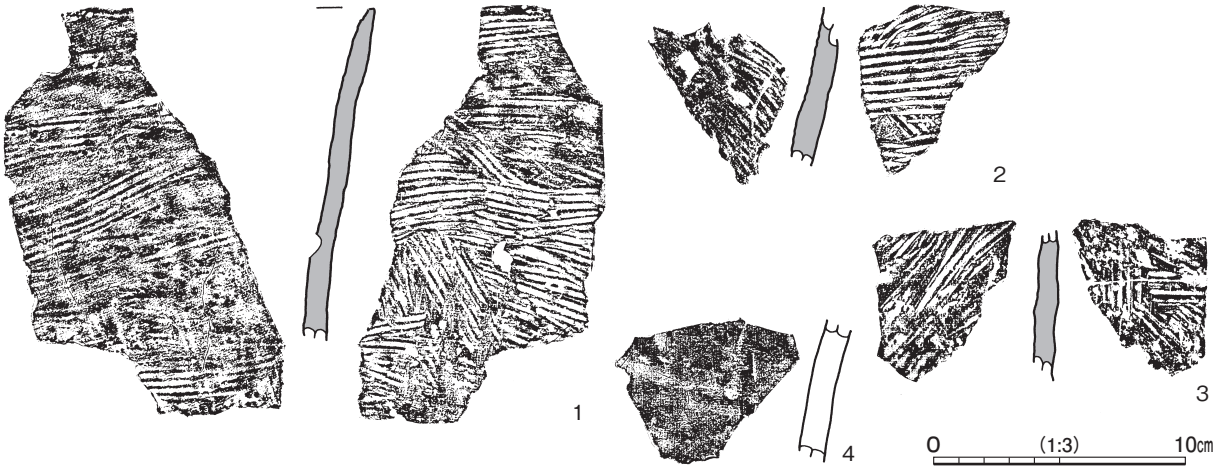
第 71 号炉穴土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　焼土ブロック・ローム粒子微量
6　褐　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック微量
7　赤　褐　色　地山
8　にぶい赤褐色　地山
9　暗 赤 褐 色　地山

第 80 号炉穴土層解説

1　にぶい黄褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　赤　褐　色　地山
3　暗 赤 褐 色　地山

0　(1:60)　2m



第 91 図　第 62 ～ 64・68・70・71・80 号炉穴・第 62 号炉穴出土遺物実測図

第 63 号炉穴（第 91・92 図　PL18）

調査年度　平成 30 年度

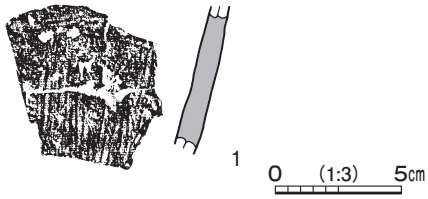
重複関係　第 22 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。第 64 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　撹乱を受けているため，規模は不明である。長径方向はＮ－ 20°－ Ｅの楕円形と推定できる。北部が燃焼部，南部が足場である。足場の傾斜は不明である。壁は高さ 42㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。撹乱を受けているため，短径 0.42 m，長径は 0.64 m しか確認できなかった。楕円形と推定できる。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第４層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 14 点（深鉢）が出土している。１は覆土中から出土している。



第 92 図　第 63 号炉穴出土遺物実測図

第 63 号炉穴出土遺物観察表（第 92 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式

第 64 号炉穴（第 91・93 図　PL19）

調査年度　平成 30 年度

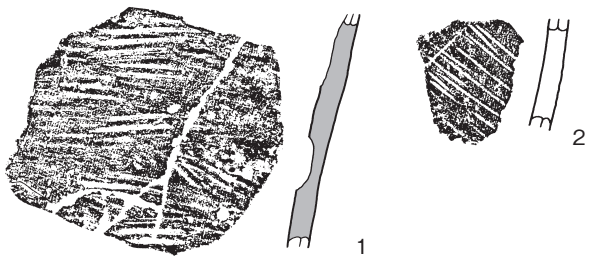
重複関係　第 22 号竪穴建物跡, 第 97 号土坑を掘り込んでいる。第 63･70･71 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　複数の炉穴と重複や撹乱を受けているため, 長径は 0.78 m, 短径は 0.45 m しか確認できなかった。規模，長径方向は不明である。西部が燃焼部，東部が足場と推定できる。遺存状態が悪いため，燃焼部までの傾斜と壁の高さは不明である。

燃焼部　長径方向の西壁寄りに位置している。長径 0.38 m，短径 0.32 m の楕円形である。

覆土　遺存状態が悪いため，堆積状況は不明である。第１・２層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片３点（深鉢）が出土している。１は覆土中から出土している。２は表土からの流れ込みである。



第 93 図　第 64 号炉穴出土遺物実測図

第 64 号炉穴出土遺物観察表（第 93 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(9.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	棒状の工具による細沈線	覆土中	５％ 三戸式

第 68 号炉穴（第 91 図　PL19）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 22 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　撹乱を受けているため，規模，長径方向，足場の位置は不明である。壁は高さ 16㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　撹乱を受けているため，長径 0.54 m，短径 0.40 mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。

覆土　単一層である。覆土の残りがわずかであり，堆積状況は不明である。第２層は被熱を受けた地山である。

第 70 号炉穴（第 91 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 71 号炉穴に掘り込まれている。第 64 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　第 64・71 号炉穴と重複や撹乱を受けているため，長径は 1.38 mで，短径は 0.75 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 75°－ Ｗの楕円形と推定できる。西部が燃焼部，東部が足場である。第 71 号炉穴に掘り込まれているため，足場から燃焼部に向かった傾斜は不明である。壁は高さ 36㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の西壁寄りに位置している。径 0.36 mの円形である。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第６層は被熱を受けた地山である。

第 71 号炉穴（第 91 図　PL19）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 70 号炉穴を掘り込んでいる。第 64 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　北側のみ残存しているため，長径は 1.56 m，短径は 1.24 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 25°－ Ｅの楕円形と推定できる。北部が燃焼部，南部は足場と推定できる。足場は，燃焼部より低くなっている。壁は高さ 60㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.56 m，短径 0.48 mの楕円形である。

覆土　６層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第７～９層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片４点（深鉢）が出土している。細片のため図示できないが，茅山下層式の土器に比定できる。

第 80 号炉穴（第 91 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 22 号竪穴建物跡，第 62 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 2.00 m，短径 0.84 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 65°－ Ｅである。南西部が燃焼部，北東部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 10㎝で，緩やかに立ち上がっている。

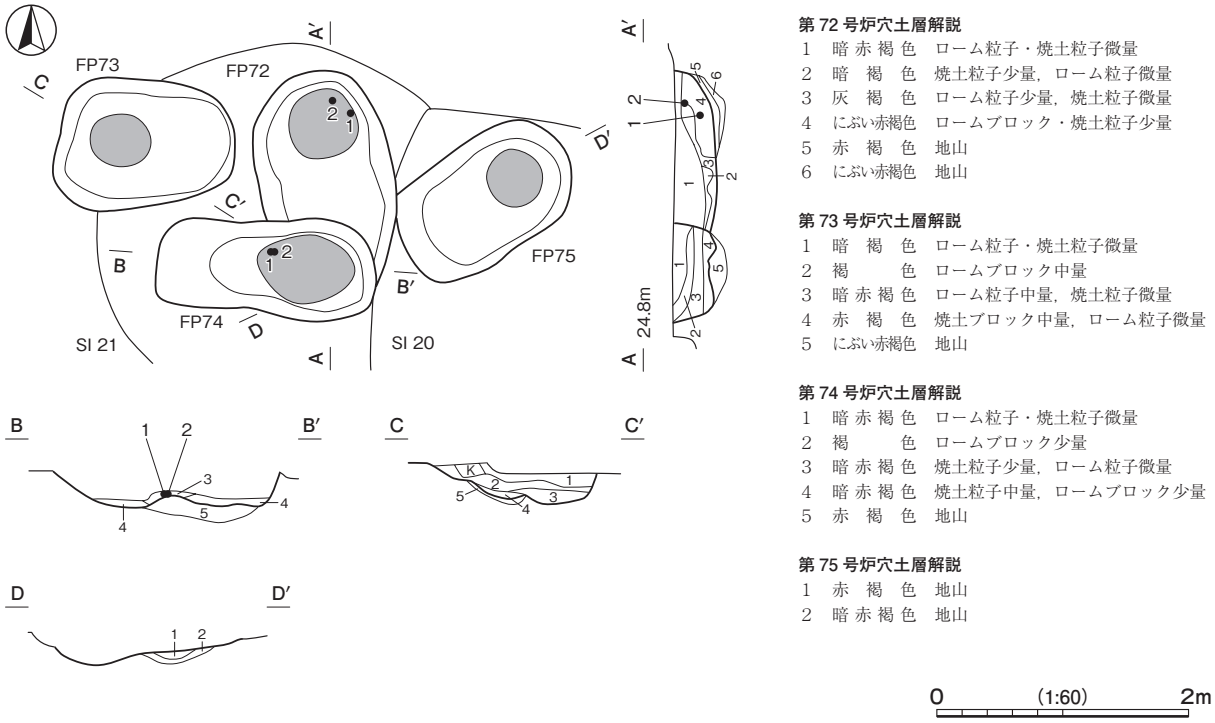
燃焼部　長径方向の南西壁寄りに位置している。長径 0.66 m，短径 0.54 mの楕円形と推定できる。

覆土　単一層である。ローム粒子が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第２・３層は被熱を受けた地山である。

所見　７基の炉穴は，土層の切り合いと遺構の状況から２つ以上の構築順が想定できる。ひとつは，初めに第 62 号炉穴を，使用後に北側を掘り込んで第 80 号炉穴が作られている。もうひとつは，初めに第 70 号炉穴を，使用後に北側を掘り込んで第 71 号炉穴が作られている。第 63・64・68 号炉穴は他の４基との新旧関係が不明であり，構築順を想定することができない。時期は，遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第 72 ～ 75 号炉穴

位置　調査区中央部のＣ４j7 ～Ｄ４a7 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。４基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第 94 図　第 72 ～ 75 号炉穴実測図

第 72 号炉穴（第 94・95 図　PL19）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 20・21 号竪穴建物，第 74 号炉穴に掘り込まれている。第 75 号炉穴とも重複しているが，新旧関係は不明である。

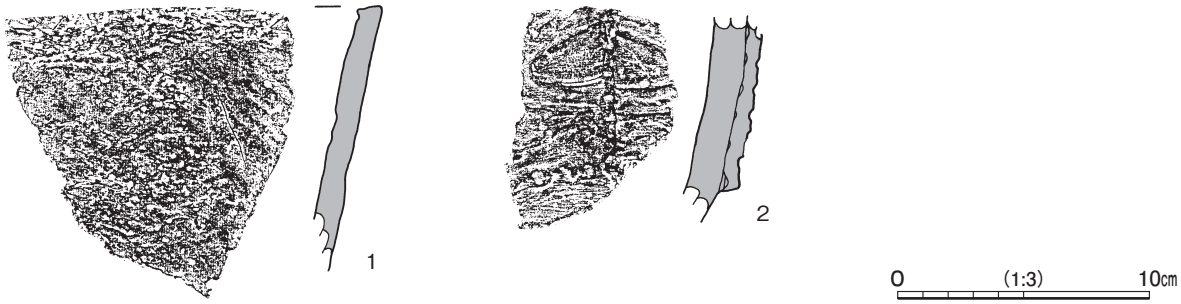
規模と形状　第 20・21 号竪穴建物，第 74 号炉穴に掘り込まれているため，短径 1.08 m，長径は 1.20 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－９°－Ｗの楕円形と推定できる。北部が燃焼部，南部が足場である。足場

は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 32㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.56 m，短径 0.52 mの円形である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第５・６層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢）が出土している。１は燃焼部の覆土下層，２は覆土中層から出土している。



第 95 図　第 72 号炉穴出土遺物実測図

第 72 号炉穴出土遺物観察表（第 95 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(10.6)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	口唇部に細い刻み	覆土下層	５％　PL29 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(8.1)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	隆帯に竹管による刻み　区画内に微隆起線文	覆土中層	５％　PL29 茅山下層式

第 73 号炉穴（第 94 図　PL19）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 21 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.42 m，短径 1.02 mの楕円形で，長径方向はN － 88° － W である。西部が燃焼部，東部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 28㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　中央からやや西壁寄りに位置している。長径 0.50 m，短径 0.40 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第５層は被熱を受けた地山である。

第 74 号炉穴（第 94・96 図　PL19）

調査年度　平成 30 年度

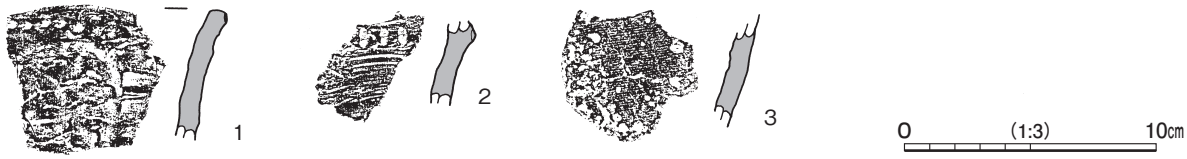
重複関係　第 72 号炉穴を掘り込み，第 21 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.75 m，短径 0.84 mの楕円形で，長径方向はN － 87° － W である。東部が燃焼部，西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 32㎝で，外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.80 m，短径 0.56 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 36 点（深鉢）が出土している。１・２は燃焼部，３は覆土中から出土している。



第 96 図　第 74 号炉穴出土遺物実測図

第 74 号炉穴出土遺物観察表（第 96 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	口縁部に刺突　外面棒状の工具による凹線	燃焼部	５％　PL28 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	隆帯に竹管による刻み　外面貝殻条痕文	燃焼部	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢		(4.5)		長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面ナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式

第 75 号炉穴（第 94 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 20 号竪穴建物に掘り込まれている。第 72 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 1.48 m，短径 0.89 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 54°－ Ｅである。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 21cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北東壁寄りに位置している。長径 0.46 m，短径 0.44 mの円形である。

覆土　覆土の残りがわずかであり，堆積状況は不明である。第１・２層は被熱を受けた地山である。

所見　４基の炉穴は，初めに第 72 号炉穴を，使用後に南側を掘り込んで第 74 号炉穴が作られている。第 73・75 号炉穴は他の２基との新旧関係が不明であり，構築順を想定することができない。時期は，遺構の形状と出土土器から早期後葉である。

第 76・77 号炉穴

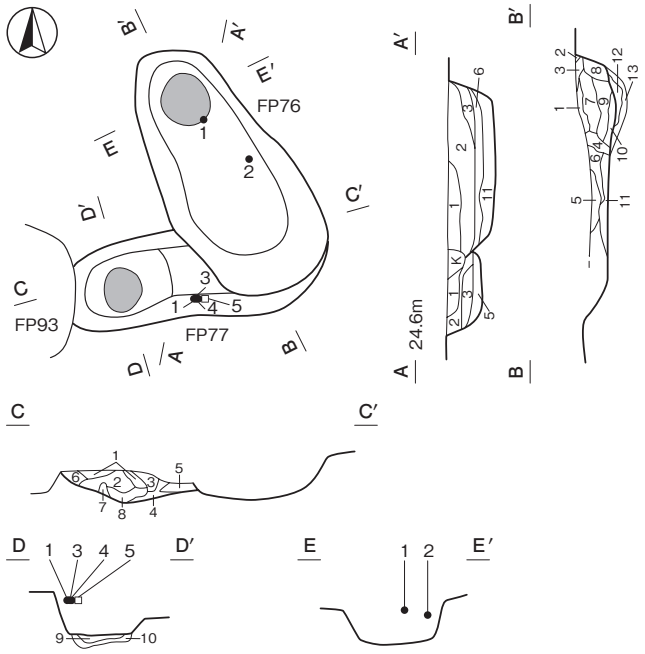
位置　調査区中央部のＤ４b0 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

第 76 号炉穴（第 97・98 図）

調査年度　平成 30 年度

重複関係　第 77 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 2.12 m，短径 1.12 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 27°－ Ｗである。北西部が燃焼部，南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 35cmで，外傾している。



第 76 号炉穴土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ロームブロック少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子少量
4　暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
7　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
8　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
9　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
10　にぶい赤褐色　ローム粒子中量
11　暗　褐　色　ロームブロック少量
12　赤　褐　色　地山
13　にぶい赤褐色　地山

第 77 号炉穴土層解説

1　褐　　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　黒　褐　色　焼土粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブ粒子少量
8　赤　褐　色　焼土ブロック中量
9　赤　褐　色　地山
10　にぶい赤褐色　地山

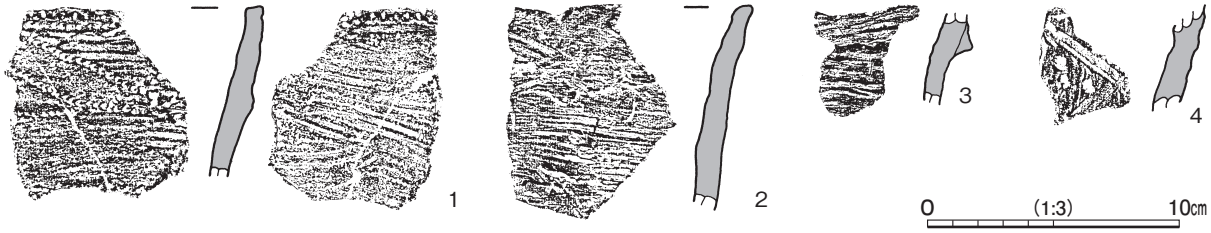
0　(1:60)　2m

第 97 図　第 76・77 号炉穴実測図

燃焼部　長径方向の北西壁寄りに位置している。長径 0.44 m，短径 0.38 mの楕円形である。

覆土　11 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第 12・13 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 28 点（深鉢）が出土している。1・2 は覆土上層，3・4 は覆土中から出土している。



第 98 図　第 76 号炉穴実測図

第 76 号炉穴出土遺物観察表（第 98 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.7)	－	長石・石英・繊維	褐灰	普通	円形の細竹管によるモチーフを描く　内削ぎ状口唇	覆土上層	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(8.2)	－	長石・石英・繊維	灰	普通	口唇部に細い刻み　竹管による押引き	覆土上層	5％　PL29 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・繊維	褐灰	普通	横位の隆帯　外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5％　PL29 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	外面角棒状の工具による凹線・刺突	覆土中	5％ 茅山下層式

第 77 号炉穴（第 97・99 図）

調査年度　平成 30 年度

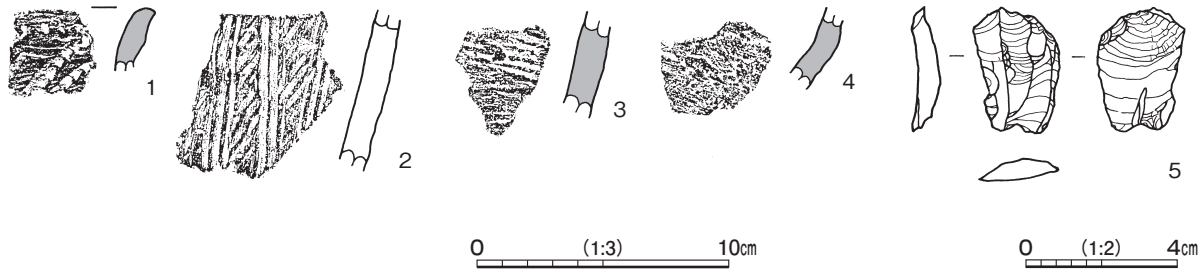
重複関係　第 76・93 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第76・93号炉穴に掘り込まれているため，短径0.67 m，長径は2.12 mしか確認できなかった。長径方向がN－81°－Eの楕円形と推定できる。西部が燃焼部，東部が足場である。足場は燃焼部より浅いが，第76号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推測でき，燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ28㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の西壁寄りに位置している。長径0.34 m，短径0.30 mの楕円形である。

覆土　８層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第９・10層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片19点（深鉢），剥片１点が出土している。１・３～５は覆土上層から出土している。２は埋め戻しの混入である。



第99図　第77号炉穴出土遺物実測図

第77号炉穴出土遺物観察表（第99図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(2.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刻み　丸棒状の工具による押引き	覆土上層	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	長石・石英	橙	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土中	５％ 三戸式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土上層	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・繊維	赤褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土上層	５％ 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
5	剥片	3.3	2.3	0.8	4.47	チャート	石鏃未製品カ	覆土上層	

所見　２基の炉穴は，土層の切り合いから初めに第77号炉穴を，使用後に北西側を掘り込んで第76号炉穴が作られている。時期は，出土土器から早期後葉である。

第83・85号炉穴

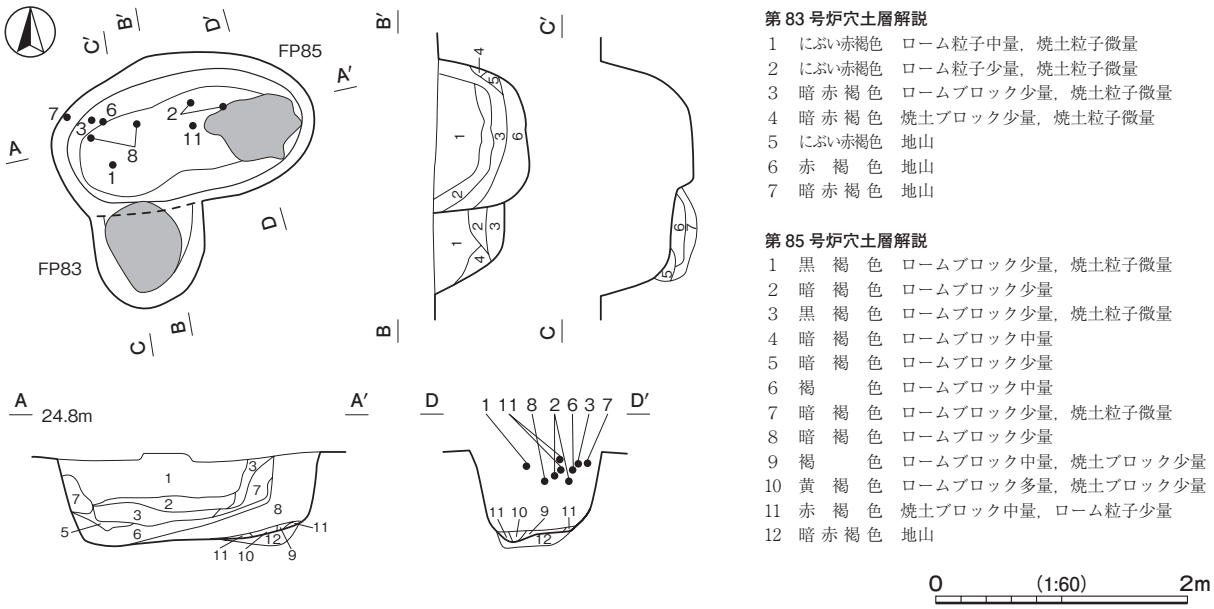
位置　調査区中央部のＣ３h8区，標高24 mほどの台地平坦部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。

第83号炉穴（第100・101図　PL19）

調査年度　平成30年度

重複関係　第85号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第85号炉穴に掘り込まれているため，短径0.86 m，長径は0.84 mしか確認できなかった。長径



第100図　第83・85号炉穴実測図

方向がN－7°－Wの楕円形と推定できる。南部が燃焼部，北部が足場である。足場は燃焼部より深いが，第85号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推測され，燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ60㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。長径0.72ｍ，短径0.56ｍの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第５～７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片48点（深鉢）が出土している。１～３・５は覆土中から出土している。４は埋め戻しの混入である。

第101図　第83号炉穴出土遺物実測図

第83号炉穴出土遺物観察表（第101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	無文	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	口縁部に角棒状の工具による凹線ヵ	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％　PL29 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・雲母	黄褐	普通	竹管による条痕	覆土中	５％ 浮島式
5	縄文土器	深鉢	－	(2.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	隆帯に竹管による刻み　内面貝殻条痕文	覆土中	５％　PL29 茅山下層式

第 85 号炉穴（第 100・102 図　PL19）

調査年度　平成 30 年度

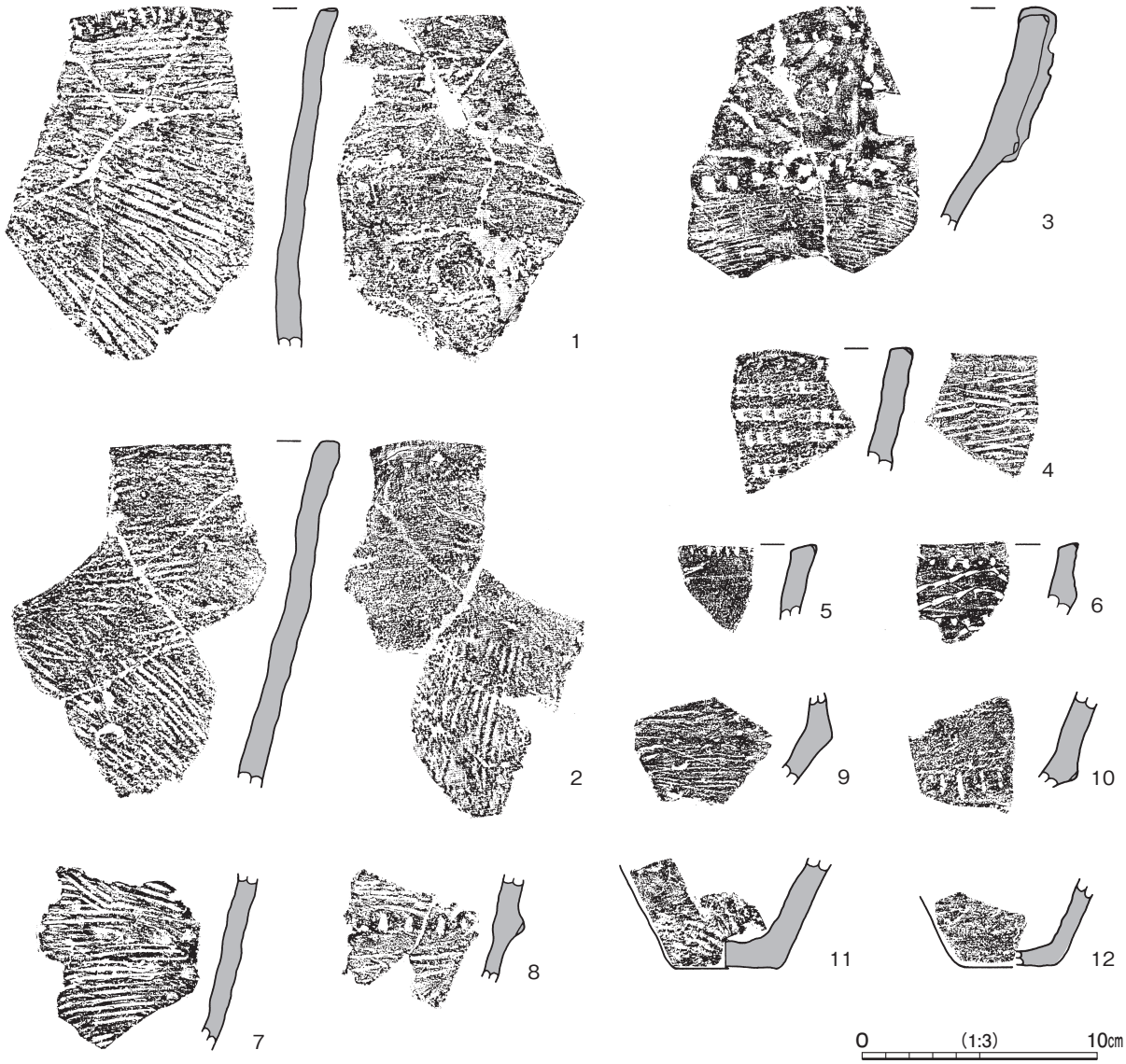
重複関係　第 83 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 2.10 m，短径 1.18 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 80°－ Ｅである。東部が燃焼部，西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 74㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.76 m，短径 0.48 mの不定形である。

覆土　11 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第 12 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 132 点（深鉢）が出土している。２・８は覆土中層，１・３・６・７・11 は覆土上層，４・５・９・10・12 は覆土中から出土している。



第 102 図　第 85 号炉穴出土遺物実測図

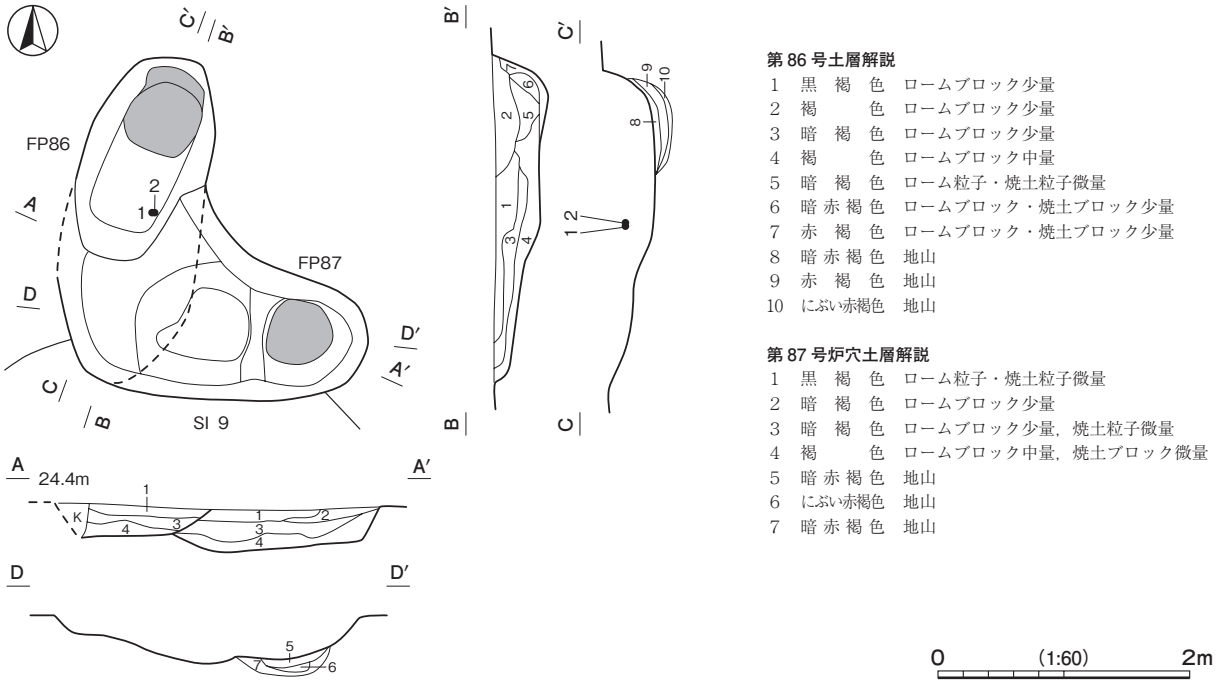
第 85 号炉穴出土遺物観察表（第 102 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(14.4)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	口唇部に細い刻み　外面貝殻条痕文	覆土上層	５％　PL29 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(14.8)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中層	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(9.5)	－	長石・石英・礫・繊維	にぶい橙	普通	隆帯に竹管による刻み　外面貝殻条痕文	覆土上層	５％　PL29 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	口唇部に竹管による刻み　外面角棒状の工具による押引き　内面棒状の工具による条痕ヵ	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	隆帯に竹管による刻み　棒状の工具による条痕ヵ	覆土中	５％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刻み　口縁部に山形状に押引き	覆土上層	５％ 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(7.6)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土上層	５％ 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に細い刻み　外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中層	５％ 茅山下層式
9	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土中	５％ 茅山下層式
10	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	隆帯に竹管による刻み	覆土中	５％ 茅山下層式
11	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	4.4	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土上層	５％　PL33 茅山下層式
12	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	[4.0]	長石・石英・繊維	褐	普通	内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式

所見　２基の炉穴は，土層の切り合いから初めに第 83 号炉穴を，使用後に北側を掘り込んで第 85 号炉穴が作られている。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 86・87 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ５b1 ～Ｄ５c1 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。２基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第 86 号土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック少量
7　赤　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量
8　暗 赤 褐 色　地山
9　赤　褐　色　地山
10　にぶい赤褐色　地山

第 87 号炉穴土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック微量
5　暗 赤 褐 色　地山
6　にぶい赤褐色　地山
7　暗 赤 褐 色　地山

第 103 図　第 86・87 号炉穴実測図

第 86 号炉穴（第 103・104 図　PL20）

調査年度　平成 30 年度

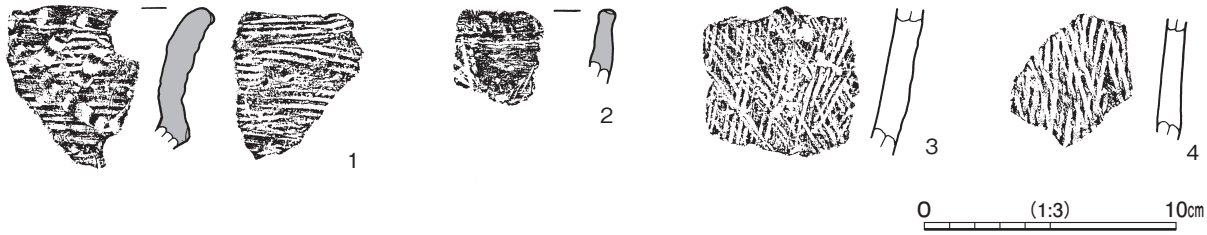
重複関係　第９号竪穴建物跡，第 87 号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 2.65 m，短径 1.02 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 17°－ Ｅである。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 40cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.70 m，短径 0.57 mの不整楕円形である。

覆土　７層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第８～ 10 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 15 点（深鉢）が出土している。１・２は覆土中層から出土している。３・４は，埋め戻しの混入である。



第 104 図　第 86 号炉穴出土遺物実測図

第 86 号炉穴出土遺物観察表（第 104 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	明褐	普通	外面角棒状の工具による押引き 内面は口唇部まで貝殻条痕文を施す	覆土中層	５％　PL29 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(2.9)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	口唇部に細い刻み	覆土中層	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子・褐色スコリア	明赤褐	普通	格子目状の細沈線	覆土中	５％ 三戸式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	縦・斜位の沈線	覆土中	５％ 三戸式

第 87 号炉穴（第 103・105 図）

調査年度　平成 30 年度

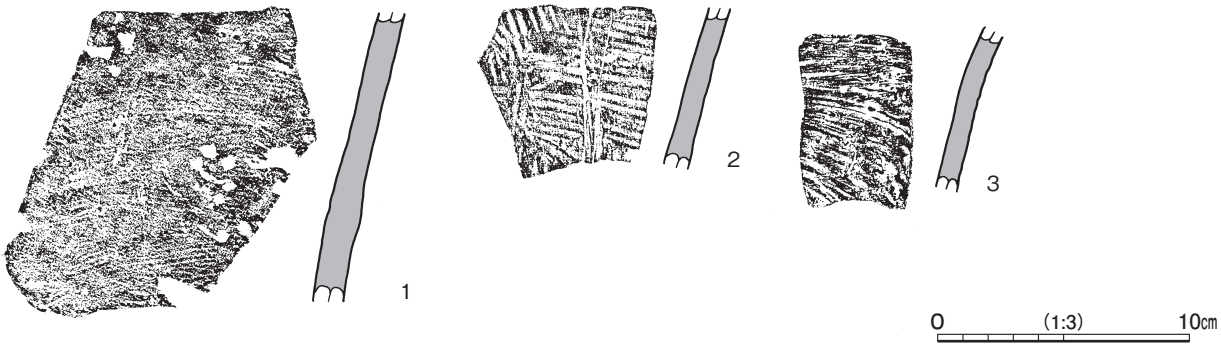
重複関係　第９号竪穴建物跡を掘り込み，第 86 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　第 86 号炉穴に掘り込まれているため，短径 1.35 m，長径は 1.85 mしか確認できなかった。長径方向がＮ－ 80°－Ｗの楕円形と推定できる。東部が燃焼部，西部が足場である。足場は第 86 号炉穴に掘り込まれているが，燃焼部に向かって緩やかに傾斜していると考えられる。壁は高さ 35cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.56 m，短径 0.50 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第５～７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 11 点（深鉢）が出土している。１～３は覆土中から出土している。



第 105 図　第 87 号炉穴出土遺物実測図

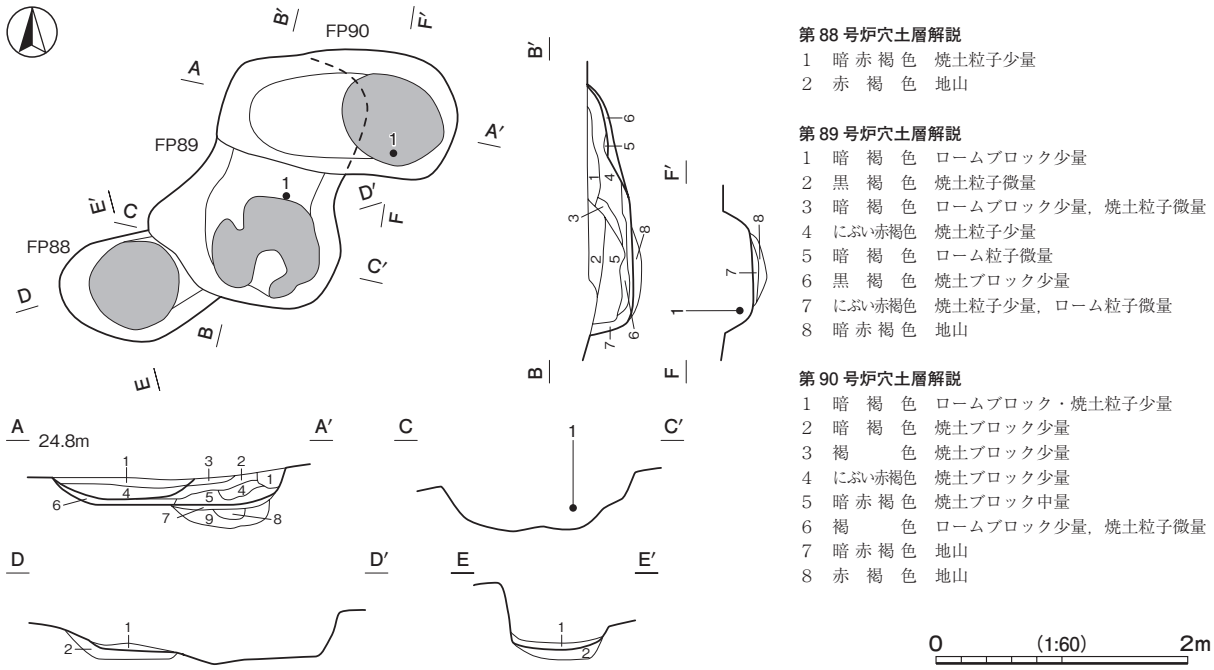
第 87 号炉穴出土遺物観察表（第 105 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(11.5)	－	長石･石英･雲母･礫・細礫・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL30 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5％ 茅山下層式

所見　２基の炉穴は，土層の切り合いから初めに第 87 号炉穴を，使用後に北側を掘り込んで第 86 号炉穴が作られている。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 88 ～ 90 号炉穴

位置　調査区中央部のＤ４c6 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。３基を１つのまとまりとして捉えて記述する。



第 88 号炉穴土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量
2　赤　褐　色　地山

第 89 号炉穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　にぶい赤褐色　焼土粒子少量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量
6　黒　褐　色　焼土ブロック少量
7　にぶい赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
8　暗 赤 褐 色　地山

第 90 号炉穴土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量
2　暗　褐　色　焼土ブロック少量
3　褐　　色　焼土ブロック少量
4　にぶい赤褐色　焼土ブロック少量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量
6　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
7　暗 赤 褐 色　地山
8　赤　褐　色　地山

第 106 図　第 88 ～ 90 号炉穴実測図

第 88 号炉穴（第 106・107 図　PL20）

調査年度　平成 30 年度

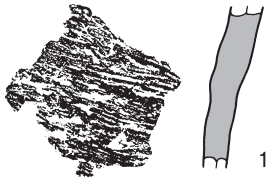
重複関係　第 89 号炉穴と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状　第 89 号炉穴と重複しているため，短径 0.88 m，長径は 0.95 mしか確認できなかった。長径方向はN － 63° － E の楕円形と推定できる。南西部が燃焼部，北東部が足場である。第 89 号炉穴と併せて足場を作り替えられたと推定でき，燃焼部までの傾斜は不明である。壁は高さ 54㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南西壁寄りに位置している。長径0.72 m，短径 0.70 mの円形である。

覆土　単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第２層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢）が出土している。１は覆土中から出土している。



第 107 図　第 88 号炉穴出土遺物実測図

第 88 号炉穴出土遺物観察表（第 107 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	内面棒状の工具による条痕・貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式

第 89 号炉穴（第 106・108 図）

調査年度　平成 30 年度

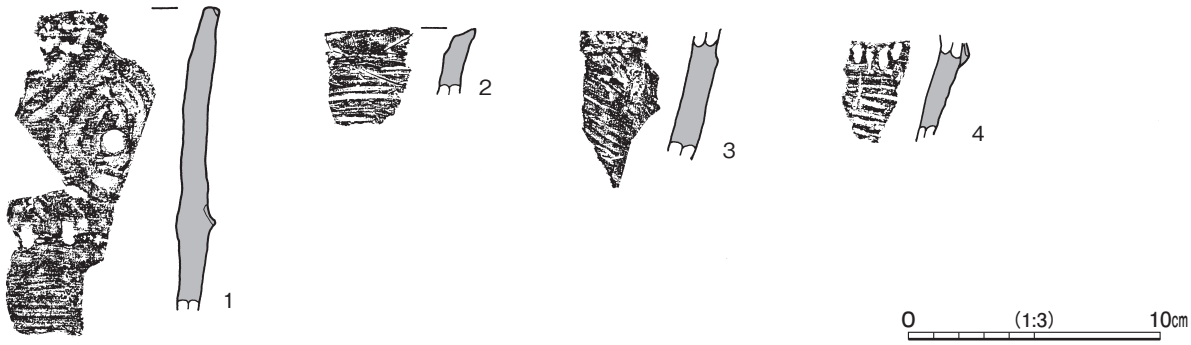
重複関係　第 90 号炉穴を掘り込んでいる。第 88 号炉穴との新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 2.02 m，短径 1.20 mの不整楕円形で，長径方向はN － 18° － E である。南部が燃焼部，北部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 45㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。長径 0.90 m，短径 0.86 mの不定形である。

覆土　７層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第８層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 17 点（深鉢）が出土している。１は覆土下層，２～４は覆土中から出土している。



第 108 図　第 89 号炉穴出土遺物実測図

第 89 号炉穴出土遺物観察表（第 108 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(12.0)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口縁部に指頭による凹線で円文・刺突を施す	覆土下層	5％　PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	外面棒状の工具による条痕，内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・繊維	褐灰	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刻み　外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	5％ 茅山下層式

第 90 号炉穴（第 106・109 図　PL20）

調査年度　平成 30 年度

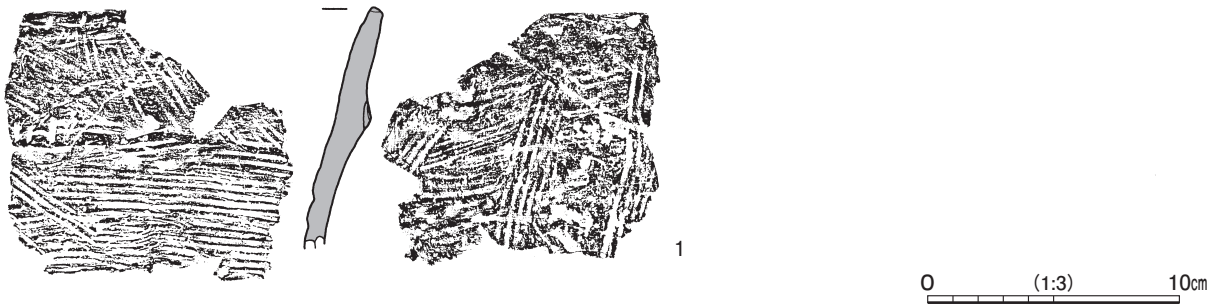
重複関係　第 89 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.86 m，短径 0.98 mの楕円形で，長径方向はN － 85° － W である。東部が燃焼部，西部が足場である。足場は第 89 号炉穴と重複しているが，燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 24㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.90 m，短径 0.66 mの楕円形である。

覆土　6 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第 7 ・ 8 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 1 点（深鉢）が覆土下層から出土している。



第 109 図　第 90 号炉穴出土遺物実測図

第 90 号炉穴出土遺物観察表（第 109 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(9.6)	－	長石・石英・雲母・繊維	にぶい褐	普通	条痕によるモチーフを描く	覆土下層	5％ 茅山下層式

所見　3 基の炉穴は，土層の切り合いと遺構の状況から初めに第 90 号炉穴を，使用後に南側を掘り込んで第 89 号炉穴が作られている。第 88 号炉穴は，新旧関係が不明であり，構築順を想定することができない。時期は，出土土器から早期後葉である。

第 4 号炉穴（第 110 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ 4 d9 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第39号土坑に掘り込まれている。

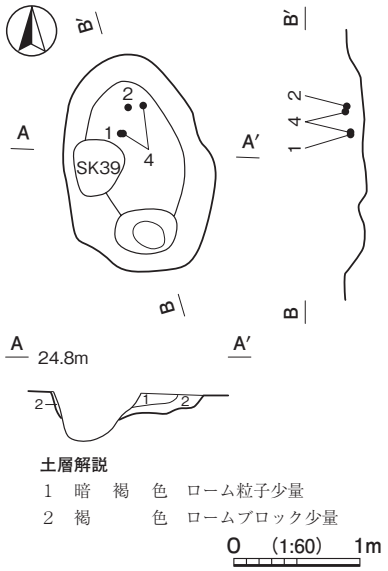
規模と形状　長径1.73 m，短径1.15 mの楕円形で，長径方向はN－17°－Wである。南部が燃焼部，北部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ18㎝で，緩やかに立ち上がっている。

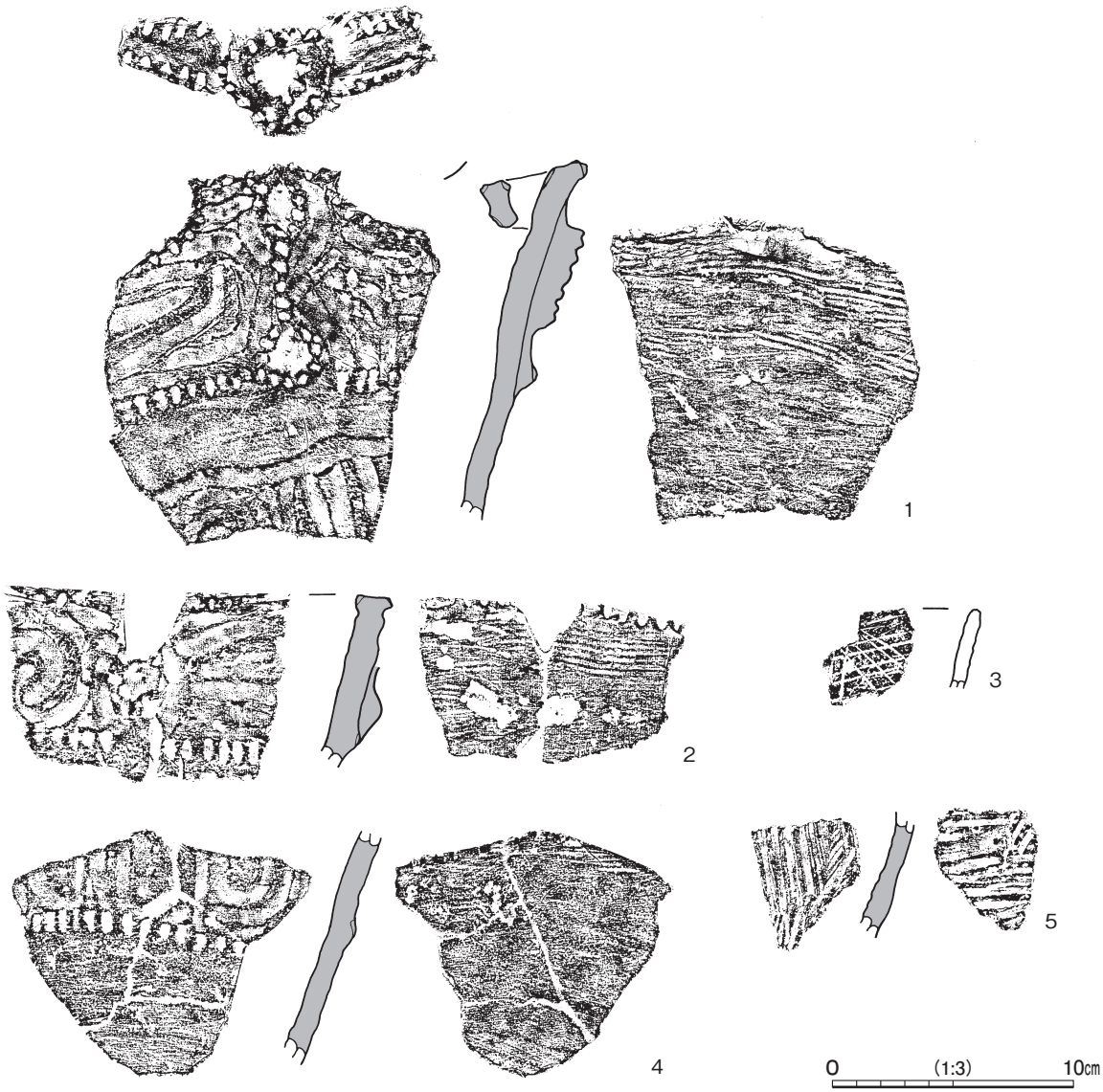
燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。長径0.46 m，短径0.35 mの楕円形である。赤変硬化は確認できなかった。

覆土　２層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片９点（深鉢）が出土している。１・２・４は北部の覆土上層，５は覆土中から出土している。３は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。





第110図　第４号炉穴・出土遺物実測図

第４号炉穴出土遺物観察表（第 110 図）

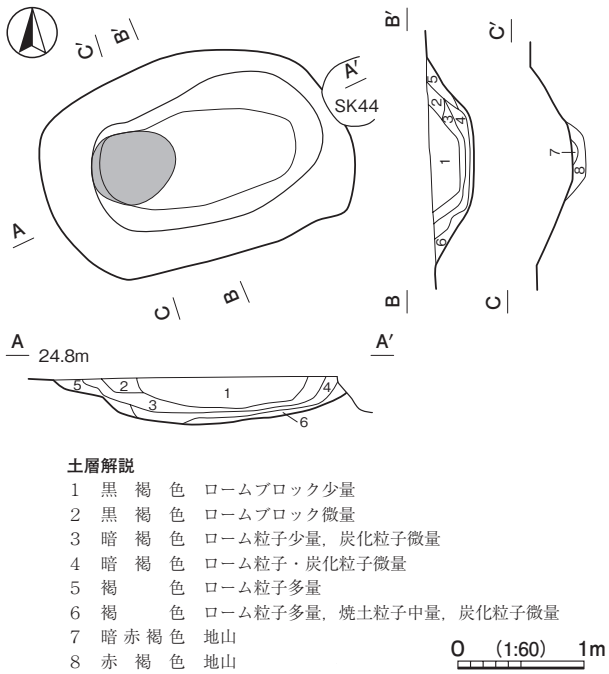
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(15.0)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	褐	普通	隆帯に棒状の工具による刻み　区画内を蛇行状の沈線	覆土上層	５％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(7.1)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部両端に刻み　指頭による凹線	覆土上層	５％　PL26 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英	灰褐	普通	棒状の工具による横・斜位の細沈線	覆土中	５％ 三戸式
4	縄文土器	深鉢	－	(9.8)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	隆帯に丸棒状の工具による刻み　内面に板状の工具によるナデ調整	覆土上層	５％　PL26 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式

第５号炉穴（第 111 図　PL20）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４d3 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 44 号土坑に掘り込まれている。



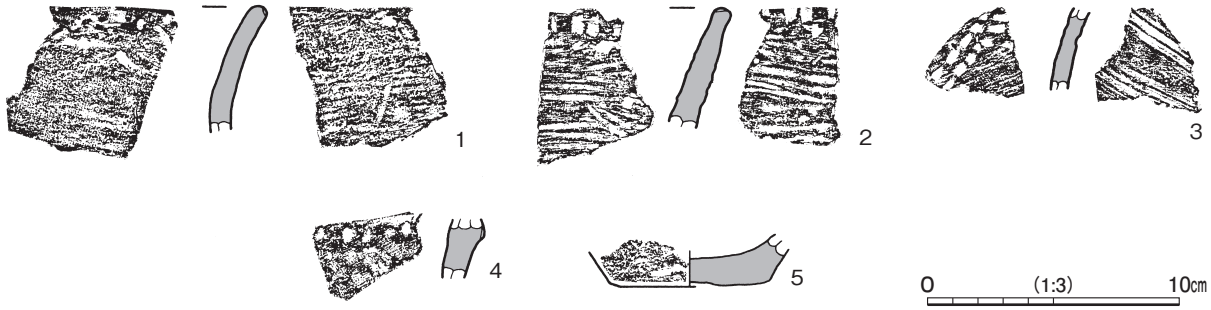
規模と形状　長径 2.42 m，短径 1.65 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 74°－Ｅである。西部が燃焼部，東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 32㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の西壁寄りに位置している。長径 0.68 m，短径 0.56 mの楕円形である。

覆土　６層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第７・８層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 38 点（深鉢）が出土している。１～５は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 111 図　第５号炉穴・出土遺物実測図

第５号炉穴出土遺物観察表（第 111 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に丸棒状の工具による刻み	覆土中	５％　PL26 茅山下層式

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
2	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	口唇部に竹管による刻み　外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	灰褐	普通	山形状に連続刺突	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(2.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	隆帯に丸棒状の工具による刻み	覆土中	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(2.0)	[5.6]	長石・石英・繊維	明黄褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5％　PL33 茅山下層式

第７号炉穴（第 112 図　PL20）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４d9 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

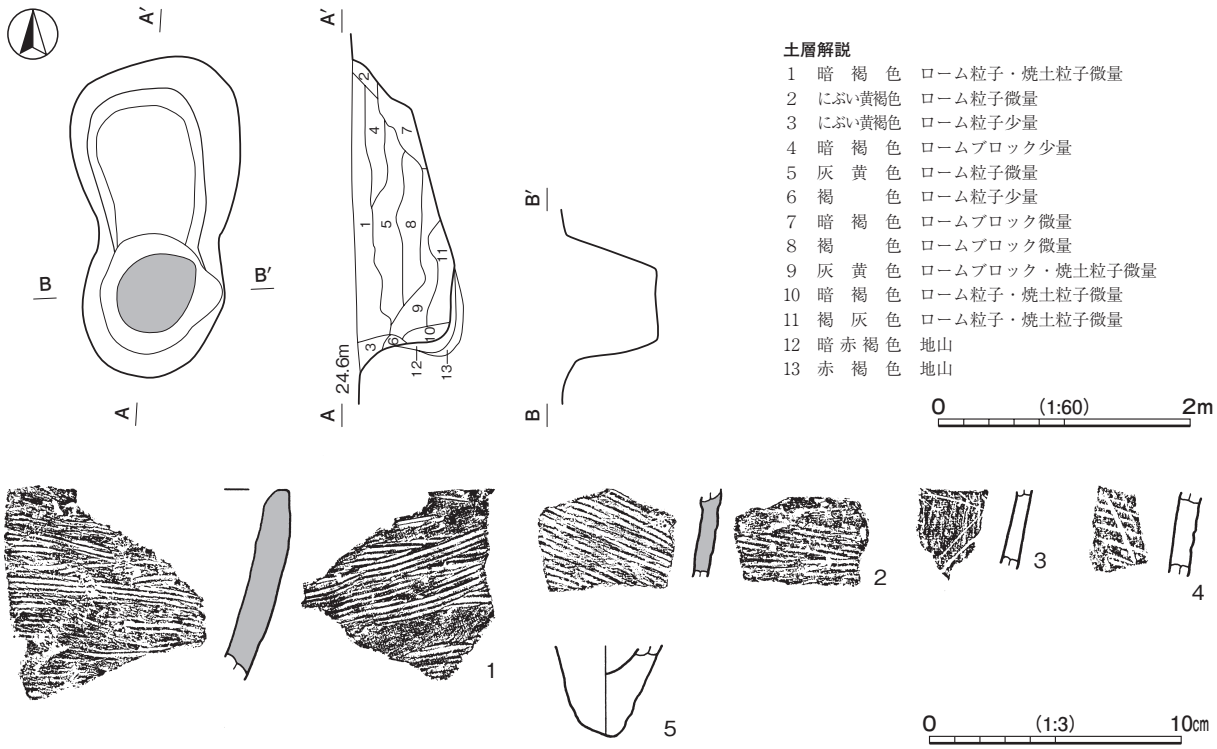
規模と形状　長径 2.52 m，短径 1.34 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－２°－Ｗである。南部が燃焼部，北部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 80㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。長径 0.74 m，短径 0.54 mの楕円形である。

覆土　11 層に分層できる。ロームブロックなどを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第 12・13 層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 35 点（深鉢）が出土している。１・２・５は覆土中から出土している。３・４は埋め戻しの混入である。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

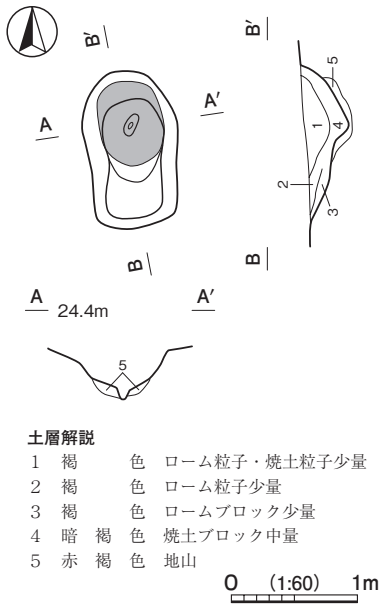


第 112 図　第７号炉穴・出土遺物実測図

第７号炉穴出土遺物観察表（第 112 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(7.6)	－	長石・石英・繊維	黒褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・石英	橙	普通	棒状の工具による細沈線	覆土中	５％ 三戸式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	棒状の工具による細沈線	覆土中	５％ 三戸式
5	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整　尖底土器	覆土中	５％ 縄文早期

第 16 号炉穴（第 113 図　PL20）



調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４g2 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 1.25 m，短径 0.74 mの楕円形で，長径方向はＮ－６°－Ｗである。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 40㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.72 m，短径 0.52 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片４点（深鉢）が出土している。１～３は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

第 113 図　第 16 号炉穴・出土遺物実測図

第 16 号炉穴出土遺物観察表（第 113 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	外面角棒状の工具によるナデ調整　補修孔１か所	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文・角棒状の工具によるナデ調整 内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式

第 18 号炉穴（第 114 図　PL20）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４g8 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

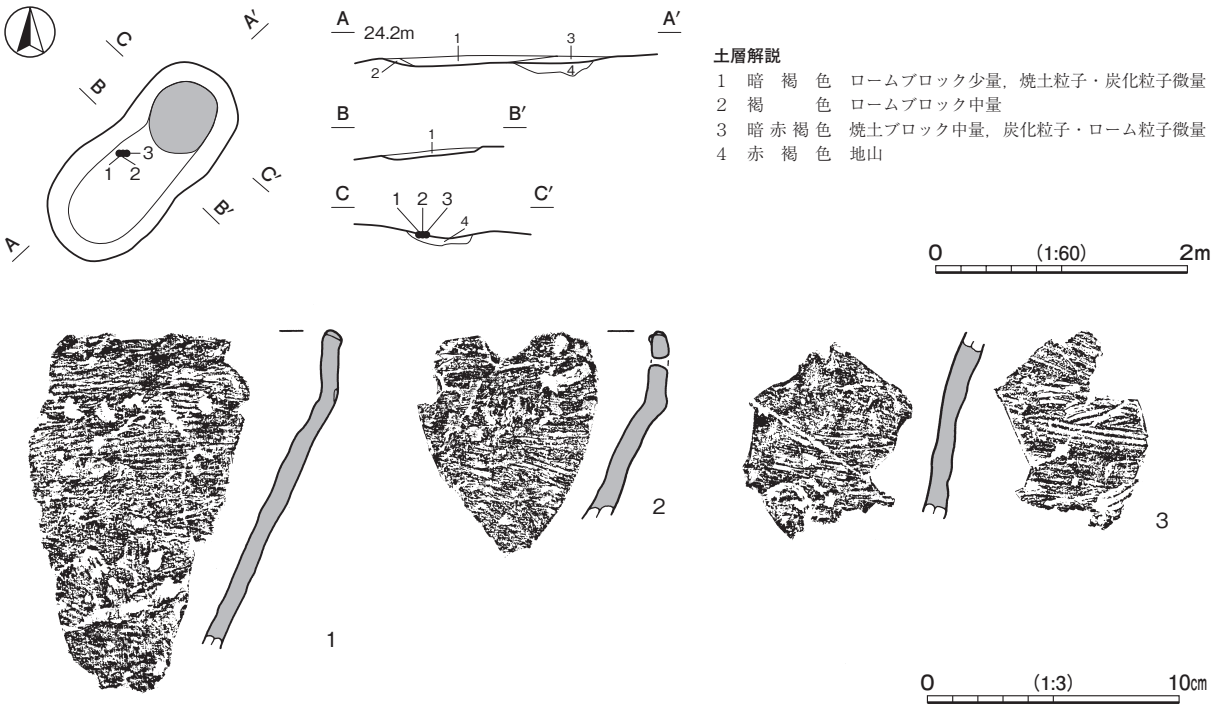
規模と形状　長径 1.83 m，短径 0.78 mの楕円形で，長径方向はN － 42° － E である。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ９㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北東壁寄りに位置している。長径 0.62 m，短径 0.50 mの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第４層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片６点（深鉢）が出土している。１～３は覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 114 図　第 18 号炉穴・出土遺物実測図

第 18 号炉穴出土遺物観察表（第 114 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(12.6)	－	長石･石英･雲母･赤色粒子・繊維	褐	普通	口唇部に斜位の刻み　口縁直下の屈曲部に刺突を施す	覆土下層	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	口唇部に丸棒状の工具による刻み　外面貝殻条痕文	覆土下層	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(7.4)	－	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	５％ 茅山下層式

第 22 号炉穴（第 115 図　PL20）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５f3 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 15 号竪穴建物に掘り込まれている。

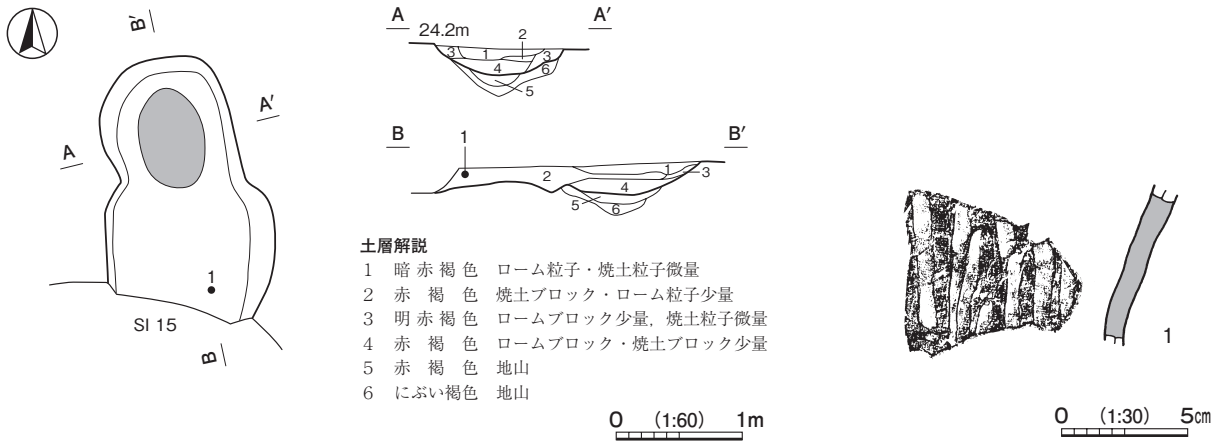
規模と形状　第 15 号竪穴建物に掘り込まれているため，短径 0.98 m，長径は 2.06 mしか確認できなかった。長径方向はN － 12° － W の不整楕円形と推定できる。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 22㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.80 m，短径 0.54 mの楕円形である。

覆土　４層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第５・６層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片３点（深鉢）が出土している。１は覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

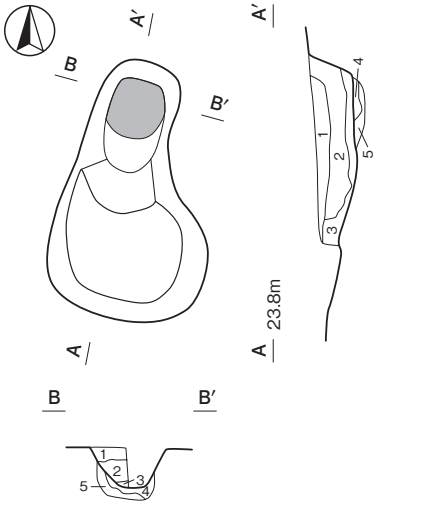


第 115 図　第 22 号炉穴・出土遺物実測図

第 22 号炉穴出土遺物観察表（第 115 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	指頭による凹線	覆土上層	５％ 茅山下層式

第 23 号炉穴（第 116・117 図　PL21）



第 116 図　第 23 号炉穴実測図

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５h4 区，標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 2.02 m，短径 1.26 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－ 11°－Ｅである。北部が燃焼部，南部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 35cmで，外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北壁寄りに位置している。長径 0.45 m，短径 0.44 mの円形である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４・５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 10 点（深鉢）が出土している。１・２・４は覆土中から出土している。３は埋め戻しの混入である。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

第 117 図　第 23 号炉穴出土遺物実測図

第 23 号炉穴出土遺物観察表（第 117 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	指頭による凹線	覆土中	5％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外・内面角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・石英	橙	普通	格子目状の細沈線	覆土中	5％ 三戸式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外面に棒状の工具による刺突　内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 26 号炉穴（第 118 図　PL21）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５c1 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

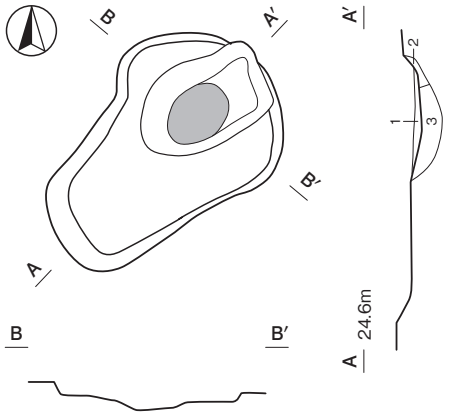
規模と形状　長径 2.18 m，短径 1.45 mの不整楕円形で，長径方向はＮ－43°－Ｅである。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 20cmで外傾している。

燃焼部　中央部やや北東壁寄りに位置している。長径 0.55 m，短径 0.40 mの楕円形である。

覆土　単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第２・３層は被熱を受けた地山である。

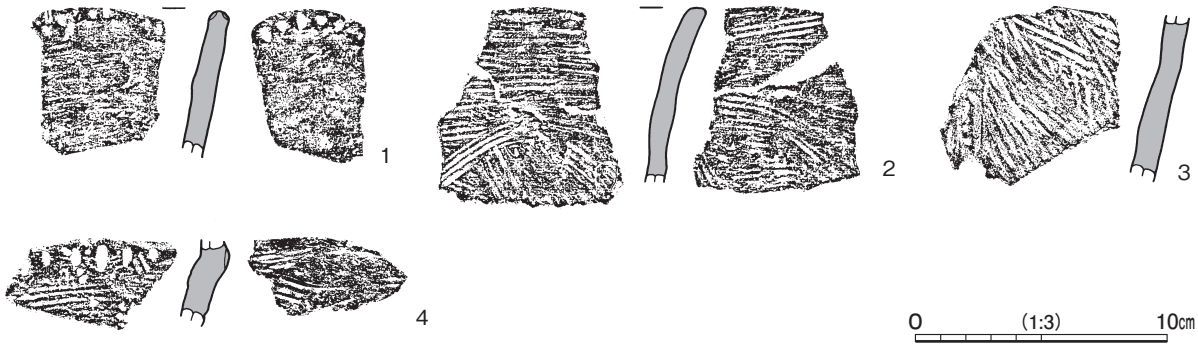
遺物出土状況　縄文土器片 46 点（深鉢）が出土している。１～４は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　地山
3　にぶい赤褐色　地山

0 (1:60) 1m



第 118 図　第 26 号炉穴・出土遺物実測図

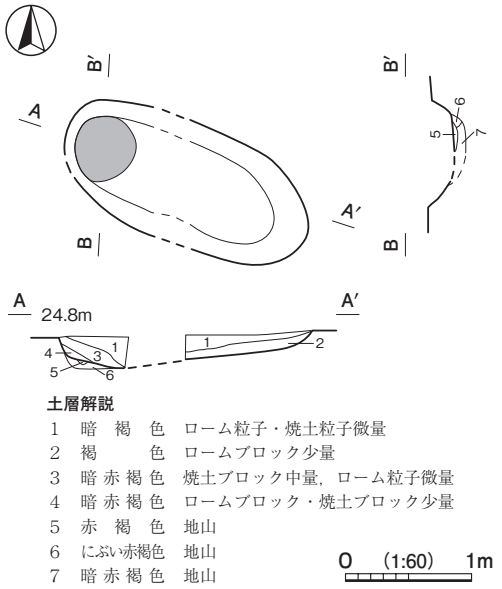
第 26 号炉穴出土遺物観察表（第 118 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石･石英･雲母･礫・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部両端に竹管による刻み	覆土中	5％　PL26 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(7.0)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面貝殻条痕文・角棒状の工具によるナデ調整 内面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL26 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・雲母・繊維	赤褐	普通	隆帯に竹管による刻み　外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 52 号炉穴（第 119 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ４h5 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。



第 119 図　第 52 号炉穴実測図

規模と形状　撹乱を受けているが，長径 2.04 m，短径 0.96 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 66°－ Ｗである。北西部が燃焼部，南東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 25㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の北西壁寄りに位置している。長径 0.52 m，短径 0.48 mの円形である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第５～７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢）が出土している。細片のため図示できないが，茅山下層式に比定できる。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

第 53 号炉穴（第 120 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ４j6 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

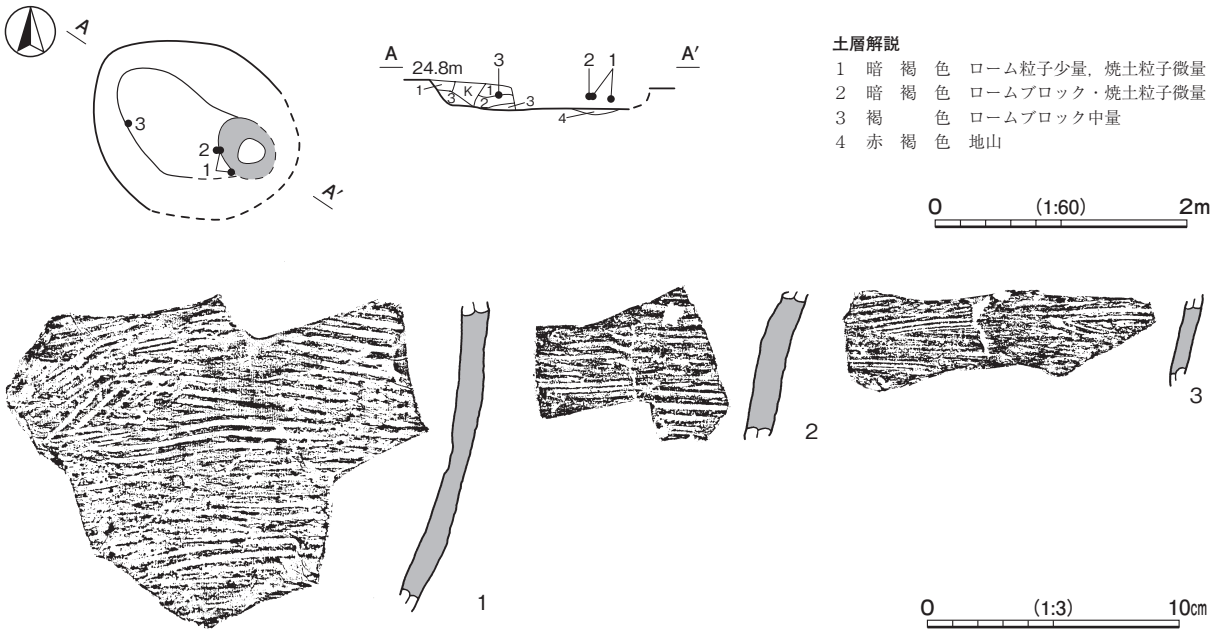
規模と形状　南東部が削平されているため，短径 1.38 m，長径は 1.60 mしか確認できなかった。長径方向がＮ－ 56°－ Ｗの楕円形である。南東部が燃焼部，北西部が足場である。足場から燃焼部に向かって平坦である。壁は高さ 18㎝で，外傾している。

燃焼部　長径方向の南東壁寄りに位置している。長径 0.50 m，短径 0.40 mの楕円形である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 12 点（深鉢）が出土している。１～３は覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 120 図　第 53 号炉穴・出土遺物実測図

第 53 号炉穴出土遺物観察表（第 120 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(12.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中層	5％　PL28 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	長石・石英・雲母・繊維	灰褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中層	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰褐	普通	外面棒状の工具による条痕	覆土中層	5％ 茅山下層式

第 60 号炉穴（第 121・122 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ４e5 区，標高 23 mほどの台地平坦部に位置している。

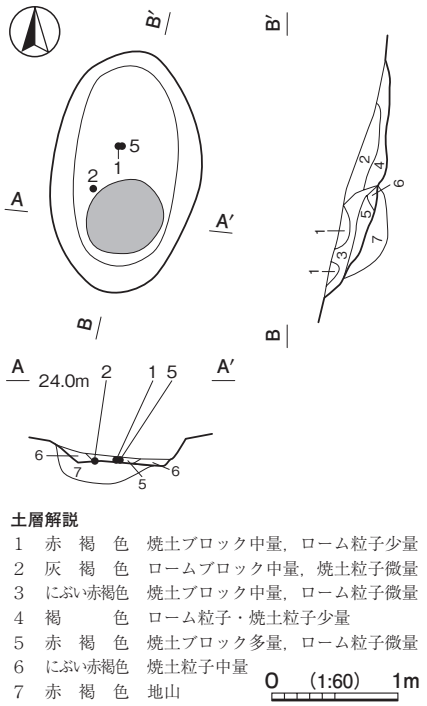
規模と形状　長径 1.92 m，短径 1.10 mの楕円形で，長径方向はＮ－８°－Ｅである。南部が燃焼部，北部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 22cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の南壁寄りに位置している。径 0.62 mの円形である。

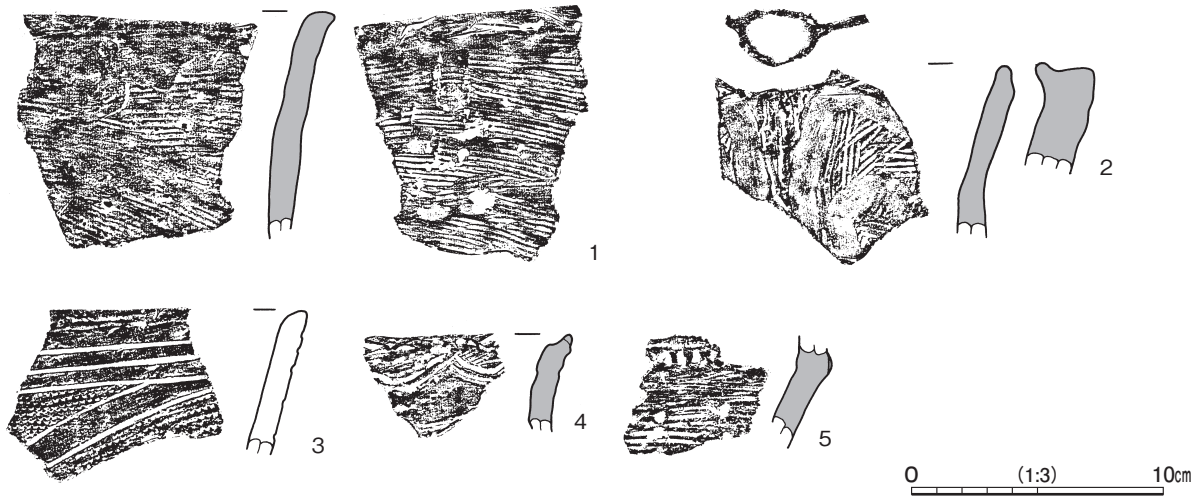
覆土　６層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 13 点（深鉢）が出土している。１・２・５は覆土下層から，４は覆土中から出土している。３は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 121 図　第 60 号炉穴実測図



第 122 図　第 60 号炉穴出土遺物実測図

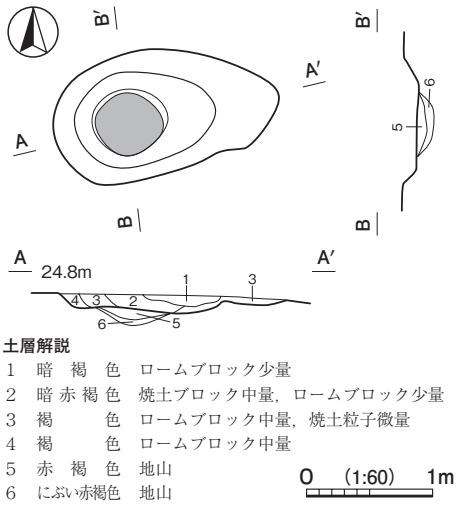
第 60 号炉穴出土遺物観察表（第 122 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(9.1)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土下層	5％　PL28 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	縦位の隆帯，外面貝殻条痕文を施文後，指頭による凹線を施す	覆土下層	5％　PL28 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線の区画に貝殻復縁文を充填	覆土中	5％　PL28 田戸下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	口唇部に竹管による刻み　口縁部に波状に沈線を施す	覆土中	5％　PL28 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	隆帯に竹管による刻み　外面貝殻条痕文	覆土下層	5％　PL28 茅山下層式

第 61 号炉穴（第 123・124 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ 4c5 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。



第 123 図　第 61 号炉穴実測図

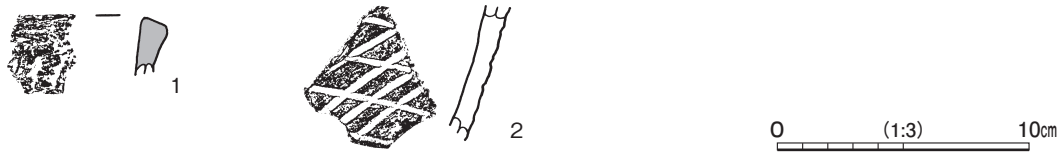
規模と形状　長径 1.78 m，短径 0.94 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 76°－ Ｅである。西部が燃焼部，東部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 12㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　中央部からやや西壁寄りに位置している。長径 0.52 m，短径 0.48 mの円形である。

覆土　４層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第５・６層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢）が出土している。１は覆土中から出土している。２は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 124 図　第 61 号炉穴出土遺物実測図

第 61 号炉穴出土遺物観察表（第 124 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(2.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	褐	普通	口縁部に連続刺突	覆土中	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	棒状の工具による格子目状の細沈線	覆土中	5％ 三戸式

第 78 号炉穴（第 125・126 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４a5 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 92 号土坑を掘り込んでいる。

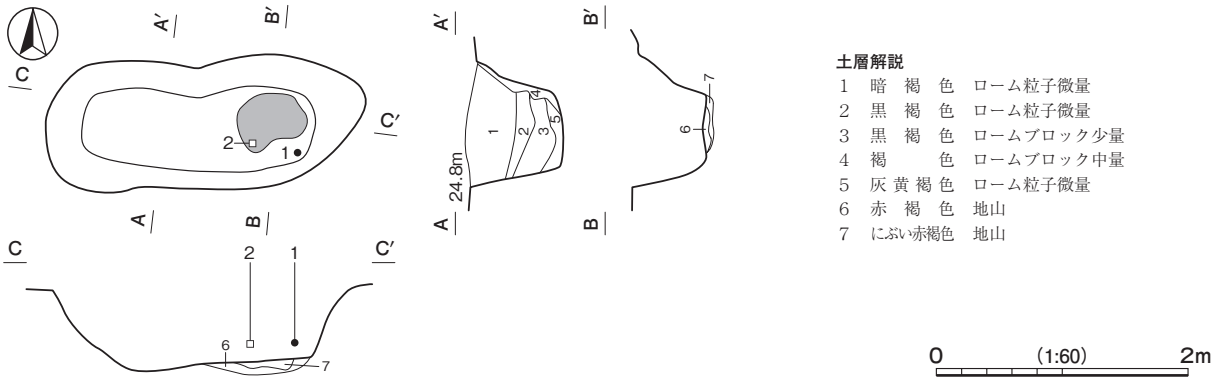
規模と形状　長径 2.56 m，短径 1.05 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 83°－ Ｅである。東部が燃焼部，西部が足場である。足場は燃焼部より低くなっている。壁は高さ 65cmで，外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径方向の東壁寄りに位置している。長径 0.56 m，短径 0.32 mの不整楕円形である。

覆土　５層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第６・７層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢），剥片１点が覆土下層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

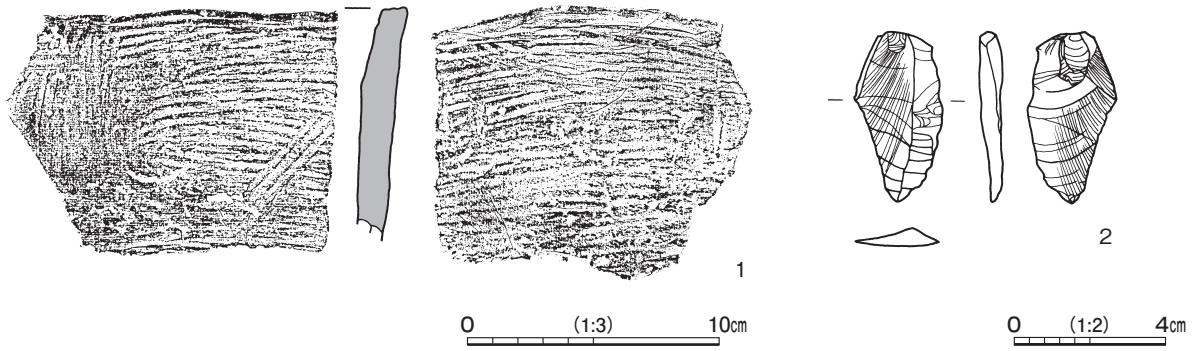


第 125 図　第 78 号炉穴実測図

第 78 号炉穴出土遺物観察表（第 126 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(9.3)	－	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	条痕によるモチーフを描く	覆土下層	5％ 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
2	剥片	4.5	2.4	0.7	4.41	黒曜石	縦長剥片	覆土下層	信州産



第 126 図　第 78 号炉穴出土遺物実測図

第 96 号炉穴（第 127 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ３g0 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

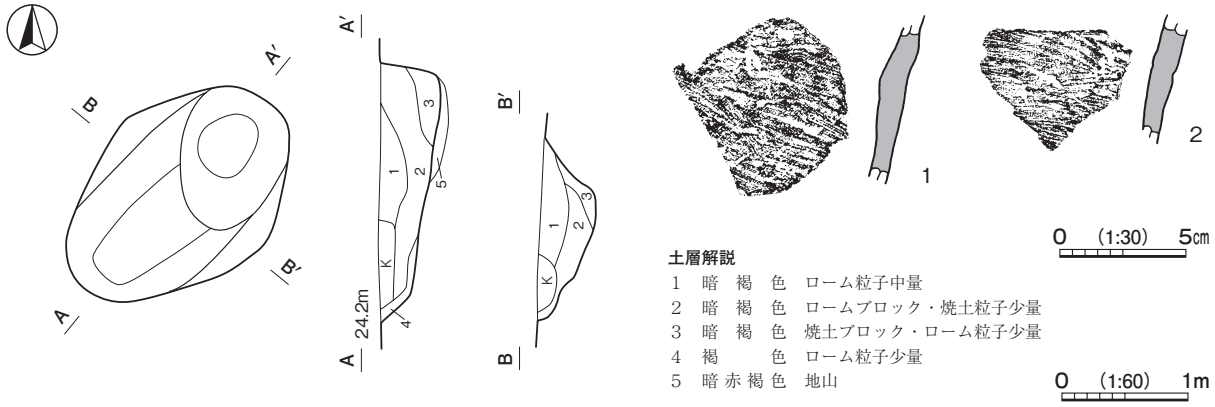
規模と形状　長径 2.04 m，短径 1.47 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 30°－ Ｅである。北東部が燃焼部，南西部が足場である。足場は燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。壁は高さ 48㎝で，外傾あるいは直立している。

燃焼部　長径方向の北東壁寄りに位置している。長径 0.52 m，短径 0.46 mの楕円形である。赤変硬化は確認できなかった。

覆土　４層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片３点（深鉢）が出土している。１・２は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。

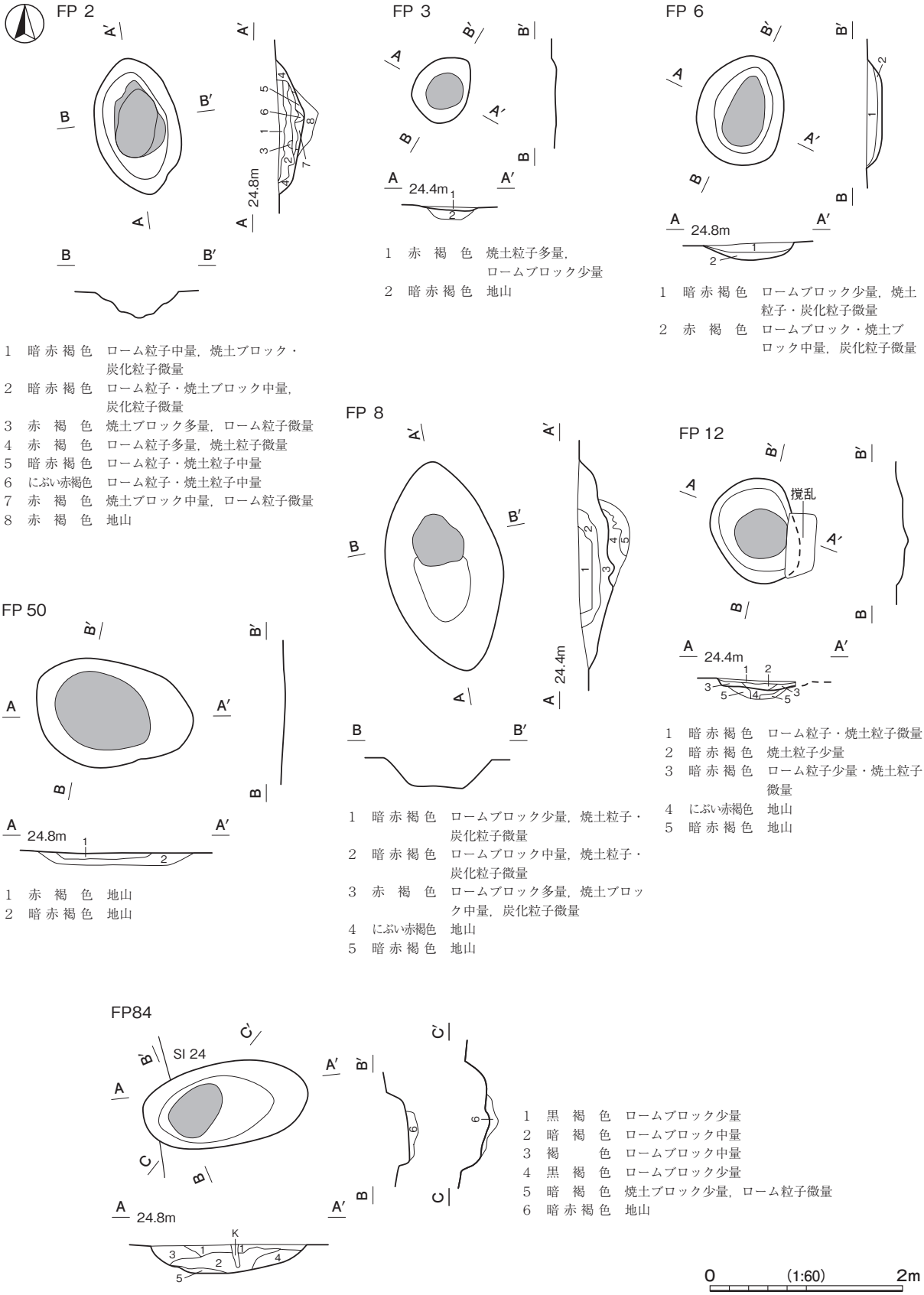


第 127 図　第 96 号炉穴・出土遺物実測図

第 96 号炉穴出土遺物観察表（第 127 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	５％　PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面棒状の工具による条痕	覆土中	５％ 茅山下層式

その他の炉穴10基は，実測図及び一覧表を掲載する。



FP 2

1 暗赤褐色 ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック中量，炭化粒子微量
3 赤褐色 焼土ブロック多量，ローム粒子微量
4 赤褐色 ローム粒子多量，焼土粒子微量
5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量
6 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量
7 赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量
8 赤褐色 地山

FP 3

1 赤褐色 焼土粒子多量，ロームブロック少量
2 暗赤褐色 地山

FP 6

1 暗赤褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量

FP 8

1 暗赤褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗赤褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 赤褐色 ロームブロック多量，焼土ブロック中量，炭化粒子微量
4 にぶい赤褐色 地山
5 暗赤褐色 地山

FP 12

1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗赤褐色 焼土粒子少量
3 暗赤褐色 ローム粒子少量・焼土粒子微量
4 にぶい赤褐色 地山
5 暗赤褐色 地山

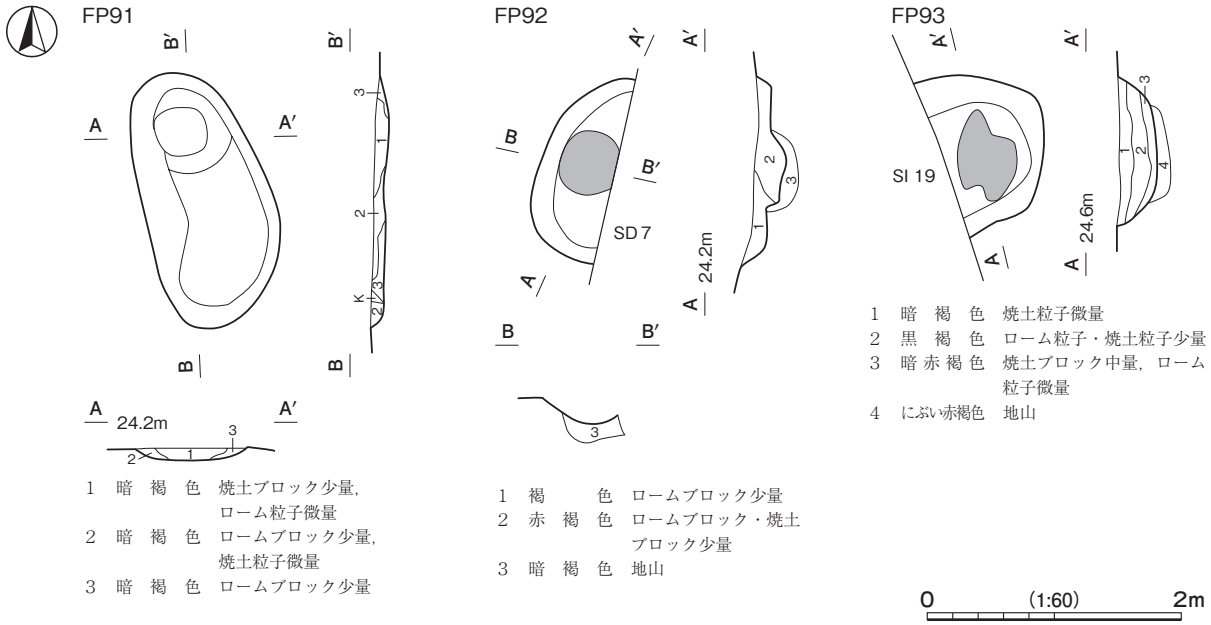
FP 50

1 赤褐色 地山
2 暗赤褐色 地山

FP84

1 黒褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック中量
3 褐色 ロームブロック中量
4 黒褐色 ロームブロック少量
5 暗褐色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量
6 暗赤褐色 地山

第128図 縄文時代炉穴実測図(1)



第 129 図　縄文時代炉穴実測図（2）

表５　縄文時代炉穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		燃焼部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
2	D 4 d6	N－10°－W	楕円形	1.42 × 0.87	28	皿状	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式･黒浜式）	
3	D 4 f6	N－35°－E	楕円形	0.72 × 0.58	4	平坦	緩斜	自然	－	
4	D 4 d9	N－17°－W	楕円形	1.73 × 1.15	18	皿状	緩斜	自然	縄文土器（三戸式･茅山下層式）	本跡→ SK39
5	D 4 d3	N－74°－E	楕円形	2.42 × 1.65	32	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ SK44
6	D 4 c2	N－18°－E	楕円形	1.12 × 0.90	16	皿状	緩斜	自然	－	
7	D 4 d9	N－2°－W	不整楕円形	2.52 × 1.34	80	平坦	外傾緩斜	人為	縄文土器（三戸式･茅山下層式･縄文早期）	
8	D 5 f2	N－11°－W	楕円形	2.19 × 1.19	31	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
9	D 5 e2	N－69°－E	［楕円形］	(1.14) × (1.10)	50	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP15・36・44→本跡→FP10 FP17と重複
10	D 5 d2	N－50°－E	不定形	1.68 × 0.93	44	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP9・15→本跡
11	D 5 d2	N－30°－W	楕円形	2.00 × 1.12	22	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP13・14→本跡
12	D 5 d4	N－21°－W	楕円形	1.08 × 0.84	12	平坦	外傾緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	SI12と重複
13	D 5 d2	N－58°－W	楕円形	1.80 × 1.12	22	平坦	緩斜	自然	縄文土器（三戸式･茅山下層式）	本跡→ FP11
14	D 5 e2	N－77°－W	楕円形	1.54 × 1.18	16	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ FP11
15	D 5 e2	N－73°－E	［楕円形］	(1.20) × 1.10	51	皿状	緩斜	－	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ FP 9・10, SK46
16	D 4 g2	N－6°－W	楕円形	1.25 × 0.74	40	有段	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
17	D 5 e1	N－72°－E	［楕円形］	(1.62) × (0.84)	18	平坦	緩斜	－	縄文土器（茅山下層式）	SI10, FP36・44・94・95→本跡 FP 9・37と重複
18	D 4 g8	N－42°－E	楕円形	1.83 × 0.78	9	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	
19	D 4 g3	N－0°	［楕円形］	(1.06) × 0.74	20	平坦	緩斜	自然	－	本跡→ FP20
20	D 4 g3	N－19°－E	［楕円形］	(1.22) × (0.86)	40	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP19→本跡→ FP27, SK56
21	D 4 g3	－	－	－	42	平坦	外傾緩斜	人為	縄文土器（三戸式･茅山下層式）	FP81, SK56→本跡 FP82と重複
22	D 5 f3	N－12°－W	［不整楕円形］	(2.06) × 0.98	22	皿状	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ SI15
23	D 5 h4	N－11°－E	不整楕円形	2.02 × 1.26	35	平坦	外傾緩斜	人為	縄文土器（三戸式･茅山下層式）	
24	D 3 h9	N－75°－W	［楕円形］	(1.36) × 1.08	21	皿状	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ FP25, SF 1
25	D 3 h9	N－62°－E	楕円形	2.33 × (1.43)	20	平坦	外傾	自然	縄文土器（三戸式･茅山下層式）	FP24→本跡→ FP28, SF 1

番号	位置	長径方向	平面形	規模		燃焼部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
26	D 5 c1	N－43°－E	楕円形	2.18 × 1.45	20	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
27	D 4 g3	N－9°－W	［楕円形］	(1.63) × 0.92	56	皿状	外傾 内彎	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP20，SK56→本跡 FP82と重複
28	D 3 g9	N－20°－E	楕円形	2.40 × 1.50	64	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP25→本跡
29	D 4 h1	N－12°－W	楕円形	1.15 × 0.76	62	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP32・33・35→ 本跡
30	D 4 h1	－	－	(0.95) × (0.82)	50	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP33・34・35と 重複
31	D 4 h1	N－17°－W	［楕円形］	[2.18] × 1.18	60	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP32→本跡→FP33， SK63
32	D 4 g1	－	－	(1.65) × (1.05)	17	平坦	外傾	人為	－	本跡→FP29・31・ 33
33	D 4 h1	N－78°－W	［楕円形］	[2.00] × [1.20]	58	有段	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP31・32・34・35→本跡 →FP29，SK63　FP30と重複
34	D 4 h1	－	－	(1.20) × (0.70)	45	皿状	外傾	人為	－	FP35→本跡→FP33 FP30と重複
35	D 4 h1	－	－	(0.70) × (0.95)	45	平坦	外傾	人為	－	本跡→FP29・33・34 FP30と重複
36	D 5 e1	N－83°－W	［楕円形］	(1.60) × (1.04)	(52)	平坦	外傾	－	－	SI10・FP94・95→ 本跡→FP9・17・44
37	D 5 e1	－	－	(0.42) × (0.38)	－	平坦	－	－	縄文土器（茅山下層式）	SI10，FP40・41・95→ 本跡　FP17・94と重複
38	D 4 h7	N－11°－E	不整楕円形	(1.72) × 0.97	50	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式），剥片	本跡→FP39　F8 と重複
39	D 4 h7	N－26°－W	楕円形	1.87 × 0.90	40	平坦	緩斜	人為	－	FP38→本跡
40	D 5 e1	N－47°－E	不定形	2.88 × 2.34	117	平坦	内彎	人為	縄文土器（茅山下層式）	SI10，FP95→本跡→SI5， FP17・37・94　FP41と重複
41	D 5 e1	N－11°－W	［楕円形］	(1.18) × 0.56	114	平坦	外傾 内彎	人為	縄文土器（茅山下層式）	SI10，FP95→本跡→SI5， FP17・37・94　FP40と重複
42	C 5 h1	N－39°－W	［楕円形］	(1.40) × (0.60)	25	平坦	外傾	人為	－	FP43・46→本跡
43	C 5 h1	N－8°－W	［楕円形］	1.50 × (0.78)	35	皿状	外傾	人為	－	FP46→本跡→FP42
44	D 5 e1	N－87°－W	不整楕円形	2.08 × 1.08	56	平坦	外傾 内彎	人為	－	SI10，FP36・94・95→ 本跡→FP 9・17
45	C 5 h1	N－15°－E	［楕円形］	(1.58) × 1.02	32	皿状	緩斜	自然	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	本跡→FP69
46	C 5 h1	N－26°－E	［楕円形］	(1.45) × (0.95)	18	平坦	緩斜	人為	－	本跡→FP42・43
47	D 5 a3	N－32°－E	楕円形	2.50 × 1.28	48	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP67→本跡→FP51
48	C 4 i0	N－63°－E	楕円形	(1.79) × 0.95	47	平坦	外傾	－	縄文土器（茅山下層式）， 石器（砥石）	SI18→本跡→FP56
49	C 4 e8	N－20°－W	楕円形	2.96 × 0.99	92	平坦	緩斜 内彎	人為	縄文土器（茅山下層式）	本跡→FP57
50	D 4 c6	N－84°－W	楕円形	1.60 × 1.10	－	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
51	D 5 a3	N－35°－W	［楕円形］	(2.80) × 1.08	51	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP47→本跡
52	C 4 h5	N－66°－W	楕円形	2.04 × 0.96	25	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
53	C 4 j6	N－0°	楕円形	(1.60) × (1.38)	18	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	
54	C 4 d2	N－0°	楕円形	－	(40)	－	緩斜	自然	－	FP55→本跡
55	C 4 d2	N－0°	［楕円形］	(1.81) × 0.92	47	皿状	緩斜	自然	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	本跡→FP54
56	C 4 i0	N－69°－E	［楕円形］	(1.12) × 0.95	47	平坦	外傾	人為	－	SI18，FP48→本跡
57	C 4 e8	N－89°－W	不整形	2.64 × 1.25	82	平坦	外斜 内彎	人為	縄文土器（茅山下層式），貝	FP49→本跡
58	D 4 a6	N－4°－W	［楕円形］	(1.02) × 0.90	25	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	本跡→FP59
59	D 4 a6	N－0°	楕円形	1.68 × 1.04	30	平坦	外斜 緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP58→本跡
60	C 4 e5	N－8°－E	楕円形	1.92 × 1.10	22	平坦	緩斜	自然	縄文土器（田戸下層式・茅山下層式）	
61	D 4 c5	N－76°－E	楕円形	1.78 × 0.94	12	平坦	緩斜	自然	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	
62	D 3 b7	N－60°－E	楕円形	1.50 × 0.66	42	平坦	外傾	自然	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	SI22→本跡 →FP80
63	D 3 b6	N－20°－E	［楕円形］	－	42	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	SI22→本跡 FP64と重複
64	D 3 b6	－	－	－	－	皿状	－	－	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	SI22，SK97→本跡 FP63・70・71と重複
65	D 5 b4	－	－	－	28	皿状	緩斜	人為	縄文土器（野島式・茅山下層式）	本跡→SK70 FP79と重複
66	D 5 b4	－	－	－	18	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP67・79と重複
67	D 5 a2	－	－	－	16	皿状	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	本跡→FP47 FP66と重複
68	D 3 b7	－	－	－	16	［平坦］	緩斜	－	－	SI22→本跡
69	C 4 g0	N－70°－E	［不定形］	(1.68) × (1.40)	67	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP45→本跡 →F16
70	D 3 b6	N－75°－W	［楕円形］	(1.38) × (0.75)	36	皿状	外傾	人為	－	本跡→FP71 FP64と重複
71	D 3 b6	N－25°－E	［楕円形］	(1.56) × 1.24	60	有段	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP70→本跡 FP69と重複

番号	位置	長径方向	平面形	規模		燃焼部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
72	C 4 j7	N－9°－W	［楕円形］	(1.20) × 1.08	32	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ SI20・21, FP74　FP75 と重複
73	C 4 j7	N－88°－W	楕円形	1.42 × 1.02	28	皿状	外傾 緩斜	人為	－	本跡→ SI21
74	D 4 a7	N－87°－W	楕円形	1.75 × 0.84	32	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP72 →本跡 → SI21
75	D 4 a7	N－54°－E	楕円形	1.48 × 0.89	21	皿状	緩斜	－	－	本跡→ SI20 FP72 と重複
76	D 4 b0	N－27°－W	楕円形	2.12 × 1.12	35	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP77 →本跡
77	D 4 b0	N－81°－E	［楕円形］	(2.12) × (0.67)	28	皿状	緩斜	人為	縄文土器（三戸式・茅山下層式），剥片	本跡→ FP76・93
78	D 4 a5	N－83°－E	楕円形	2.56 × 1.05	65	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式），剥片	SK92 →本跡
79	D 5 b4	－	－	－	－	平坦	－	人為	－	FP65・66 と重複
80	D 3 b7	N－65°－E	楕円形	2.00 × 0.84	10	平坦	緩斜	人為	－	SI22，FP62 →本跡
81	D 4 h3	－	－	－	24	皿状	外傾	－	－	SK56 →本跡→ FP21
82	D 4 g3	－	－	－	45	皿状	外傾	－	－	SK56 →本跡 FP21 と重複
83	C 3 h8	N－7°－W	［楕円形］	(0.84) × 0.86	60	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式・浮島式）	本跡→ FP85
84	C 3 j8	N－77°－E	楕円形	1.82 × 0.84	24	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式・浮島式）	SI24 →本跡
85	C 3 h8	N－80°－E	楕円形	2.10 × 1.18	74	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP83 →本跡
86	D 5 b1	N－17°－E	楕円形	2.65 × 1.02	40	皿状	緩斜	人為	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	SI 9，FP87 →本跡
87	D 5 c1	N－80°－E	［楕円形］	(1.85) × 1.35	35	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	SI 9 →本跡→ FP86
88	D 4 c6	N－63°－E	［楕円形］	(0.95) × 0.88	54	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP89 と重複
89	D 4 c6	N－18°－E	不整楕円形	2.02 × 1.20	45	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP90 →本跡 FP88 と重複
90	D 4 c6	N－85°－W	楕円形	1.86 × 0.98	24	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ FP89
91	D 5 c5	N－17°－W	楕円形	2.00 × 0.92	10	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	
92	D 5 d7	N－15°－E	楕円形	1.50 × 0.56	42	平坦	外傾	人為	－	本跡→ SD 7
93	D 4 b0	N－18°－W	［楕円形］	1.26 × (0.7)	30	皿状	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP77 →本跡 → SI19
94	D 5 e1	－	［円形・楕円形］	(0.85) × (0.37)	58	－	－	－	－	SI10，FP40・41・95 →本跡 → FP17・36・44　FP37 と重複
95	D 5 e1	－	［円形・楕円形］	(1.06) × (0.71)	45	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	SI10 →本跡→ FP17・36・37・40・41・44・94
96	D 3 g0	N－30°－E	楕円形	2.04 × 1.47	48	平坦	外傾 直立	自然	縄文土器（茅山下層式）	

(3)　炉跡

炉跡は 34 基を確認した。その中で，特徴的な炉跡９基を記載し，その他の炉跡については実測図（第 138 ～ 140 図），土層解説及び一覧表で掲載する。

第７号炉跡（第 130 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５j2 区，標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

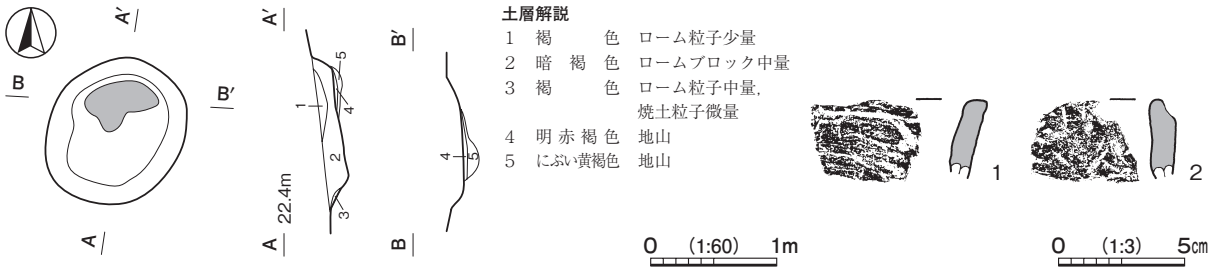
規模と形状　長径 1.18 m，短径 1.02 mの楕円形で，長径方向がＮ－ 12°－ Ｅの地床炉である。壁は高さ 18cmで，外傾している。

燃焼部　長径 0.56 m，短径 0.26 mの不定形である。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第４・５層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 130 図　第７号炉跡・出土遺物実測図

第７号炉跡出土遺物観察表（第 130 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面板状の工具によるナデ調整	覆土中	５％　PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.2)	－	長石・石英・繊維	褐灰	普通	外面板状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式

第 11 号炉跡（第 131 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５e4 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 79 号土坑を掘り込んでいる。

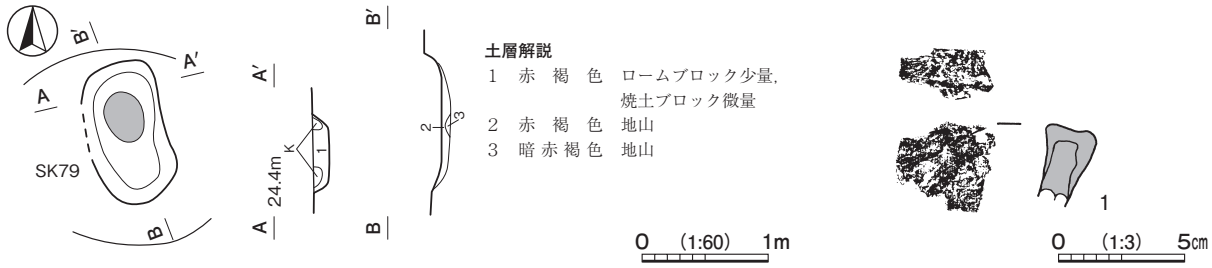
規模と形状　長径 1.12 m，短径 0.60 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 12°－ Ｗの地床炉である。壁は深さ 12㎝で，外傾している。

燃焼部　長径 0.42 m，短径 0.30 mの楕円形である。

覆土　単一層である。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第２・３層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢）が出土している。１は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 131 図　第 11 号炉跡・出土遺物実測図

第 11 号炉跡出土遺物観察表（第 131 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	明褐	普通	口縁部に指頭による凹線	覆土中	５％　PL30 茅山下層式

第 12 号炉跡（第 132 図　PL21）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５d4 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 14 号竪穴建物と重複しているが，新旧関係は不明である。

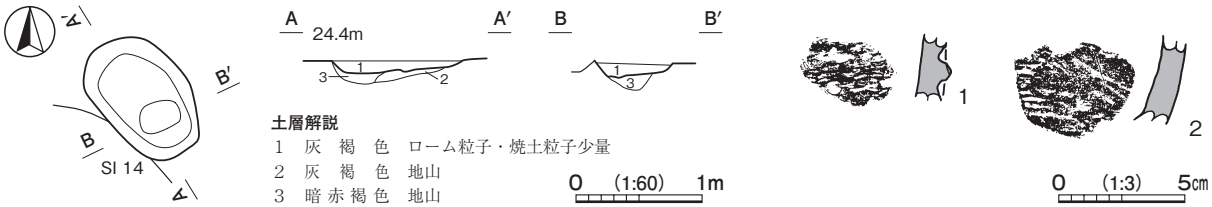
規模と形状　長径 1.04 m，短径 0.71 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 35°－ Ｗの地床炉である。壁は高さ８㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径 0.18 m，短径 0.08 mの楕円形である。赤変硬化は確認できなかった。

覆土　単一層である。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第２・３層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片 10 点（深鉢）が出土している。１・２は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 132 図　第 12 号炉跡・出土遺物実測図

第 12 号炉跡出土遺物観察表（第 132 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(2.7)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	横位の隆帯　竹管による連続刺突	覆土中	５％　PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文・角棒状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式

第 14 号炉跡（第 133 図　PL21）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４e6 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 1.42 m，短径 0.60 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 70°－Ｅの地床炉である。壁は高さ 12㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径 1.05 m，短径 0.94 mの楕円形である。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックが含まれている層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第３層は被熱を受けた地山である。第１層からは，貝を多量に含む暗赤褐色の層を覆土上層で確認した。厚さは 10㎝である。

遺物出土状況　縄文土器片 21 点（深鉢）のほか貝が出土している。１は覆土下層，２は覆土中から出土している。貝は４種類で，大半はハマグリである。いずれも，淡水の影響を受ける内湾性の海

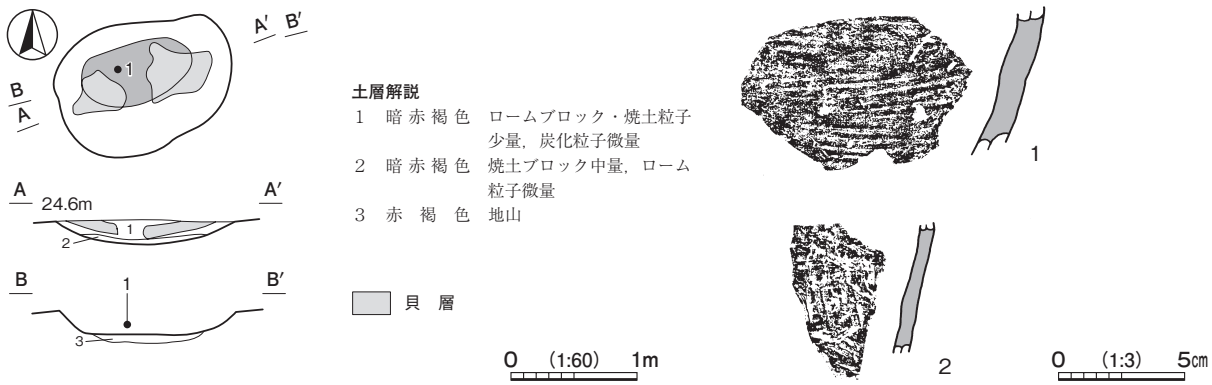
第 14 号炉跡出土貝類集計表

種別	個体数	個体数比（％）
ハマグリ	536	94.9
オキシジミ	23	4.1
ハイガイ	4	0.7
シオフキ	2	0.3
総量	565	100.0

※－は 0.1％未満

の砂や泥底に生息する貝類である。総個体数は565個で，比率は左表の通りである。また，砕片の中から，骨または貝と見られる微細物が検出されたため，骨貝同定の分析を行った。その結果，骨の可能性がある砕片や焼けた痕跡の残るスガイの蓋であることが分かった。詳細については，「(4) 炉穴・炉跡出土遺物の骨貝同定について」で述べることとする。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第133図　第14号炉跡・出土遺物実測図

第14号炉跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英・繊維	明褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土下層	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	角棒状の工具による凹線	覆土中	5％ 縄文早期

第16号炉跡（第76図）

第16号炉跡については，「第45・69号炉穴，第16号炉跡」の項に記載している。

第19号炉跡（第134図　PL21）

調査年度　平成30年度

位置　調査区中央部のＣ４e9区，標高23ｍほどの台地平坦部に位置している。

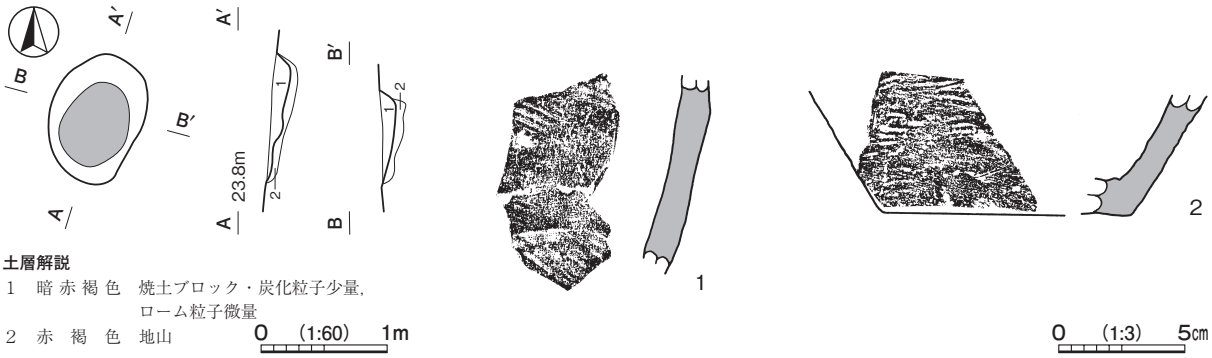
規模と形状　長径1.04ｍ，短径0.72ｍの楕円形で，長径方向はＮ－24°－Ｅの地床炉である。壁は高さ15㎝で，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径0.70ｍ，短径0.54ｍの楕円形である。

覆土　単一層である。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第２層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片９点（深鉢）が出土している。１・２は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 134 図　第 19 号炉跡・出土遺物実測図

第 19 号炉跡出土遺物観察表（第 134 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(7.9)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文　外面角棒状の工具による凹線	覆土中	5％　PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	[9.8]	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL33 茅山下層式

第 23 号炉跡（第 135 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ 4j2 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

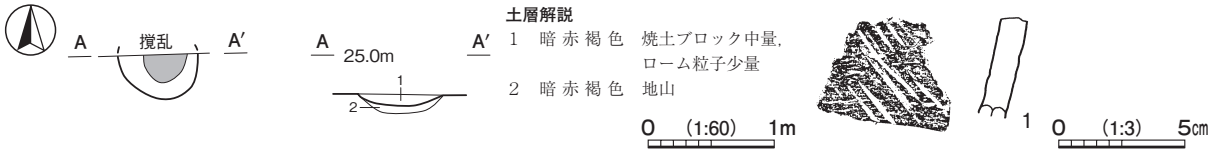
規模と形状　撹乱を受けているため，長径は 0.64 m，短径は 0.36 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる地床炉である。壁は高さ 10cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　撹乱を受けているため，長径は 0.34 m，短径は 0.22 mしか確認できなかった。円形または楕円形と推定できる。

覆土　単一層である。堆積状況から自然堆積と考えられる。第２層は，被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片８点(深鉢)が出土している。細片のため図示できないが，茅山下層式と比定できる。１は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 135 図　第 23 号炉跡・出土遺物実測図

第 23 号炉跡出土遺物観察表（第 135 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英	明赤褐	普通	斜位の細沈線	覆土中	5％ 三戸式

第 31 号炉跡（第 136 図　PL21）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４b6 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号道路に掘り込まれている。

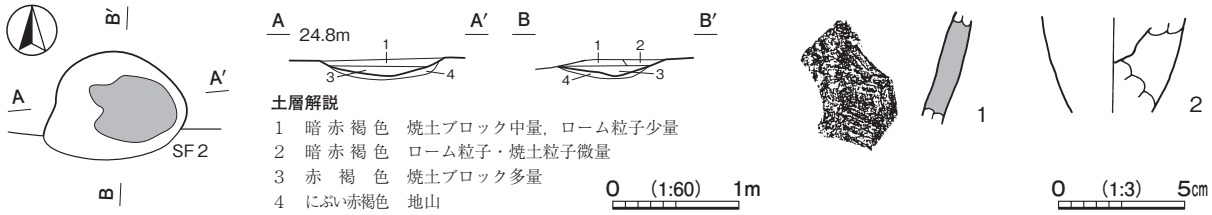
規模と形状　長径 1.15 m, 短径 0.87 mの楕円形で, 長径方向はＮ－ 70°－ Ｅの地床炉である。壁は高さ 14㎝で, 緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径 0.74 m，短径 0.52 mの不定形である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第４層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片２点（深鉢）が覆土中から出土している。１は覆土中から出土している。２は埋め戻しの混入である。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 136 図　第 31 号炉跡・出土遺物実測図

第 31 号炉跡出土遺物観察表（第 136 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石・石英	明褐	普通	縦位の細沈線　尖底土器	覆土中	５％ 三戸式

第 34 号炉跡（第 137 図　PL21）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５i1 区，標高 22 mほどの台地平坦部に位置している。

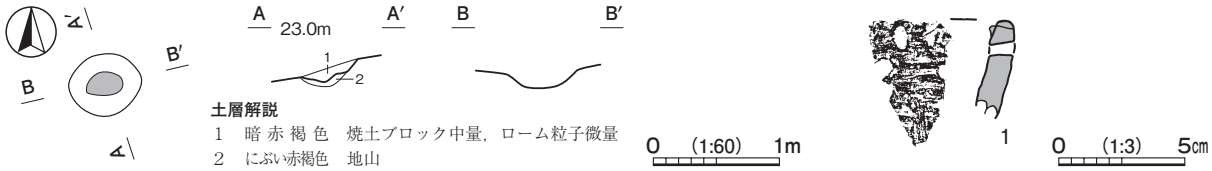
規模と形状　長径 0.58 m, 短径 0.48 mの楕円形で, 長径方向はＮ－ 77°－ Ｅの地床炉である。壁は高さ 12㎝で, 緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径 0.32 m，短径 0.18 mの楕円形である。

覆土　単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第２層は被熱を受けた地山である。

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。

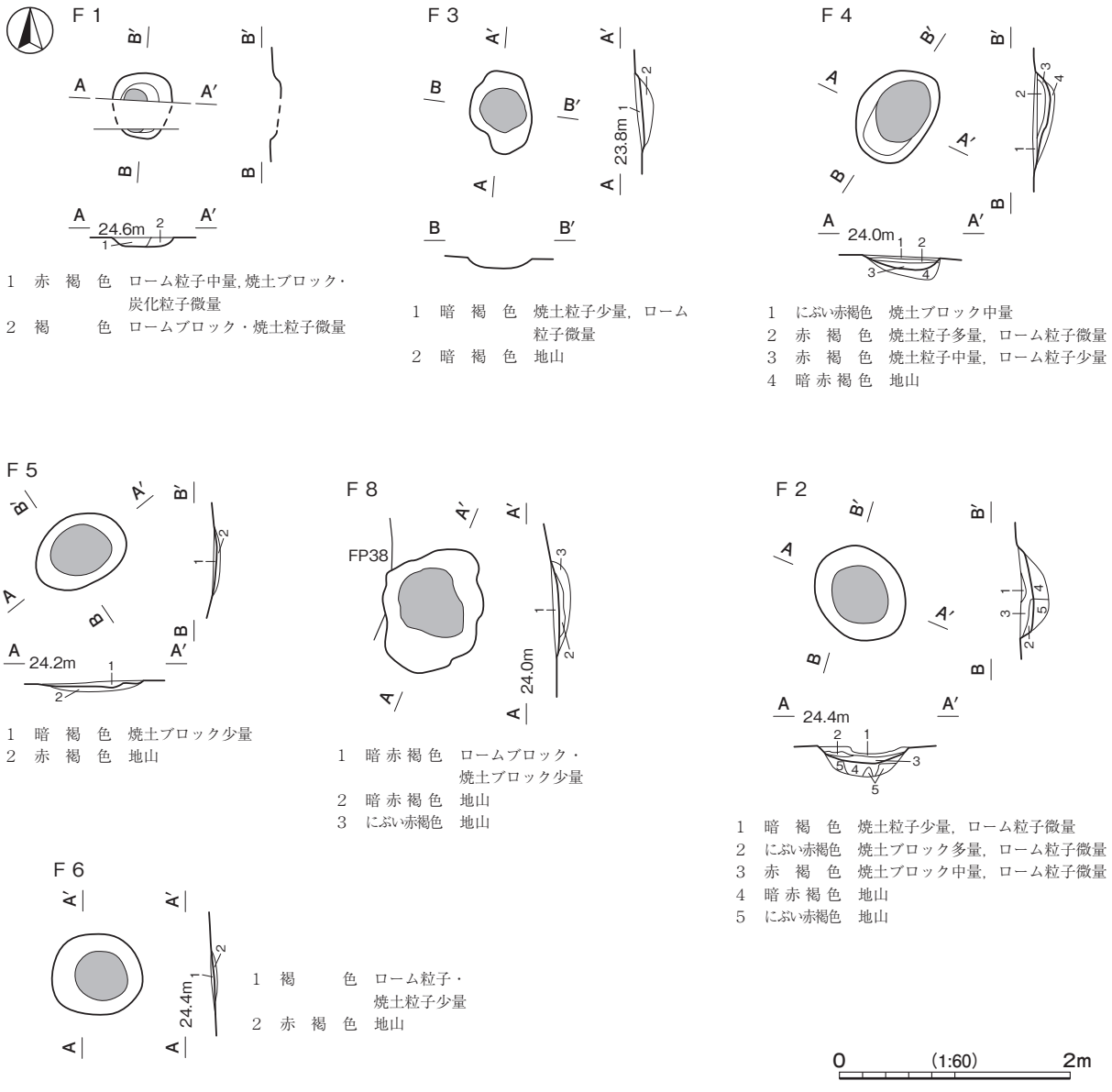


第 137 図　第 34 号炉跡・出土遺物実測図

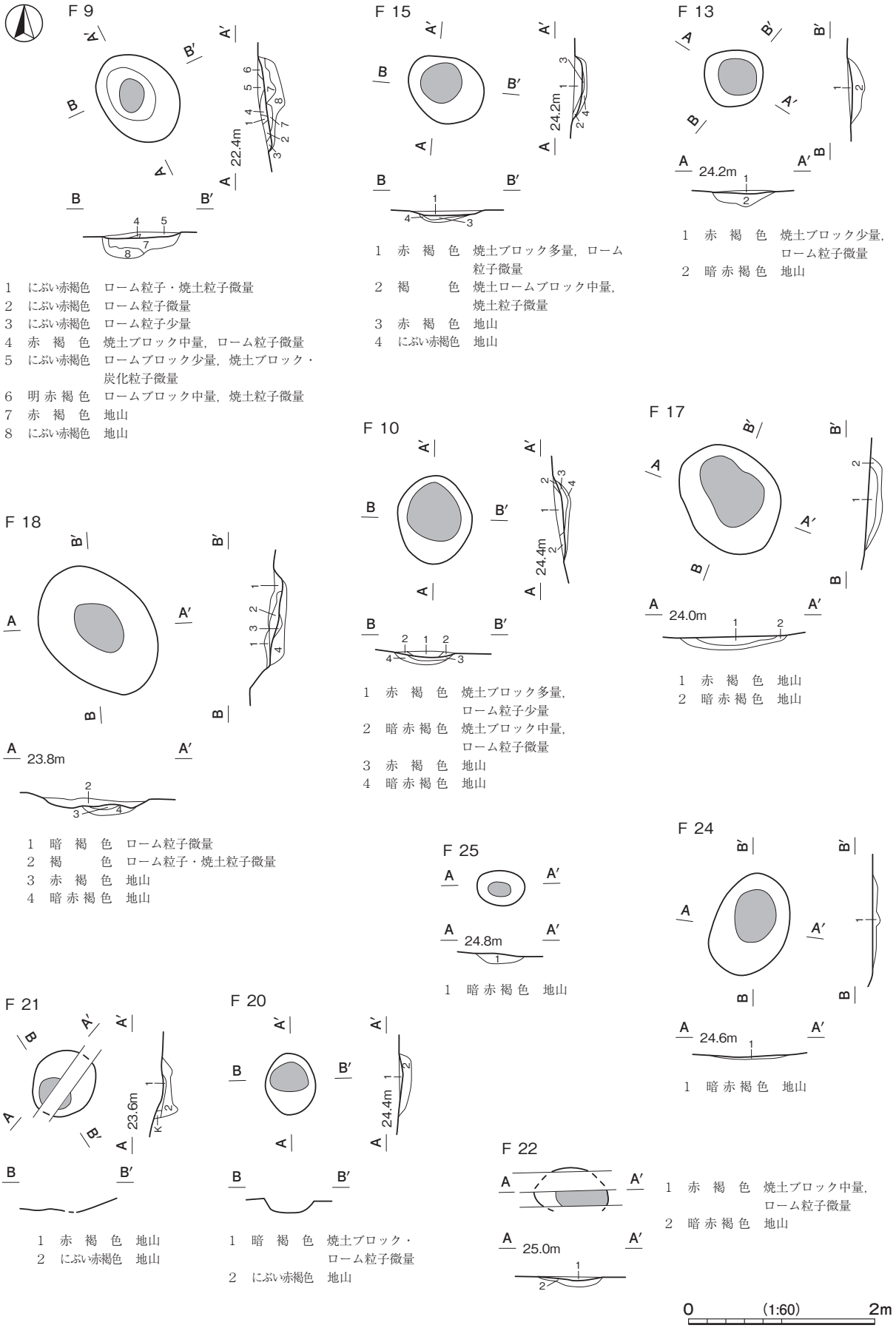
第 34 号炉跡出土遺物観察表（第 137 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	口唇部に竹管による刻み　口縁部に円孔文	覆土中	5％　PL30 茅山下層式

その他の炉跡 25 基は，実測図及び一覧表を掲載する。



第 138 図　縄文時代炉跡実測図 (1)



F 9

1 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 にぶい赤褐色 ローム粒子微量
3 にぶい赤褐色 ローム粒子少量
4 赤 褐 色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量
5 にぶい赤褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
6 明赤褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量
7 赤 褐 色 地山
8 にぶい赤褐色 地山

F 15

1 赤 褐 色 焼土ブロック多量，ローム粒子微量
2 褐 色 焼土ロームブロック中量，焼土粒子微量
3 赤 褐 色 地山
4 にぶい赤褐色 地山

F 13

1 赤 褐 色 焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2 暗赤褐色 地山

F 10

1 赤 褐 色 焼土ブロック多量，ローム粒子少量
2 暗赤褐色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量
3 赤 褐 色 地山
4 暗赤褐色 地山

F 17

1 赤 褐 色 地山
2 暗赤褐色 地山

F 18

1 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
3 赤 褐 色 地山
4 暗赤褐色 地山

F 25

1 暗赤褐色 地山

F 24

1 暗赤褐色 地山

F 21

1 赤 褐 色 地山
2 にぶい赤褐色 地山

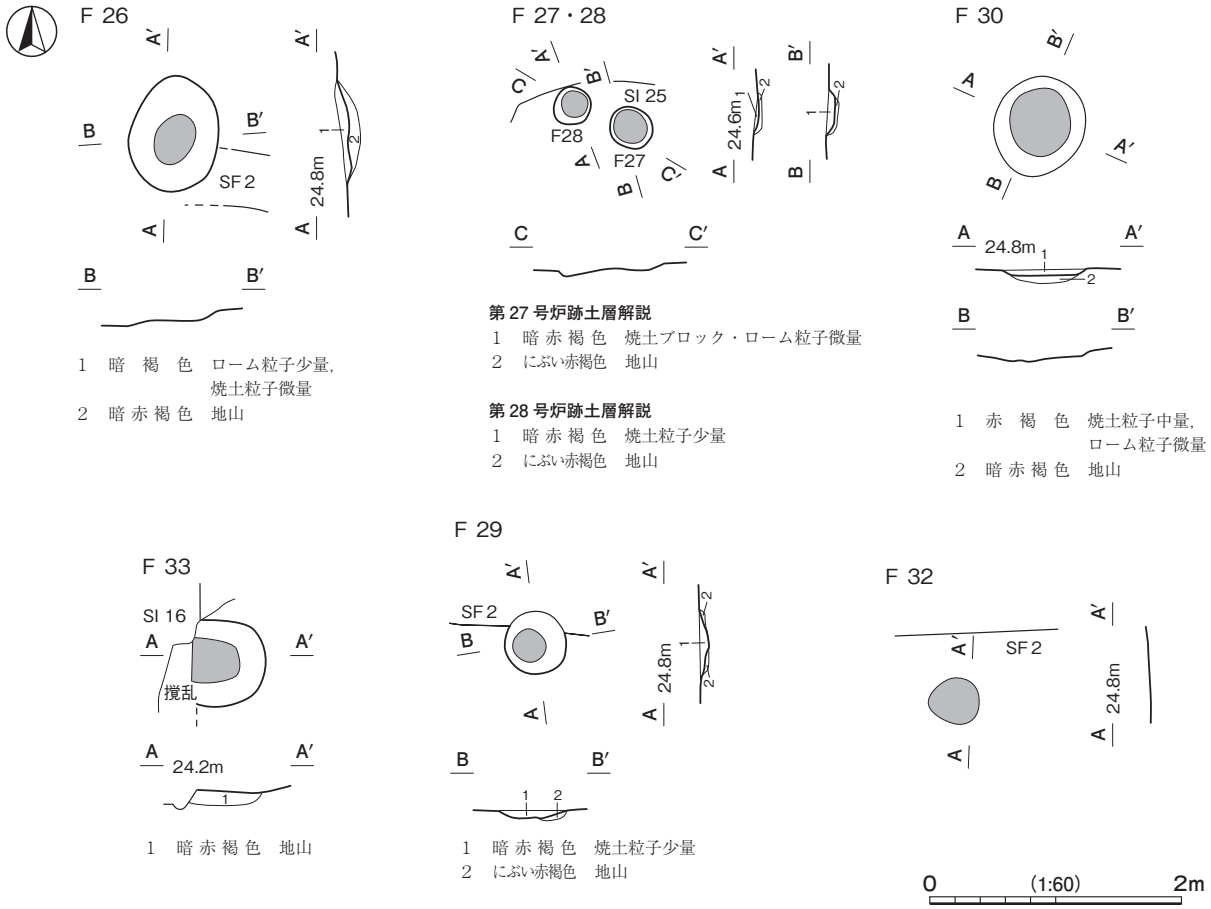
F 20

1 暗 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子微量
2 にぶい赤褐色 地山

F 22

1 赤 褐 色 焼土ブロック中量，ローム粒子微量
2 暗赤褐色 地山

第 139 図 縄文時代炉跡実測図 (2)



1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　地山

第 27 号炉跡土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子微量
2　にぶい赤褐色　地山

第 28 号炉跡土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　地山

1　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　地山

1　暗 赤 褐 色　地山

1　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量
2　にぶい赤褐色　地山

第 140 図　縄文時代炉跡実測図 (3)

表 6　縄文時代炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		燃焼部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	D 3 b5	N − 0 °	楕円形	0.56 × 0.50	8	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
2	D 5 e3	N − 30° − W	楕円形	0.84 × 0.74	23	皿状	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
3	D 4 h9	N − 3 ° − E	不整楕円形	0.68 × 0.50	12	皿状	緩斜	自然	−	
4	D 4 g4	N − 26° − E	楕円形	0.84 × 0.62	12	皿状	緩斜	自然	−	
5	D 4 g3	N − 48° − E	楕円形	0.80 × 0.52	6	凸凹	緩斜	自然	−	
6	D 4 f4	N − 0 °	楕円形	0.78 × 0.68	2	平坦	−	自然	−	
7	D 5 j2	N − 12° − E	楕円形	1.18 × 1.02	18	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
8	D 4 h7	N − 23° − E	不整楕円形	1.12 × 0.86	5	平坦	−	人為	−	
9	E 5 a2	N − 34° − W	楕円形	1.02 × 0.78	5	平坦	緩斜	人為	−	
10	D 4 j9	N − 0 °	楕円形	0.95 × 0.78	5	平坦	緩斜	自然	−	
11	D 5 e4	N − 12° − W	楕円形	1.12 × 0.60	12	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	SK79 →本跡
12	D 5 d4	N − 35° − W	楕円形	1.04 × 0.71	8	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	SI14 と重複
13	D 5 g4	−	円形	0.62 × 0.60	4	皿状	−	自然	縄文土器（茅山下層式）	
14	D 4 e6	N − 12° − W	楕円形	1.42 × 0.60	12	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式・縄文早期），貝	
15	C 4 f7	N − 58° − W	楕円形	0.86 × 0.68	10	平坦	緩斜	人為	−	
16	C 4 g0	N − 17° − E	楕円形	0.82 × 0.63	14	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP69 →本跡
17	C 4 f8	N − 35° − W	楕円形	1.26 × 1.02	−	皿状	−	−	−	
18	C 4 e3	N − 42° − W	楕円形	1.50 × 1.08	10	凸凹	緩斜	人為	縄文土器（三戸式，茅山下層式）	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		燃焼部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
19	C 4 e9	N－24°－E	楕円形	1.04 × 0.72	15	皿状	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
20	C 4 g5	N－2°－W	楕円形	0.68 × 0.54	2	皿状	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	
21	C 4 e4	N－36°－E	楕円形	0.74 × 0.63	－	平坦	－	－	－	
22	C 4 j2	N－86°－W	［楕円形］	0.80 ×（0.40）	2	皿状	緩斜	自然	－	
23	C 4 j2	－	［円形･楕円形］	0.64 ×（0.36）	10	皿状	緩斜	自然	縄文土器（三戸式, 茅山下層式）	
24	C 4 g3	N－20°－E	楕円形	1.10 × 0.80	－	平坦	－	－	－	
25	C 4 j2	N－83°－W	楕円形	0.52 × 0.38	－	皿状	－	－	－	
26	D 3 a0	N－5°－E	楕円形	0.94 × 0.68	8	平坦	緩斜	人為	－	
27	C 3 i6	－	円形	0.34 × 0.32	2	皿状	緩斜	自然	－	SI25 →本跡
28	C 3 i6	－	円形	0.30 × 0.29	4	平坦	緩斜	自然	－	SI25 →本跡
29	D 4 b6	－	円形	0.50 × 0.47	7	平坦	－	－	－	本跡→ SF 2
30	D 4 b6	N－21°－E	楕円形	0.82 × 0.72	7	平坦	緩斜	自然	－	
31	D 4 b6	N－70°－E	［楕円形］	1.15 ×（0.87）	14	皿状	緩斜	人為	縄文土器（三戸式, 茅山下層式）	本跡→ SF 2
32	D 4 b6	－	［円形］	(0.40) ×（0.38）	－	平坦	－	－	－	本跡→ SF 2
33	D 5 b3	N－84°－W	［楕円形］	0.68 ×（0.60）	－	平坦	－	－	－	本跡→ SI16
34	D 5 i1	N－77°－E	楕円形	0.58 × 0.48	12	皿状	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	

(4) 炉穴・炉跡出土遺物の骨貝同定について

ア 分析方法

試料は，１㎜，３㎜のフルイ分けによって得られた骨とみられる５試料と貝類２試料であり，これらの試料の中には，１試料中に複数点の破片が含まれている場合もある。これらの試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し，その形態的特徴から，種と部位の同定を行う。なお，貝類の生態等に関しては，奥谷ほか (2000)，奥谷編著（2004）などを参考とする。

イ 結果

以下，試料ごとに結果を示す。

骨貝同定結果

番号	採取地	記載			種類	部位	状態等	数	被熱	備考
①	第 14 号炉跡	3 mm から		骨カ 1 点	骨カ	不明	破片	1	○	
②	第 14 号炉跡	3 mm から		骨カ 1 点	マテガイ科カ	殻カ	破片	1	○	
③	第 14 号炉跡	1 mm から		骨 1 点	貝カ	殻カ	破片	1		
④	第 14 号炉跡	1 mm から	19.3.26	骨 1 点	不明	不明	破片			
⑤	第 57 号炉穴	1 mm から	19.3.27	骨カ 2 点	哺乳類カ	歯牙カ	破片	1		
					不明	不明	破片	1＋		
	第 57 号炉穴	1 mm から		貝カ 1 点	カワザンショウガイ科カ	殻	破片	1	○	
	第 14 号炉跡	3 mm から		貝蓋カ 4 点	スガイ	蓋	略完	2	○	内 1 点接合
							破片	1	○	

＜骨試料＞

・番号① 第 14 号炉跡（３㎜から） 骨の可能性がある破片であるが，詳細不明である。焼けている可能性もある。

・番号②　第14号炉跡（３㎜から）

マテガイ科の殻の可能性がある破片である。焼けている可能性がある。

・番号③　第14号炉跡（貝サンプル）（１㎜から）　貝の可能性がある破片であるが，詳細不明である。

・番号④　第14号炉跡（１㎜から）

種類不明の破片で，詳細不明である。

・番号⑤　第57号炉穴（１㎜から）

１点は，厚さ0.15㎜程度のエナメル質状の構造がみられることから，哺乳類の歯牙の可能性がある。残りの破片は，種類不明の破片で詳細不明である。

＜貝試料＞

・第57号炉穴（１㎜から）

カワザンショウガイ科の可能性がある破片である。焼けている。

・第14号炉跡（１㎜から）

スガイの蓋である。４片あり，１点がほぼ完形，２点が接合してほぼ完形，１点が破片である。いずれも焼けている。

ウ　考察

骨試料の番号①～⑤には，マテガイ科の可能性がある破片，あるいは哺乳類の歯牙の可能性がある破片などがみられたが，極めて微細な破片であるため，骨貝を断定できない試料が多い。一方，貝試料では，カワザンショウガイの可能性がある破片，スガイの蓋がみられた。いずれも焼けている。カワザンショウガイ科は，河口汽水域などに生育するものが多い。意図的に採取したものでなく，何かに付着していたものが焼かれたとみられる。また，スガイは，北海道南部～九州南部に分布し，潮間帯の岩礁域に棲息するとされる。食料となることから，食料資源として持ち込まれたと考えられる。

引用文献

奥谷喬司・窪寺恒己・黒住耐二・斎藤　寛・佐々木猛智・土田英治・土屋光太郎・長谷川和範・濱谷　巌・速水　格・堀　成夫・松隈明彦，2000，日本近海産貝類図鑑．奥谷喬司編，東海大学出版会，1173p

奥谷喬司編著，2004，改訂新版　世界文化生物大図鑑　貝類．株式会社世界文化社．399p

(5)　陥し穴

第１号陥し穴（第141図　PL22）

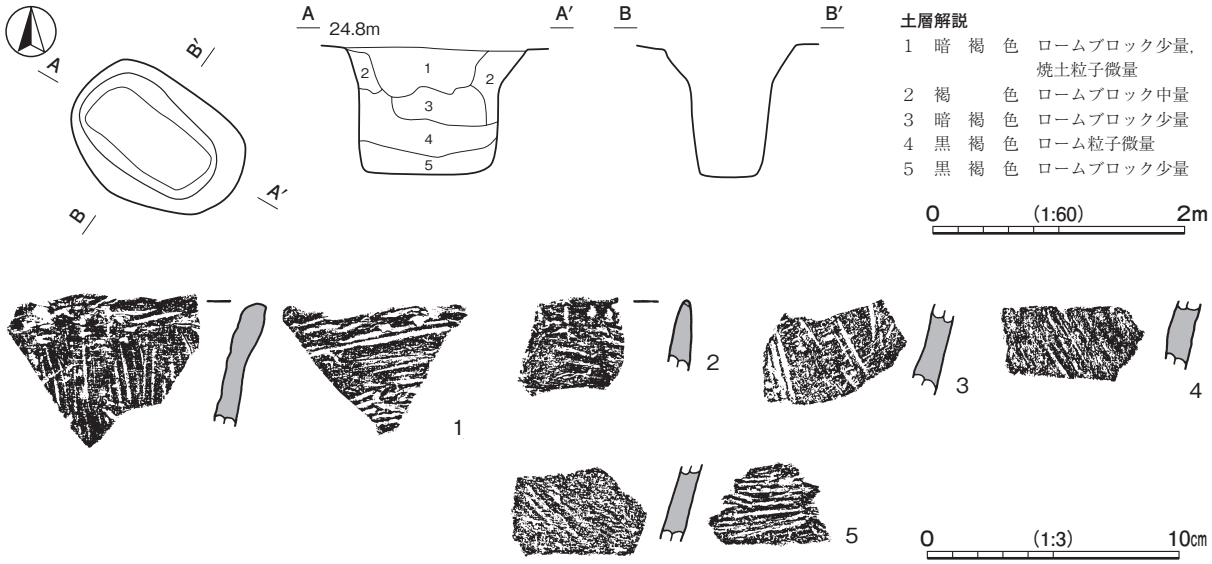
位置　調査区中央部のＤ４b4区，標高24ｍほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸1.44 ｍ，短軸1.02 ｍの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 48°－ Ｗである。深さは102㎝で，底面は幅45㎝と狭く平坦である。長軸方向の壁は直立して立ち上がっている。短軸方向の断面形は中位以下が壁が直立し，上位は逆ハの字状に広がっている。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片19点（深鉢）が出土している。１～５はいずれも覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉と考えられる。



第 141 図　第 1 号陥し穴・出土遺物実測図

第 1 号陥し穴出土遺物観察表（第 141 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・繊維	暗褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％　PL30 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(2.9)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	口唇部に細い刻み	覆土中	5％　PL30 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・赤色粒子・細礫・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(3.0)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

(6)　土　坑

今回の調査で，縄文時代の土坑 102 基を確認した。覆土の堆積状況や遺物出土状況など特徴的な 9 基については記述し，その他の土坑については実測図（第 155 ～ 163 図），土層解説及び一覧表で掲載する。

第 38 号土坑（第 142 図　PL22）

調査年度　平成 30 年度

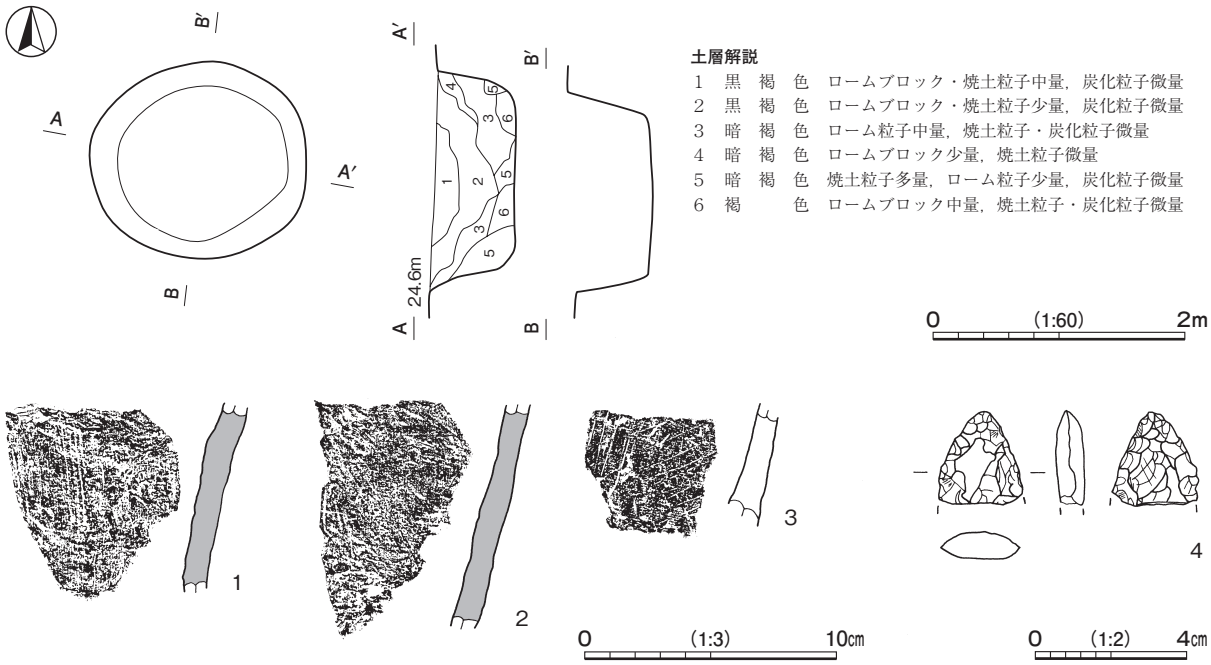
位置　調査区中央部の D 3e9 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 1.72 m，短径 1.58 mのほぼ円形である。底面は平坦で，深さは 62㎝である。壁はほぼ直立している。

覆土　6 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 47 点（深鉢），石器 1 点（鏃）が出土している。1・2・4 は覆土中から出土している。3 は表土からの流れ込みである。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 142 図　第 38 号土坑・出土遺物実測図

第 38 号土坑出土遺物観察表（第 142 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(7.5)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面貝殻条痕文　指頭によるナデ調整	覆土中	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(9.0)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	赤褐	普通	外面貝殻条痕文を施文後，磨り消しヵ	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	縦・斜位の細沈線	覆土中	5％ 三戸式

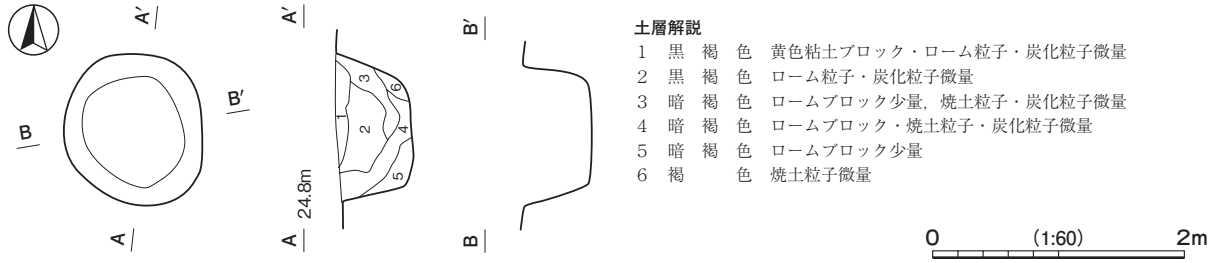
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
4	鏃	(2.5)	(2.3)	0.8	(4.52)	チャート	石鏃未製品	覆土中	PL34

第 40 号土坑（第 143・144 図　PL22）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ 4c9 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 1.24 m，短径 1.12 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 33°－Ｗである。底面は平坦で，深さは 60㎝である。壁はほぼ直立している。

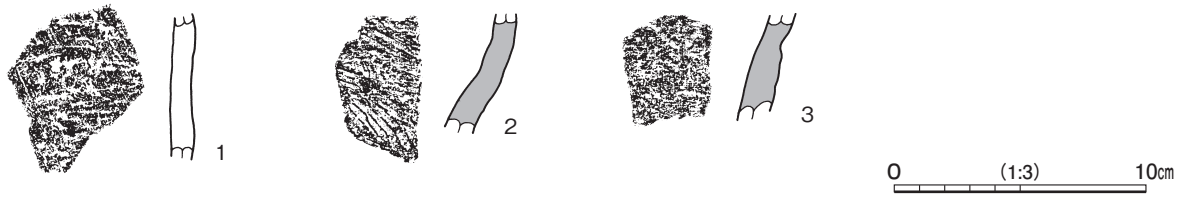


第 143 図　第 40 号土坑実測図

覆土　６層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 12 点（深鉢）が出土している。２・３は覆土中から出土している。１は埋め戻しの混入である。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 144 図　第 40 号土坑出土遺物実測図

第 40 号土坑出土遺物観察表（第 144 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英	明赤褐	普通	棒状の工具による条痕	覆土中	５％ 浮島式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・ 繊維	赤褐	普通	外面板状の工具によるナデ調整	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・ 繊維	赤褐	普通	外面板状工具によるナデ調整ヵ	覆土中	５％ 茅山下層式

第 52 号土坑（第 145 ～ 147 図　PL22）

調査年度　平成 30 年度

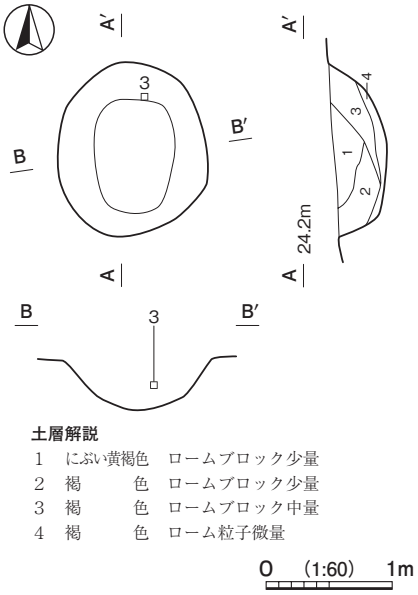
位置　調査区中央部のＤ４h2 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 1.40 m，短径 1.18 mの楕円形で，長径方向はＮ－０°である。底面は皿状で，深さは 38cmである。壁は外傾している。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片３点（深鉢），石製品１点（玦状耳飾）が出土している。３は覆土中層，１・２は覆土中から出土している。

所見　玦状耳飾が北側の覆土中層から検出され，周囲にも同規模の土坑が確認されていることから，土坑墓の可能性が高い。時期は，出土土器から早期後葉である。

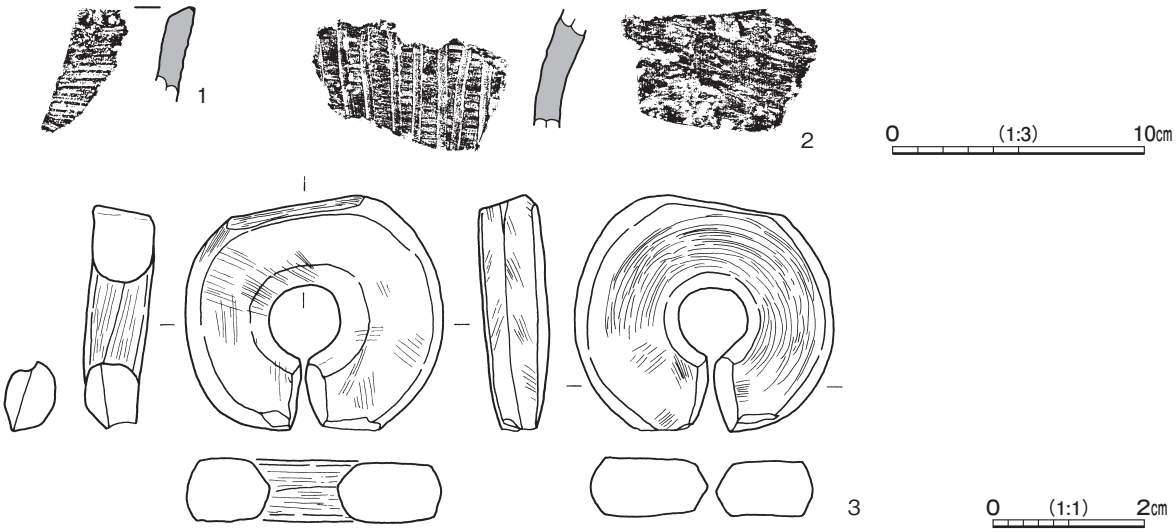


第 145 図　第 52 号土坑実測図

第 52 号土坑出土遺物観察表（第 146 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	口唇部に棒状の工具による刻み　外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	外面角棒状の工具による条痕	覆土中	５％ 茅山下層式

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
3	玦状耳飾	3.1	3.4	0.9	13.93	ネフライト	裏面に同心円状の擦痕	覆土中層	PL34



第 146 図　第 52 号土坑出土遺物実測図

玦状耳飾の自然科学分析　　パリノ・サーヴェイ株式会社

1　分析方法

セイコーインスツルメンツ（株）製エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置（SEA2120L）を利用した非破壊分析により，化学組成を求める。本装置は，下面照射型の装置であり，X 線管球は Rh，コリメーターサイズは 10mm ϕ である。本調査における測定条件の詳細は，結果とともに第 147 図に掲げる。得られた特性 X 線スペクトルは元素定性を実施した後，FP 法（ファンダメンタルパラメーター法）を用いたスタンダードレス分析により定量演算を行い，相対含有率（質量％）を求める。但し，算出された結果はあくまでも半定量的なものであることに留意する必要がある。一方，野外用ルーペを用いて行い，石材表面の鉱物や組織を観察し，蛍光 X 線分析の結果および五十嵐（2006）の分類基準に基づき，岩石名を付した。

2　結果・考察

蛍光 X 線分析により得られた値は，SiO2 に富み，ついで MgO，CaO，Al_2O_3，Fe_2O_3 を伴う組成を示す。肉眼観察および上記の化学組成から，本試料は，トレモラ閃石（Tremolite）- アクチノ閃石（Actinolite）（$Ca_2(Mg,Fe_2)_5SiO_8O_{22}(OH)_2$）を主成分とするネフライト（Nephrite）と判断される。

鉄を全く含まないトレモラ閃石は透明，あるいは白色で，一般的に鉄の含有量が増えるにしたがって緑色が濃くなる。本試料は，白色を呈していることと，化学組成において鉄が僅少であることから，トレモラ閃石を主成分とするトレモラ閃石岩と推測される。ネフライトは，日本国内において，新潟県糸魚川平岩，長野県白馬八方尾根などの産地が知られている（飯塚，2012）。

引用文献

飯塚義之，2012，考古鉱物学：低真空走査型電子顕微鏡（LV － SEM）による玉器の分析とその成果，日本電子ニュース，44，23-39. 五十嵐俊雄，2006，考古資料の岩石学．パリノ・サーヴェイ株式会社，194p

［定量結果］

MgO	24.10(wt%)	176.634(± 0.897)(cps)
Al2O3	2.79(wt%)	30.238(± 0.399)(cps)
SiO2	58.68(wt%)	1197.228(± 2.308)(cps)
CaO	11.96(wt%)	555.298(± 1.585)(cps)
MnO	0.07(wt%)	3.970(± 0.209)(cps)
Fe2O3	2.37(wt%)	167.126(± 0.879)(cps)
CuO	0.01(wt%)	1.350(± 0.194)(cps)
ZnO	0.01(wt%)	2.084(± 0.212)(cps)

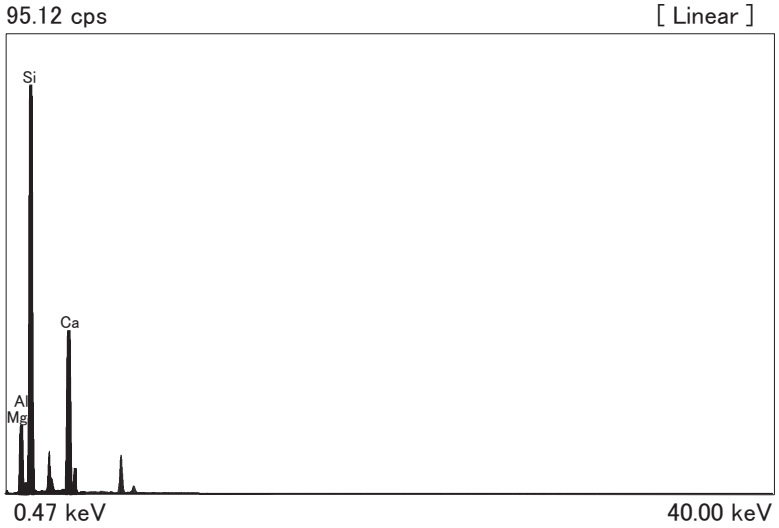
［測定条件］

測定装置	SEA2120L
管球ターゲット元素	Rh

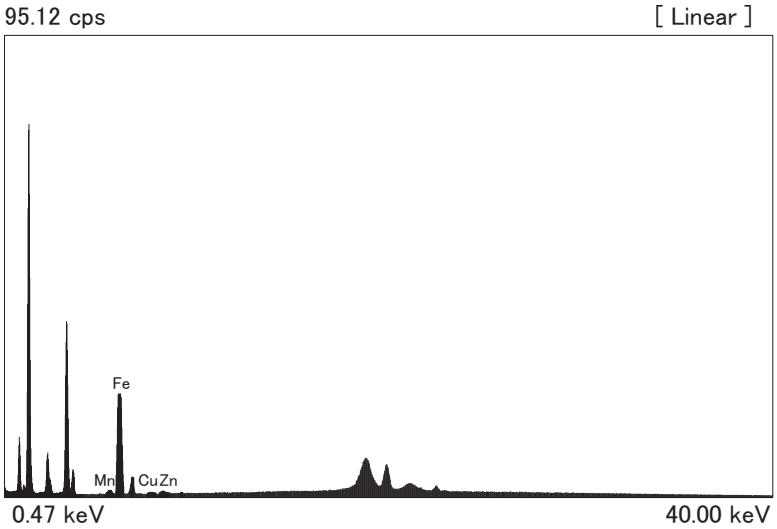
	測定条件 1	測定条件 2
測定時間（秒）	300	300
有効時間（秒）	226	224
コリメータ	φ10.0mm	φ10.0mm
励起電圧（kV）	15	50
管電流（μA）	62	10
フィルター	なし	なし
マイラー	OFF	OFF
雰囲気	真空	真空

［X線スペクトル］

〈測定条件 1〉

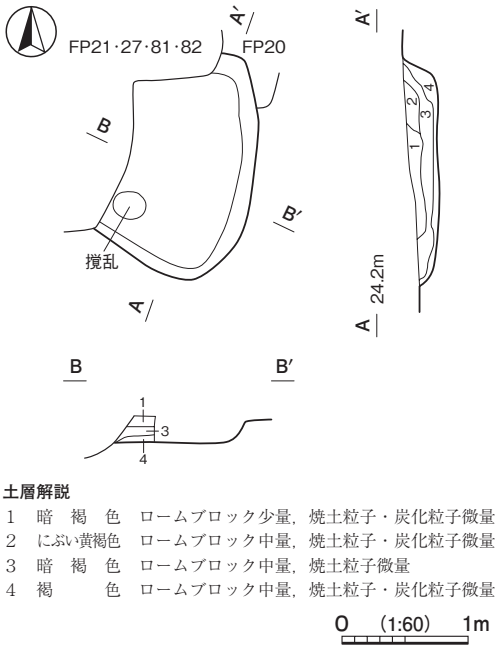


〈測定条件 2〉



第 147 図　第 52 号土坑玦状耳飾の蛍光X線分析結果

第 56 号土坑（第 148 図　PL16）



土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４h3 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

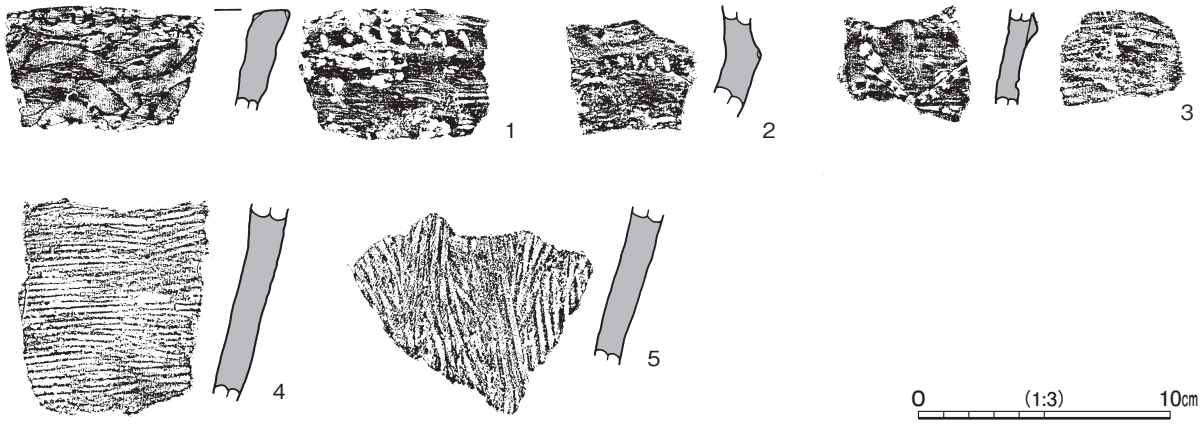
重複関係　第 20 号炉穴を掘り込み，第 21・27・81・82 号炉穴に掘り込まれている。

規模と形状　複数の炉穴と重複しているため，長径 1.81 m，短径は 1.00 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 17°－Ｅの楕円形と推定できる。底面は平坦で，深さは 26㎝である。壁は外傾している。

覆土　４層に分層できる。 レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片 19 点（深鉢）が出土している。１～５は，覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 148 図　第 56 号土坑・出土遺物実測図

第 56 号土坑出土遺物観察表（第 148 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・繊維	暗褐	普通	口唇部に竹管による刻み　指頭による凹線で弧線文を施す	覆土中	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英・礫・繊維	明赤褐	普通	隆帯に竹管による刻み	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	角棒状の工具による押引き	覆土中	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(7.9)	－	長石・石英・礫・繊維	明褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(6.4)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式

第 64 号土坑（第 149 図）

調査年度　平成 30 年度

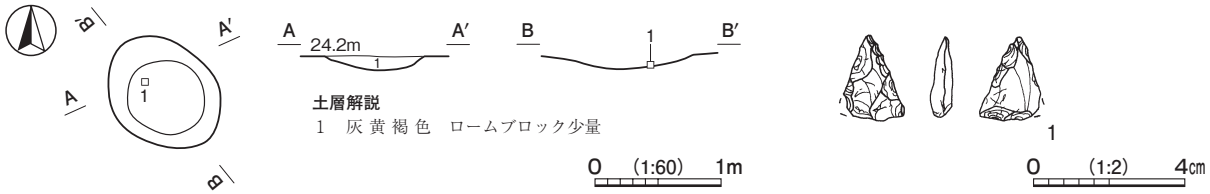
位置　調査区中央部のＤ５e3 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 1.00 m，短径 0.78 mの楕円形で，長径方向はN － 41° － Wである。底面は皿状で，深さは10cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　単一層である。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　石器１点（鏃）が出土している。１は底面から出土している。

所見　時期は，周囲の遺構の状況と出土遺物から早期後葉である。



第 149 図　第 64 号土坑・出土遺物実測図

第 64 号土坑出土遺物観察表（第 149 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
1	鏃	2.2	(1.6)	0.6	(1.52)	流紋岩	微細剥離痕	底面	PL34

第 72 号土坑（第 150・151 図　PL22）

調査年度　平成 30 年度

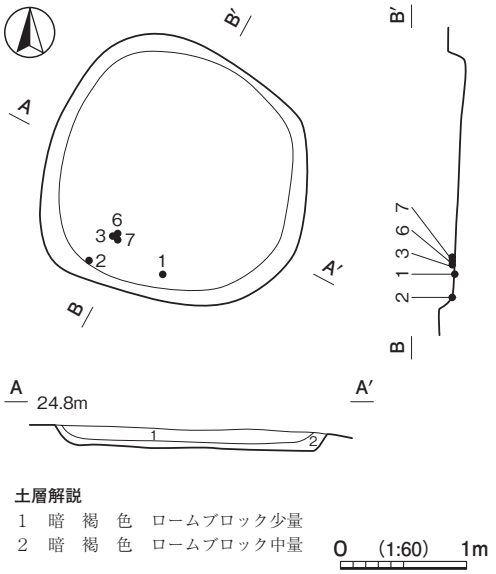
位置　調査区中央部のＣ４i9 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 2.22 m，短径 2.20 mの不整円形である。底面は平坦で，深さは 14cmである。壁は外傾している。

覆土　２層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片 40 点（深鉢）が出土している。１～３・６・７は底面から，４・５・８・９は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 150 図　第 72 号土坑実測図

第 72 号土坑出土遺物観察表（第 151 図）

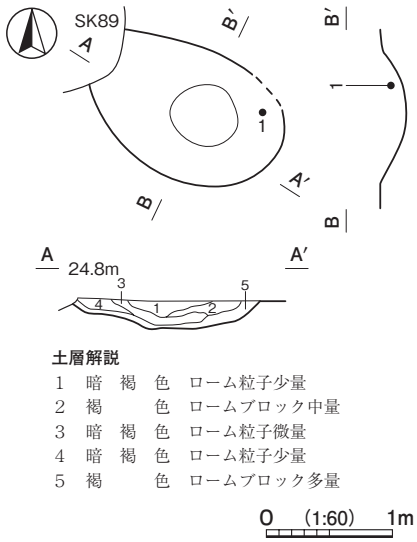
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	外面貝殻条痕文を施文後，磨り消し	底面	５％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	赤褐	普通	口唇部に棒状の工具による刻み　口縁部に連続刺突	底面	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	口唇部に竹管による刻み	底面	５％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.5)	－	長石・石英・礫・繊維	にぶい橙	普通	口唇部・隆帯に棒状の工具による刻み	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(2.6)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部に竹管による刻み　口縁部に棒状の工具による条痕	覆土中	５％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(10.0)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	隆帯に丸棒状の工具による刻み	底面	５％ 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(7.9)	－	長石・石英・繊維	黒褐	普通	外・内面貝殻条痕文	底面	５％ 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・雲母・礫・繊維	明褐	普通	外面貝殻条痕文を施文後，磨り消し	覆土中	５％ 茅山下層式
9	縄文土器	深鉢	－	(3.7)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	隆帯に丸棒状の工具による刻み　指頭による凹線	覆土中	５％ 茅山下層式

第 151 図　第 72 号土坑出土遺物実測図

第 88 号土坑（第 152 図　PL22）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＣ 4 j9 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。



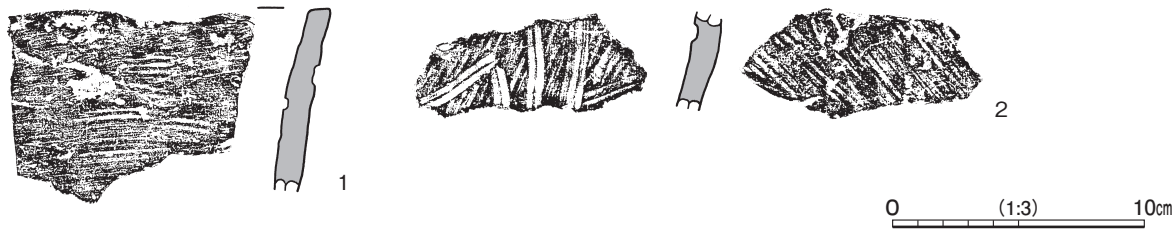
重複関係　第 89 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　第 89 号土坑に掘り込まれているため，短径 1.02 m，長径は 1.46 mしか確認できなかった。長径方向はＮ－ 57°－ Ｗの楕円形と推定できる。底面は皿状で，深さは 22cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片５点（深鉢）が出土している。１は覆土中層から，２は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 152 図　第 88 号土坑・出土遺物実測図

第 88 号土坑出土遺物観察表（第 152 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・繊維	褐灰	普通	外面貝殻条痕文を施文後，磨り消し　内面板状の工具によるナデ調整	覆土中層	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	外面棒状の工具による凹線	覆土中	5％ 茅山下層式

第 111 号土坑（第 153 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５b5 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

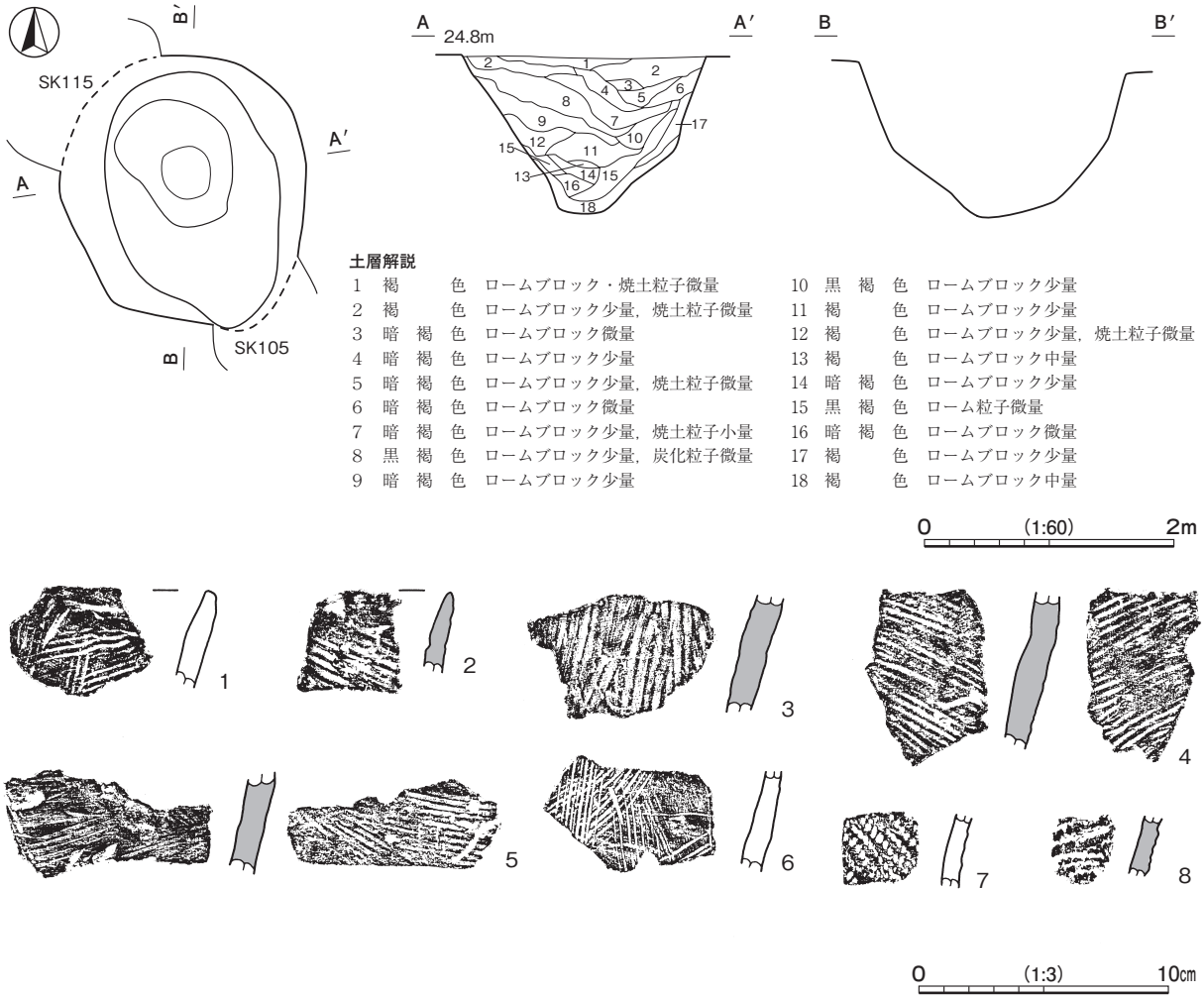
重複関係　第 105・115 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 2.14 m，短径 1.96 mのほぼ円形である。底面は平坦で，深さは 62㎝である。壁は外傾している。

覆土　18 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片 40 点（深鉢）が出土している。２～５・８は覆土中から出土している。１・６・７は，埋め戻しの混入である。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。



第 153 図　第 111 号土坑出土遺物実測図

第 111 号土坑出土遺物観察表（第 153 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 三戸式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	口唇部に丸棒状の工具による刻み　外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外面棒状の工具による条痕　内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外面棒状の工具による縦・斜位の細沈線	覆土中	5％ 三戸式
7	縄文土器	深鉢	－	(3.0)	－	長石・石英・細礫	にぶい褐	普通	単節縄文 RL	覆土中	5％ 諸磯式
8	縄文土器	深鉢	－	(2.5)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	貝殻腹縁圧痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

第 123 号土坑（第 154 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４b5 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

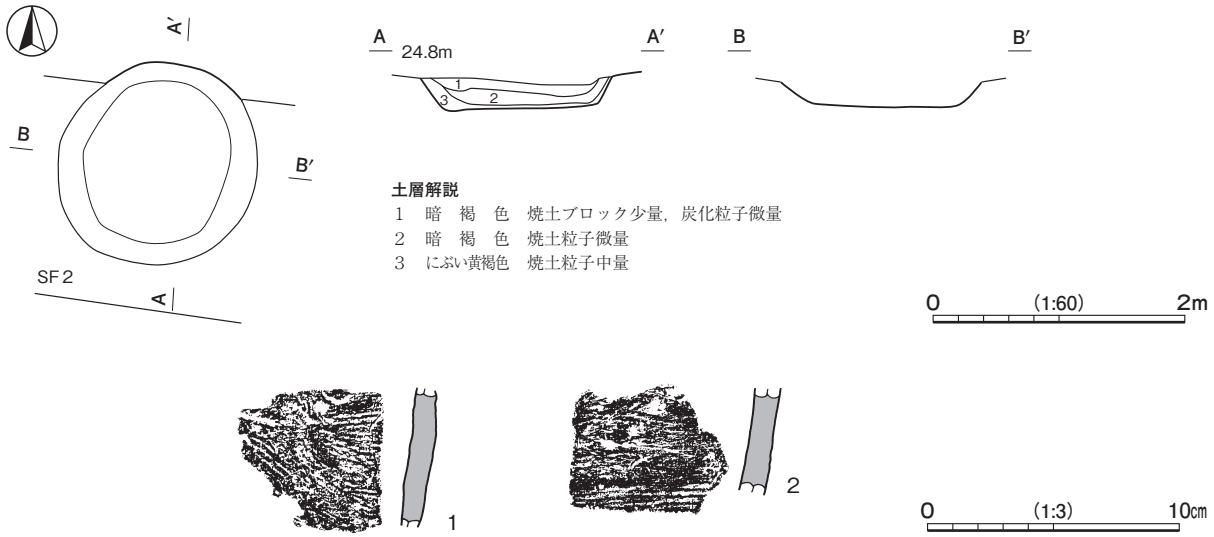
重複関係　第２号道路に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.62 m，短径 1.55 mのほぼ円形である。底面は平坦で，深さは 20㎝である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片６点（深鉢）が出土している。１・２は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後葉である。

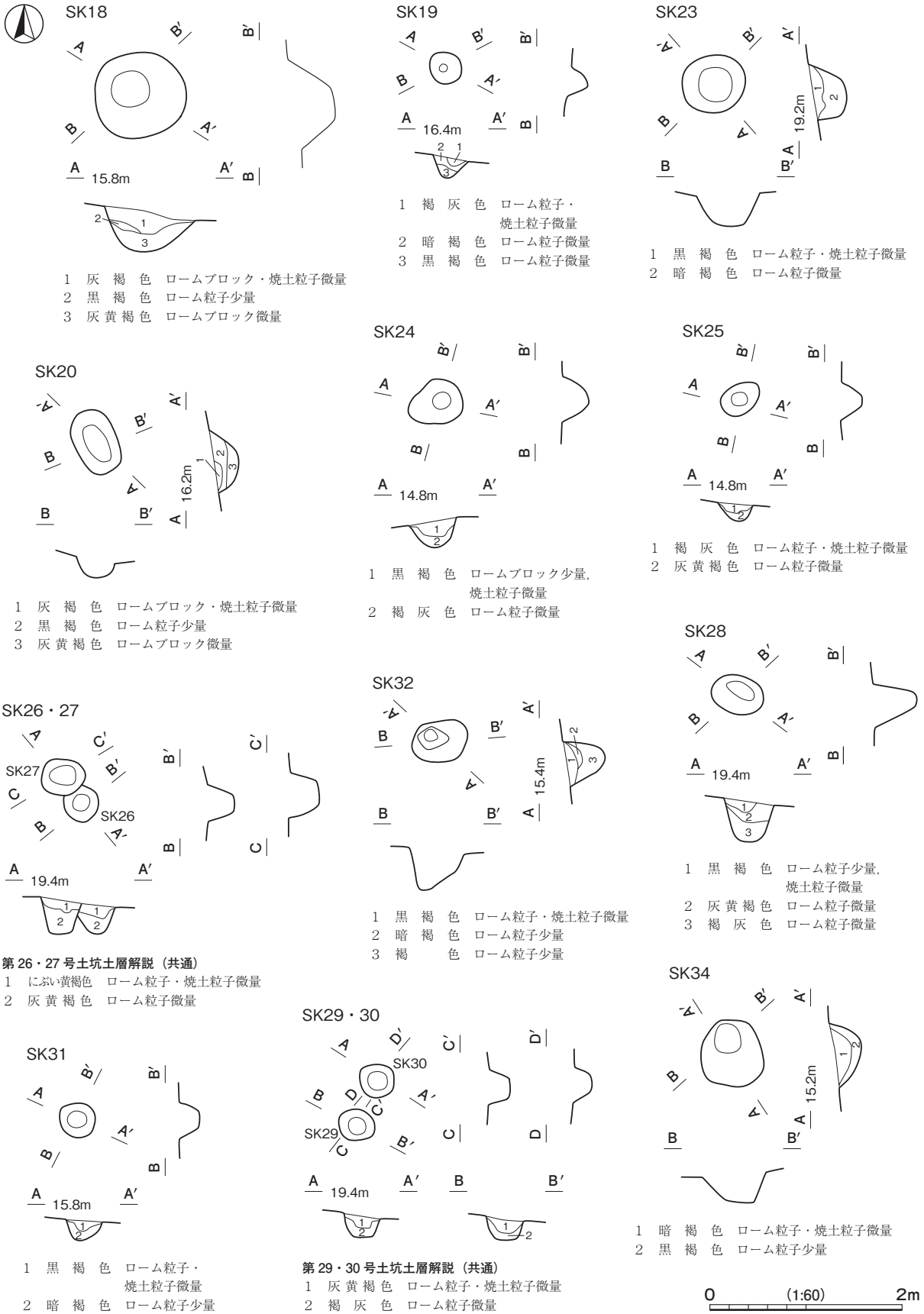


第 154 図　第 123 号土坑・出土遺物実測図

第 123 号土坑出土遺物観察表（第 154 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	5％ 茅山下層式

その他の土坑93基は，実測図及び一覧表を掲載する。



SK18
1 灰 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 灰黄褐色 ロームブロック微量

SK19
1 褐 灰 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量
3 黒 褐 色 ローム粒子微量

SK23
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子微量

SK20
1 灰 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 灰黄褐色 ロームブロック微量

SK24
1 黒 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子微量
2 褐 灰 色 ローム粒子微量

SK25
1 褐 灰 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 灰黄褐色 ローム粒子微量

SK26・27
第26・27号土坑土層解説（共通）
1 にぶい黄褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 灰黄褐色 ローム粒子微量

SK32
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ローム粒子少量

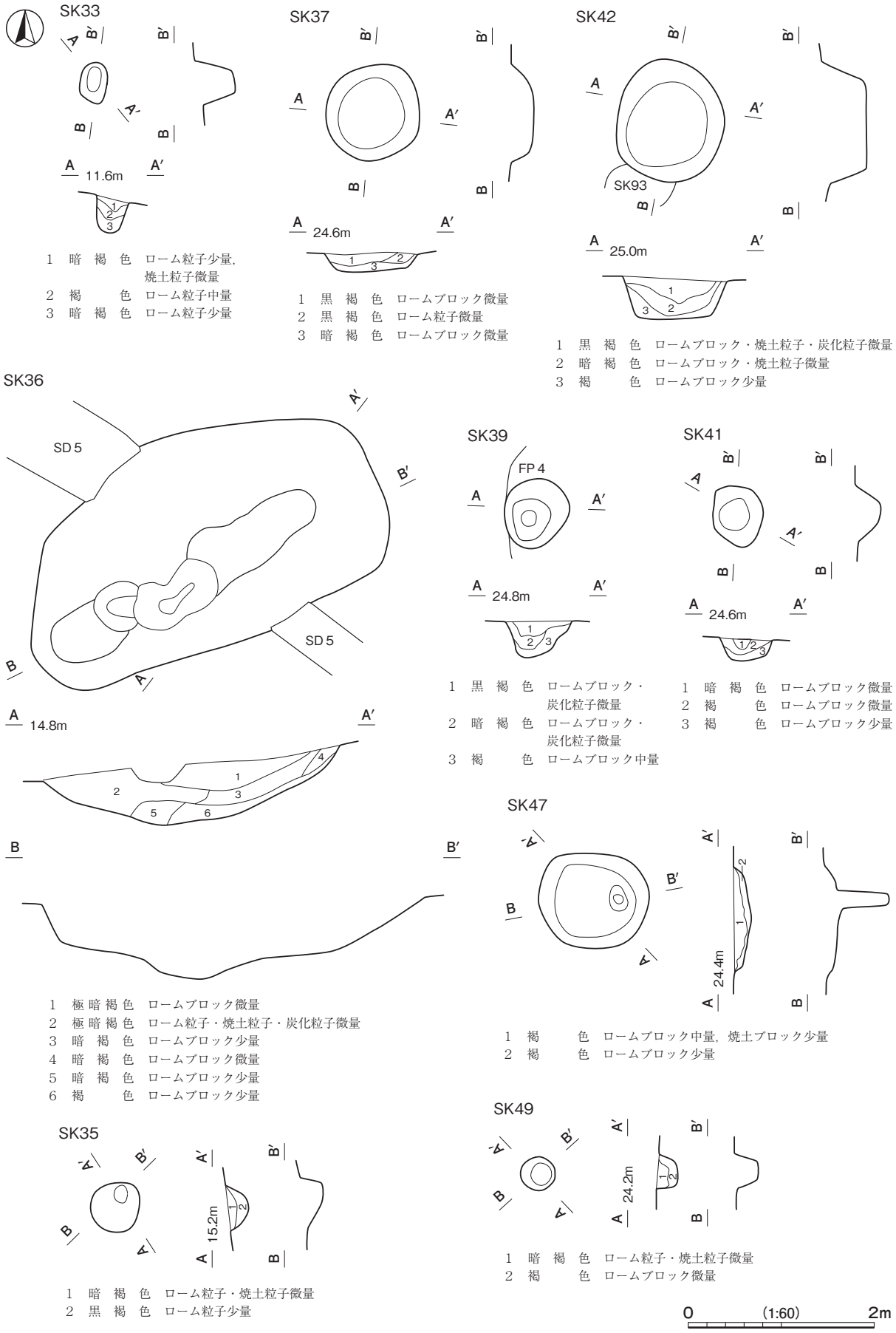
SK28
1 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 灰黄褐色 ローム粒子微量
3 褐 灰 色 ローム粒子微量

SK31
1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量

SK29・30
第29・30号土坑土層解説（共通）
1 灰黄褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 褐 灰 色 ローム粒子微量

SK34
1 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量

第155図 縄文時代土坑実測図(1)



1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量

1　黒　褐　色　ロームブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

1　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

1　極暗褐色　ロームブロック微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　暗　褐　色　ロームブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック少量

1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

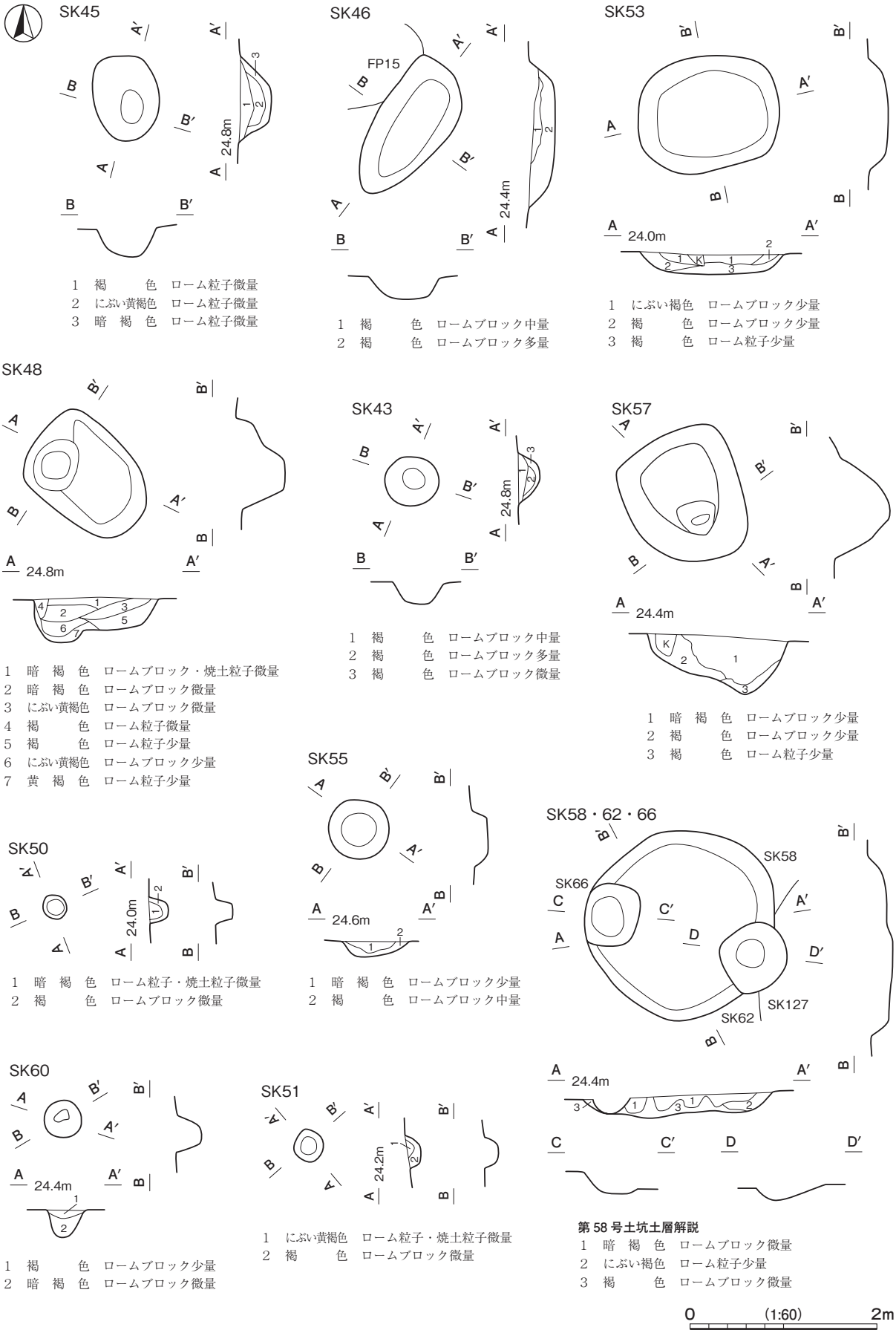
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土ブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

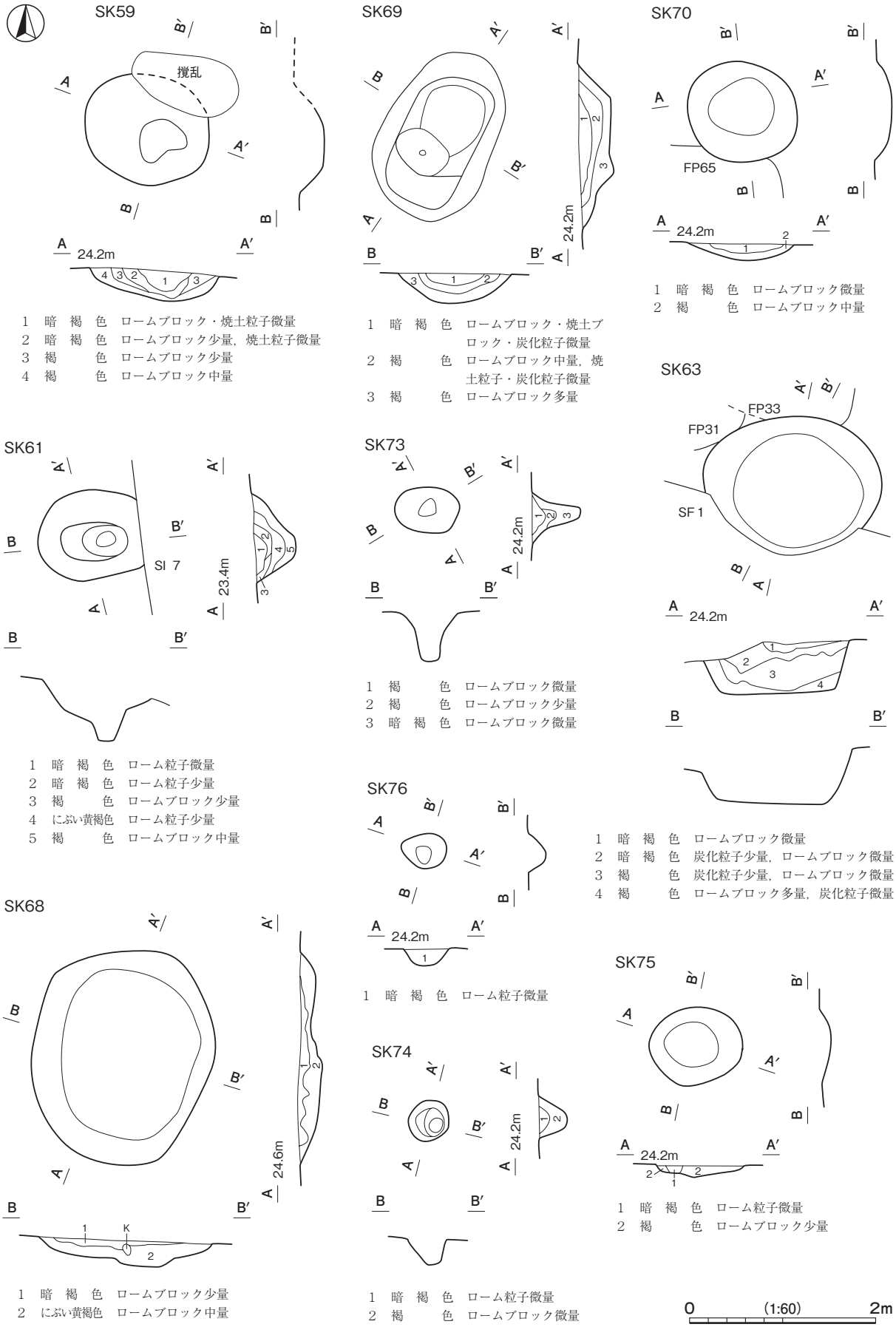
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量

1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック微量

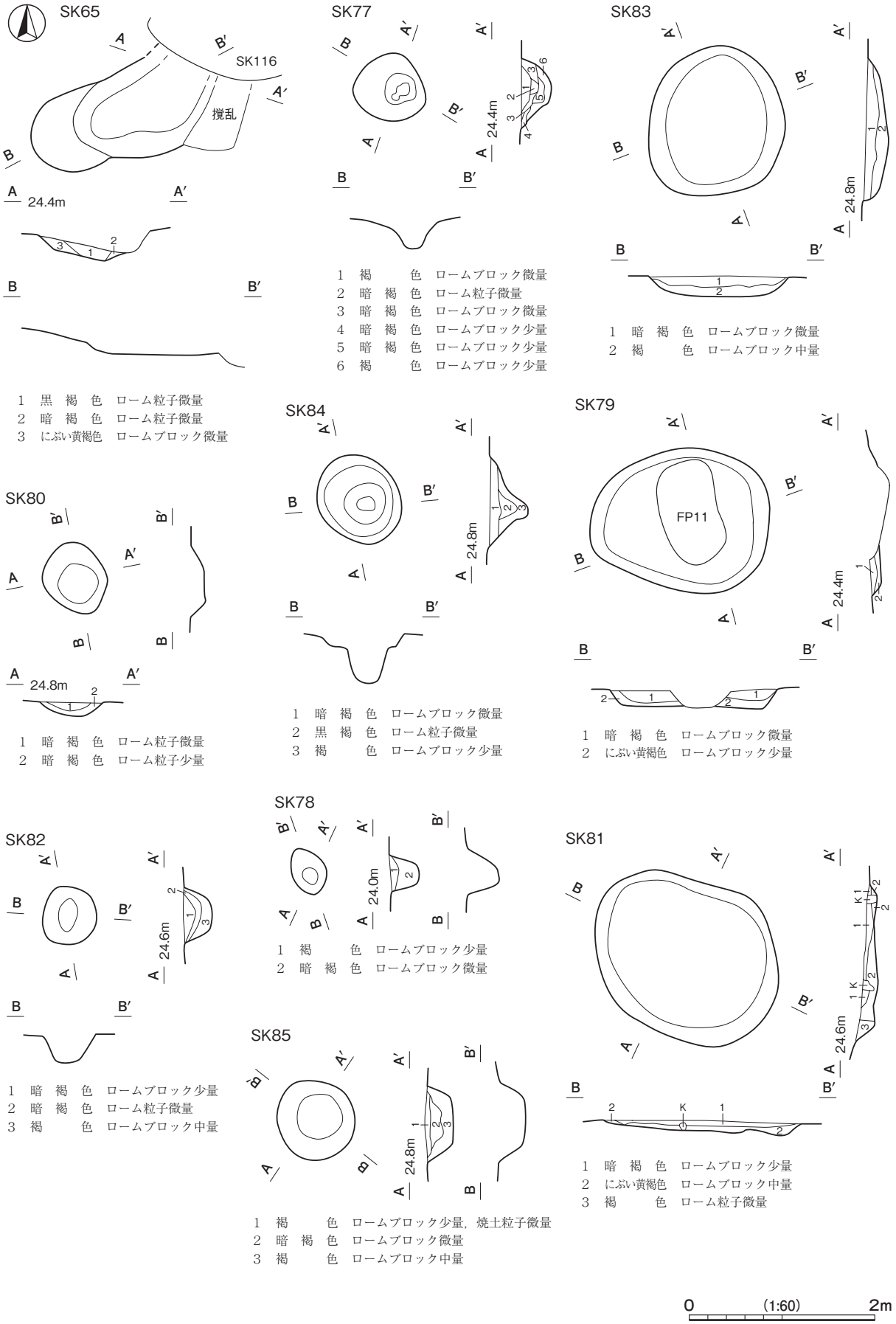
第 156 図　縄文時代土坑実測図 (2)



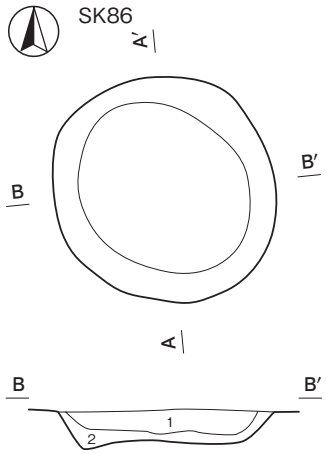
第 157 図 縄文時代土坑実測図 (3)



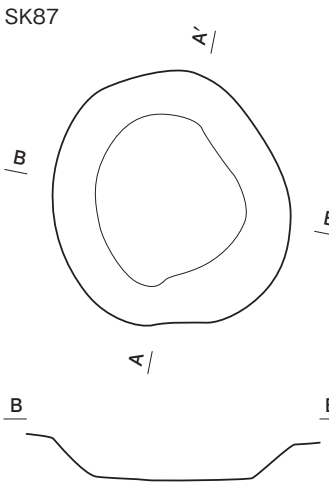
第 158 図 縄文時代土坑実測図 (4)



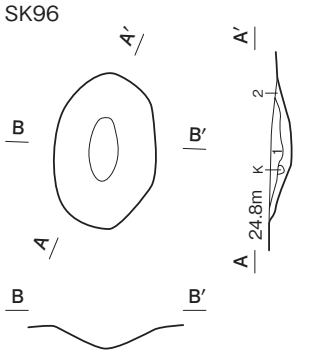
第 159 図 縄文時代土坑実測図 (5)



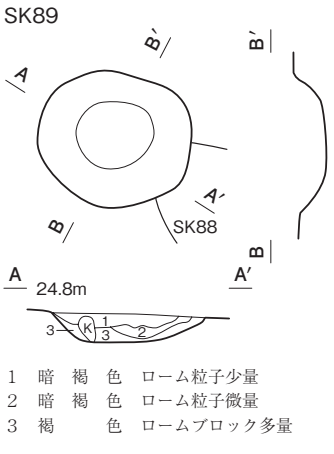
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　黄　褐　色　ロームブロック多量



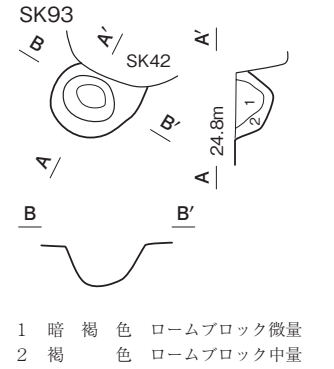
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック多量
4　黄　褐　色　ロームブロック多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量



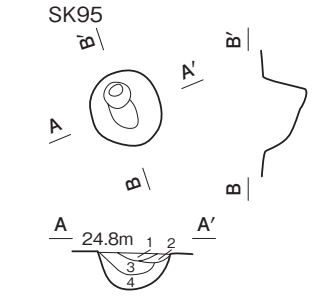
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック少量



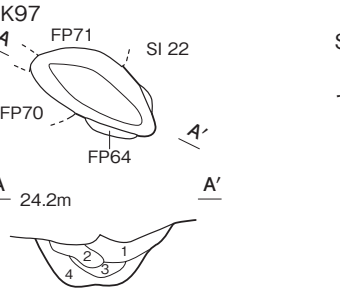
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック多量



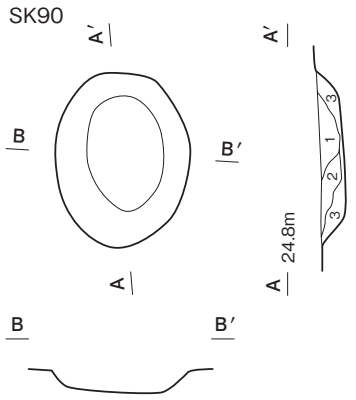
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック中量



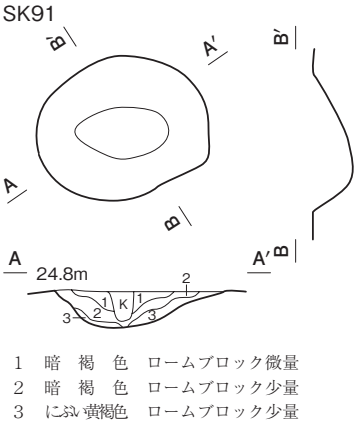
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　黄　褐　色　ロームブロック多量



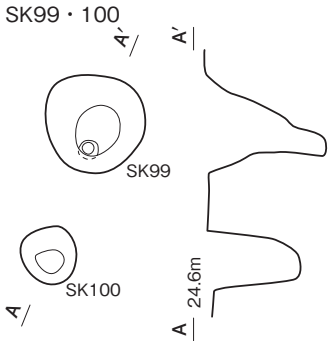
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子微量

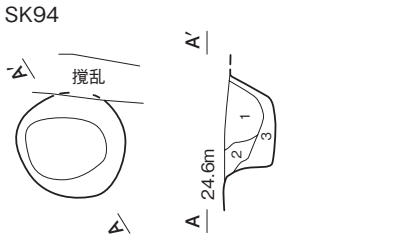


1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ロームブロック少量



1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

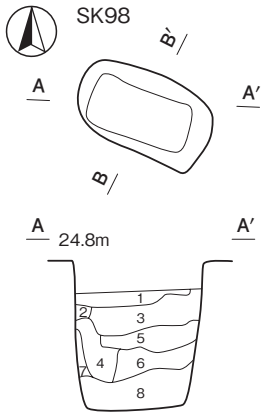




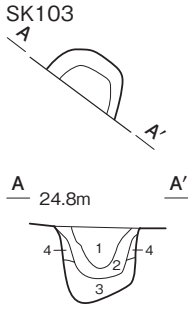
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子少量

0　(1:60)　2m

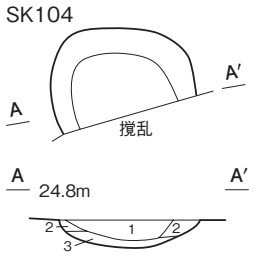
第 160 図　縄文時代土坑実測図 (6)



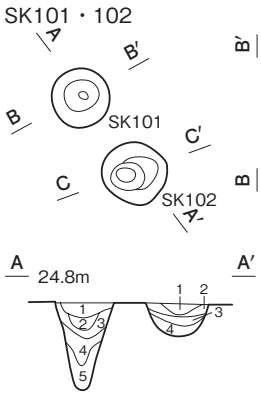
1 褐　色　ロームブロック少量
2 にぶい黄褐色　ロームブロック微量
3 黒　褐　色　ローム粒子微量
4 暗　褐　色　ローム粒子微量
5 にぶい黄褐色　ローム粒子微量
6 にぶい黄褐色　ロームブロック少量
7 暗　褐　色　ロームブロック少量
8 暗　褐　色　ロームブロック中量



1 黒　褐　色　ロームブロック微量
2 暗　褐　色　ロームブロック微量
3 黒　褐　色　ローム粒子微量
4 暗　褐　色　ロームブロック少量

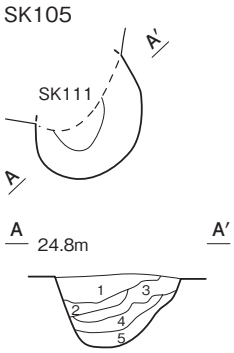


1 褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2 褐　色　ローム粒子少量
3 暗　褐　色　ロームブロック微量

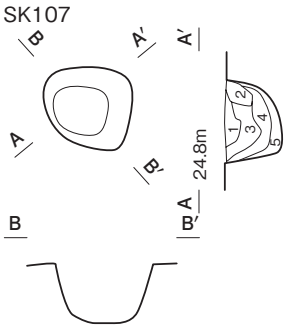


第 101 号土坑土層解説
1 黒　褐　色　ローム粒子微量
2 黒　褐　色　ローム粒子少量
3 暗　褐　色　ローム粒子微量
4 灰黄褐色　ローム粒子少量
5 にぶい黄褐色　ローム粒子中量

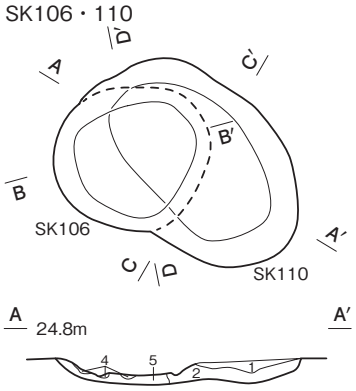
第 102 号土坑土層解説
1 暗　褐　色　ローム粒子少量
2 暗　褐　色　ロームブロック微量
3 にぶい黄褐色　ロームブロック少量
4 褐　色　ロームブロック少量



1 暗　褐　色　ロームブロック少量
2 黒　褐　色　ロームブロック微量
3 褐　色　ロームブロック少量
4 暗　褐　色　ロームブロック少量
5 褐　色　ロームブロック少量

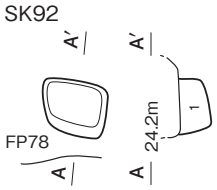


1 暗　褐　色　ローム粒子微量
2 にぶい黄褐色　ローム粒子中量
3 暗　褐　色　ロームブロック微量
4 にぶい黄褐色　ロームブロック少量
5 にぶい黄褐色　ロームブロック微量

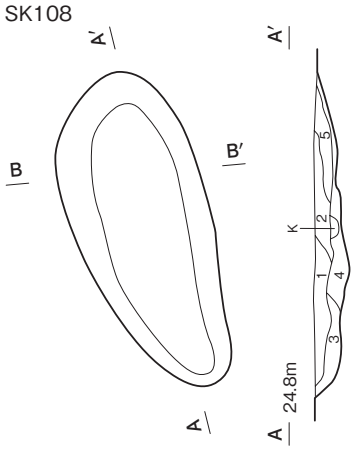


第 106 号土坑土層解説
1 暗　褐　色　ロームブロック中量
2 暗　褐　色　ローム粒子微量
3 にぶい黄褐色　ロームブロック少量

第 110 号土坑土層解説
1 暗　褐　色　ローム粒子微量
2 暗　褐　色　ローム粒子少量
3 にぶい黄褐色　ローム粒子少量
4 暗　褐　色　ローム粒子微量
5 褐　色　ローム粒子中量



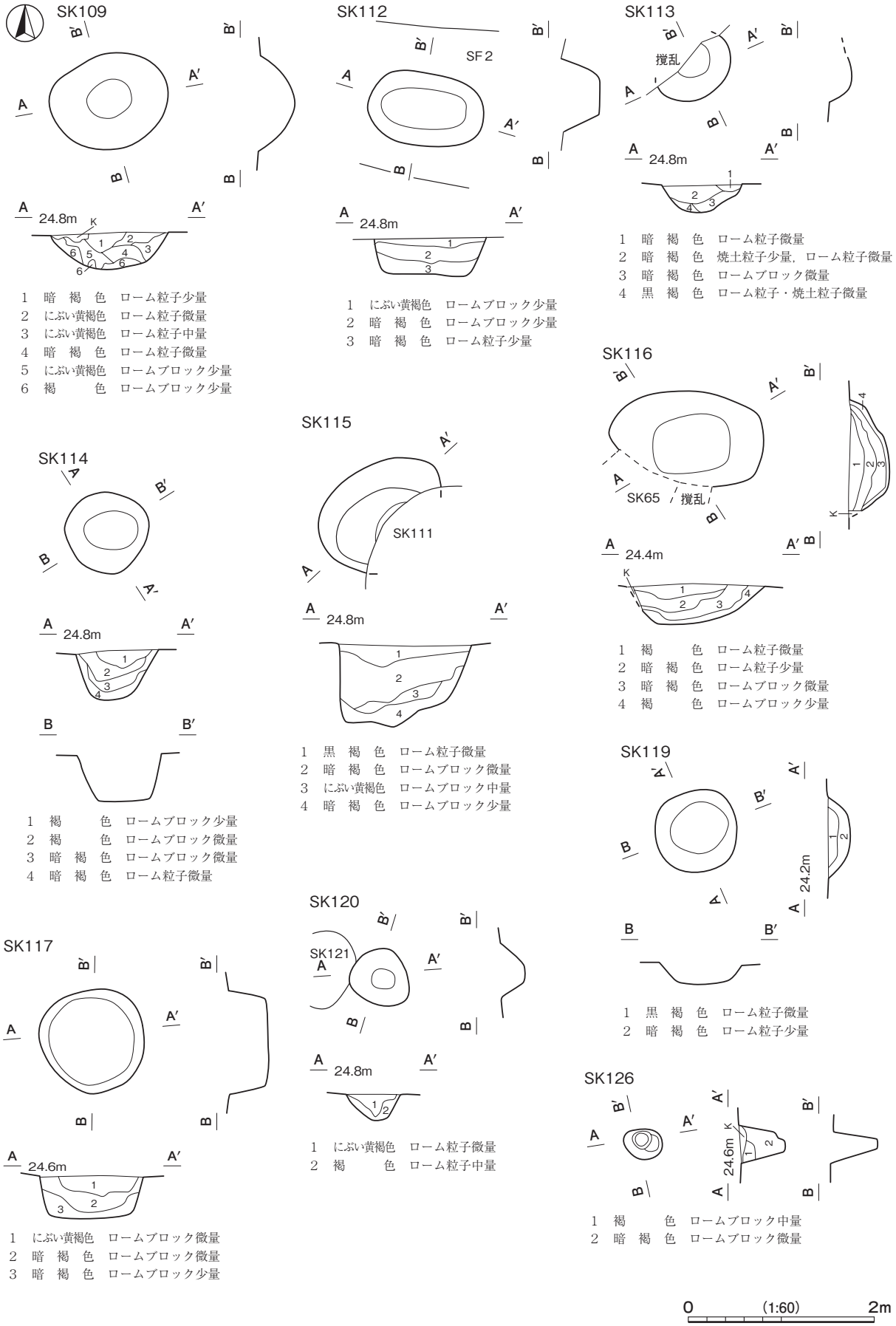
1 にぶい黄褐色　ローム粒子少量



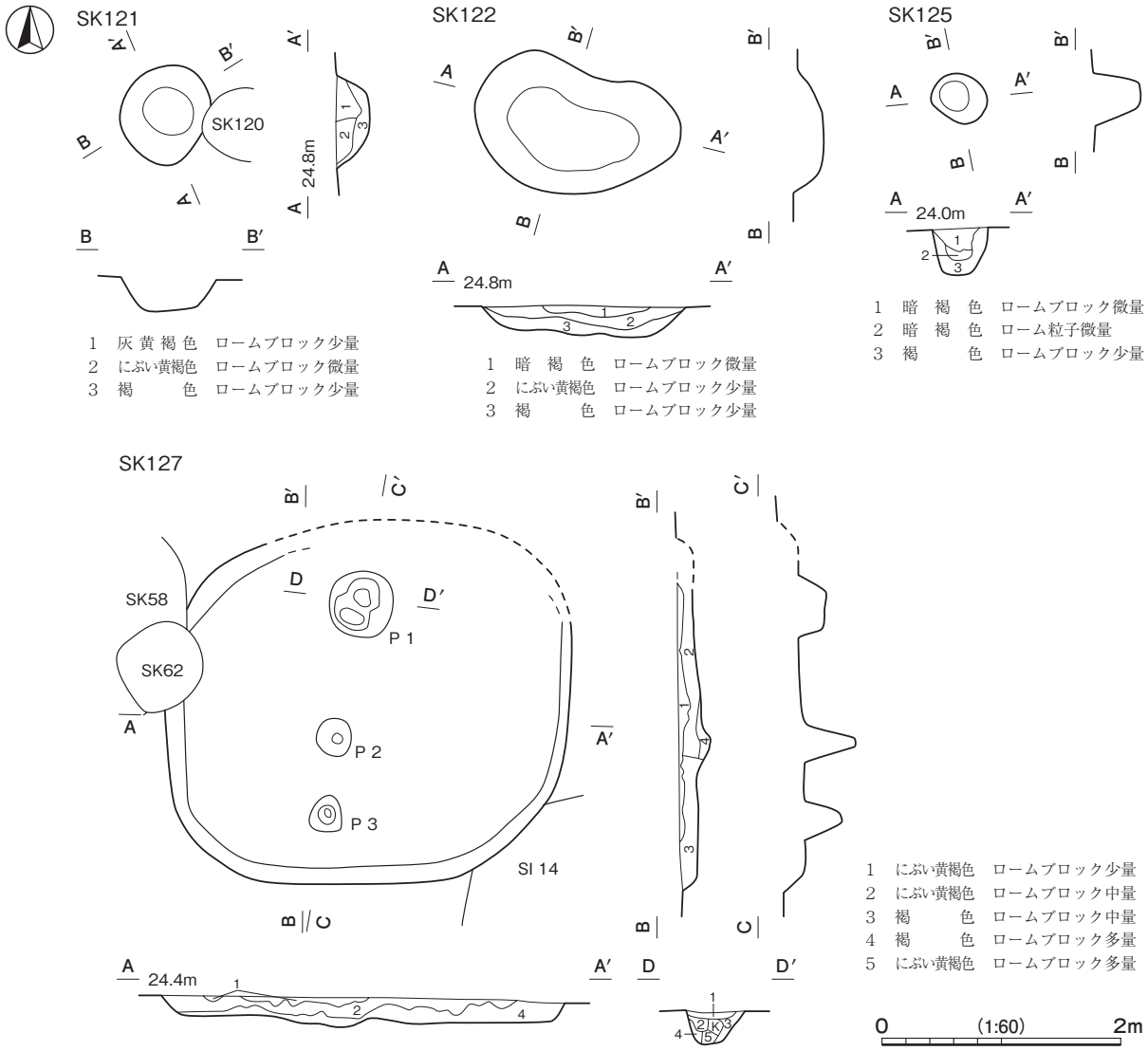
1 暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 にぶい黄褐色　ローム粒子多量
4 褐　色　ローム粒子多量
5 にぶい黄褐色　ローム粒子微量

0　(1:60)　2m

第 161 図　縄文時代土坑実測図 (7)



第 162 図　縄文時代土坑実測図 (8)



第 163 図 縄文時代土坑実測図 (9)

表 7 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
18	E 5 j5	−	円形	0.95 × 0.95	45	皿状	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	HG 1→本跡
19	E 5 h4	−	円形	0.34 × 0.32	22	皿状	外傾	人為	縄文土器（三戸式･茅山下層式）	HG 1→本跡
20	E 5 h4	N − 27° − W	楕円形	0.67 × 0.44	22	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	HG 1→本跡
23	E 4 f9	−	楕円形	0.65 × 0.60	37	皿状	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	HG 1→本跡
24	E 5 i6	N − 67° − E	不整楕円形	0.60 × 0.44	26	皿状	外傾	人為	−	HG 1→本跡
25	E 5 i6	N − 36° − E	楕円形	0.32 × 0.43	20	皿状	外傾	人為	−	HG 1→本跡
26	E 4 e0	−	円形	0.37 × 0.36	30	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	HG 1→本跡→SK27
27	E 4 e0	N − 88° − E	楕円形	0.45 × 0.38	32	平坦	外傾ほぼ直立	人為	縄文土器（茅山下層式）	SK26, HG 1→本跡
28	E 4 e0	N − 72° − W	楕円形	0.54 × 0.40	45	皿状	外傾ほぼ直立	人為	−	HG 1→本跡
29	E 4 e0	−	円形	0.38 × 0.36	22	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	HG 1→本跡
30	E 4 e0	−	円形	0.38 × 0.38	21	皿状	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	HG 1→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
31	E 5 g7	−	円形	0.36 × 0.34	20	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	HG 1 →本跡
32	E 5 h6	N − 58° − E	楕円形	0.60 × 0.44	44	皿状	外傾 ほぼ直立	自然	縄文土器（茅山下層式）	HG 1 →本跡
33	E 5 h6	N − 10° − E	楕円形	0.40 × 0.28	38	皿状	ほぼ直立	自然	縄文土器（茅山下層式）	HG 1 →本跡
34	E 5 g8	N − 15° − W	楕円形	0.72 × 0.65	30	皿状	外傾	自然	−	HG 1 →本跡
35	E 5 g8	N − 40° − E	楕円形	0.58 × 0.52	23	皿状	外傾 緩斜	自然	−	HG 1 →本跡
36	E 5 h9	N − 61° − E	楕円形	4.14 × 2.35	84	皿状	緩斜	人為	縄文土器（浮島式）	HG 1 →本跡→ SD 5
37	D 4 d0	−	円形	1.08 × 1.00	22	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
38	D 3 e9	−	円形	1.72 × 1.58	62	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器（三戸式･茅山下層式）	
39	D 4 d9	N − 33° − E	楕円形	0.78 × 0.68	38	皿状	外傾	人為	−	FP 4 →本跡
40	D 4 c9	−	円形	1.24 × 1.12	60	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器（茅山下層式, 浮島式）	
41	D 4 d0	N − 20° − W	楕円形	0.66 × 0.52	26	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
42	D 4 c3	N − 3 ° − E	楕円形	1.30 × 1.15	45	平坦	外傾	人為	縄文土器（黒浜式）	SK93 →本跡
43	D 4 c2	−	円形	0.58 × 0.54	23	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
45	D 4 c1	N − 13° − W	楕円形	0.90 × 0.68	30	皿状	外傾 緩斜	人為	−	
46	D 5 e2	N − 36° − E	楕円形	1.56 × 0.75	24	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP15 →本跡
47	D 5 f1	N − 89° − W	楕円形	1.17 × 1.02	24	皿状	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
48	D 4 c9	N − 48° − W	楕円形	1.38 × 1.00	20	有段	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	
49	D 4 g6	−	円形	0.38 × 0.36	25	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	
50	D 4 g0	−	円形	0.28 × 0.26	18	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
51	D 4 g9	−	円形	0.35 × 0.34	14	皿状	外傾	自然	−	
52	D 4 h2	N − 0 °	楕円形	1.40 × 1.18	38	皿状	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）, 石製品（玦状耳飾）	土坑墓ヵ
53	D 4 h2	N − 83° − E	隅丸長方形	1.54 × 1.24	20	平坦	外傾	人為	−	土坑墓ヵ
55	D 4 e1	−	円形	0.62 × 0.62	14	平坦	外傾 緩斜	人為	−	
56	D 4 h3	N − 17° − E	［楕円形］	1.81 × (1.00)	26	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP20 →本跡→ FP21・ 27・81・82
57	D 3 g0	N − 44° − W	楕円形	1.40 × 1.20	54	平坦	外傾	人為	−	
58	D 5 c2	−	［円形］	2.01 × (2.00)	24	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	SK127 →本跡 → SK62・66
59	D 5 f1	N − 67° − W	［楕円形］	1.30 × (1.18)	28	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
60	D 5 d4	−	円形	0.39 × 0.39	24	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
61	D 5 h5	N − 88° − E	［楕円形］	(1.10) × 0.95	67	有段	外傾	人為	縄文土器（黒浜式・浮島式）	本跡→ SI 7
62	D 5 c2	N − 13° − E	楕円形	0.80 × 0.72	16	皿状	緩斜	−	−	SK58・127 →本跡
63	D 4 h1	N − 63° − W	楕円形	1.85 × 1.55	32	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	FP33 →本跡→ SF 1
64	D 5 e3	N − 41° − W	楕円形	1.00 × 0.78	10	皿状	緩斜	自然	石器（鏃）	
65	D 5 d5	N − 60° − E	［楕円形］	(1.93) × 0.96	25	平坦	緩斜	人為	縄文土器（鵜ヶ島台式・茅山下層式）	本跡→ SK116
66	D 5 c2	N − 70° − E	楕円形	0.68 × 0.54	12	皿状	緩斜	−	−	SK58 →本跡
68	D 4 d0	N − 18° − E	楕円形	2.32 × 1.90	24	有段	緩斜	人為	縄文土器（早期終末）	
69	D 4 g1	N − 23° − E	楕円形	1.98 × 1.22	30	有段	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	土坑墓ヵ
70	D 5 a4	−	円形	1.16 × 1.08	18	皿状	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	FP65 →本跡
72	C 4 i9	−	不整円形	2.22 × 2.20	14	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
73	D 5 b5	N − 75° − W	楕円形	0.64 × 0.50	48	平坦	ほぼ直立	人為	−	
74	D 5 b4	−	円形	0.44 × 0.42	26	皿状	外傾	自然	−	
75	D 5 d3	N − 76° − E	楕円形	1.00 × 0.84	5	皿状	緩斜	人為	−	
76	D 5 d3	N − 70° − W	楕円形	0.50 × 0.40	18	皿状	外傾	自然	−	
77	D 5 a4	−	円形	0.74 × 0.70	30	平坦	外傾	人為	縄文土器（三戸式･茅山下層式）	
78	D 5 b6	N − 26° − W	楕円形	0.52 × 0.36	32	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
79	D 5 e4	N − 80° − W	楕円形	1.85 × 1.48	20	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ FP11
80	C 4 i8	N − 20° − W	楕円形	0.78 × 0.64	18	平坦	外傾 緩斜	自然	−	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
81	C 4 g5	N－60°－W	楕円形	2.14 × 1.71	18	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
82	D 4 g0	N－16°－E	円形	0.62 × 0.54	30	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
83	C 4 h8	N－9°－W	楕円形	1.64 × 1.45	22	平坦	緩斜	人為	縄文土器（三戸式）	
84	C 4 i7	N－40°－W	楕円形	0.98 × 0.86	32	皿状	外傾 ほぼ直立	自然	－	
85	C 4 h6	－	円形	0.88 × 0.83	30	平坦	外傾	人為	－	
86	C 4 i7	－	円形	1.86 × 1.74	30	平坦	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	
87	C 4 i8	N－25°－W	楕円形	2.06 × 1.84	33	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	
88	C 4 j9	N－57°－W	［楕円形］	（1.46）× 1.02	22	皿状	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ SK89
89	C 4 j9	N－80°－W	楕円形	1.20 × 1.08	25	平坦	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	SK88 →本跡
90	D 4 a8	N－1°－W	楕円形	1.37 × 1.07	19	平坦	緩斜	人為	縄文土器（三戸式）	
91	C 4 j8	N－57°－E	楕円形	1.32 × 1.10	30	皿状	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
92	D 4 a5	N－76°－W	［隅丸長方形］	（0.54）×（0.43）	（23）	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ FP78
93	D 4 c2	N－57°－E	［楕円形］	（0.62）× 0.58	32	皿状	外傾	自然	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ SK42
94	D 3 b7	－	［円形］	0.85 × 0.84	39	平坦	外傾 ほぼ直立	人為	縄文土器（茅山下層式）	
95	D 3 b0	－	円形	0.60 × 0.54	34	平坦	外傾 ほぼ直立	人為	縄文土器（鵜ヶ島台式・茅山下層式）	
96	C 4 i6	N－6°－E	楕円形	1.24 × 0.82	18	皿状	緩斜	人為	－	
97	D 3 b6	N－57°－W	楕円形	1.10 × 0.52	50	平坦	外傾	人為	－	本跡→ FP64・70・71，SI22
98	C 4 j3	N－66°－W	隅丸長方形	1.12 × 0.62	112	平坦	直立	人為	縄文土器（茅山下層式）	
99	D 4 a8	－	円形	0.82 × 0.79	95	皿状	外傾 内彎	－	－	
100	D 4 a8	－	円形	0.54 × 0.43	72	皿状	ほぼ直立	－	－	
101	D 3 b4	－	円形	0.46 × 0.46	69	皿状	ほぼ直立	人為	－	
102	D 3 b4	－	円形	0.50 × 0.47	34	皿状	外傾	自然	－	
103	D 3 b4	－	［円形・楕円形］	0.66 ×（0.34）	60	皿状	ほぼ直立	人為	縄文土器（大木式）	
104	D 3 b4	－	［円形・楕円形］	1.13 ×（0.70）	23	皿状	外傾 緩斜	人為	－	
105	D 5 b5	－	［円形・楕円形］	0.83 ×（0.58）	58	皿状	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	SK111 と重複
106	C 3 i8	－	円形	1.20 × 1.10	14	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	SK110 →本跡
107	C 3 j9	N－67°－W	楕円形	0.78 × 0.64	44	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	
108	D 3 b4	N－20°－W	楕円形	2.58 × 1.08	26	凸凹	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式・浮島式）	
109	D 3 a9	N－69°－E	楕円形	1.26 × 1.02	29	皿状	緩斜	人為	縄文土器（茅山下層式）	
110	C 3 i8	N－57°－W	［楕円形］	1.98 × 1.24	16	平坦	外傾	人為	－	本跡→ SK106
111	D 5 b5	－	［円形］	2.14 × 1.96	62	平坦	外傾	人為	縄文土器（三戸式・茅山下層式・諸磯式）	SK105・115 と重複
112	D 4 b1	N－78°－W	楕円形	1.22 × 0.78	38	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ SF 2
113	D 3 b9	N－54°－E	［円形・楕円形］	0.88 ×（0.44）	25	皿状	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	
114	D 3 a9	－	円形	0.86 × 0.84	51	平坦	外傾 ほぼ直立	人為	縄文土器（茅山下層式）	
115	D 5 a4	－	［円形・楕円形］	1.43 ×（0.60）	88	平坦	直立 外傾	人為	縄文土器（茅山下層式）	SK111 と重複
116	D 5 d5	N－77°－W	［楕円形］	1.65 ×（1.00）	42	皿状	緩斜	人為	縄文土器（野島式・茅山下層式）	SK65 →本跡
117	C 3 j4	－	円形	1.12 × 1.12	43	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器（黒浜式，浮島式）	
119	D 5 d6	－	円形	0.90 × 0.88	25	平坦	外傾	自然	縄文土器（黒浜式，浮島式）	
120	D 3 a7	N－38°－W	楕円形	0.65 × 0.57	27	平坦	緩斜	人為	－	SK121 →本跡
121	D 3 a7	N－23°－E	楕円形	0.85 × 0.71	28	平坦	外傾	人為	－	本跡→ SK120
122	D 3 a6	N－70°－W	不整楕円形	1.70 × 1.06	25	凸凹	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	
123	D 4 b5	－	円形	1.62 × 1.55	20	平坦	緩斜	自然	縄文土器（茅山下層式）	本跡→ SF 2
125	D 5 f5	N－61°－W	楕円形	0.46 × 0.38	40	平坦	外傾	人為	縄文土器（茅山下層式・早期終末）	
126	D 3 b6	N－76°－W	楕円形	0.43 × 0.32	50	平坦	ほぼ直立	人為	－	
127	D 5 d3	N－0°	［隅丸方形］	3.34 ×［3.04］	18	平坦	外傾	人為	縄文土器（三戸式・茅山下層式）	SI14 →本跡 → SK58・62

(7) 遺物包含層

第１号遺物包含層（第 164 ～ 170 図）

調査年度　平成 29・30 年度

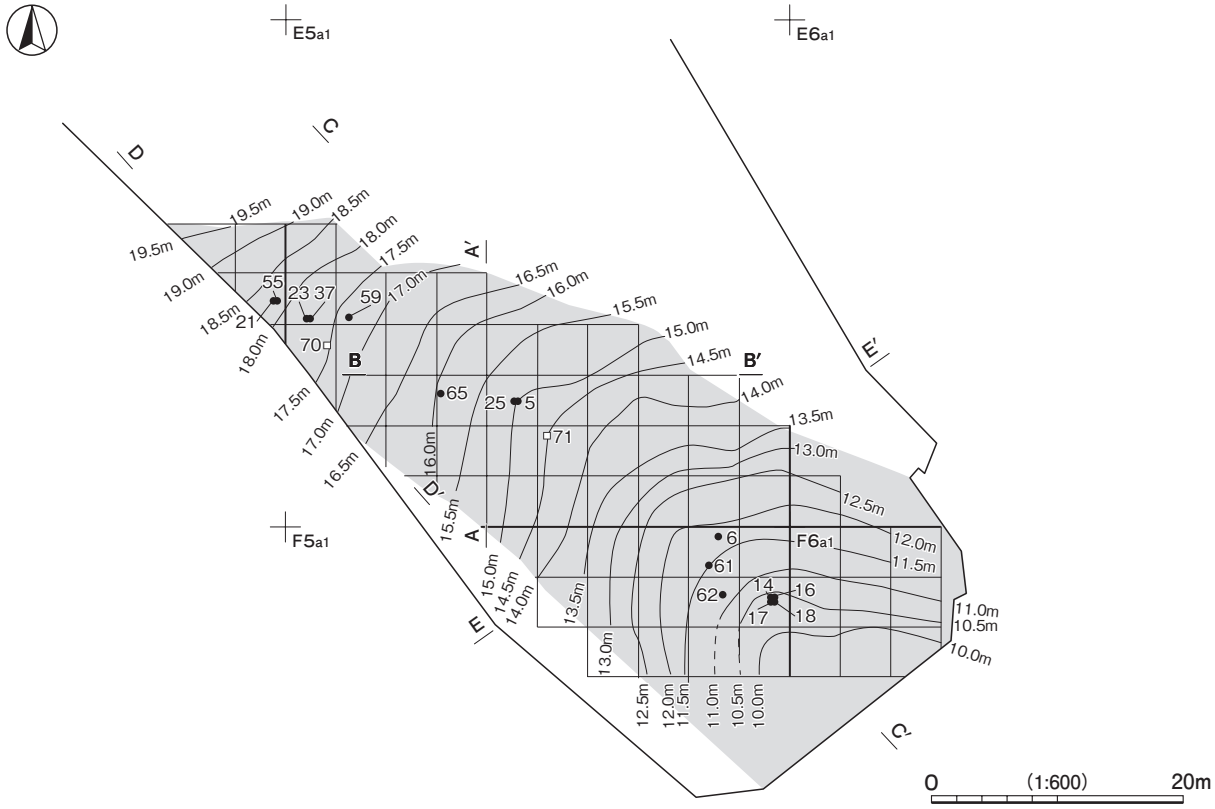
位置　調査区中央部の緩斜面部から南部にかけてのＥ４e9 ～Ｆ６d4 区，標高 10 ～ 20 ｍの台地斜面部に位置している。

確認状況　調査区中央部の緩斜面部から南部にかけて，等高線に直交するようにＣ －Ｃ’ ラインの土層を確認する中央ベルトを設定して，遺物包含層の所在を確認するとともに，その堆積状況の調査を行った。斜面上方で表土を約 0.3 ｍ，下方で約 1.8 ｍの深さまで掘削したところ，褐色を呈し，遺物を多く含む包含層を確認した。この包含層は，斜面上であることから，上方では１層で約 0.1 ｍで，下方に行くに従い３層に増えて，約 0.6 ｍ堆積している。

重複関係　第１・３号竪穴建物，第 35 号炉跡，第１～ 15・17 ～ 36 号土坑，第１・２・４～６号溝，第１号段切状遺構に掘り込まれている。

調査の方法　包含層調査区域の中央ベルトを残し，Ｆ６e4 区を南東隅の起点として，確認範囲を４ｍの基本グリッドで覆った。層位については，グリットごとに１ｘを深さ 15㎝として，２ｘ，３ｘと掘り下げて，遺物の取り上げを行った。

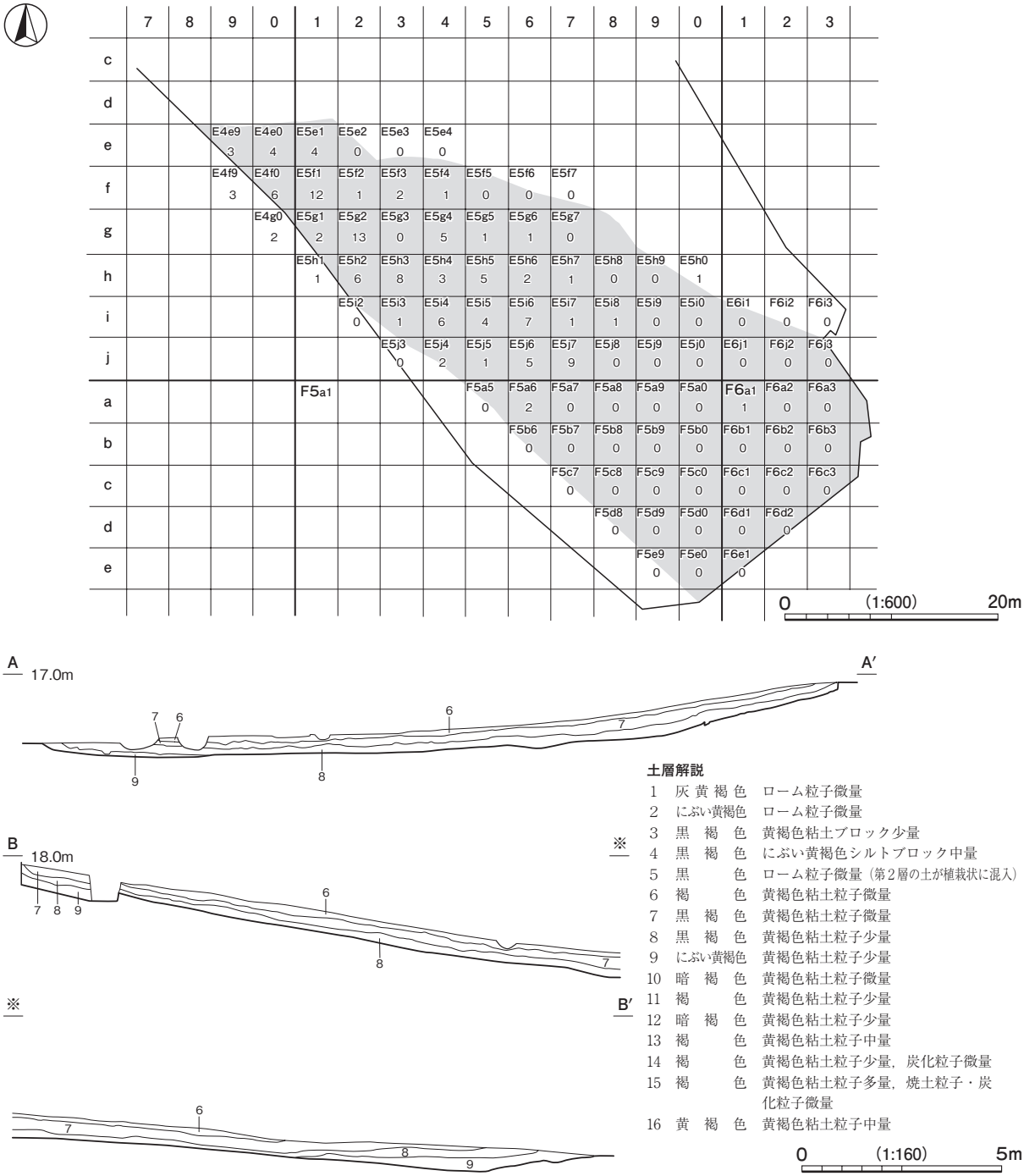
包含層の広がりと堆積状況　遺物の分布域は，北西から南東に向かって下っている斜面部に対し，弧状に広がる特徴を有している。東西の幅は約 60 ｍ，南北の長さは約 36 ｍである。高低差は約 10 ｍで，確認面での傾斜角は約７度である。全体では 16 層に分層でき，全体の層厚は 0.2 ～ 2.6 ｍである。第１層は表土層，第２・３層は旧表土層，第５層は谷津堆積土である。第６層上面が包含層の上面で，褐色粘質シルトの層であり，第７・８層まで包含層となっている。



第 164 図　第１号遺物包含層実測図 (1)

遺物出土状況　縄文土器を中心とする遺物が出土している。縄文土器片 2769 点（うち口縁部片 127），土師器片 17 点（甕類 16，甑 1），須恵器片 1 点（坏），陶器片 1 点（不明），磁器片 2 点（不明），石器 27 点（磨石 1，スクレイパー 1，不明 25），剥片 10 点である。土器の大半は小片であり，茅山下層式土器が多いものの，縄文早期の三戸式土器から後期後葉の安行式土器までが出土している。

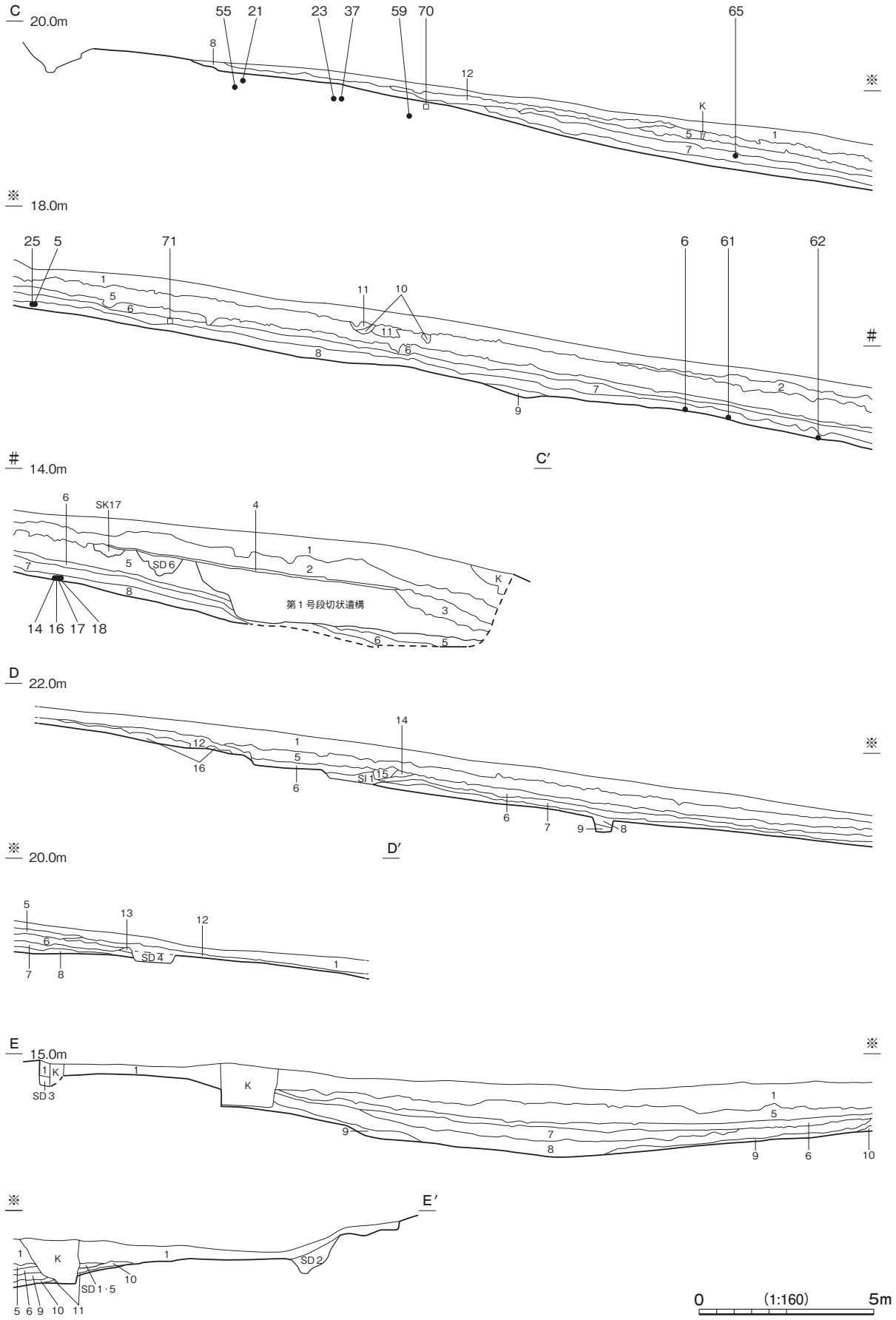
所見　遺物は，斜面上部の北西区域から多く出土し，東部側からは検出されていないことから，西側台地上や調査区中央部の南側辺縁部周辺からの流れ込みや廃棄行為がなされたものと考えられる。時期は，縄文時代早期中葉から後期後葉までの土器片が検出されており，この時期まで継続して形成されたものと推定できる。



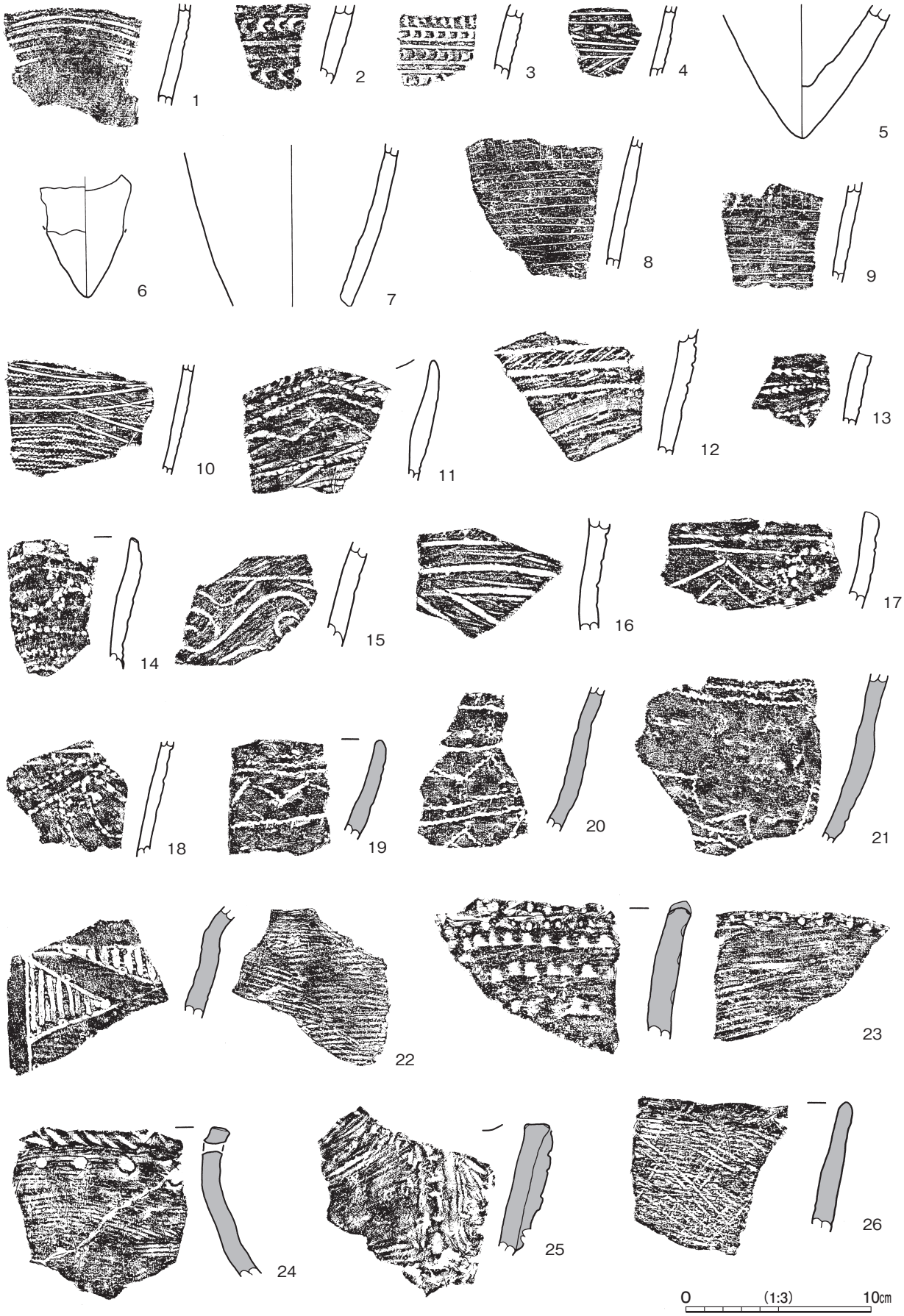
土層解説

1　灰黄褐色　ローム粒子微量
2　にぶい黄褐色　ローム粒子微量
3　黒褐色　黄褐色粘土ブロック少量
4　黒褐色　にぶい黄褐色シルトブロック中量
5　黒色　ローム粒子微量（第2層の土が植栽状に混入）
6　褐色　黄褐色粘土粒子微量
7　黒褐色　黄褐色粘土粒子微量
8　黒褐色　黄褐色粘土粒子少量
9　にぶい黄褐色　黄褐色粘土粒子少量
10　暗褐色　黄褐色粘土粒子微量
11　褐色　黄褐色粘土粒子少量
12　暗褐色　黄褐色粘土粒子少量
13　褐色　黄褐色粘土粒子中量
14　褐色　黄褐色粘土粒子少量，炭化粒子微量
15　褐色　黄褐色粘土粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
16　黄褐色　黄褐色粘土粒子中量

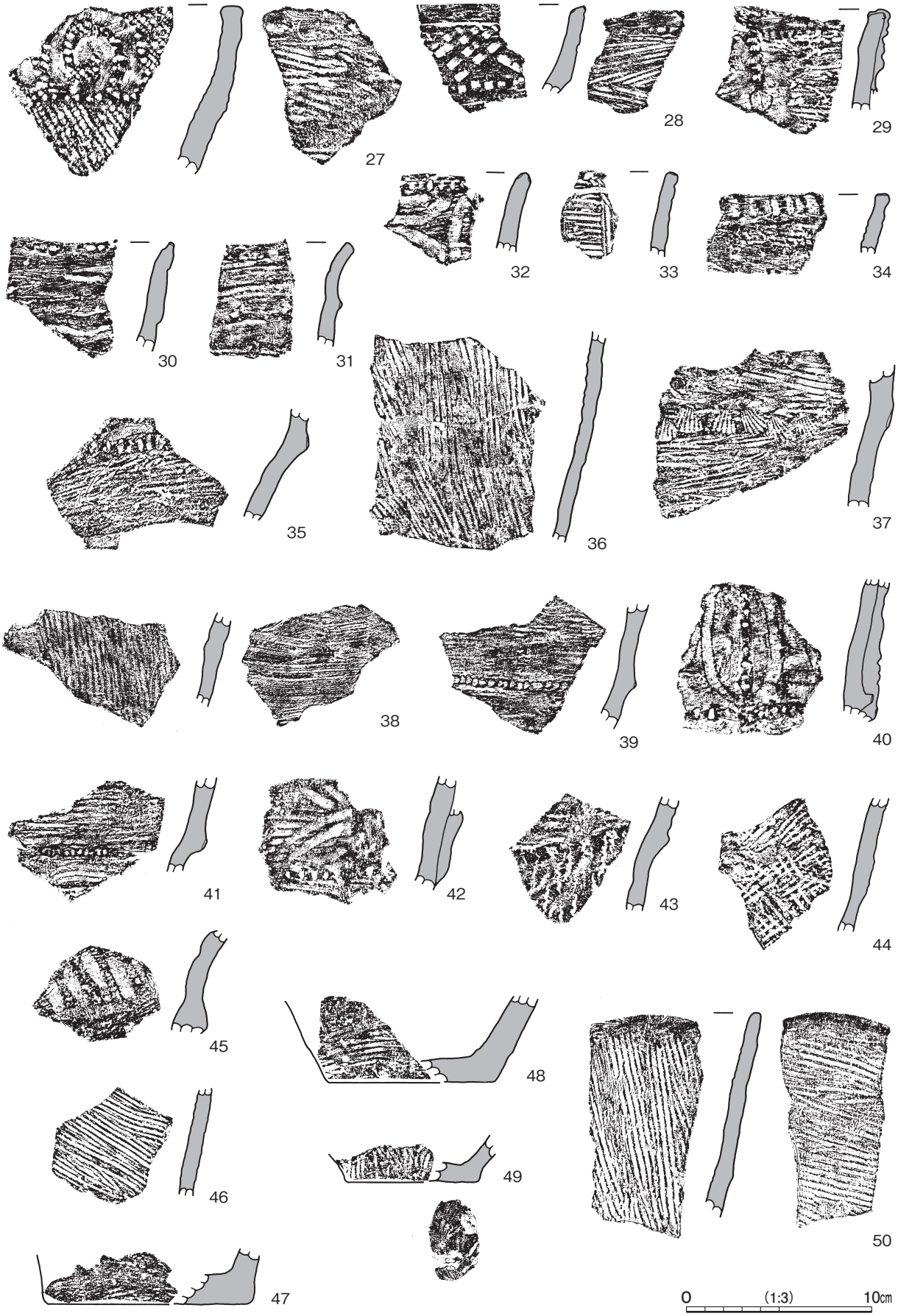
第 165 図　第 1 号遺物包含層実測図 (2)



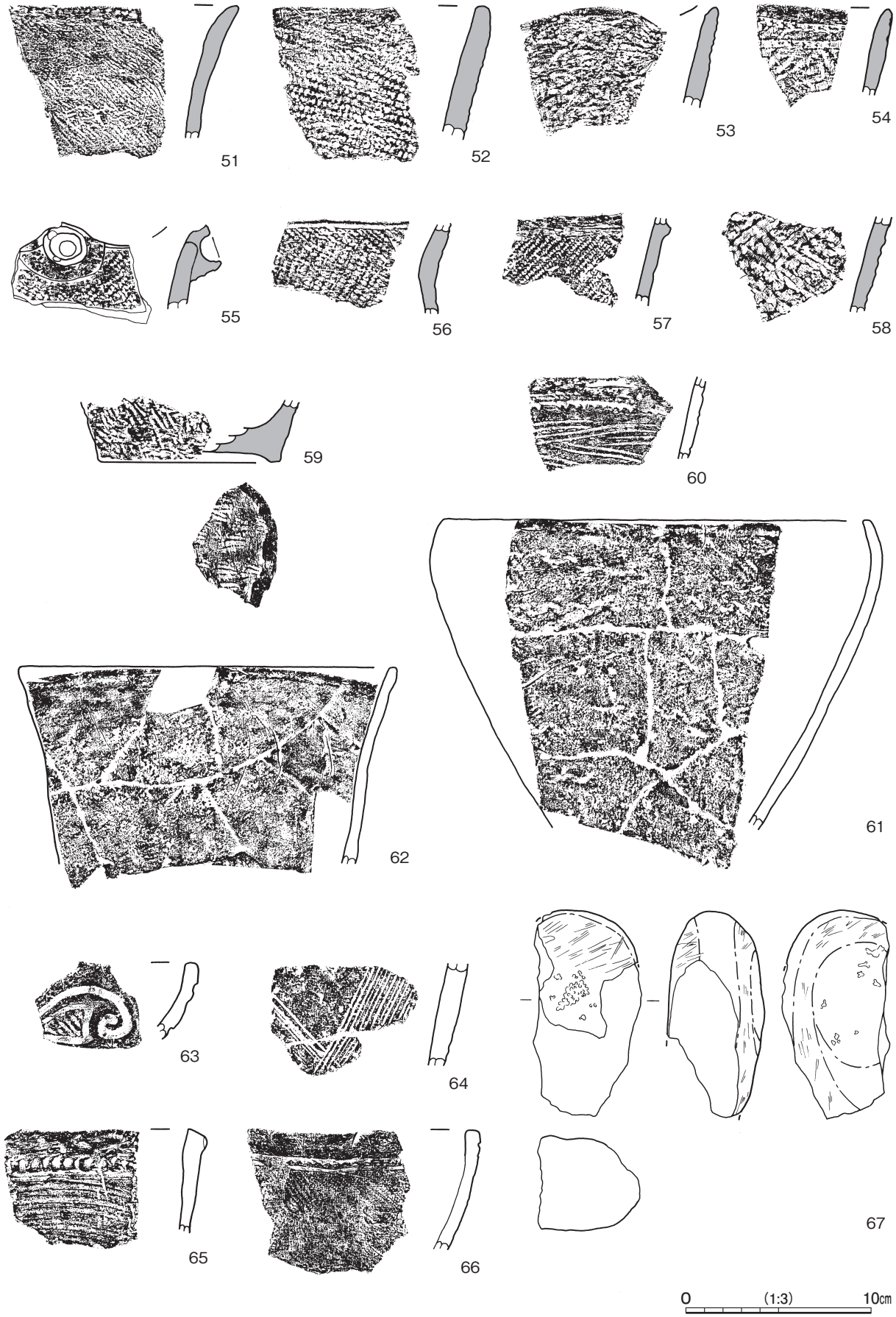
第 166 図　第１号遺物包含層実測図 (3)



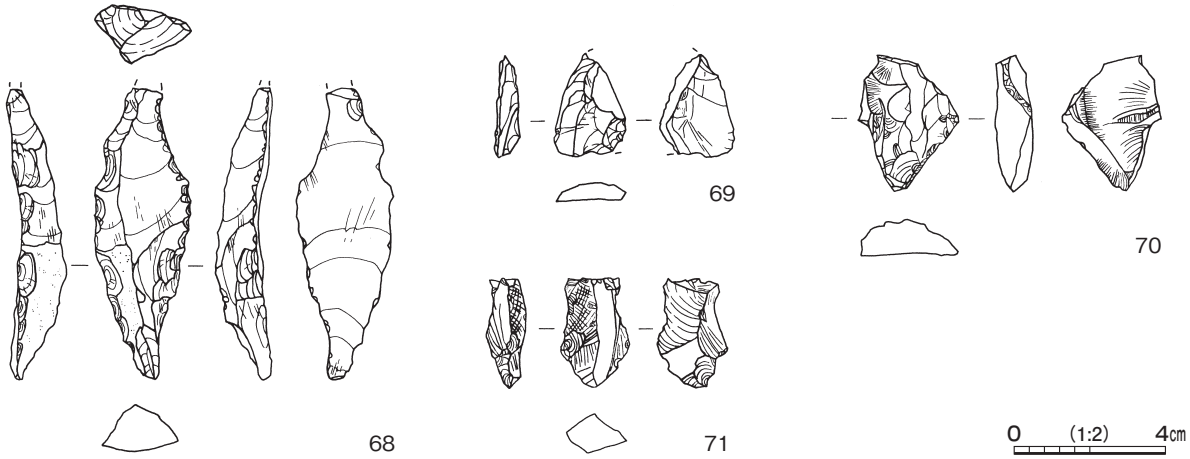
第 167 図　第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第 168 図　第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (2)



第169図　第1号遺物包含層出土遺物実測図(3)



第 170 図　第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (4)

第 1 号遺物包含層出土遺物観察表（第 167 ～ 170 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	横位の沈線　文様帯の最上部の破片	堆積土中層	5％ 三戸式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	横位の平行沈線間に半截竹管による刺突	堆積土中層	5％ 三戸式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英	橙	普通	横位の沈線間に多段の半截による竹管文	堆積土中層	5％ 三戸式
4	縄文土器	深鉢	－	(3.9)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	平行沈線間に横位のハの字状の刺突	堆積土中層	5％ 三戸式
5	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英	明赤褐	普通	外・内面ナデ　尖底土器	堆積土下層	5％ 三戸式
6	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	－	長石・石英・ 雲母	橙	普通	外面ナデ　上部剥離　尖底土器	堆積土下層	5％ 三戸式
7	縄文土器	深鉢	－	(8.8)	－	長石・石英・ 雲母・礫	にぶい褐	普通	外面ナデ　尖底土器	堆積土中層	5％ 三戸式
8	縄文土器	深鉢	－	(7.1)	－	長石・石英・礫	褐灰	普通	縦・横の細沈線　9と同一個体ヵ	堆積土中層	5％ 田戸下層式
9	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・礫	灰褐	普通	縦・横の細沈線　8と同一個体ヵ	堆積土中層	5％ 田戸下層式
10	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	沈線による区画内に貝殻腹縁を充填	堆積土中層	5％ 田戸下層式
11	縄文土器	深鉢	－	(6.6)	－	長石・石英	黒褐	普通	外面ペン先状工具の連続刺突による波状文	堆積土中層	5％　PL31 明神裏Ⅲ式
12	縄文土器	深鉢	－	(6.9)	－	長石・石英	赤褐	普通	ペン先状工具の連続刺突，下部に凹線	堆積土中層	5％　PL31 明神裏Ⅲ式
13	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	ペン先状工具による押引き沈線	堆積土中層	5％ 明神裏Ⅲ式
14	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英・ 雲母・礫	明赤褐	普通	ペン先状工具の押引き沈線による波条痕	堆積土下層	5％ 明神裏Ⅲ式
15	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	長石・石英	赤褐	普通	ペン先状工具による押引きで渦巻文	堆積土下層	5％ 明神裏Ⅲ式
16	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	長石・石英・ 礫	赤褐	普通	条痕文，ペン先状工具による押引き沈線	堆積土下層	5％ 明神裏Ⅲ式
17	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・ 雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	ペン先状工具による押引き沈線と沈線の併用	堆積土下層	5％ 明神裏Ⅲ式
18	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	長石･石英･雲母･ 赤色粒子・礫	褐	普通	押引き沈線による楕円形文	堆積土下層	5％ 明神裏Ⅲ式
19	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	長石・石英・ 繊維	明褐	普通	貝殻腹縁による鋸歯状文　21と同一個体ヵ	堆積土中層	5％　PL31 田戸上層式
20	縄文土器	深鉢	－	(7.8)	－	長石・石英・ 繊維	明褐	普通	貝殻腹縁による鋸歯状文	堆積土中層	5％ 田戸上層式
21	縄文土器	深鉢	－	(9.3)	－	長石・石英・ 繊維	明褐	普通	貝殻腹縁による鋸歯状文　19と同一個体ヵ	堆積土中層	5％ 田戸上層式
22	縄文土器	深鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・ 繊維	褐	普通	区画内に沈線を充填　モチーフの要所に円形竹管文	堆積土中層	5％ 鵜ヶ島台式
23	縄文土器	深鉢	－	(7.4)	－	長石・石英・ 繊維	明赤褐	普通	口唇部に小突起　太い角棒状の工具による押し引き	堆積土上層	5％ 茅山下層式
24	縄文土器	深鉢	－	(8.1)	－	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	褐	普通	外面から内面に施した円孔文	堆積土中層	5％ 茅山下層式
25	縄文土器	深鉢	－	(7.7)	－	長石・石英・ 繊維	明褐	普通	台形状突起から隆帯を垂下　隆帯上に刻み　横位隆帯との交点に指頭痕	堆積土下層	5％　PL31 茅山下層式
26	縄文土器	深鉢	－	(7.1)	－	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	口唇部内頭状	堆積土中層	5％　PL31 茅山下層式
27	縄文土器	深鉢	－	(9.2)	－	長石・石英・ 繊維	橙	普通	口唇部内削ぎ状　指頭の凹線による渦巻文に刺突を充填 横位隆帯上に刺突　単節縄文ＲＬ（横）内面貝殻条痕文	堆積土中層	5％　PL31 茅山下層式
28	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・ 繊維	褐	普通	口唇部内削ぎ状　外面角棒状の工具による押引き　内面貝殻条痕文	堆積土中層	5％ 茅山下層式
29	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	口唇部上を跨ぐようにして隆帯を垂下　隆帯上に刺突	堆積土中層	5％ 茅山下層式
30	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・ 繊維	褐	普通	口唇部に丸棒状の工具による刻み　外面板状の工具によるナデ	堆積土中層	5％ 茅山下層式
31	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	口唇部内削ぎ状　口縁部外反，横位隆帯上に細い刻み	堆積土中層	5％ 茅山下層式

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
32	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部外・内に刻み　指頭の凹線による弧線文	堆積土中層	5％ 茅山下層式
33	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	暗褐	普通	外面多方向の貝殻条痕文　内面貝殻条痕文	堆積土下層	5％　PL31 茅山下層式
34	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部上に棒状の工具による刻み	堆積土中層	5％ 茅山下層式
35	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	横位の隆帯に丸棒状の工具による刻み　内面板状の工具によるナデ　横位の凹線	堆積土中層	5％ 茅山下層式
36	縄文土器	深鉢	－	(11.4)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	上部に貝殻条痕文　下部に板状の工具によるナデ	堆積土中層	5％　PL31 茅山下層式
37	縄文土器	深鉢	－	(7.7)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	隆帯上に貝殻背圧痕	堆積土中層	5％　PL31 茅山下層式
38	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文　内面板状の工具によるナデ	堆積土中層	5％ 茅山下層式
39	縄文土器	深鉢	－	(6.8)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	横位の隆帯に丸棒状の工具による刻み	堆積土中層	5％ 茅山下層式
40	縄文土器	深鉢	－	(7.6)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	垂下隆帯に沿って，弧状の凹線	堆積土中層	5％ 茅山下層式
41	縄文土器	深鉢	－	(5.1)	－	長石・石英・繊維	灰褐	普通	横位隆帯に丸棒状の工具による刻み	堆積土中層	5％ 茅山下層式
42	縄文土器	深鉢	－	(6.2)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰褐	普通	縦・横の隆帯　横位隆帯には角棒状の工具による刻み　凹線	堆積土下層	5％ 茅山下層式
43	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	横位の隆帯上に角棒状の工具による刻み　斜位の貝殻腹縁圧痕文を密に施文　外・内面貝殻条痕文	堆積土中層	5％　PL31 茅山下層式
44	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外面貝殻背圧痕　内面条痕	堆積土中層	5％ 茅山下層式
45	縄文土器	深鉢	－	(5.6)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面指頭による斜位の凹線	堆積土中層	5％ 茅山下層式
46	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	長石・石英・繊維	赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文	堆積土中層	5％ 茅山下層式
47	縄文土器	深鉢	－	(3.1)	[10.8]	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外・内面ナデ	堆積土中層	5％ 茅山下層式
48	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	[8.8]	長石・石英・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文	堆積土中層	5％ 茅山下層式
49	縄文土器	深鉢	－	(2.5)	[7.0]	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面，底面に条痕文	堆積土中層	5％ 茅山下層式
50	縄文土器	深鉢	－	(11.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面縦位の貝殻条痕文　内面横位の貝殻条痕文	堆積土中層	5％　PL31 条痕文土器
51	縄文土器	深鉢	－	(7.2)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	口唇頂部に刻み　口縁部外反　無節Ｌ	堆積土中層	5％ 黒浜式
52	縄文土器	深鉢	－	(7.3)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	口唇部角頭状　単節縄文 RL	堆積土中層	5％ 黒浜式
53	縄文土器	深鉢	－	(5.4)	－	長石・石英・細礫・繊維	褐灰	普通	縄文施文	堆積土中層	5％ 黒浜式
54	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	口縁部直下に２列の刺突文　無節縄文Ｌ	堆積土中層	5％ 黒浜式
55	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	口唇部に貼付けの突起　単節縄文 LR（横）	堆積土中層	5％　PL31 黒浜式
56	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	単節縄文 RL（縦）	堆積土中層	5％ 黒浜式
57	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文 LR（横）　横位隆帯	堆積土中層	5％ 黒浜式
58	縄文土器	深鉢	－	(5.2)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	付加条の縄文による羽状構成	堆積土中層	5％ 黒浜式
59	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	[9.6]	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	上げ底状　底面にも縄文施文	堆積土中層	5％ 黒浜式
60	縄文土器	深鉢	－	(4.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	半截竹管による幾何学文	堆積土中層	5％ 浮島式
61	縄文土器	深鉢	[22.8]	(16.7)	－	長石・石英・雲母・細礫	褐	普通	横位の結束縄文	堆積土下層	5％ 前期末
62	縄文土器	深鉢	[20.6]	(10.6)	－	長石・石英	にぶい赤褐	普通	無文	堆積土下層	5％　PL25 前期末カ
63	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	渦巻文	堆積土中層	5％ 加曽利Ｅ２式
64	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	櫛歯状工具による格子目文	堆積土中層	5％ 後期前葉
65	縄文土器	深鉢	－	(5.5)	－	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部に紐線文　条痕文	堆積土上層	5％ 後期後葉
66	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部に押引き文が一巡　単節縄文ＲＬ	堆積土中層	5％ 縄文後期

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
67	磨石	(11.2)	(5.8)	5.2	(385.0)	安山岩	表・裏・周縁一部に磨り痕	堆積土中層	
68	ｽｸﾚｲﾊﾟｰ	(7.7)	2.6	1.6	(16.24)	流紋岩（珪質）	上部右側縁部使用痕　下部右・左側縁部調整　一部原礫面を残す	堆積土下層	
69	剥片	(2.7)	(1.9)	0.7	(2.32)	チャート	縦長剥片	堆積土中層	PL34
70	剥片	3.6	2.6	1.0	7.28	黒曜石	二次加工有り	堆積土上層	
71	剥片	2.9	1.8	1.0	3.58	黒曜石	縦長剥片	堆積土中層	

第２号遺物包含層（第 171 ～ 173 図）

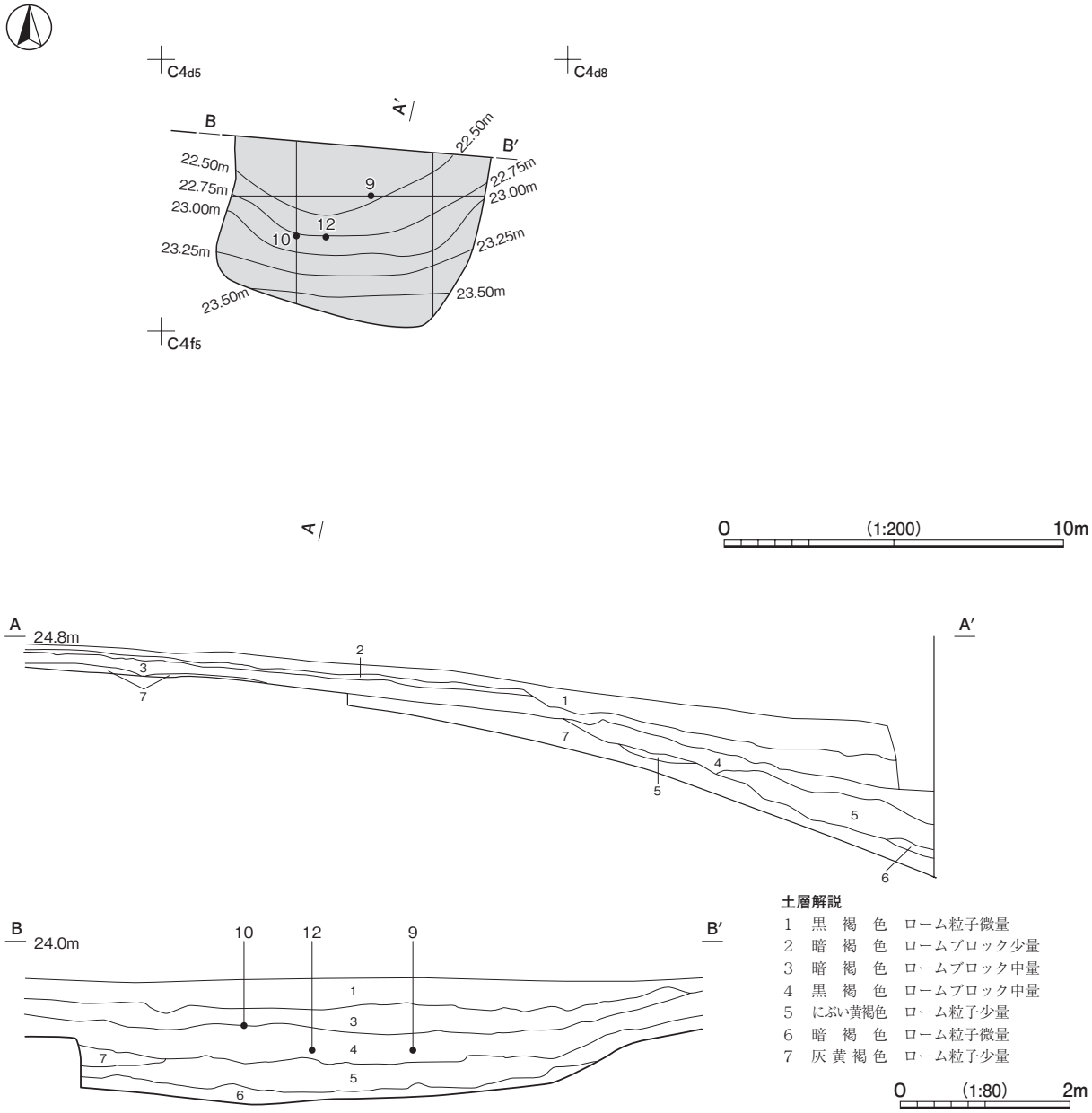
調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部の北側Ｃ４d1 ～Ｃ４e0 区，標高 23 ～ 25 mほどの台地斜面部に位置している。

確認状況　等高線に直交する土層を確認するためのＡ－Ａ’ラインの土層ベルトを設置した。また，北側の調査区域境の壁面にＢ－Ｂ’ラインを設定して，遺物包含層の所在を確認するとともに，その堆積状況の調査を行った。表土を約 0.5 mの深さまで掘削したところ，暗褐色を呈し，遺物を含む包含層の上面を確認した。この褐色土の層は，斜面上であることから，上方では約 0.1 mで，下方に行くに従い厚くなり，約 0.7 m堆積している。

調査の方法　包含層調査区域を等高線に直交するＡ－Ａ’ラインと，また調査区北側のエリア境の壁面をＢ－Ｂ’ラインとして，基本土層を確認した。

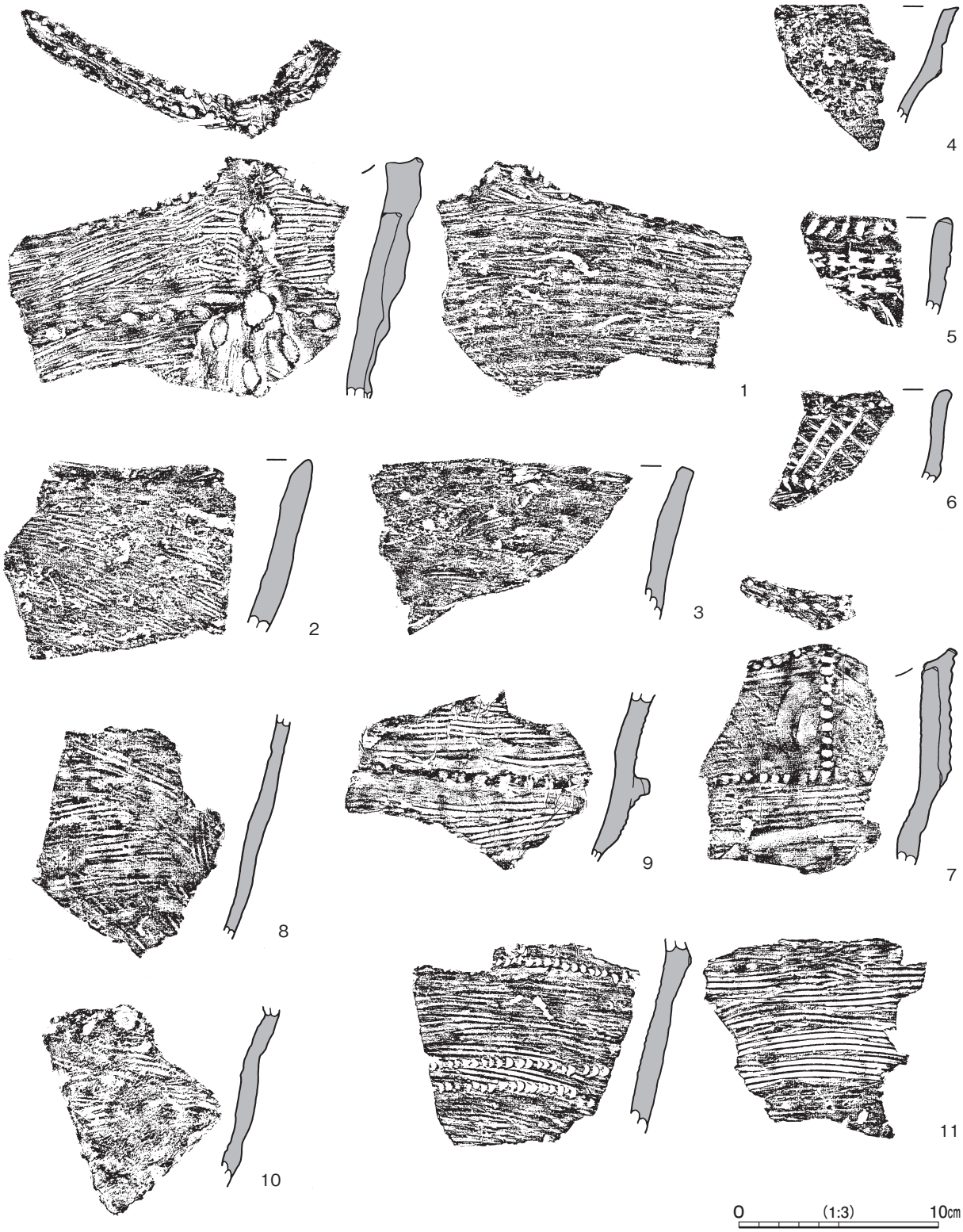
包含層の広がりと堆積状況　遺物の分布域は，南側平坦部から北側台地縁辺に向かって広がっている。北部が調査区域外に延びているため，東西の幅約８m，南北の幅は約５mしか確認できなかった。高低差は約１mで，確認面での傾斜角は約５度である。全体では７層に分層でき，全体の層厚は 0.2 ～ 1.4 mである。第１層は表土層，第３層上面が暗褐色土の包含層上面であり，第７層まで包含層となっている。



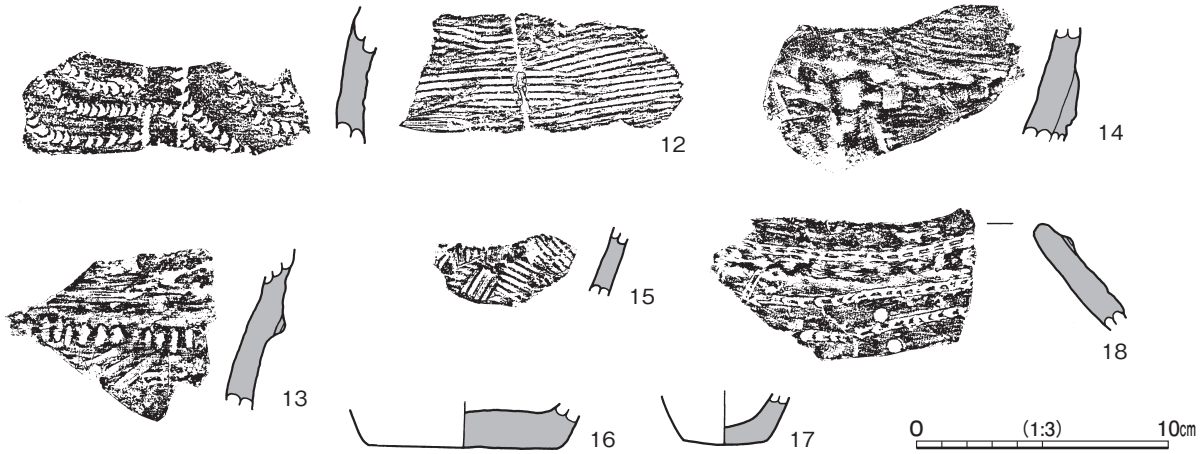
第 171 図　第２号遺物包含層実測図

遺物出土状況　遺物は，大部分が縄文土器片である。縄文土器片 252 点（深鉢）が出土している。縄文早期の三戸式土器，茅山下層式土器，縄文前期の黒浜式土器，浮島式土器が出土している。

所見　自然堆積による流れ込みや廃棄されたものによって形成されたと考えられる。時期は，縄文時代早期の茅山下層式土器の破片が大半であり，縄文時代早期後葉から前期前半にかけて堆積したと考えられる。



第 172 図　第２号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第 173 図　第２号遺物包含層出土遺物実測図 (2)

第２号遺物包含層出土遺物観察表（第 172・173 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(12.1)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口縁部に台形状突起　突起の頂部から隆帯を垂下　隆帯上に貝殻背圧痕	覆土中	５％　PL32 茅山下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(8.6)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部丸頭状　外・内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(7.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇部角頭状　外面指頭による横ナデ　内面貝殻条痕文	覆土中	５％　PL32 茅山下層式
4	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部内削ぎ状　横位隆帯上に刻み	覆土中	５％ 茅山下層式
5	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部に丸棒状の工具による異方向の刻み　半截竹管による二条の押引き	覆土中	５％　PL32 茅山下層式
6	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外面隆帯に刺突　板状の工具による凹線　沈線を施す	覆土中	５％　PL32 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(10.9)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰黄褐	普通	縦・横の隆帯上に丸棒状工具の刻み　垂下隆帯に沿って弧状の凹線	覆土中	５％　PL32 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	－	(11.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文後，ナデ	覆土中	５％ 茅山下層式
9	縄文土器	深鉢	－	(8.5)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	横位の隆帯に竹管による刻み　外面貝殻条痕文 内面板状の工具によるナデ	覆土中	５％　PL32 茅山下層式
10	縄文土器	深鉢	－	(9.0)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文　器面は凸凹が顕著	覆土中	５％ 茅山下層式
11	縄文土器	深鉢	－	(9.8)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	丸棒状の工具による刻み二条の連続刺突　横位隆帯上も同様の刺突	覆土中	５％　PL32 茅山下層式
12	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	外面竹管による連続刺突　指頭に凹線文間に丸棒状の工具の角による連続刺突　内面貝殻条痕文	覆土中	５％　PL32 茅山下層式
13	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	長石・石英・繊維	褐	普通	横位の隆帯に丸棒状の工具による刻み　板状の工具による凹線	覆土中	５％ 茅山下層式
14	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・繊維	橙	普通	縦・横の隆帯に角棒状の工具による刻み　交点に指頭圧痕　角棒状の工具による凹線	覆土中	５％ 茅山下層式
15	縄文土器	深鉢	－	(2.7)	－	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面多方向の貝殻条痕文　内面貝殻条痕文	覆土中	５％ 茅山下層式
16	縄文土器	深鉢	－	(1.8)	[7.6]	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外面磨滅	覆土中	５％ 茅山下層式
17	縄文土器	深鉢	－	(2.0)	3.4	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	小平底	覆土中	５％ 茅山下層式ヵ
18	縄文土器	深鉢	－	(4.2)	－	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口唇直下に隆帯　半截竹管による横位の押引き 円形竹管文を垂下 樽型	覆土中	５％　PL32 黒浜式

２　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，竪穴建物跡 10 棟，土坑３基を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡（第 174・175 図　PL10）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区南部のＥ４e9 区，標高 20 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第１号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状　南西部が調査区域外のため，東西軸は 3.65 m，南北軸は 2.75 mしか確認できなかった。主軸方

向はＮ－35°－Ｅの方形あるいは長方形と推測される。壁は高さ22～25cmで，外傾している。

床　残存している北側コーナー部は平坦で，中央部から壁際にかけて踏み固められている。

炉　２か所。炉１は北東寄りに位置している。長径60cm，短径38cmの楕円形で，深さ８cmの地床炉である。火熱を受けて赤変硬化している。炉２は中央から東寄りに位置している。長径58cm，短径38cmの楕円形で，深さ３cmの地床炉である。第２層上面が炉床面であり，火熱を受けて赤変硬化している。

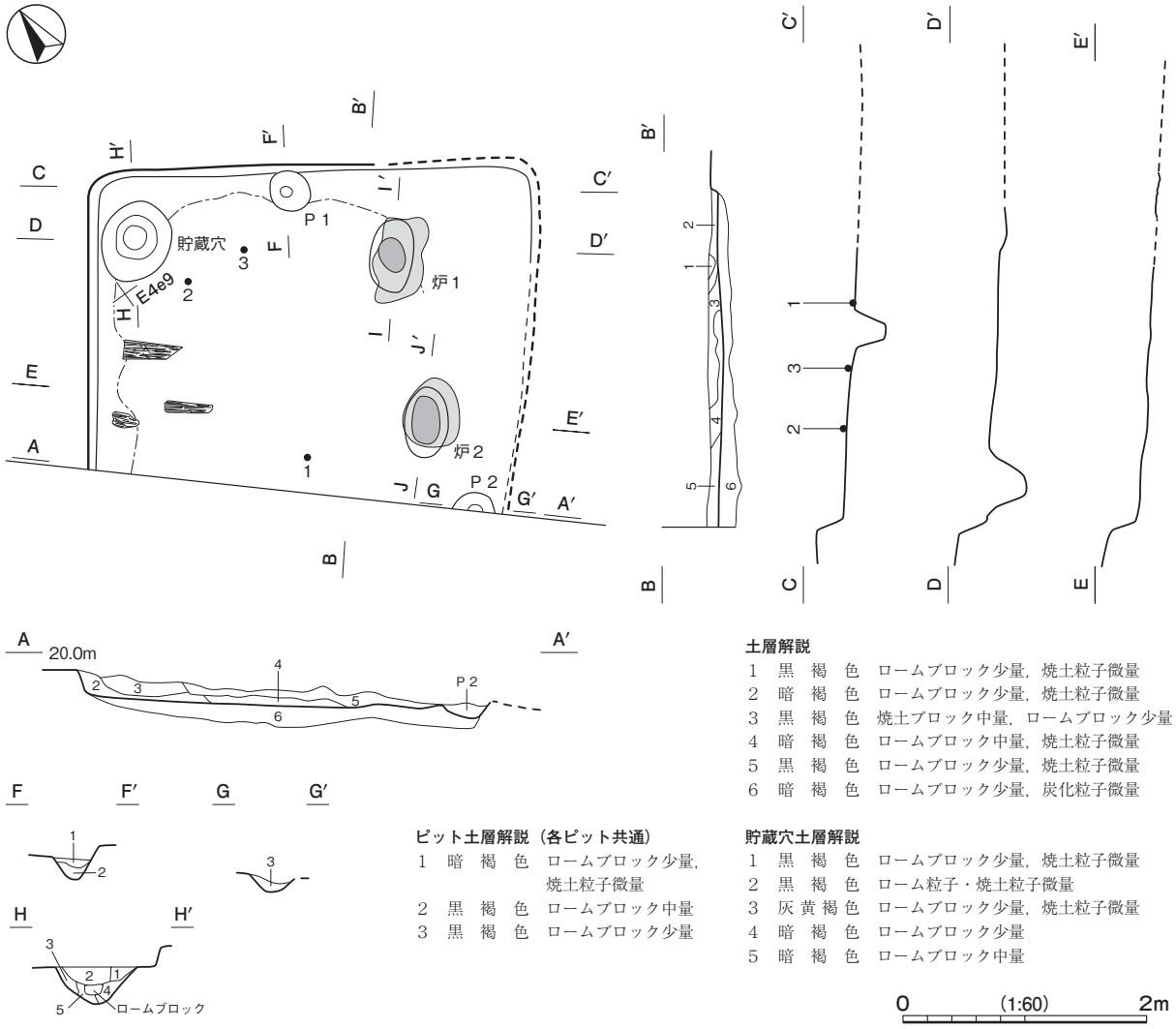
ピット　２か所。Ｐ１は深さ20cm，Ｐ２は深さ30cmで，配置は変則であるが，主柱穴の可能性がある。第１～３層は柱抜き取り後の覆土である。

貯蔵穴　北コーナー部に位置し，長径66cm，短径56cmの楕円形である。深さは32cm，底面は皿状で，壁は外傾している。５層に分層でき，ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

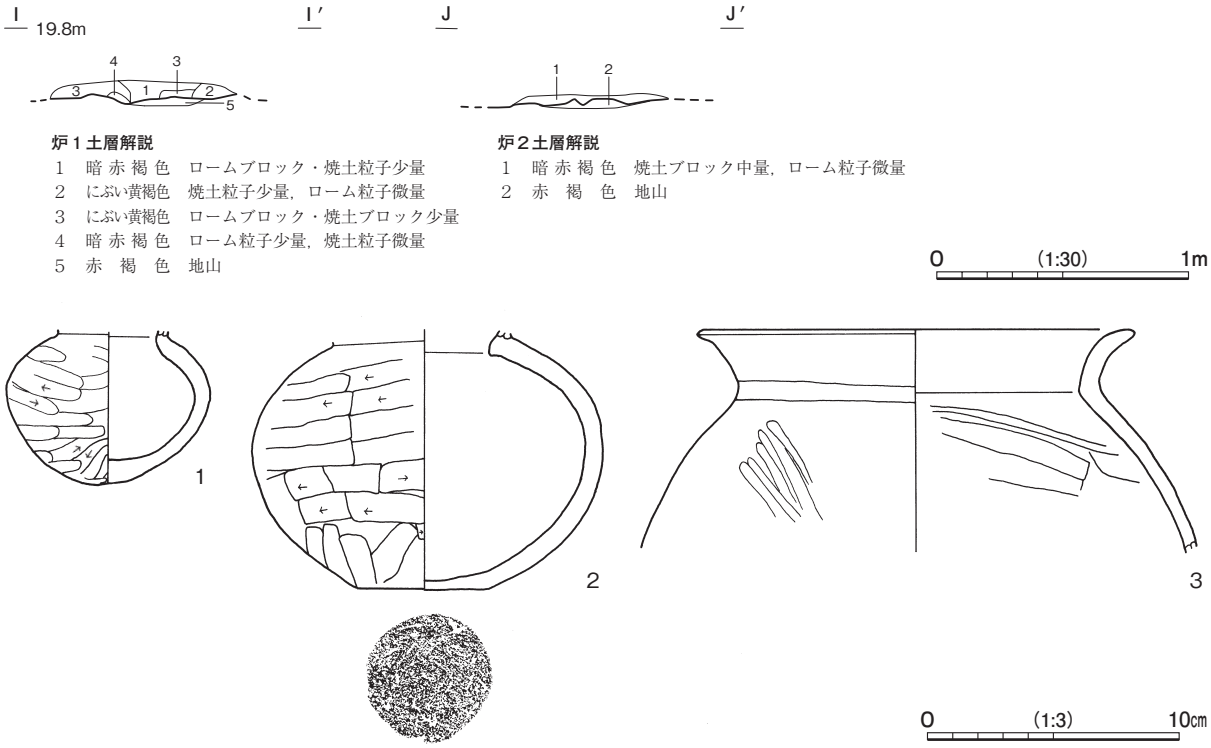
覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。第６層は貼床の構築土である。

遺物出土状況　土師器片103点（坏３，坩１，高杯14，壺１，甕類83，甑１）が出土している。多くの遺物は北コーナー部の貯蔵穴付近から出土している。２・３は貯蔵穴の南側，１は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第174図　第１号竪穴建物跡実測図



第 175 図　第１号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第１号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 175 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坩	－	(6.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位・斜位のヘラ削り	床面	90%
2	土師器	壺	－	(10.3)	[4.9]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位・斜位のヘラ削り	床面	90%
3	土師器	甕	16.8	(8.8)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面一部ヘラ磨き　内面斜位のナデ	床面	20%

第２号竪穴建物跡（第 176 ～ 178 図　PL10）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ３c8 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

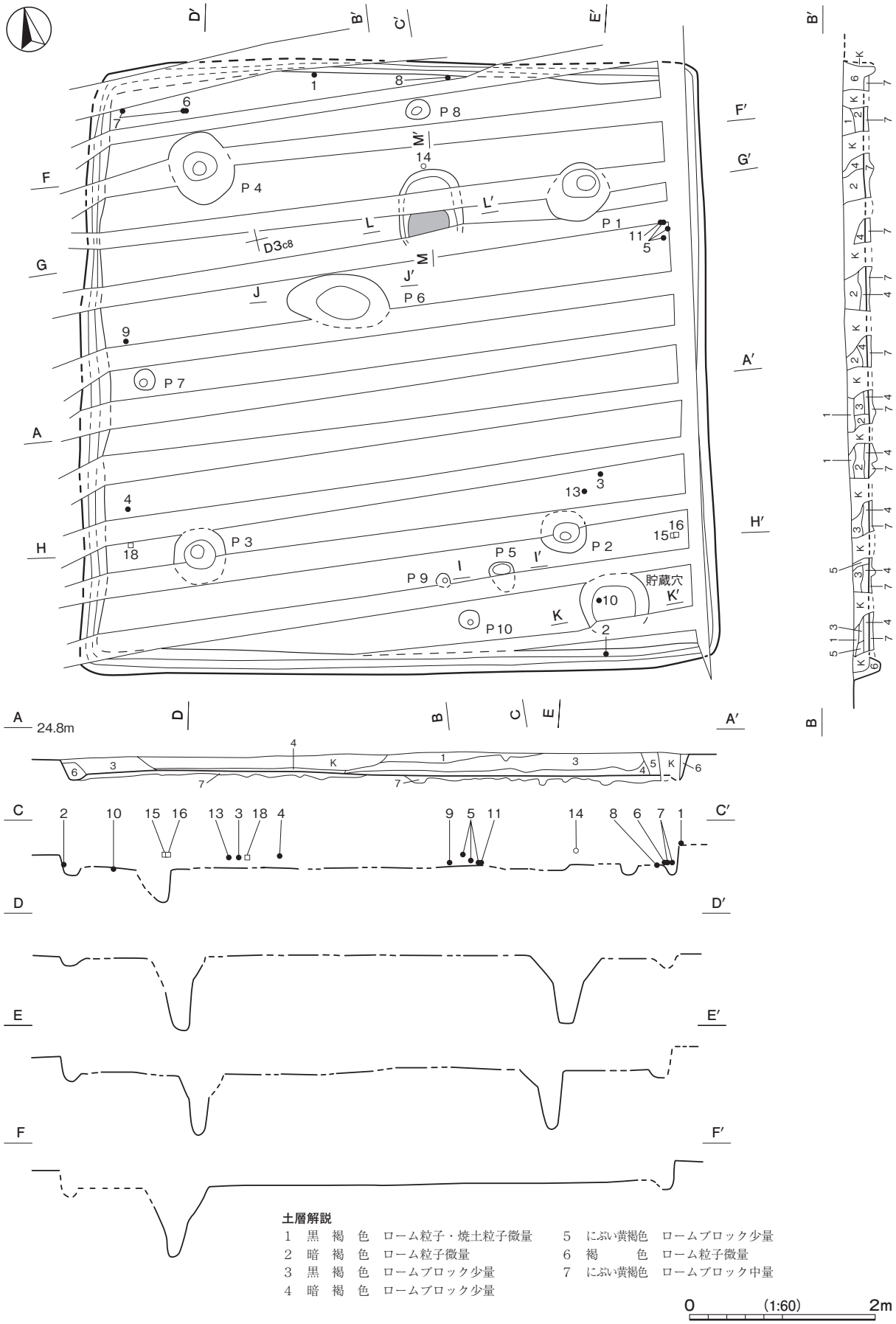
規模と形状　長軸 6.75 m，短軸 6.58 mの方形で，主軸方向はＮ－ 12 °－Ｅである。壁は高さ４～ 26cmで，直立している。

床　平坦で，硬化面は確認できなかった。壁溝が撹乱を受けている部分を除いて，壁下を巡っている。

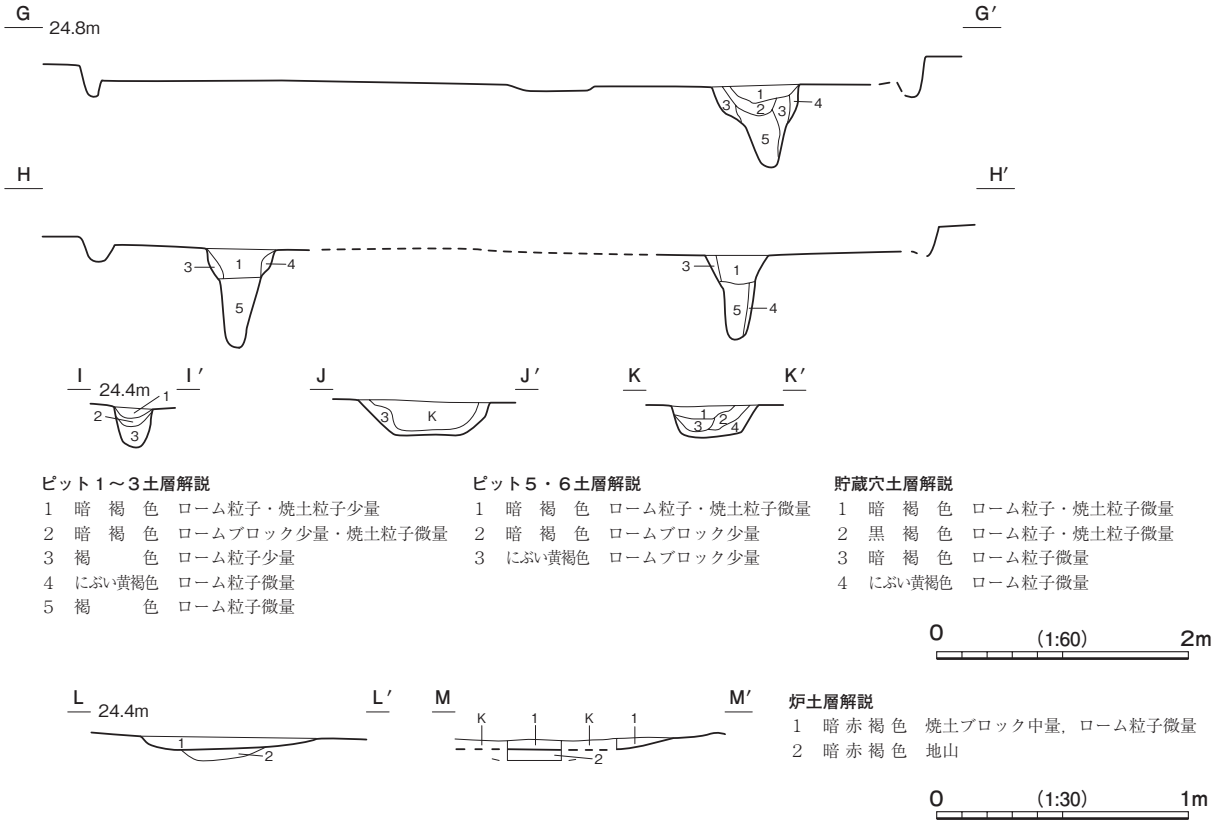
炉　北寄りに位置している。撹乱を受けているため，短径 70cm，長径は 64cmしか確認できなかった。深さ６cmの地床炉で楕円形と推定できる。第２層上面が炉床面であり，火熱を受けて赤変硬化している。

ピット　10 か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 60 ～ 80cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ 30cmで，配置から出入口施設に伴うピットである。Ｐ７・Ｐ８・Ｐ 10 はいずれも深さ 10cmで，配置から補助柱穴と考えられる。Ｐ６・Ｐ９については，性格不明である。Ｐ１～Ｐ３の第１・２・５層は柱抜き取り後の覆土，第３・４層は柱の掘方への埋土である。Ｐ４・Ｐ７～Ｐ 10 の堆積状況は不明である。

貯蔵穴　南東コーナー部に位置している。撹乱を受けているため，長径 74cm，短径は 46cmしか確認できなかった。楕円形と推測される。深さ 24cm，底面は平坦で，壁は外傾している。４層に分層でき，ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。



第 176 図 第２号竪穴建物跡実測図 (1)



第 177 図　第２号竪穴建物跡実測図 (2)

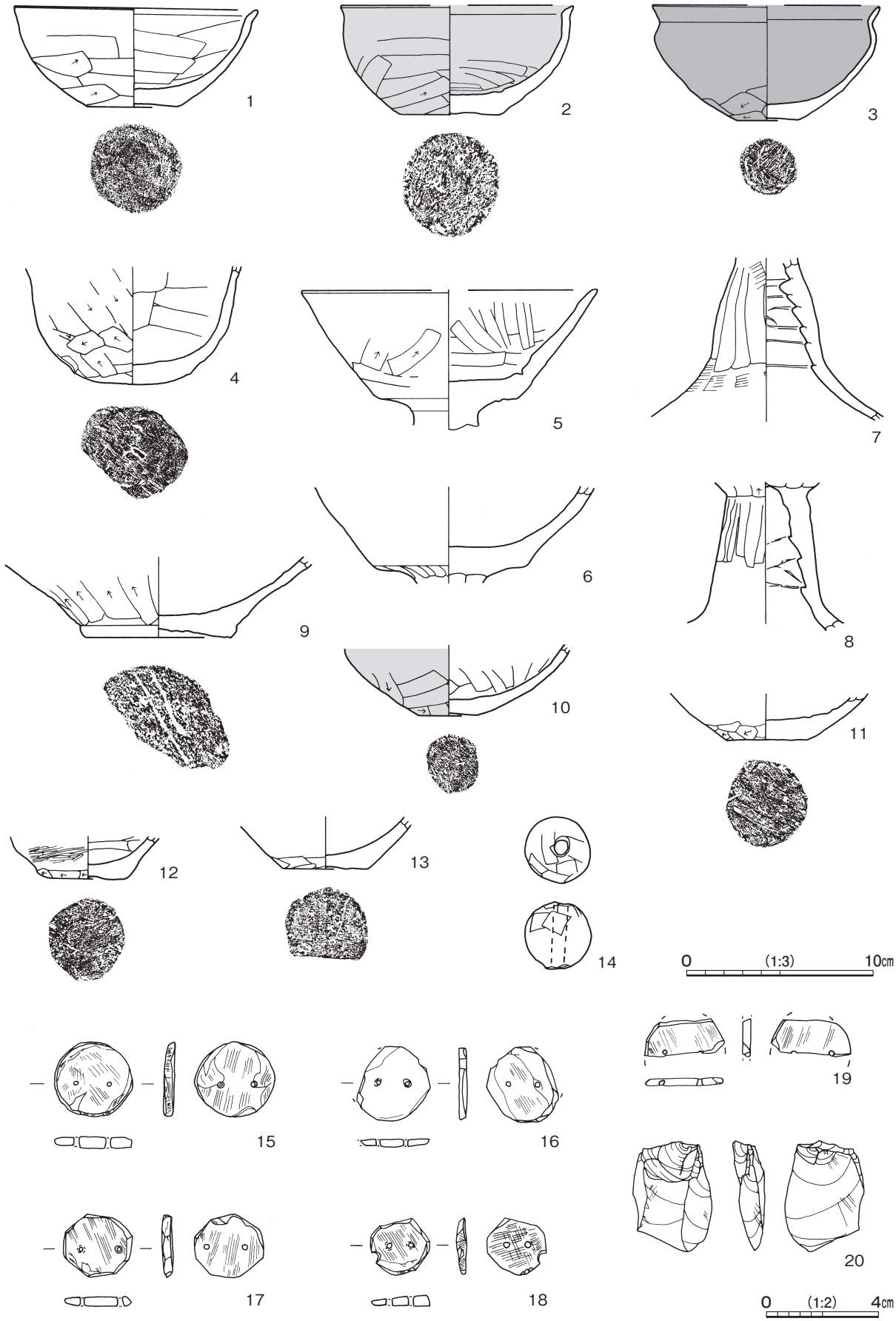
覆土　６層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。第７層は貼床の構築土である。

遺物出土状況　土師器片 385 点（坏 42，椀４，坩 44，高坏 21，甕類 274），土製品２点（土玉），石製品５点（有孔円板），剥片３点，が出土している。遺物は南西コーナー部の貯蔵穴付近と各壁際付近から出土している。10 は東側の底面から出土している。２は南壁際の覆土下層から出土した破片が接合したものである。６～８はいずれも高坏片で，北側壁下の床面あるいは覆土下層から出土したものである。

所見　時期は，出土土器から５世紀前葉と考えられる。

第２号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 178 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	椀	13.0	5.5	4.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位のヘラ削り　内面斜位のナデ	覆土上層	80%　PL35
2	土師器	椀	[12.4]	(5.9)	5.4	長石・石英	赤褐	普通	体部外面横位・斜位のヘラ削り　内面ナデ　外・内面赤彩	覆土中層	50%　PL35
3	土師器	椀	[12.4]	6.2	3.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面横位のヘラ削り　外・内面黒色処理	覆土上層	20%
4	土師器	椀	－	(6.3)	[6.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位・斜位のヘラ削り　体部内面ナデ	覆土上層	30%
5	土師器	高坏	[16.0]	(7.5)	－	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい赤褐	普通	坏部外面斜位のヘラ削り　内面横位・斜位のナデ	覆土下・中・上層	60%
6	土師器	高坏	－	(5.2)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部外面縦位のナデ	覆土下層	20%
7	土師器	高坏	－	(8.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部外面縦位のヘラナデ　下位ハケ目調整　内面ナデ　輪積痕	覆土下層	30%
8	土師器	高坏	－	(7.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ナデ　脚部外面縦位のナデ　輪積痕	床面	30%
9	土師器	甕	－	(4.3)	[7.8]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り　底部ヘラ当て痕	覆土下層	５%
10	土師器	甕	－	(3.8)	3.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り　内面斜位のヘラ削り　外面赤彩	貯蔵穴覆土上層	５%
11	土師器	甕	－	(2.5)	4.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り	床面	10%
12	土師器	甕	－	(2.3)	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り，一部ヘラ磨き　内面ナデ	覆土中	５%
13	土師器	甕	－	(2.8)	4.5	長石・石英	黒褐	普通	体部外面横位のヘラナデ	覆土中層	５%



第178図　第２号竪穴建物跡出土遺物実測図

番号	器　種	径	長さ	孔径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
14	土玉	3.6	3.6	0.7	41.38	長石・石英・雲母	橙	外面ナデ　ヘラ当て痕	覆土上層	PL37

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
15	有孔円板	2.7	2.9	0.4	5.19	滑石	全面研磨加工　孔２か所　孔径 0.18㎝	覆土上層	PL37
16	有孔円板	2.8	2.6	0.3	3.52	滑石	全面研磨加工　孔２か所　孔径 0.20㎝	覆土上層	PL37
17	有孔円板	2.3	2.5	0.3	2.95	滑石	全面研磨加工　孔２か所　孔径 0.18㎝	覆土中	PL37
18	有孔円板	2.1	2.1	0.4	(1.99)	滑石	全面研磨加工　孔２か所　孔径 0.20㎝	覆土上層	PL37
19	有孔円板	(1.4)	(2.8)	(0.3)	(2.06)	滑石	全面研磨加工　孔２か所　孔径 0.18㎝	覆土中	
20	剥片	4.0	2.8	1.2	11.69	頁岩	縦長剥片	覆土中	

第３号竪穴建物跡（第 179 ～ 181 図　PL10）

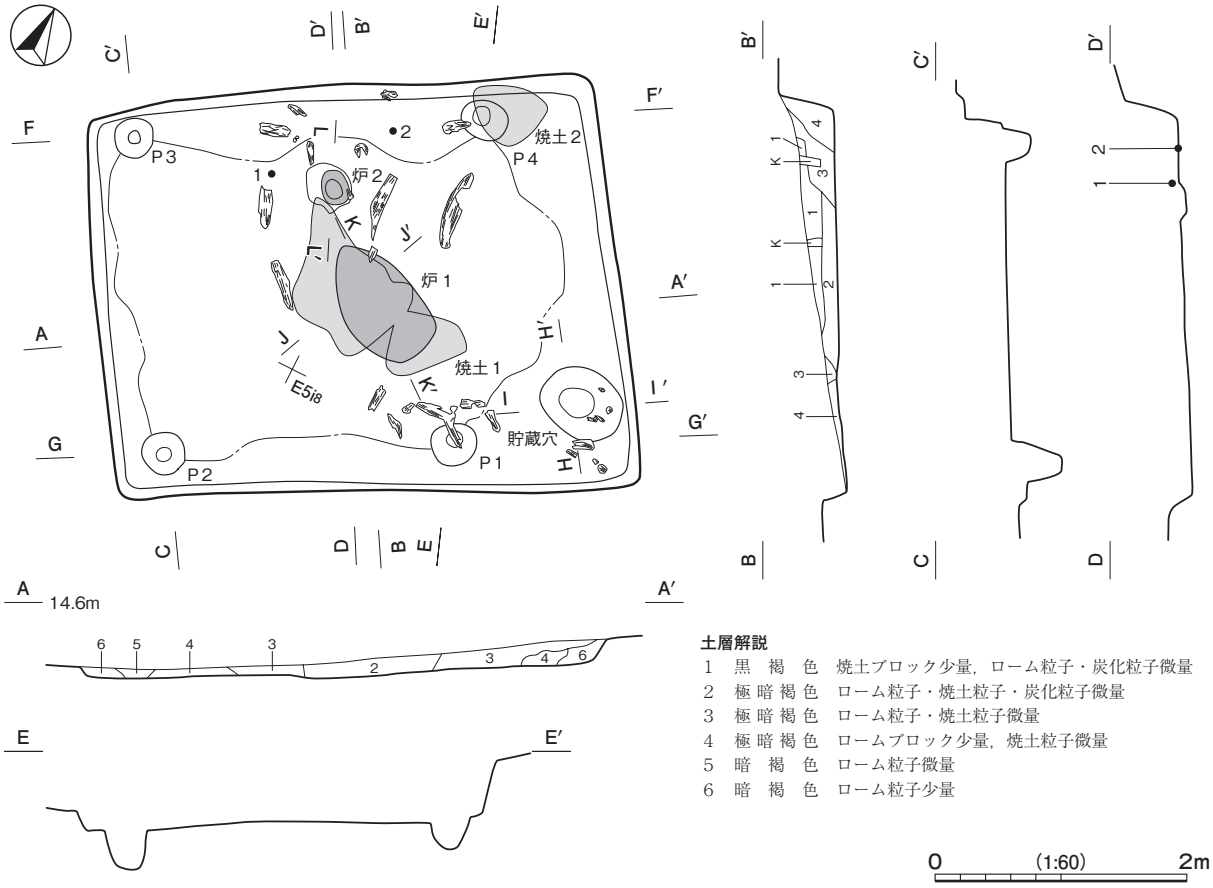
調査年度　平成 30 年度

位置　調査区南部のＥ５h8 区，標高 14 ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

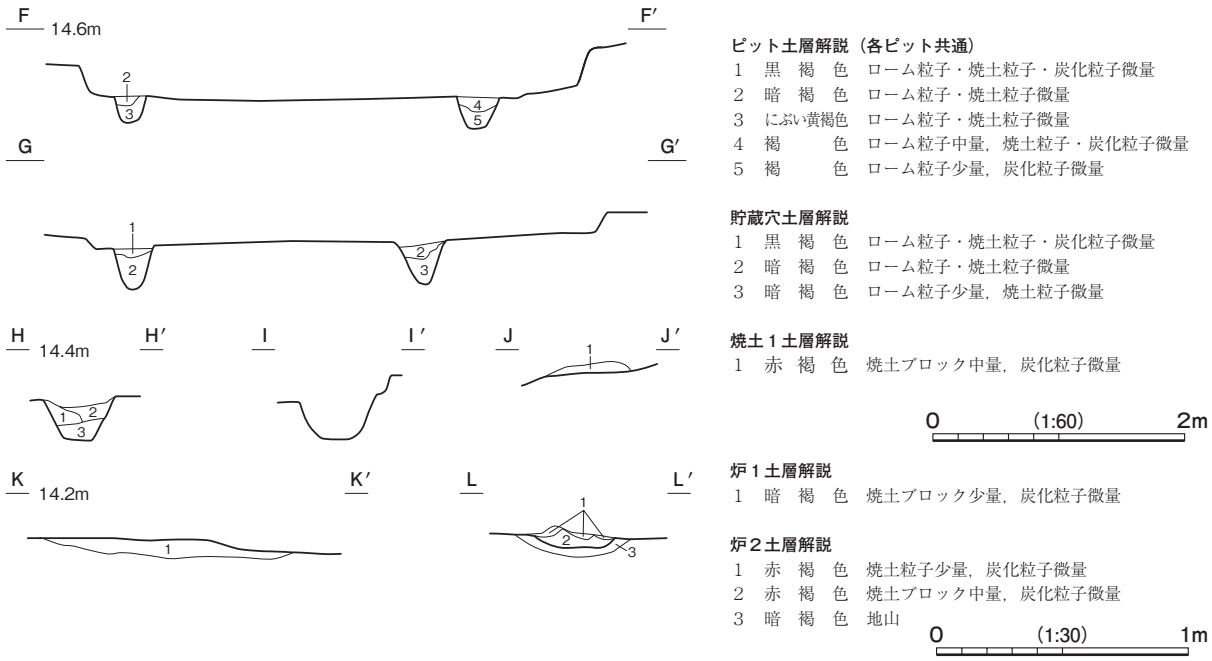
重複関係　第１号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.12 ｍ，短軸 3.30 ｍの長方形で，主軸方向はＮ－ 60 °－Ｅである。壁は高さ 12 ～ 44㎝で，直立している。

床　平坦で，中央部から壁際にかけて踏み固められている。中央部と北東コーナー部からは炭化材や焼土２か所を確認した。焼土１は中央部に位置し，長径 1.2m，短径 0.7 ｍ，厚さ８㎝である。焼土２は北コーナー部付近に位置し，長径 0.6m，短径 0.4 ｍで，床面に広がっている。



第 179 図　第３号竪穴建物跡実測図 (1)



第 180 図　第３号竪穴建物跡実測図 (2)

炉　２か所。炉１は中央部に位置している。長径 100cm，短径 62cmの楕円形で，掘り込まない地床炉で，火熱を受けて赤変硬化している。炉２は北西寄りに位置している。長径 36cm，短径 34cmの不整楕円形で，深さ４cmの地床炉である。第３層上面が炉床面であり，火熱を受けて赤変硬化している。炉１と炉２の新旧関係は不明である。

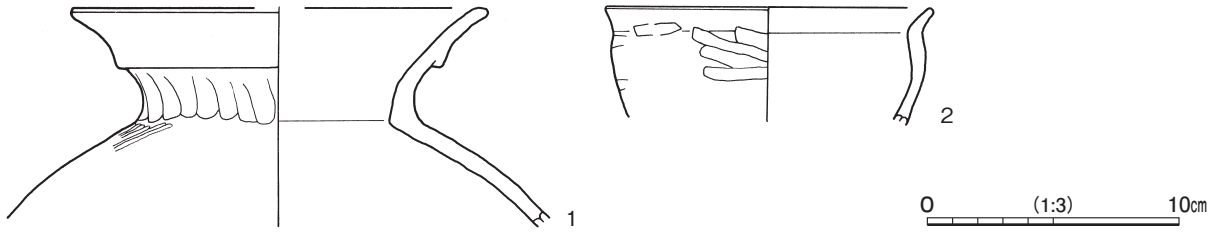
ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 20 ～ 34cmで，配置から主柱穴である。第１～５層は柱抜き取り後の覆土である。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径 66cm，短径 52cmの楕円形である。深さは 38cm，底面は平坦で，壁は外傾している。３層に分層でき，ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

覆土　６層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 90 点（椀１，坩 15，壺１，有段口縁壺１，甕類 72）が出土している。２は北側壁周辺の床面から，１は北側壁周辺の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第 181 図　第３号竪穴建物跡出土遺物実測図

第３号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 181 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	有段口縁壺	［16.0］	(8.7)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　頸部外面縦位のナデ	覆土下層	10%
2	土師器	小形甕	13.0	(4.1)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面横位のナデ	床面	20%

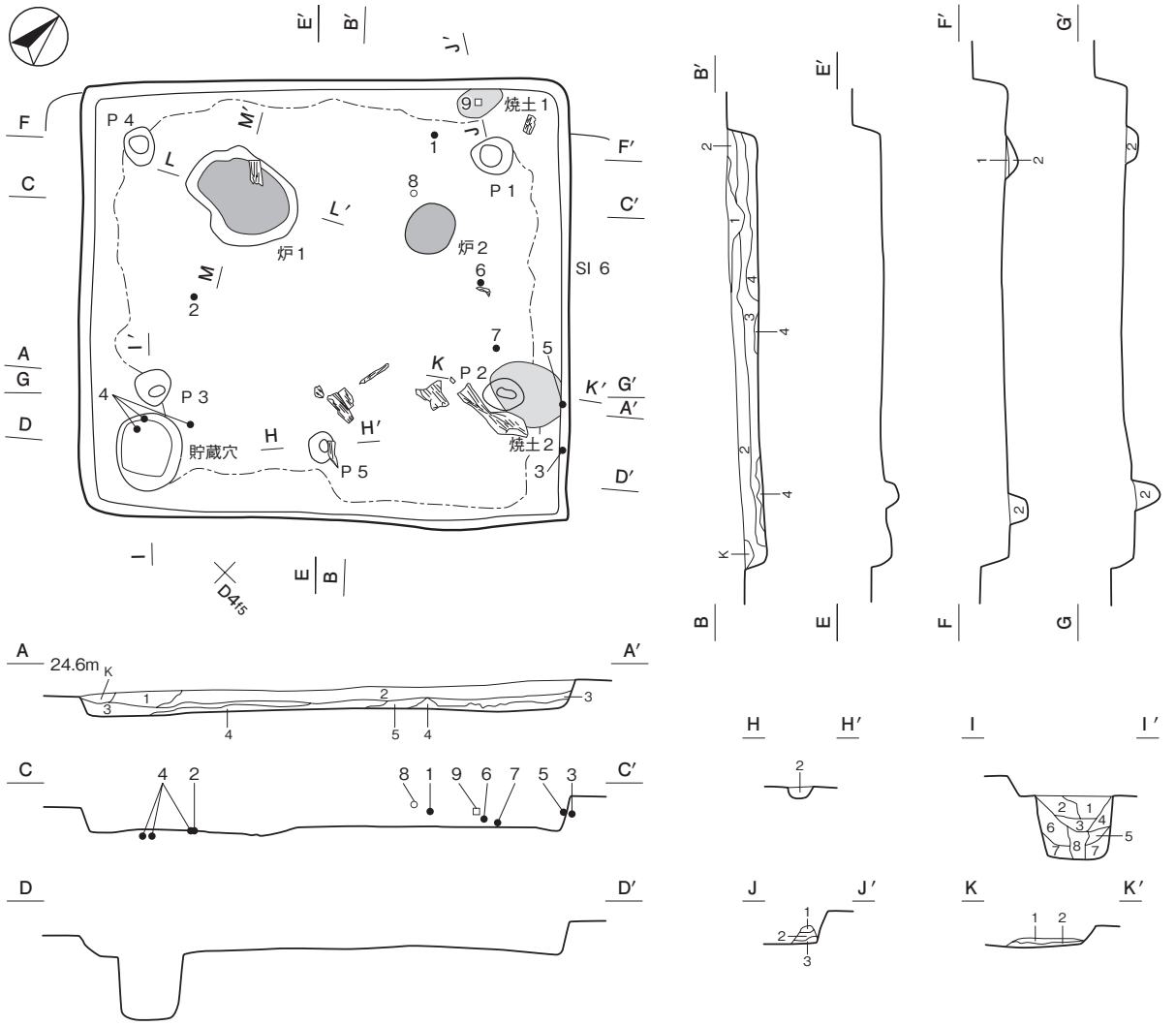
第４号竪穴建物跡（第 182 ～ 185 図　PL11）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４e4 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第６号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.00 m，短軸 3.68 mの方形で，主軸方向はＮ－ 35 ˚－Ｅである。壁は高さ 18 ～ 28㎝で，直立している。



土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子中量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック少量

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

焼土１土層解説

1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　ロームブロック・焼土粒子微量

貯蔵穴土層解説

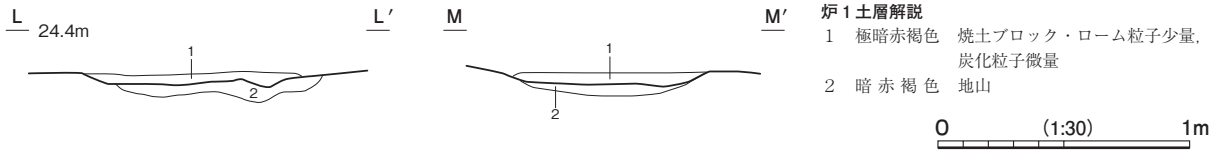
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
5　黒　褐　色　炭化物多量，ローム粒子・焼土粒子微量
6　黒　褐　色　ローム粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
8　褐　　色　ロームブロック多量，炭化物中量，焼土粒子微量

焼土２土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子微量

0　(1:60)　2m

第 182 図　第４号竪穴建物跡実測図 (1)



第183図　第４号竪穴建物跡実測図(2)

床　平坦で，中央部から壁際にかけて踏み固められている。東側に炭化材や焼土を確認した。焼土１は，長径0.36m，短径0.25ｍ，厚さ15cmである。焼土２は，長径0.65m，短径0.5ｍ，厚さ６cmである。

炉　２か所。炉１は西寄りに位置している。長径96cm，短径74cmの不整楕円形で，深さ４cmの地床炉である。第２層上面が炉床面であり，火熱を受けて赤変硬化している。炉２は北寄りに位置している。長径44cm，短径36cmの楕円形で，掘り込まない地床炉である。火熱を受けて赤変硬化している。

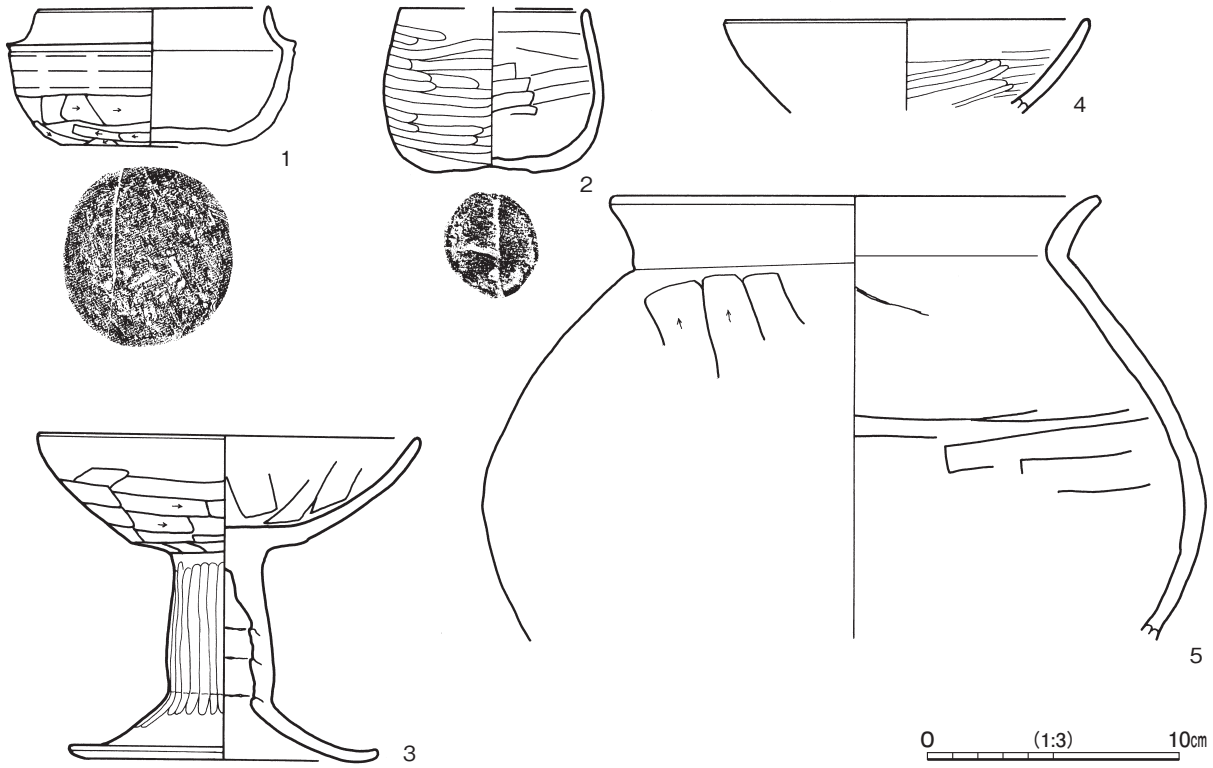
ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ15～25cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ10cmで，配置から出入口施設に伴うピットである。第１・２層は柱抜き取り後の覆土である。

貯蔵穴　南コーナー部に位置し，長径66cm，短径56cmの楕円形である。深さは58cm，底面は平坦で，壁は直立している。８層に分層でき，ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

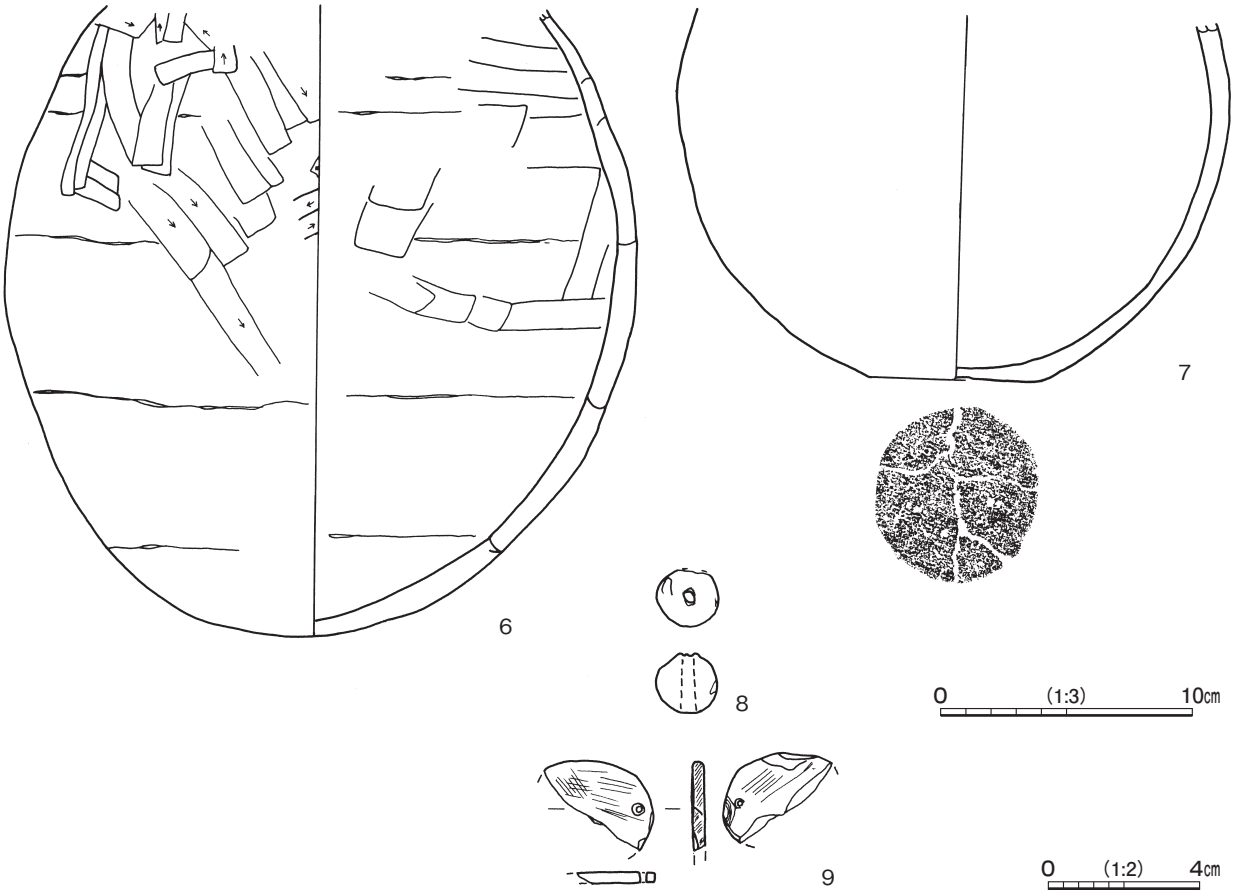
覆土　５層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片229点（坏30，椀１，坩19，高坏14，甕類165），須恵器片１点（坏），土製品１点（土玉），石製品１点（有孔円板）が出土している。２は中央やや南西寄りの床面から，４は南コーナー部の貯蔵穴とその周辺の覆土下層から出土した破片が接合したもので，７は東側壁周辺の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第184図　第４号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 185 図　第 4 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 4 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 184・185 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	須恵器	坏	9.3	5.6	6.5	長石・石英	黄灰	普通	口縁部体部ロクロナデ　底部回転ヘラ削り後ヘラナデ	覆土上層	100% TK73 に平行
2	土師器	椀	[7.2]	6.5	3.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面横位のヘラ磨き　内面横位のナデ	床面	70%　PL35
3	土師器	高坏	15.0	13.0	12.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	坏部外面横位のヘラ削り　内面縦位のヘラナデ 脚部外面縦位のヘラ磨き	覆土中層	95%　PL35
4	土師器	高坏	14.4	(3.7)	－	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	坏部口縁外・内面ナデ　坏部外・内面ヘラ磨き	床面 覆土下層	20%　PL35
5	土師器	甕	18.9	(17.6)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面縦位のヘラ削り後，ナデ　内面横位のヘラ削り後，ナデ	覆土中層	40%　PL36
6	土師器	甕	－	(25.0)	－	長石・石英	橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り　内面横位のナデ	覆土下層	70%　PL36
7	土師器	甕	－	(14.5)	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外・内面ナデ	覆土下層	20%

番号	器　種	径	長さ	孔径	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
8	土玉	1.9	2.2	2.4	(12.03)	長石・石英	にぶい橙	外面ナデ　ヘラ当て痕	覆土中層	90%　PL37

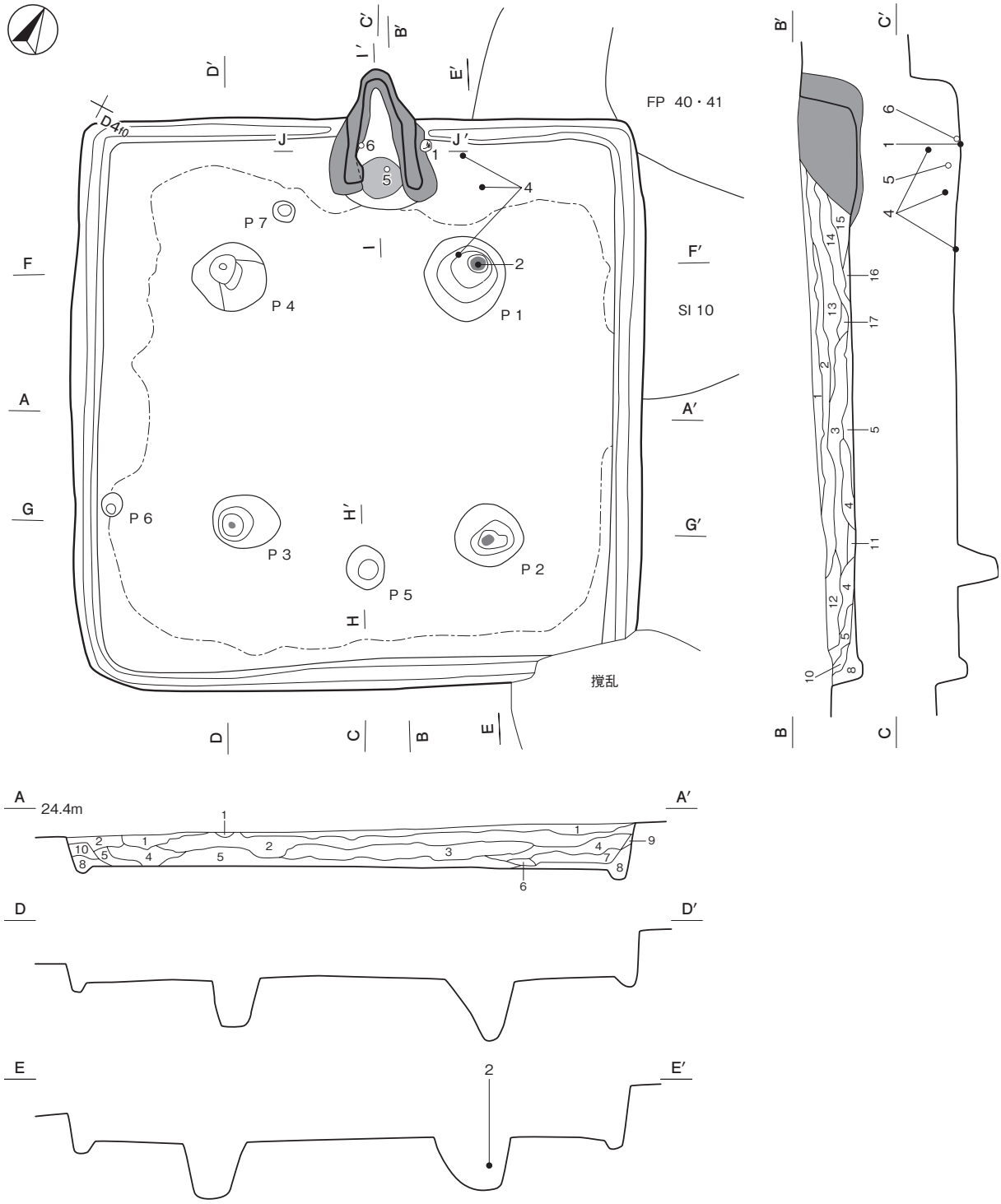
番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
9	有孔円板	(2.4)	(2.9)	0.3	(2.90)	滑石	全面研磨加工　孔 1 か所　孔径 0.18cm	覆土中層	

第５号竪穴建物跡（186 ～ 188 図　PL13）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４f0 区，標高 24 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 10 号竪穴建物跡，第 40・41 号炉穴を掘り込んでいる。

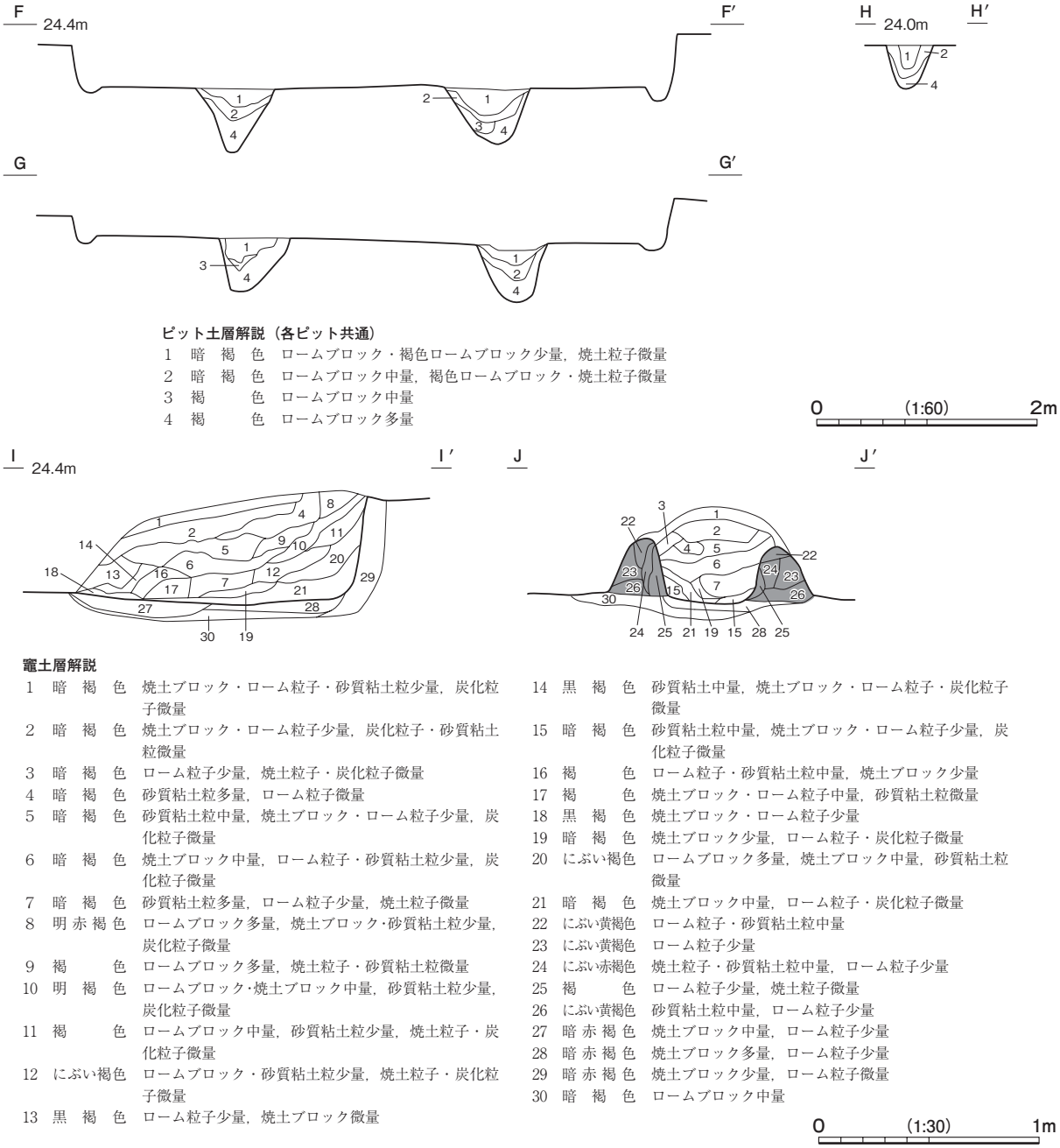


土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　黒　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
9　褐　　色　ロームブロック微量
10　暗　褐　色　ロームブロック微量
11　黒　褐　色　ロームブロック微量
12　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
13　暗　褐　色　粘土粒多量，ロームブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量
14　暗　褐　色　粘土粒中量，ロームブロック・炭化粒子少量，焼土ブロック微量
15　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
16　褐　　色　ローム粒子多量
17　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

0　(1:60)　2m

第 186 図　第５号竪穴建物跡実測図 (1)



第 187 図　第５号竪穴建物跡実測図 (2)

規模と形状　長軸 5.54 m，短軸 5.50 mの方形で，主軸方向はN － 29 ° － Wである。壁は高さ 18 ～ 52cmで，ほぼ直立している。

床　平坦で，中央部から壁際にかけて踏み固められている。壁溝が撹乱を受けている東コーナー部を除いて，壁下を巡っている。

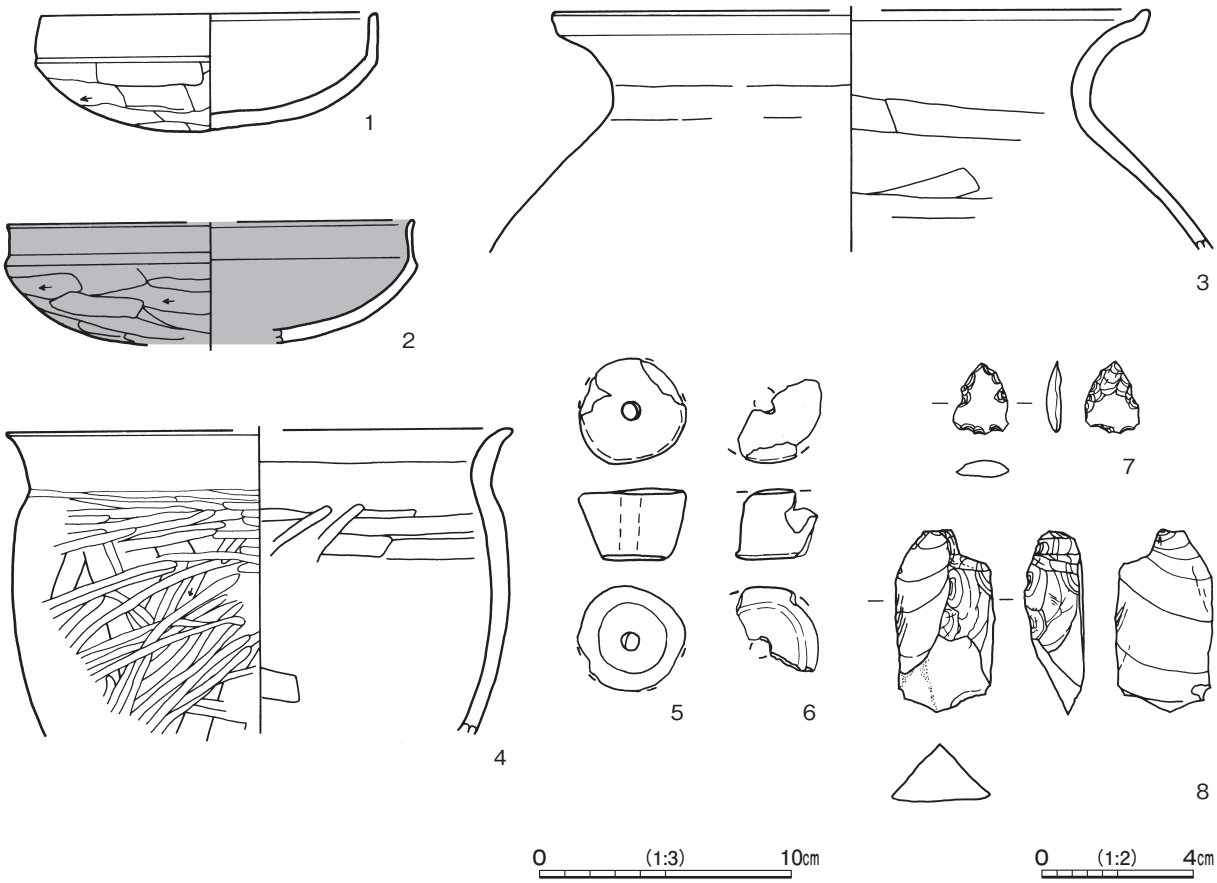
竈　北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは 136cm，燃焼部の幅は 38cmである。燃焼部は床面から８cmほど掘りくぼめられ，第 27 ～ 30 層を埋土して構築されている。袖部は，砂質粘土やロームブロックなどを含む第 22 ～ 26 層を積み上げて構築されている。火床面は第 27 層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。第 19 ～ 21 層は天井部材や内壁の崩落土である。

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ46～60cmで，配置から主柱穴である。Ｐ５は深さ40cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。Ｐ１～Ｐ３の底面から，柱あたりを確認した。第１～４層は柱材を抜き取った後の覆土である。Ｐ６・Ｐ７はともに深さ32cmで，性格は不明である。

覆土　17層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片343点（坏52，坩１，甕類288，甑２），土製品２点（紡錘車），石器１点（鏃），剥片３点（頁岩，黒曜石，石英）が出土している。１は竈右袖部付近の床面から出土している。４は竈右袖部付近の覆土中層とＰ１の覆土上層から出土した破片が接合したものである。２はＰ１の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から６世紀後葉と考えられる。



第188図　第５号竪穴建物跡出土遺物実測図

第５号竪穴建物跡出土遺物観察表（第188図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.4	4.7	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面横位のヘラ削り　内面黒色処理カ	床面	90%
2	土師器	坏	［16.0］	（4.3）	－	長石・石英	灰褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面横位のヘラ削り　外・内面黒色処理	Ｐ１覆土中	40%
3	土師器	甕	［23.5］	（9.5）	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部内面横位のヘラナデ	覆土中	20%
4	土師器	小形甕	［19.8］	（12.1）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ　体部外面縦位・横位のヘラ削り後，斜位のヘラ磨き　内面ナデ後，ヘラ磨き	底面 覆土中・上層	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	紡錘車	4.2	2.8	0.7	（52.31）	長石・石英	灰黄褐	一方向からの穿孔　ナデ	竈内	PL37
6	紡錘車	［4.8］	2.8	［0.8］	（21.88）	長石・石英	灰褐	ナデ　欠損部あり	竈内	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
7	鏃	1.9	1.4	0.4	1.26	頁岩	未成品	覆土中	PL34
8	剥片	4.9	2.7	1.6	17.34	頁岩	微細剥離痕	覆土中	PL34
9	剥片	3.0	2.6	0.7	5.18	石英	使用痕有り	覆土中	PL34 計測のみ
10	剥片	2.1	1.6	1.0	3.09	黒曜石	打面は複数	覆土中	計測のみ

第６号竪穴建物跡（第 189 図　PL11）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４e5 区，標高 24 ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第４号竪穴建物に掘り込まれている。

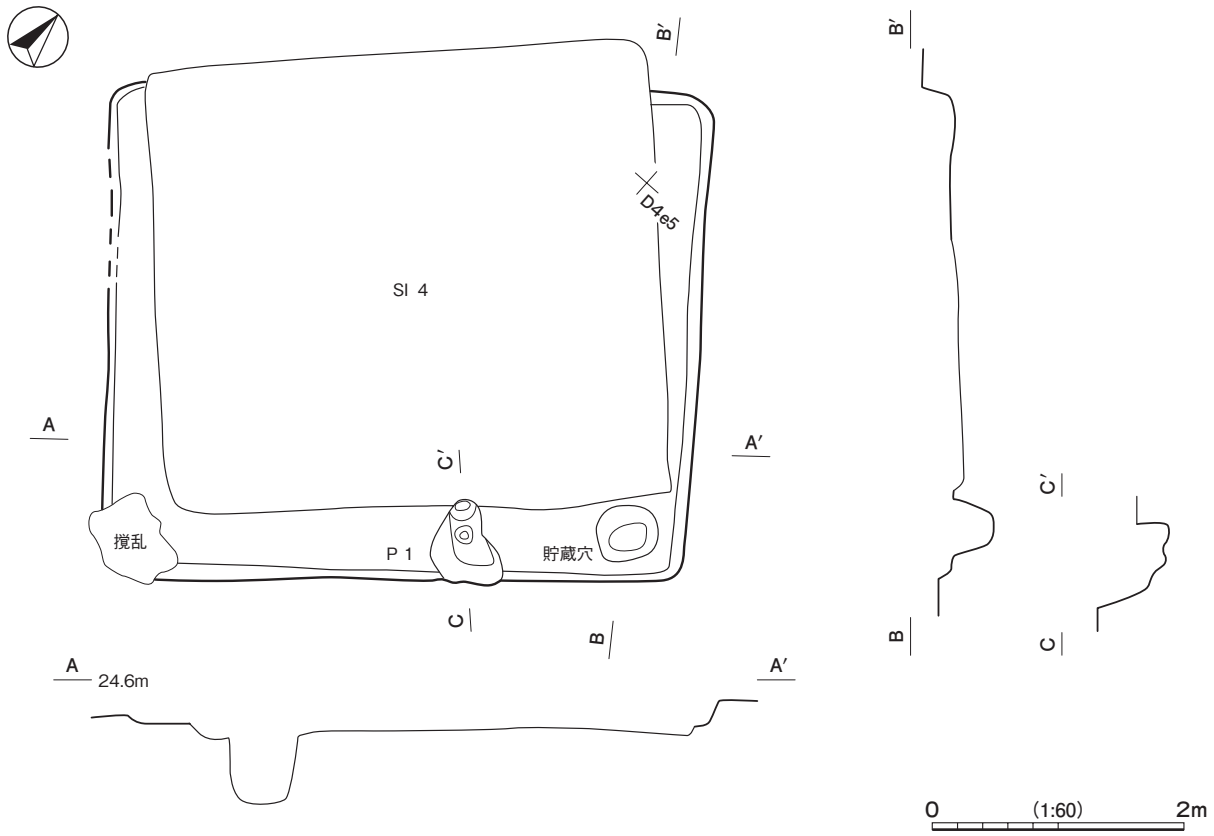
規模と形状　長軸 4.70 ｍ, 短軸 3.90 ｍの隅丸長方形で, 主軸方向はＮ－ 48 °－Ｅである。壁は高さ７～ 26cmで, 直立している。

床　第４号竪穴建物に大部分が掘り込まれているため，状況は不明である。

貯蔵穴　東コーナー部に位置し，長径 54cm，短径 44cmの楕円形である。深さは 34cm，底面は平坦で，壁は外傾している。堆積状況は不明である。

ピット　深さ 26cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。堆積状況は不明である。

所見　時期は，重複関係から５世紀前葉と考えられる。

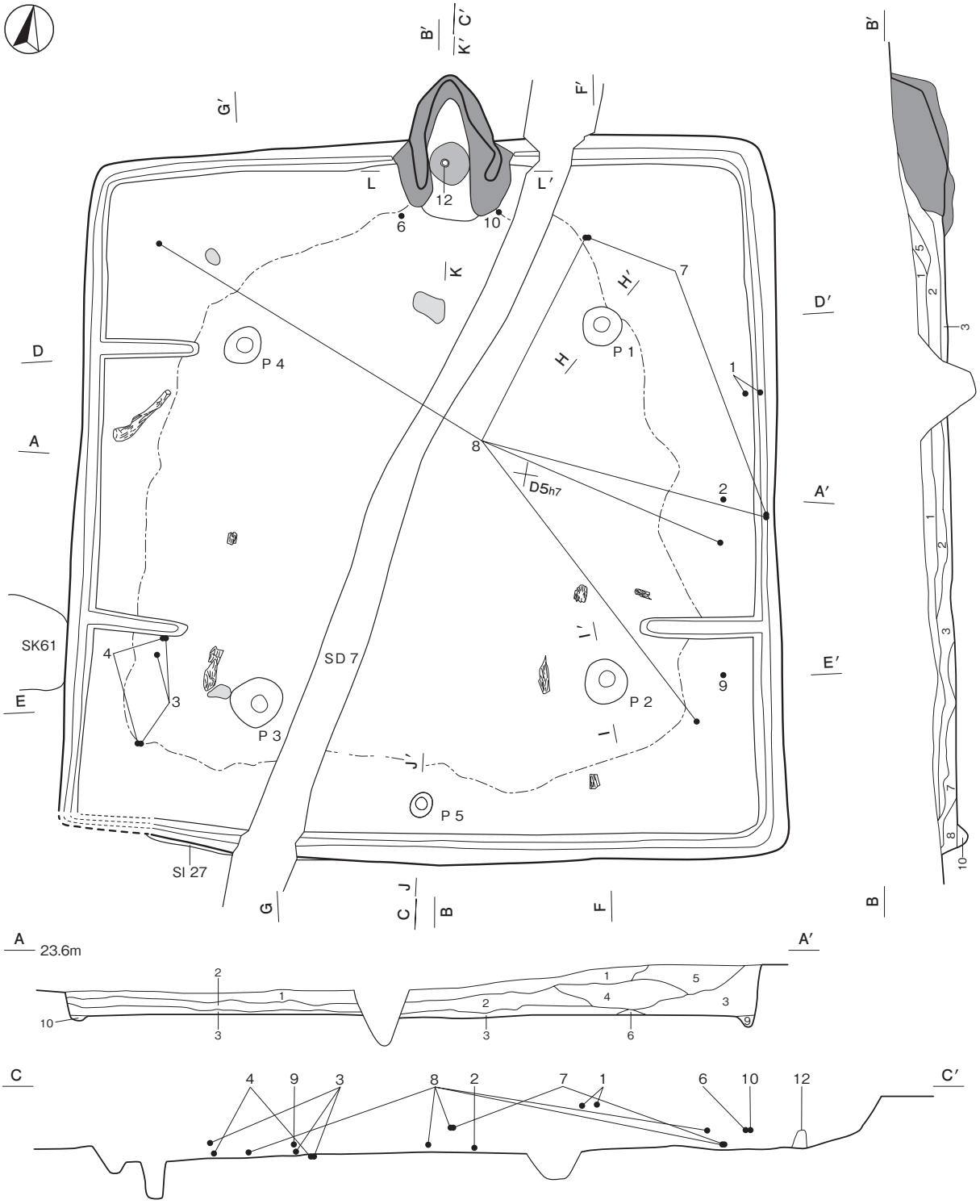


第 189 図　第６号竪穴建物跡実測図

第７号竪穴建物跡（第 190 ～ 193 図　PL13・14）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ５h6 区，標高 23 ｍの台地平坦部に位置している。

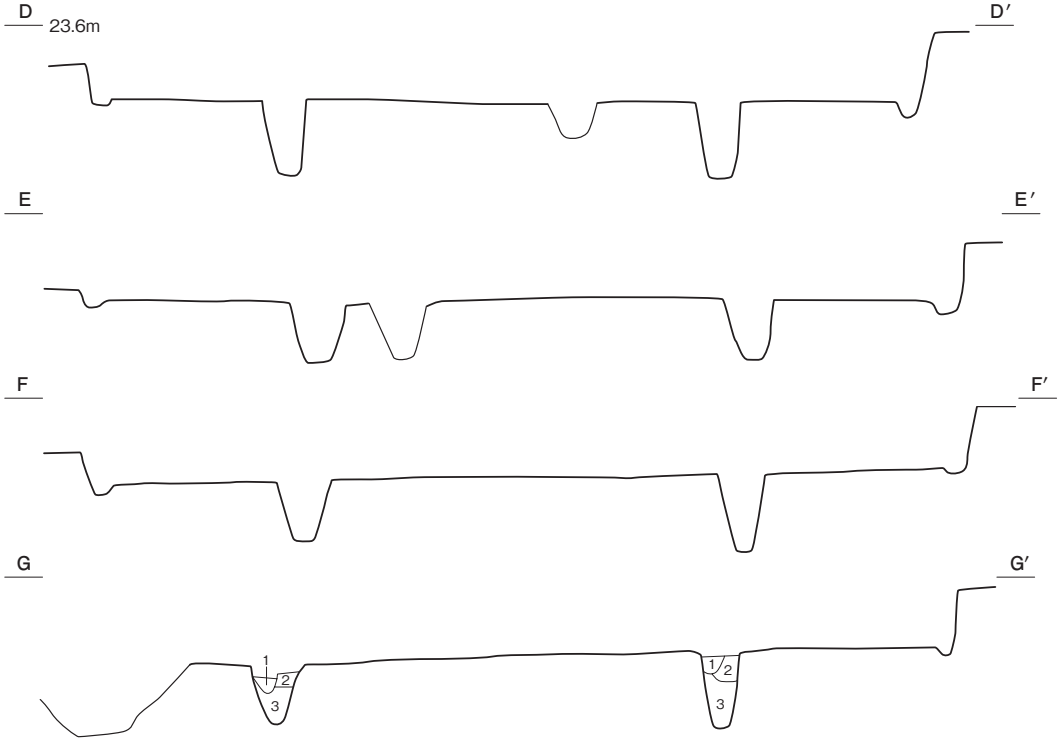


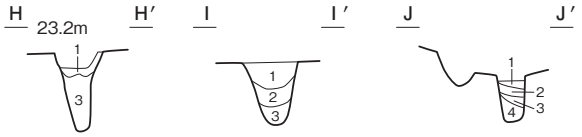
土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　黒　褐　色　焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
7　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
8　褐　　色　ロームブロック中量
9　暗　褐　色　ロームブロック少量
10　褐　　色　ロームブロック少量

0　(1:60)　2m

第 190 図　第７号竪穴建物跡実測図 (1)





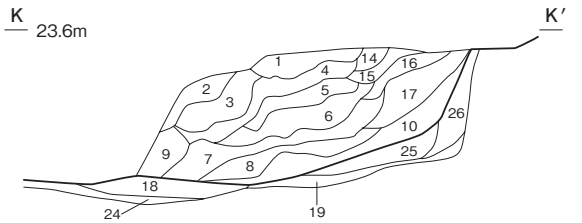
ピット１～４土層解説

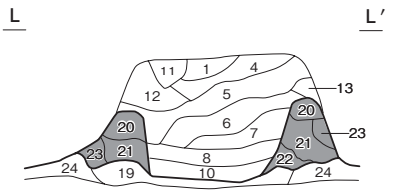
1　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

ピット５土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ロームブロック微量

0　(1:60)　2m





竈土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒少量
3　暗　褐　色　焼土ブロック・砂質粘土ブロック中量，ロームブロック炭化物少量
4　暗　褐　色　焼土ブロック中量，砂質粘土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗　褐　色　焼土ブロック中量，炭化物・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
6　灰 黄 褐 色　焼土ブロック中量，炭化物少量，ローム粒子・砂質粘土ブロック微量
7　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化ブロック少量，砂質粘土粒子微量
8　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物中量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
9　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量，砂質粘土粒子微量
10　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
11　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子中量，焼土粒子微量
12　暗　褐　色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
13　暗　褐　色　粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
14　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
15　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
16　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
17　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
18　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子少量
19　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子微量
20　灰　褐　色　砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
21　灰　褐　色　砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
22　暗　褐　色　ローム粒子少量
23　にぶい黄褐色　砂質粘土粒子多量，ローム粒子少量
24　暗　褐　色　ロームブロック少量
25　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ロームブロック少量
26　赤　褐　色　ロームブロック・焼土粒子少量

0　(1:30)　1m

第 191 図　第７号竪穴建物跡実測図 (2)

重複関係　第27号竪穴建物跡，第61号土坑を掘り込み，第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸7.06 m，短軸6.82 mの方形で，主軸方向はN－8°－Wである。壁は高さ8～58cmで，直立している。

床　平坦で，中央部から壁際にかけて踏み固められている。壁溝が，撹乱を受けている南西コーナー部を除いて，壁下を巡っている。根太が，東西の壁から中央に向かって3条配置されていたと考えられる。炭化材が床面から出土している。

竈　北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは144cm，燃焼部の幅は40cmである。燃焼部は床面から12cmほど掘りくぼめられ，第18・19・24～26層を埋土して構築されている。袖部は，砂質粘土粒子を多量に含む第20～23層を積み上げて構築されている。火床面は第19層の上面で，火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に64cmほど掘り込まれ，外傾して立ち上がっている。第7・8・10層は天井部材や内壁の崩落土である。

ピット　5か所。P1～P4は深さ48～62cmで，配置から主柱穴である。P5は深さ18cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。

覆土　10層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片364点（坏35，高台付坏1，高坏4，壺3，甕類319，甑2），須恵器1点（瓹），陶器片2点（碗），磁器片1点（碗），土製品2点（勾玉，支脚），石器1点，剥片4点，炭化材が出土している。12は火床面から正位の状態で出土している。6は竈左袖部付近，10は竈右袖部付近の覆土中層から出土している。2は東側壁付近の床面から出土している。3・4は西側壁付近の床面及び覆土下層から出土した破片が接合したものである。

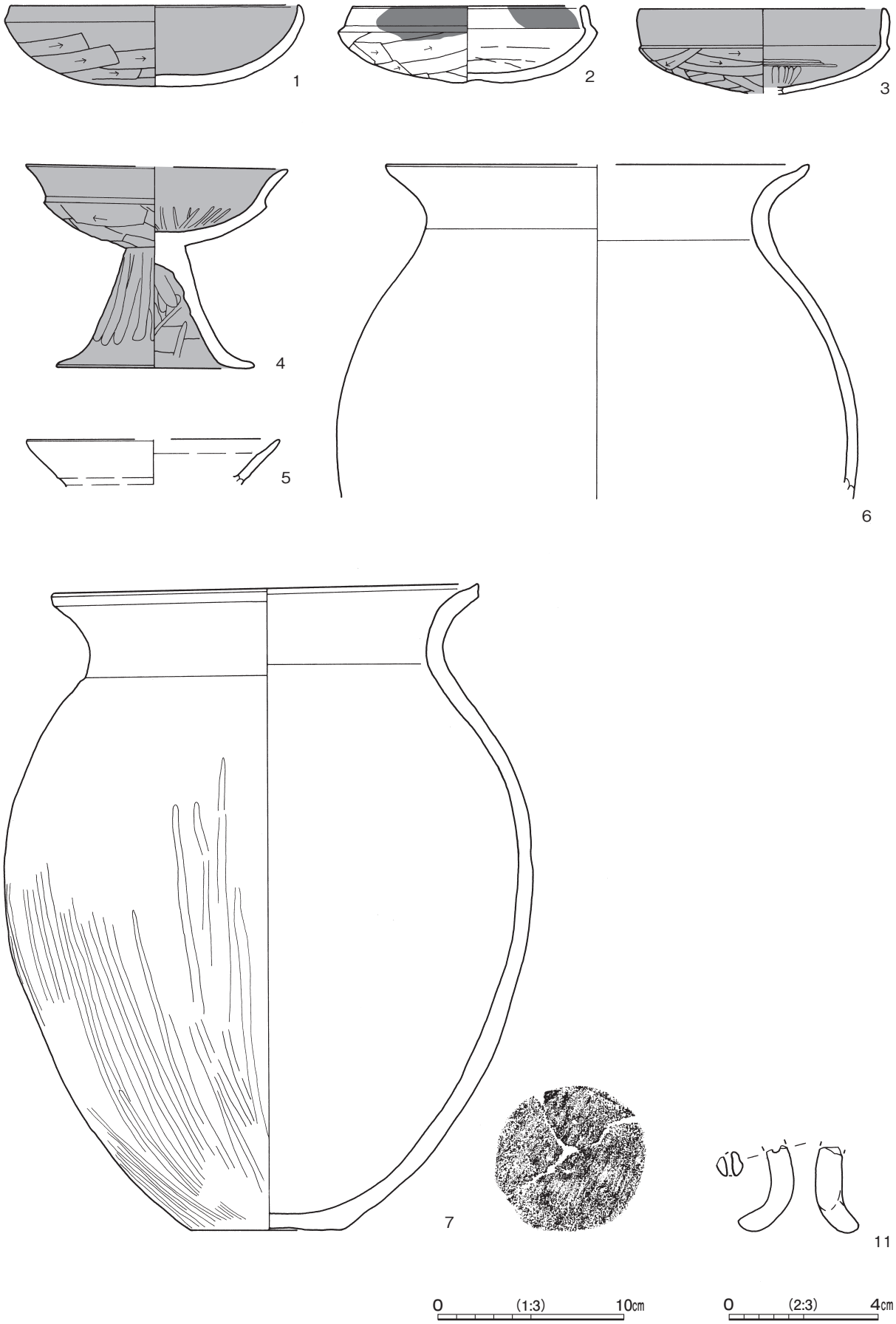
所見　時期は，出土土器から6世紀中葉と考えられる。遺存状態の良い炭化材が出土しており，2点について自然科学分析を行った。後述する炭化材の分析で詳細と結果を説明することとする。

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第192・193図）

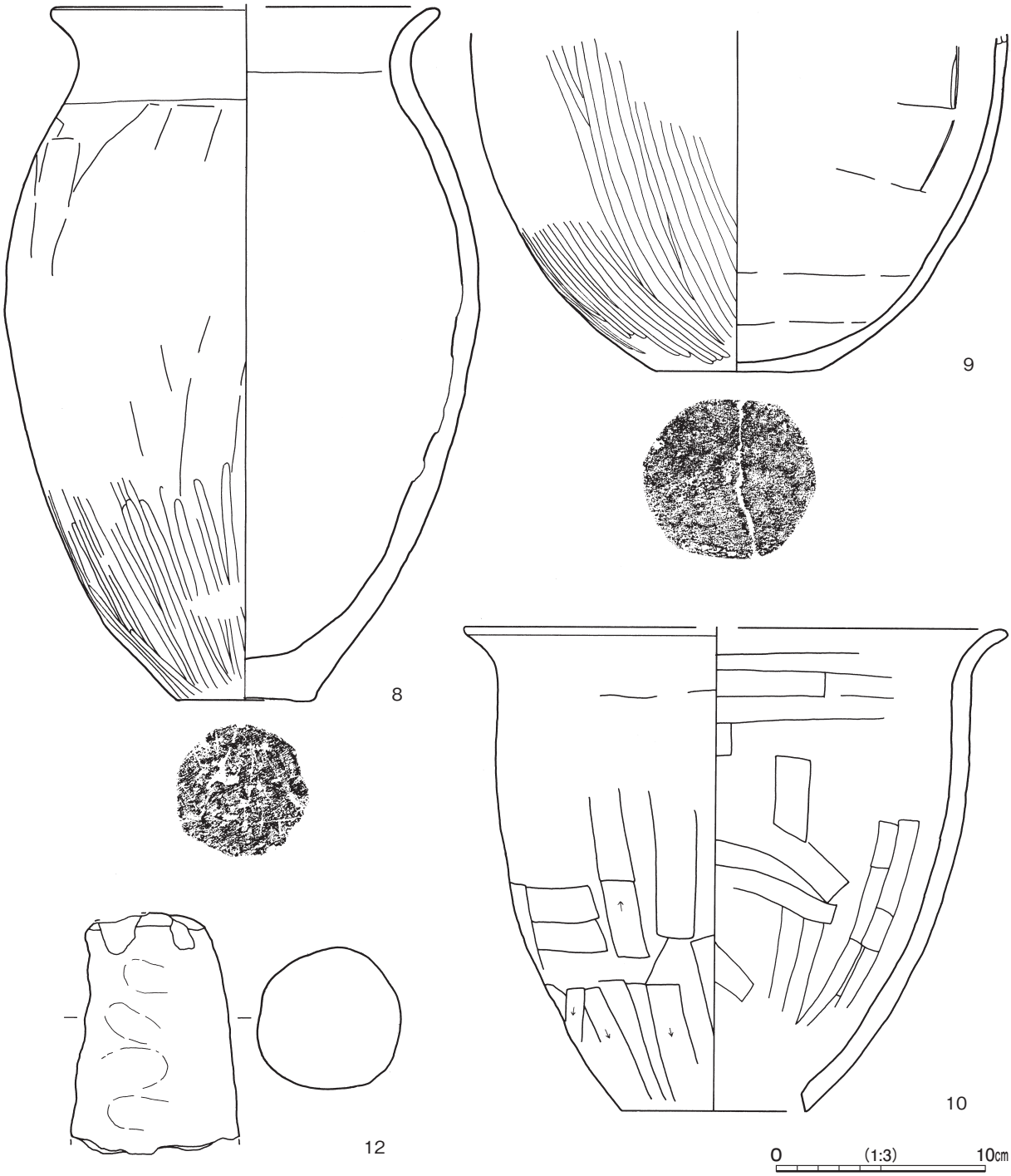
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.5	4.4	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り　内面横位のナデ　外・内面黒色処理	覆土上層	70%
2	土師器	坏	12.4	4.2	－	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面煤付着　体部外面斜位のヘラ削り　内面ナデ	床面	60%
3	土師器	坏	13.2	(4.6)	－	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面ヘラ磨き　外・内面黒色処理	床面 覆土下層	50%　PL35
4	土師器	高坏	[14.0]	11.0	10.4	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	坏部外面横位のヘラ削り　内面放射状のヘラ磨き　脚部外面縦位のヘラ削り　外・内面黒色処理	床面 覆土下層	80%　PL35
5	須恵器	瓹	[13.6]	(1.9)	－	長石・石英	オリーブ黒	普通	口縁部外・内面ロクロナデ	覆土中	5%
6	土師器	甕	[22.6]	(19.0)	－	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部外・内面横位のナデ	覆土中層	20%　PL36
7	土師器	甕	22.8	34.8	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土下層 覆土中層	90%　PL36
8	土師器	甕	[18.0]	33.3	6.4	長石・石英・礫	にぶい赤褐	普通	体部外面上部縦位のヘラナデ　下部縦位のヘラ磨き	覆土下層 覆土中層	40%　PL36
9	土師器	甕	－	(16.2)	7.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部下位に縦位のヘラ磨き　内面ヘラナデ	覆土中層	30%
10	土師器	甑	[25.7]	23.1	8.9	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り　内面縦位のナデ	覆土中層	50%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	勾玉	(2.3)	1.5	0.7	(1.68)	長石・石英	橙	ナデ調整　孔径0.20cm	覆土中	PL37

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
12	支脚	(11.5)	5.8	(8.0)	(508)	長石・石英・雲母	にぶい褐	指頭痕	竈内	



第 192 図　第７号竪穴建物跡出土遺物実測図 (1)



第193図　第７号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

炭化材の分析　　パリノ・サーヴェイ株式会社

1　分析方法

炭化材は風乾後,剃刀を用いて木口（横断面)･柾目（放射断面)･板目（接線断面）の各割片を作成する。茅状炭化物も，風乾後，横断面を作成する。双眼実体顕微鏡や電子顕微鏡で観察する。木材組織の種類や配列の特徴を，現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお，木材組織の名称や特徴は，島地・伊東（1982)，Wheeler 他（1998)，Richter 他（2006）を参考にする。また，日本産木材の組織配列は，林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）

を参考にする。

2　結果

SI 7の炭化材はコナラ亜属クヌギ節であった。以下に検出された試料の解剖学的所見を述べる。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Quercus sect. Cerris）　ブナ科

環孔材で，孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に径を減じたのち，単独で放射方向に配列し年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

3　考察

検出される種類をみると，2点はコナラ亜属コナラ節とクヌギ節である。明るい林地を好み，二次林を構成する種類である。萌芽による再生が容易なため，林縁，河川沿い，人家の近くなどに多く，里山林の重要な構成要素である。住居構築材や燃料材等として使われたものと思われるが，本調査地点の周辺に生育していた可能性が高く，入手しやすい木材を利用したと考えられる。伊東隆夫・山田昌久（2012）の出土木製品用材データベースによれば，県内の住居跡から検出された炭化材は古墳時代のものが多いが，コナラ節やクヌギ節が多く検出されている。

第16号竪穴建物跡（第194・195図　PL11・12）

調査年度　平成30年度

位置　調査区中央部のD5b2区，標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第33号炉跡を掘り込んでいる。

規模と形状　一辺5.50mの方形で，主軸方向はN－4°－Eである。壁は高さ20～28cmで，直立している。

床　平坦で，中央部から壁際にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。南側にスロープ状の高まりがある。

炉　中央から北寄りに位置している。長径66cm，短径56cmの楕円形で，深さ6cmの地床炉である。第2層上面が炉床面であり，火熱を受けて赤変硬化している。

ピット　7か所。P1～P4は深さ60～90cmで，配置から主柱穴である。P5は深さ46cmで，配置から出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ50cm，P7は深さ22cmで性格不明である。P1～P4の第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土，第4層は柱の掘方への埋土である。

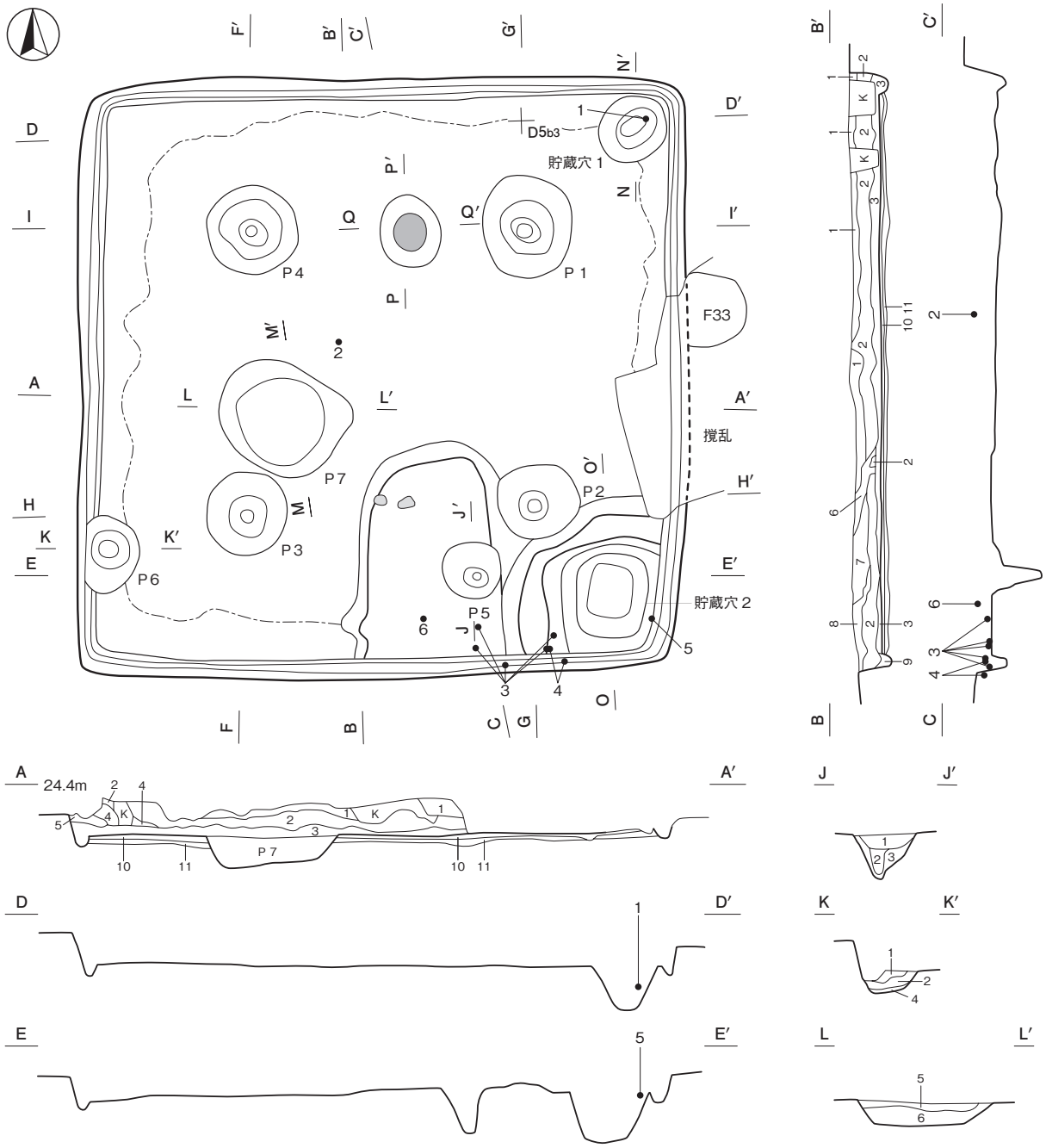
貯蔵穴　2か所。貯蔵穴1は北東コーナー部に位置している。長径66cm，短径58cmの楕円形である。深さは44cm，底面は皿状で，壁は外傾している。3層に分層でき，第2層は自然堆積と考えられるが，第3・4層は人為による埋め戻しである。貯蔵穴2は南東コーナー部に位置している。長軸84cm，短軸66cmの隅丸方形である。深さは46cm，底面は平坦で，壁は外傾している。5層に分層でき，第1・2層は自然堆積と考えられるが，第4～6層は人為による埋め戻しである。外周部に南北幅1.16m，東西幅1.10m，高さ6cmほどの高まりがある。

覆土　9層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。第10・11層は貼床の構築土である。

遺物出土状況　土師器片182点（坏22，椀3，坩9，高坏29，甕類118，甑1），磁器片1点（不明）のほか，石器2点（不明），剥片3点が出土している。1は貯蔵穴1の覆土中層から出土している。3は南側壁付近の

床面及び覆土下層から，４は南側壁付近の覆土中層及び覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



土層解説

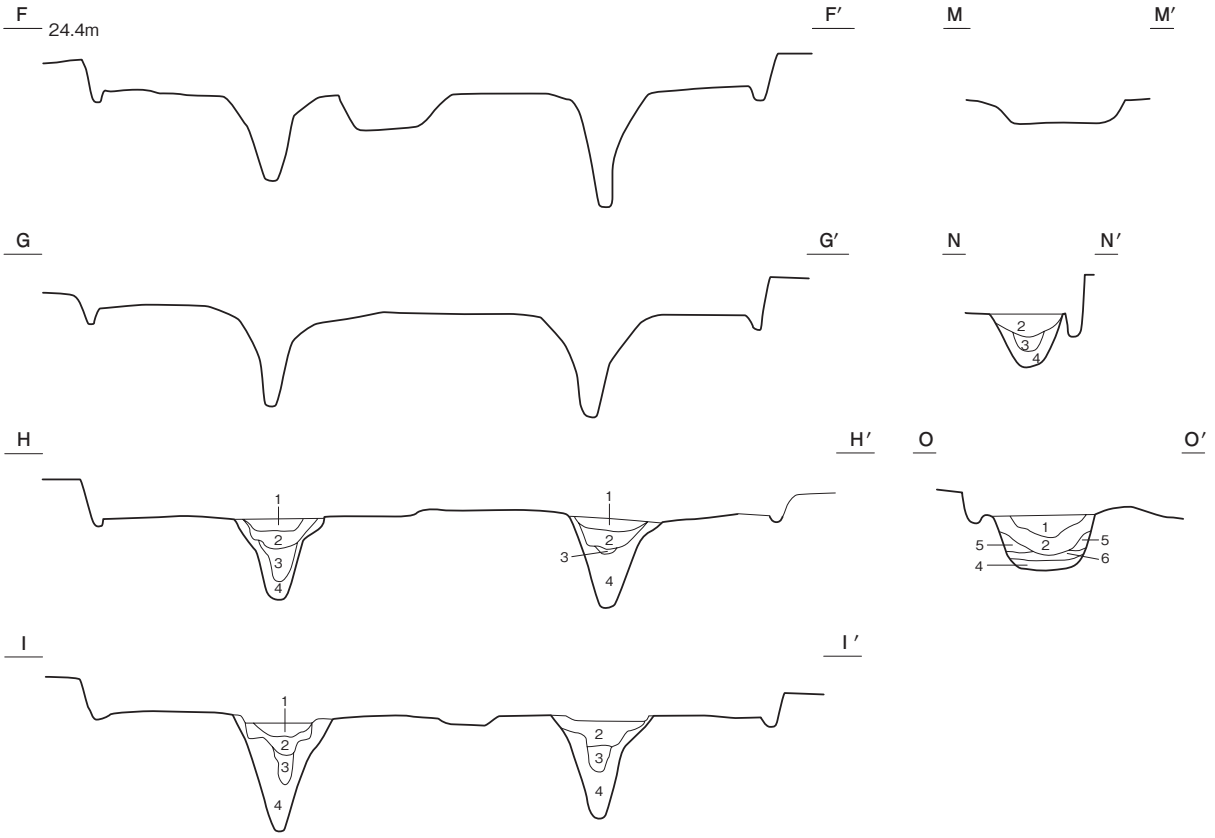
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ローム粒子微量
6　黒　褐　色　炭化物少量，焼土粒子微量
7　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
8　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子微量
9　暗　褐　色　焼土粒子少量
10　暗　褐　色　ロームブロック少量
11　褐　　色　ロームブロック中量

ピット土層解説（各ピット共通）

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量
6　褐　　色　ロームブロック中量

0　(1:60)　2m

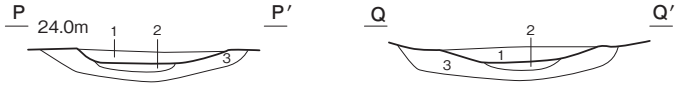
第 194 図　第 16 号竪穴建物跡実測図



貯蔵穴１・２土層解説

1　暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗 褐 色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
6　暗 褐 色　ロームブロック少量

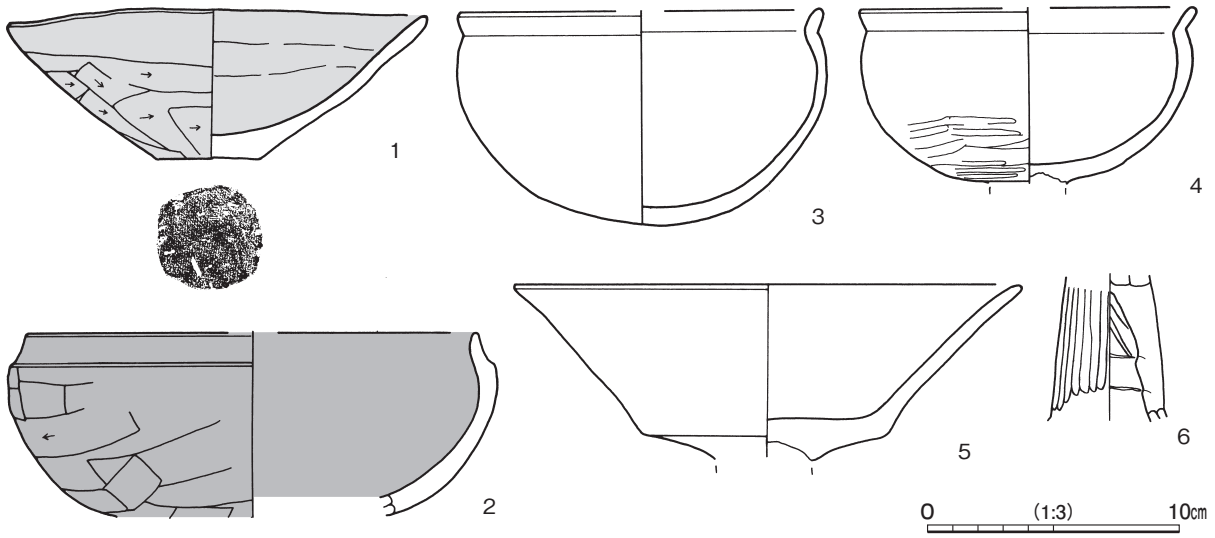
0　(1:60)　2m



炉土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　赤 褐 色　地山
3　明 赤 褐 色　地山

0　(1:30)　1m



0　(1:3)　10cm

第 195 図　第 16 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 16 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 195 図）

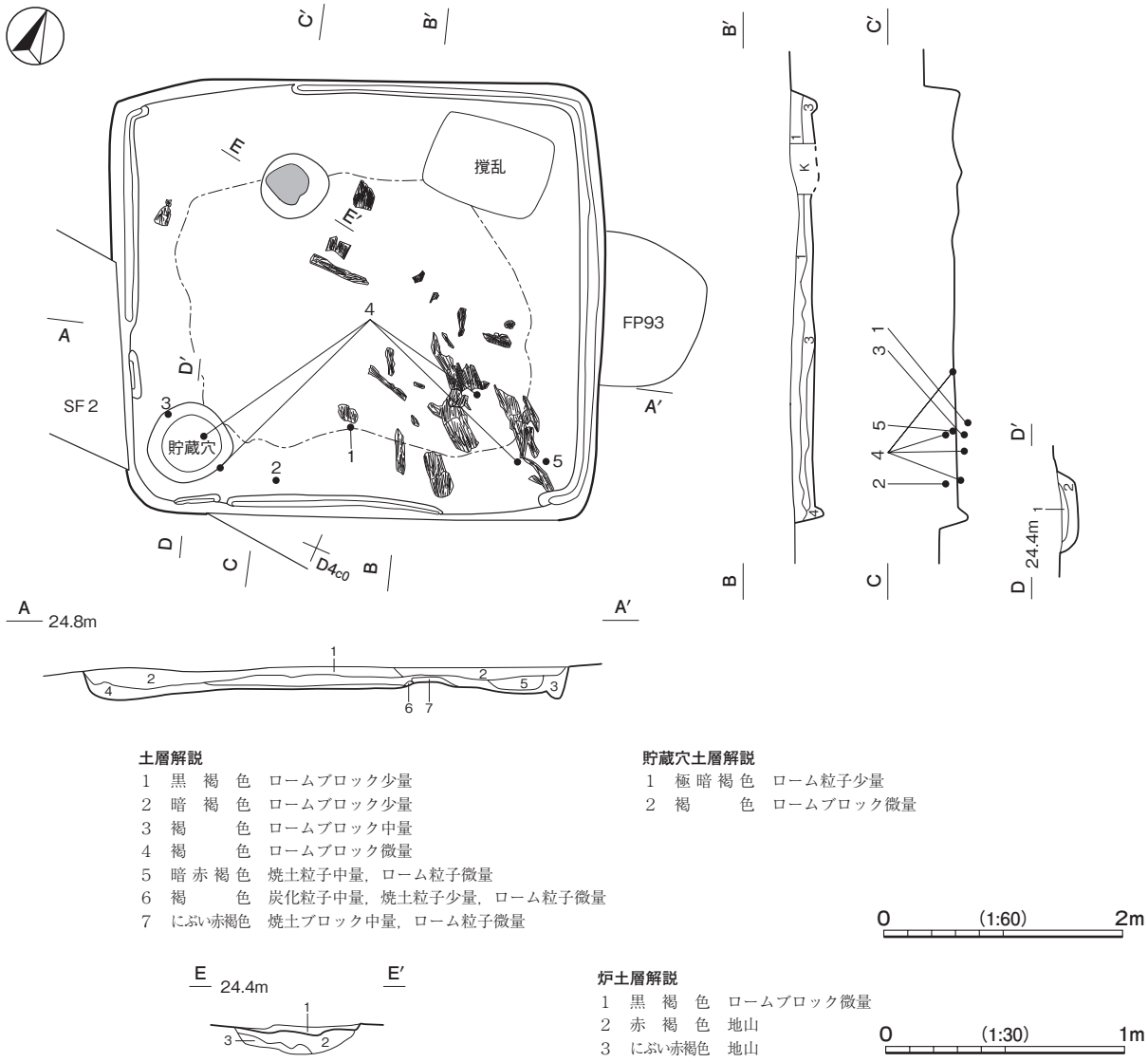
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	坏	16.7	6.0	4.0	長石・石英	明赤褐	普通	体部外面下部横位のヘラ削り　体部内面ナデ　底部内面使用による擦れ　外・内面赤彩	床面	80%
2	土師器	椀	［17.8］	（7.3）	－	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ　体部外面斜位のヘラ削り　内面ナデ　外・内面黒色処理	覆土上層	20%
3	土師器	椀	［14.1］	8.7	－	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ	床面 覆土下層	50%　PL35
4	土師器	高坏	［13.2］	（7.0）	－	長石・石英	橙	普通	坏部口縁外・内面横位のナデ　坏部外面横位・斜位のヘラ磨き	覆土中層 覆土上層	50%
5	土師器	高坏	20.0	（7.1）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部外・内面ナデ	覆土上層	60%
6	土師器	高坏	－	（5.8）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き　脚部内面ナデ　輪積痕	覆土上層	10%

第 19 号竪穴建物跡（第 196・197 図　PL12）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４b9 区，標高 24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 93 号炉穴を掘り込み，第２号道路に掘り込まれている。



第 196 図　第 19 号竪穴建物跡実測図

規模と形状　長軸 4.14 m，短軸 3.62 mの長方形で，主軸方向はN－65°－Eである。壁は高さ 18 ～ 28cmで，外傾している。

床　平坦で，中央部から壁際手前にかけて踏み固められている。壁溝が南コーナー部と南北壁の一部を除く壁下に巡っている。中央部から東側にかけて炭化材が出土している。

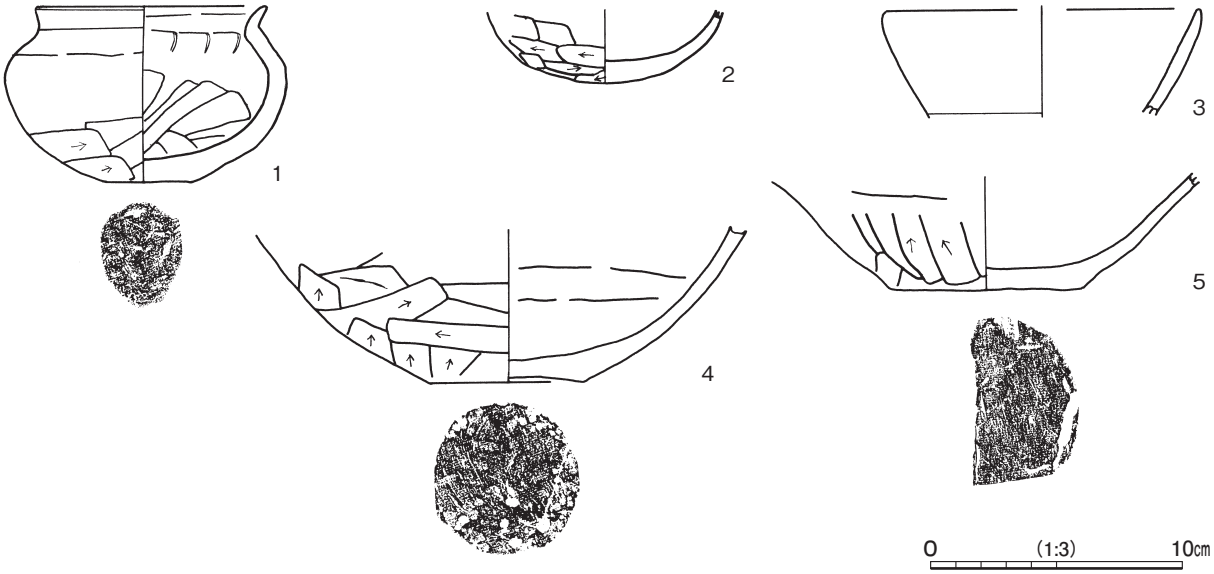
炉　中央から北西寄りに位置している。長径 54cm，短径 52cmの円形で，深さ４cmの地床炉である。第２層上面が炉床面であり，火熱を受けて赤変硬化している。

貯蔵穴　南コーナー部に位置している。長径 68cm，短径 58cmの楕円形である。深さは 14cm，底面は平坦で，壁は外傾している。２層に分層でき，ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

覆土　７層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片 170 点（坏７，椀１，坩 13，高坏 26，甕類 123）が出土している。１は中央部やや南寄りの床面から，３は貯蔵穴の覆土中層から出土している。４は貯蔵穴覆土中層と中央部やや東寄りの床面及び覆土下層から出土した破片が接合したものである。５は南東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。また，遺存状態の良い炭化材が出土しており，３点について自然科学分析を行った。以下に詳細と結果を述べることとする。



第 197 図　第 19 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 19 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 197 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	椀	9.1	7.0	3.3	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	体部外面ナデ　横位のヘラ削り　体部内面ヘラナデ	床面	95%
2	土師器	坩	－	(2.9)	－	長石・石英・赤色粒子	赤褐	普通	体部外面横位のヘラ削り	覆土中層	10%
3	土師器	小形壺	[12.4]	(4.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ	貯蔵穴覆土中層	５%
4	土師器	甕	－	(6.1)	6.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面斜位のヘラ削り　体部内面ナデ	床面覆土下層	10%
5	土師器	甕	－	(4.6)	[7.6]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り	覆土下層	５%

炭化材の分析　　パリノ・サーヴェイ株式会社

1　分析方法は，SI 7の所見において記載しています。

2　結果

1はイネ科草本類，2はコナラ亜属クヌギ節，茅状炭化物，3はコナラ亜属コナラ節であった。以下に検出された試料の解剖学的所見を述べる。

・イネ科草本類（Gramineae）

断面は直径4.5㎜（葉鞘含む）の円柱状である。中心部は中空。茎の周囲が葉鞘に包まれる。小径の道管の左右に1対の大型の道管があり，その外側に師部細胞がある。これらを繊維細胞（維管束鞘）が囲んで維管束を形成する。タケ類に比べて繊維細胞が薄いので，草本類と思われる。柔組織中は海綿状の粗い細胞からなり，維管束も大きく繊維細胞も薄い。一方茎の周辺の維管束は小型で，繊維細胞の密度が高く，細胞壁も厚い。このように維管束が組織中に散在し，不斉中心柱をなす。このような葉鞘の構造，茎の太さ，繊維細胞の発達状況からイネ科草本類である。イネやヨシなど水辺に生育するイネ科は，葉鞘内に空気を通すための大きな空隙があるものが多いが，今回の試料ではみられない。また，茎径が太いことから，ススキなどの陸上に生育する大型イネ科草本植物ではないかと思われる。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Quercus sect. Cerris）　ブナ科

環孔材で，孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に径を減じたのち，単独で放射方向に配列し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（Quercus subgen. Quercus sect. Prinus）　ブナ科

環孔材で，孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高程度のものと複合放射組織とがある。

3　考察

検出される種類をみると，イネ科草本類，コナラ亜属クヌギ節とコナラ節である。共に明るい林地を好み，二次林を構成する種類である。萌芽による再生が容易なため，林縁，河川沿い，人家の近くなどに多く，里山林の重要な構成要素である。これらは住居構築材や燃料材等として使われたものと思われるが，本調査地点の周辺に生育していた可能性が高く，入手しやすい木材を利用したと考えられる。伊東隆夫・山田昌久（2012）の出土木製品用材データベースによれば，県内の住居跡から検出された炭化材は古墳時代のものが多いが，コナラ節やクヌギ節が多く検出されている。また，茅材とみられる炭化物はイネ科の草本類であり，屋根材等の建築資材として利用されていたものと思われる。

第27号竪穴建物跡（第198・199図　PL14）

調査年度　平成30年度

位置　調査区中央部のD5h6区，標高24ｍほどの台地平坦部に位置している。

重複関係　第7号竪穴建物，第7号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.20ｍ，短軸6.17ｍの方形で，主軸方向はN－8°－Wである。第7号竪穴建物に掘り込まれているため，壁は高さ3～6㎝しか確認できず，直立している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は確認できなかった。壁溝が削平されている南東コーナー部と南側壁の一部を除いて，壁下を巡っている。

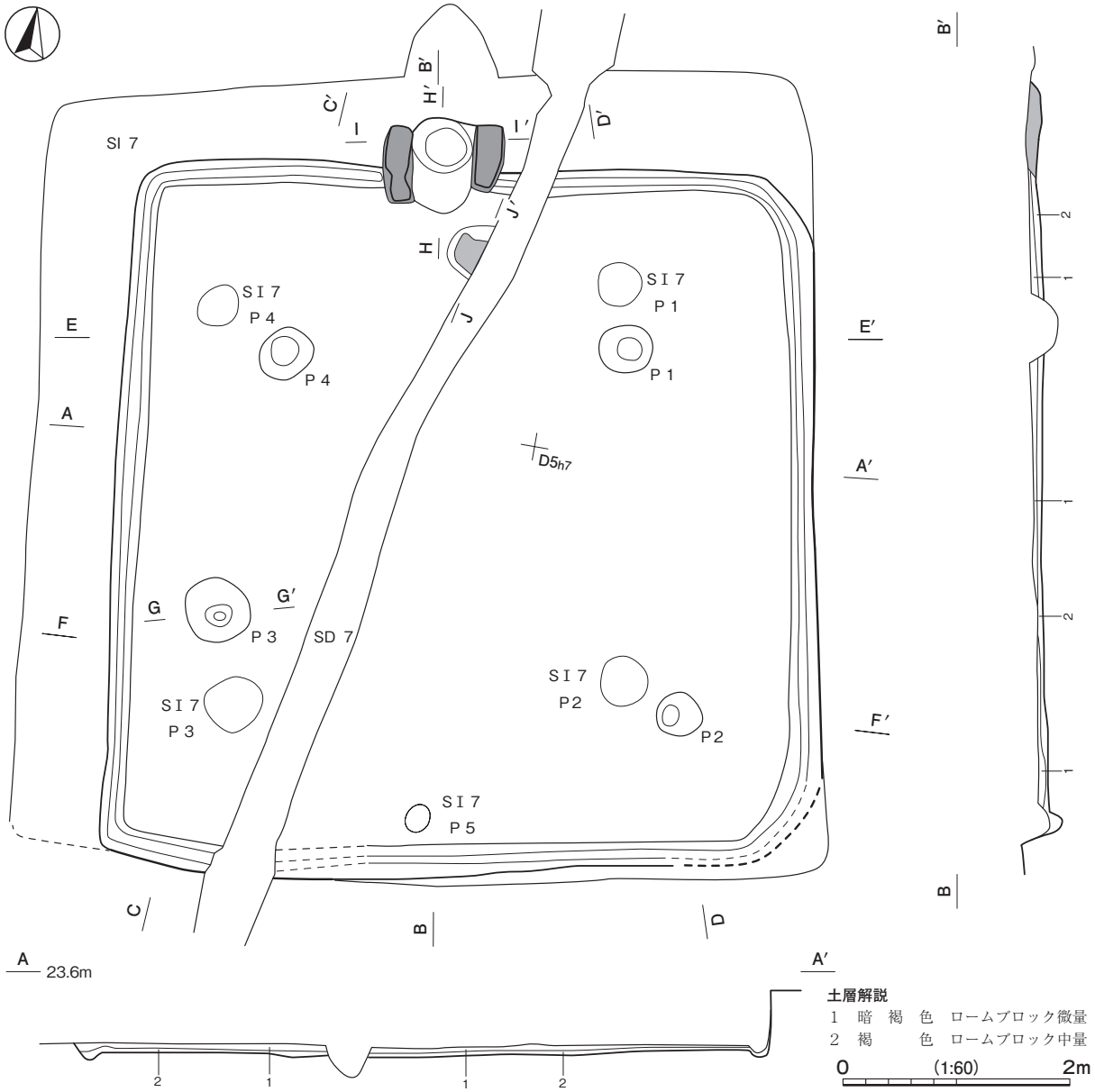
竈　北壁の中央部に付設されている。第７号竪穴建物に掘り込まれているが，掘方の遺存状態からは，焚き口部から煙道部までは30cmで，燃焼部の幅は52cmと推測できる。燃焼部は床面から４cmほど掘りくぼめていると考えられる。堆積状況は不明である。

炉　竈の南側に位置している。第７号溝に掘り込まれているため，長径50cm，短径30cmしか確認できなかった。深さ６cmの地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

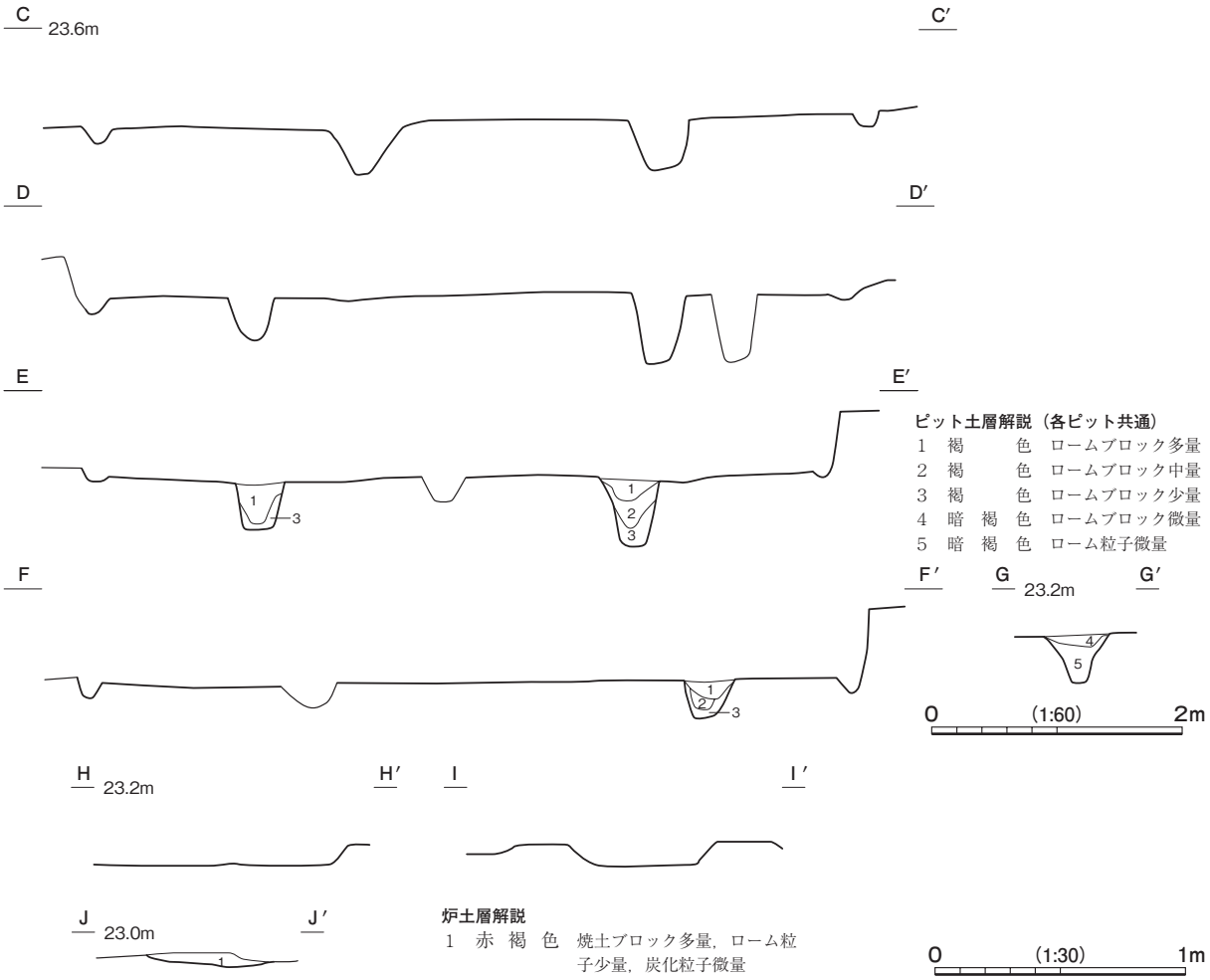
ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ34～52cmで，配置から主柱穴である。Ｐ１～Ｐ４の第１・２層は柱材を抜き取った後の覆土，第３層は掘方の埋土である。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

所見　時期は，重複関係等，第27号竪穴建物の拡張と考えられ，６世紀前葉と考えられる。



第198図　第27号竪穴建物跡実測図(1)



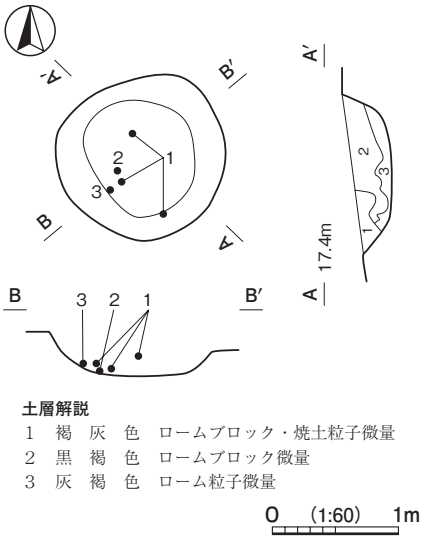
第 199 図　第 27 号竪穴建物跡実測図 (2)

表８　古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	内部施設 出入口	内部施設 ピット	内部施設 炉・竈	内部施設 貯蔵穴	覆土	主な出土遺物	時期	備考
1	E 4 e9	N − 35° − E	[長方形]	[3.65] × (2.75)	22 ～ 25	貼床平坦	−	2	−	−	炉２	1	人為	土師器	5 世紀中葉	HG 1 →本跡
2	D 3 c8	N − 12° − E	方　形	6.75 × 6.58	4 ～ 26	貼床平坦	北･西･南壁	4	1	5	炉１	1	人為	土師器，土製品，石製品	5 世紀前葉	
3	E 5 h8	N − 60° − E	長 方 形	4.12 × 3.30	12 ～ 44	平坦	−	4	−	−	炉２	1	人為	土師器	5 世紀中葉	HG 1 →本跡
4	D 4 e4	N − 35° − E	方　形	4.00 × 3.68	18 ～ 28	平坦	−	4	1	−	炉２	1	人為	土師器，須恵器，土製品，石製品	5 世紀中葉	SI 6 →本跡
5	D 4 f0	N − 29° − W	方　形	5.54 × 5.50	18 ～ 52	平坦	ほぼ全周	4	1	−	北壁	−	人為	土師器，土製品，石器，剥片	6 世紀後葉	SI10，FP40・41 →本跡
6	D 4 e5	N − 48° − E	長 方 形	4.70 × 3.90	7 ～ 26	−	−	−	1	−	−	1	−	−	5 世紀前葉	本跡→ SI 4
7	D 5 h6	N − 8° − W	方　形	7.06 × 6.82	8 ～ 58	平坦	ほぼ全周	4	1	−	北壁	−	人為	土師器，須恵器，土製品，剥片	6 世紀中葉	SI27，SK61 → 本跡→ SD 7
16	D 5 b2	N − 4° − E	方　形	5.50 × 5.50	20 ～ 28	貼床平坦	ほぼ全周	4	1	2	炉１	2	人為	土師器，磁器，石器，剥片	5 世紀中葉	F33 →本跡
19	D 4 b9	N − 65° − E	長 方 形	4.14 × 3.62	18 ～ 28	平坦	ほぼ全周	−	−	−	炉１	1	人為	土師器	5 世紀中葉	FP93 →本跡→ SF 2
27	D 5 h6	N − 8° − W	方　形	6.20 × 6.17	(3 ～ 6)	平坦	−	4	−	−	炉１北壁	−	人為	−	6 世紀前葉	本跡→ SI 7・SD 7

(2) 土　坑

第21号土坑（第200図）



調査年度　平成30年度

位置　調査区南部のＥ５h2区，標高17ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

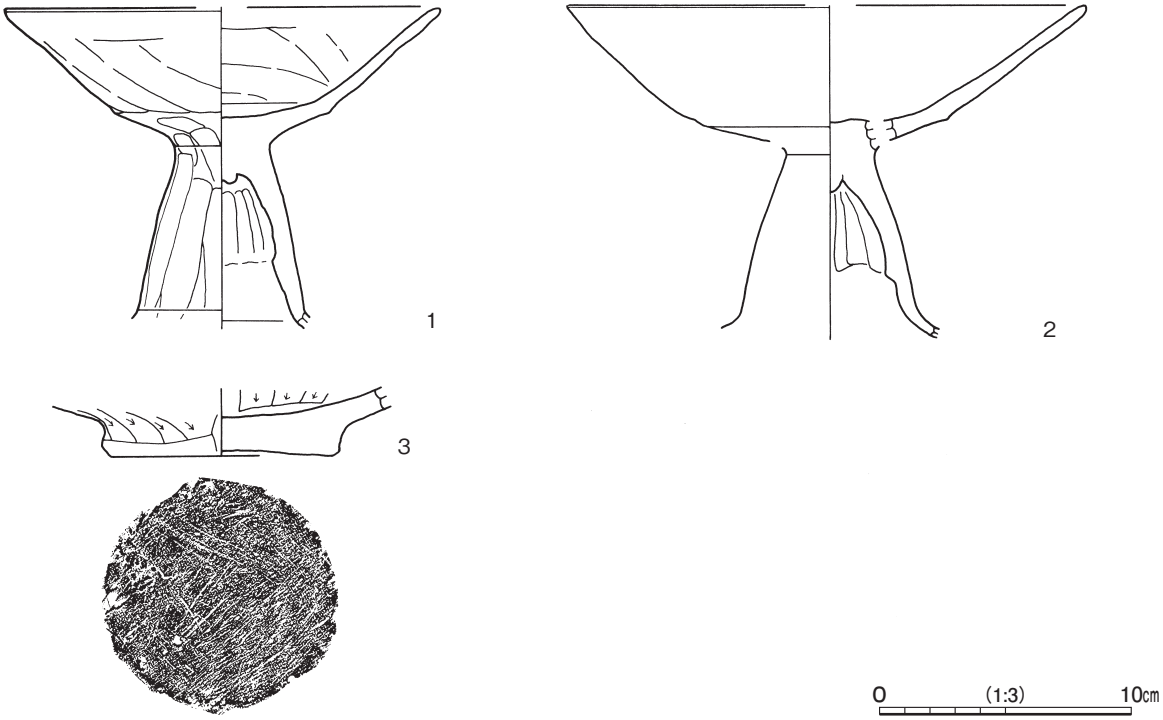
重複関係　第１号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状　長径1.35ｍ，短径1.34ｍの円形である。底面は皿状であり，壁は高さ30cmで緩やかに立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片８点（高坏７，甕類１）が出土している。１・３は底面から出土している。２は覆土下層と覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見　時期は，出土土器から５世紀中葉と考えられる。



第200図　第21号土坑・出土遺物実測図

第21号土坑出土遺物観察表（第200図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	土師器	高坏	[17.2]	(12.8)	―	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部外面斜位のヘラ削り　内面横位のハケ目調整ナデ 脚部外面縦位のヘラ削り　内面に指頭痕	底面	40%
2	土師器	高坏	[20.5]	(13.3)	―	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面ナデ	覆土下層 覆土中層	40%
3	土師器	甕	―	(2.7)	8.9	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ヘラ削り	底面	10%

第 22 号土坑（第 201 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区南部のＥ５h3 区，標高 16 ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

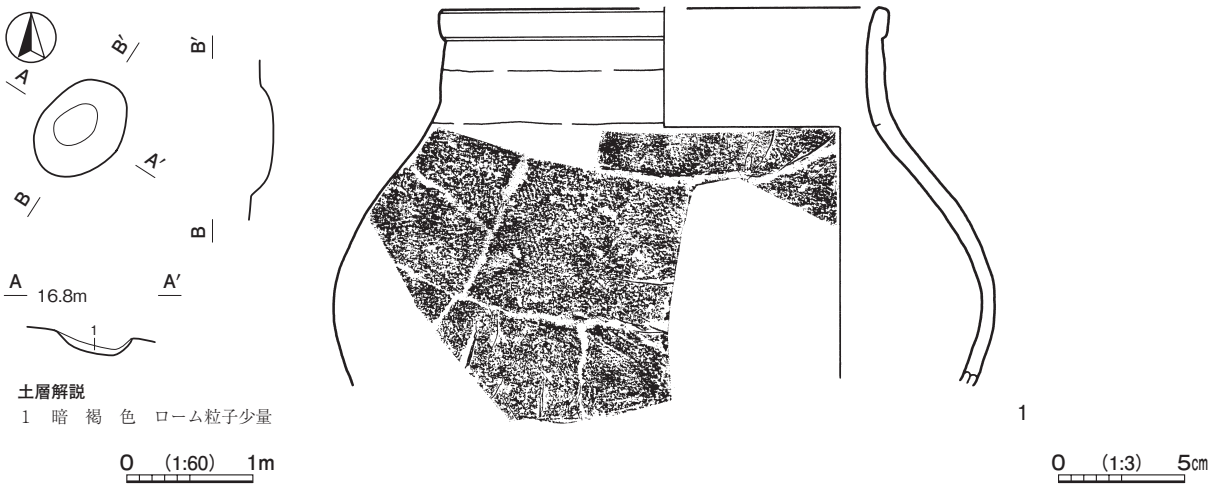
重複関係　第１号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 0.84 ｍ，短径 0.64 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 38°－Ｅである。底面は皿状で，深さは 14㎝である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　単一層である。ロームブロックが不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況　縄文土器片８点（深鉢），弥生土器片$_{カ}$１点（壺）が出土している。１は覆土中から出土している。縄文土器片は，埋め戻し時の混入である。

所見　確認できた部分は土坑の底面付近である。時期は，出土土器から古墳時代初期と考えられる。



第 201 図　第 22 号土坑・出土遺物実測図

第 22 号土坑出土遺物観察表（第 201 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
1	弥生土器$_{カ}$	壺	[17.2]	(14.9)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部から下に撚糸文	覆土中	10%　PL36

第 44 号土坑（第 202 図）

調査年度　平成 30 年度

位置　調査区中央部のＤ４d3 区，標高 24 ｍほどの台地平坦部に位置している。

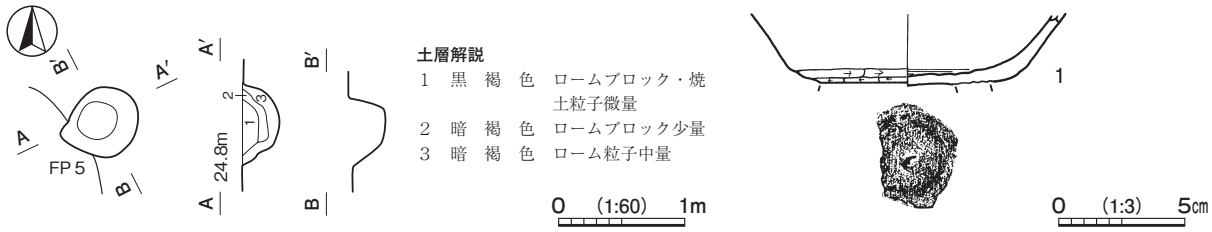
重複関係　第５号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状　長径 0.65 ｍ，短径 0.54 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 58°－Ｅである。底面は皿状で，壁は高さ 29㎝で外傾している。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　土師器片５点（坏４，高台付坏１）が出土している。１は覆土中から出土している。

所見　時期は，周辺の遺構と出土土器から５世紀代と考えられる。



第 202 図 第 44 号土坑・出土遺物実測図

第 44 号土坑出土遺物観察表（第 202 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	高台付坏	―	(2.9)	―	長石・石英・雲母	橙	普通	外面底部横位の削り	覆土中	40%

表９ 古墳時代土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底部	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
21	E 5 h2	－	円形	1.35 × 1.34	30	皿状	緩斜	人為	土師器	HG 1 →本跡
22	E 5 h3	N － 38° － E	楕円形	0.84 × 0.64	14	皿状	緩斜	人為	縄文土器，弥生土器カ	HG 1 →本跡
44	D 4 d3	N － 58° － E	楕円形	0.65 × 0.54	29	皿状	外傾	人為	土師器	FP 5 →本跡

３ 鎌倉・室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，防御施設としての段切状遺構１か所，土坑２基，溝跡２条を確認した。これらの遺構は，牛久城の外部施設の一部と考えられる。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1) 段切状遺構

第１号段切状遺構（第 203 図）

調査年度 平成 29 年度

位置 調査区南部のＦ５b0 ～Ｆ６c3 区，標高 10 mほどの台地緩斜面部に位置している。

確認状況 第１号遺物包含層の南東端を削平するように平坦面を構築している。平坦面上にＰ１～Ｐ 10 が確認されている。

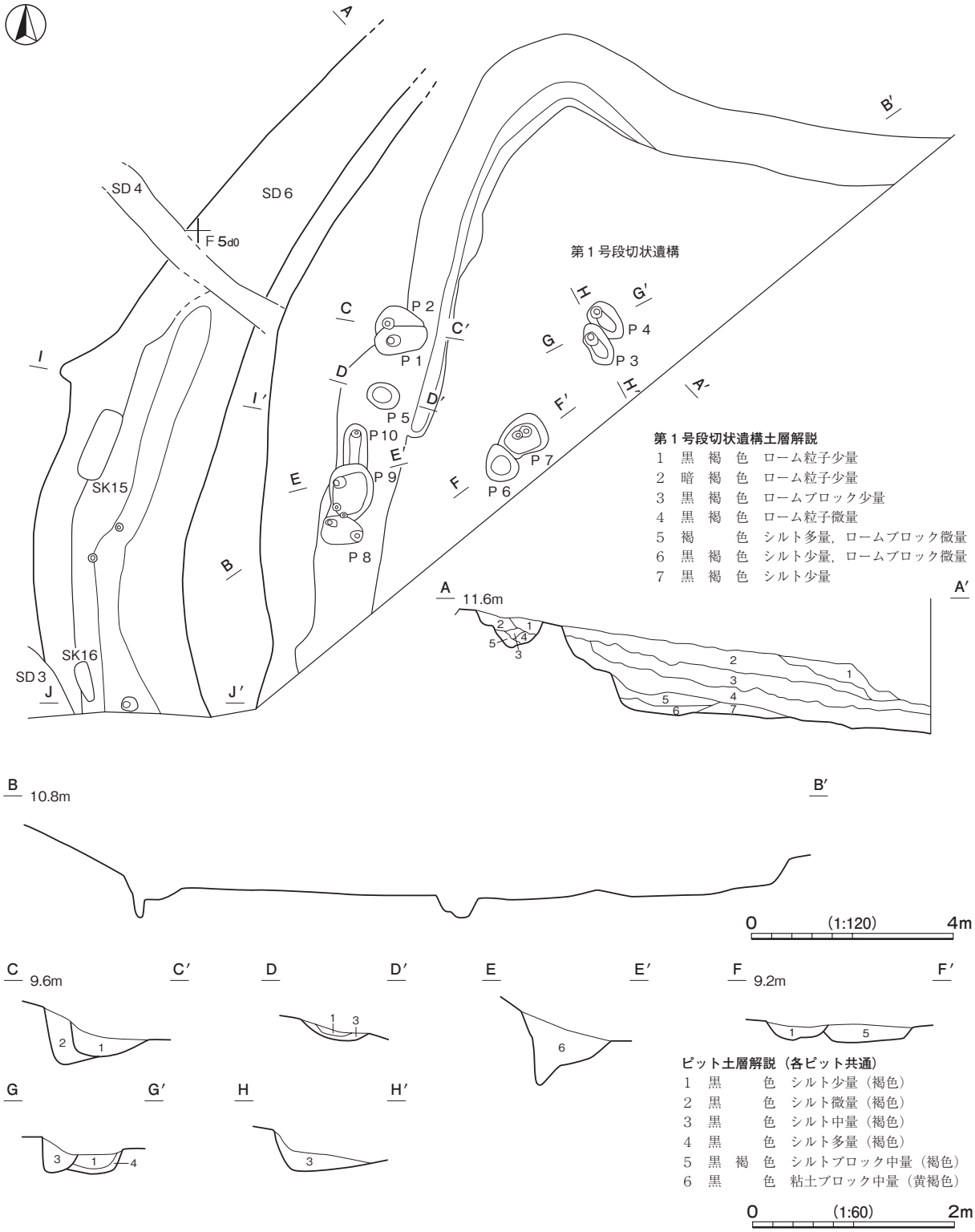
重複関係 第１号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 確認された規模は，東西 13.7 m，南北 13.5 mである。Ａ－Ａ’土層状況から，確認面から段切り状に深さ約 1.68 mを掘り込み，その後，緩やかに傾斜し調査区域外に延び，東西 9.8 m，南北 10.2 mの平坦面が構築されている。

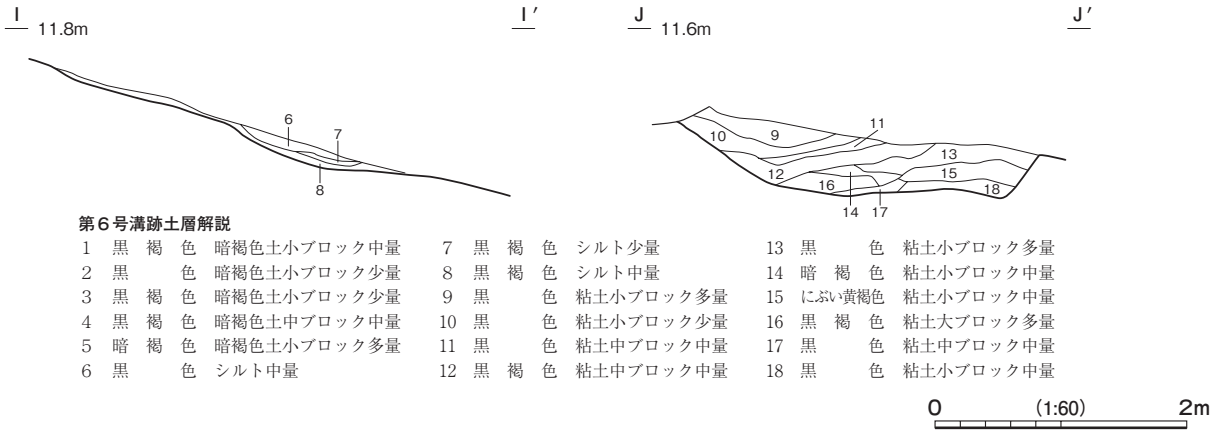
ピット 10 か所。Ｐ１～Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７～Ｐ９は深さ 14 ～ 66cmである。Ｐ２・Ｐ４の組とＰ９・Ｐ７の組が第１号包含層を掘り込んでいる。その後，Ｐ１・Ｐ３の組とＰ８・Ｐ６の組が，位置をやや南側に移動して同じように掘り込み，調査区域外の谷津方向へ延びている。Ｐ５・Ｐ 10 は掘り込みが浅く，性格不明である。

覆土　７層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

所見　時期は，遺構の状況から鎌倉・室町時代と考えられる。第６号溝が本跡の南北軸と平行に構築されており，これらの遺構が防御施設として作られたと考えられる。Ｐ５とＰ10を除くピットは，その規模や配置から橋脚の柱などを据え付けた柱穴の可能性がある。時期は，16世紀代と考えられる。



第203図　第１号段切状遺構・第６号溝跡実測図



第６号溝跡土層解説

1	黒	褐	色	暗褐色土小ブロック中量	7	黒	褐	色	シルト少量	13	黒 色 粘土小ブロック多量
2	黒		色	暗褐色土小ブロック少量	8	黒	褐	色	シルト中量	14	暗 褐 色 粘土小ブロック中量
3	黒	褐	色	暗褐色土小ブロック少量	9	黒		色	粘土小ブロック多量	15	にぶい黄褐色 粘土小ブロック中量
4	黒	褐	色	暗褐色土中ブロック中量	10	黒		色	粘土小ブロック少量	16	黒 褐 色 粘土大ブロック多量
5	暗	褐	色	暗褐色土小ブロック多量	11	黒		色	粘土中ブロック中量	17	黒 色 粘土中ブロック中量
6	黒		色	シルト中量	12	黒	褐	色	粘土中ブロック中量	18	黒 色 粘土小ブロック中量

第 204 図　第６号溝跡実測図

(2) 溝　跡

第３号溝跡（第 205 図・付図）

調査年度　平成 29・30 年度

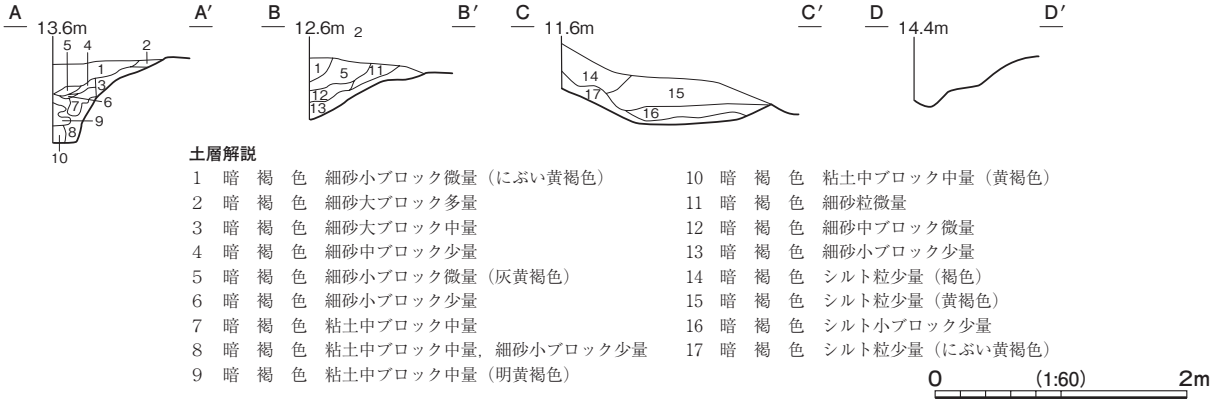
位置　調査区南部のＦ５b5 ～ Ｆ５f9 区，標高 10 ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第６号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南東端が調査区域外になるため，下幅 0.24 ～ 0.44 ｍ，深さ 20 ～ 62㎝，上幅は 0.32 ～ 1.48 ｍで，長さは 20.96 ｍしか確認できなかった。断面はＵ字状である。Ｆ５b5 区からＦ５f9 区へ西側調査区の境界脇を沿うように南東方向（Ｎ－ 128°－Ｅ）に直線的に延びている。

覆土　17 層に分層できる。 粘土ブロックが不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

所見　西側の調査区域外には，台地からの斜面を人工的に切って，急な傾斜を形成している様子がうかがえる。それに伴って斜面直下に第３号溝を構築することで，防御施設として用いていたと考えられる。時期は，段切状遺構，第６号溝と同様に防御施設として使用していることから，同じ 16 世紀代と考えられる。



土層解説

1	暗	褐	色	細砂小ブロック微量（にぶい黄褐色）	10	暗	褐	色	粘土中ブロック中量（黄褐色）
2	暗	褐	色	細砂大ブロック多量	11	暗	褐	色	細砂粒微量
3	暗	褐	色	細砂大ブロック中量	12	暗	褐	色	細砂中ブロック微量
4	暗	褐	色	細砂中ブロック少量	13	暗	褐	色	細砂小ブロック少量
5	暗	褐	色	細砂小ブロック微量（灰黄褐色）	14	暗	褐	色	シルト粒少量（褐色）
6	暗	褐	色	細砂小ブロック少量	15	暗	褐	色	シルト粒少量（黄褐色）
7	暗	褐	色	粘土中ブロック中量	16	暗	褐	色	シルト小ブロック少量
8	暗	褐	色	粘土中ブロック中量，細砂小ブロック少量	17	暗	褐	色	シルト粒少量（にぶい黄褐色）
9	暗	褐	色	粘土中ブロック中量（明黄褐色）					

第 205 図　第３号溝跡穴実測図

第６号溝跡（第 203・204・206 図）

調査年度　平成 29 年度

位置　調査区南部のＦ５f9 ～ Ｆ５d0 区，標高 10 ｍほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第１号遺物包含層を掘り込み，第３・４号溝に掘り込まれている。第 15・16 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状　遺存している部分が少ないため，下幅 0.42 ～ 0.92 m，深さ 16 ～ 56㎝，上幅は 2.40 ～ 3.40 mで，長さは 14.3 mである。断面は浅いＵ字状である。Ｆ５f9 区から第１号段切状遺構の西側を平行するように北東方向（Ｎ－ 14°－ Ｅ）にやや曲線的に延びている。ピットが３か所検出されている。

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は，深さ 28 ～ 40㎝である。性格は不明である。

覆土　18 層に分層できる。 粘土ブロックが不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　陶器片１点（中皿）が出土しているが，牛久城が廃城になった 17 世紀初頭頃の整地作業時に混入したものである。

所見　段切状遺構の西側を平行するように構築されていることから，第１号段切状遺構と同じような防御施設と推定できる。また，第６号溝が構築された後，さらに第３号溝を構築して防御施設としての機能を維持，強化を図ったことが推定できる。時期は，遺構の状況から 16 世紀代と考えられる。

第 206 図　第６号溝跡出土遺物実測図

第６号溝跡出土遺物観察表（第 206 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
1	陶器	中皿	[11.6]	3.0	[6.0]	長石・石英	ロクロ成形　削り出し高台　丸型　鉄絵皿	長石釉	瀬戸・美濃	覆土中	20%

表 10　鎌倉・室町時代溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	平面形	規　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ（m）	上幅（m）	下幅（m）	深さ（㎝）					
3	Ｆ５b5 ～Ｆ５f9	Ｎ－ 48°－ Ｗ	直線	(20.96)	(0.32 ～ 1.48)	0.24 ～ 0.44	20 ～ 62	Ｕ字状	外傾 緩斜	人為	－	SD ６→本跡
6	Ｆ５f9 ～Ｆ５d0	Ｎ－ 14°－ Ｅ	やや曲線	(14.32)	2.40 ～ 3.40	0.42 ～ 0.92	16 ～ 56	浅いＵ字状	緩斜	人為	陶器	HG １→本跡→SD ３・４ SK15・16 と重複

(3)　土　坑

第 15 号土坑（第 207 図）

調査年度　平成 29 年度

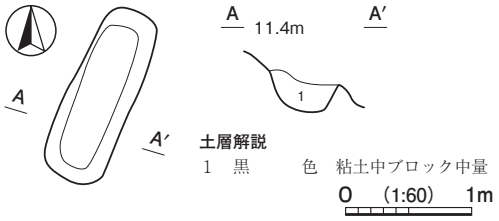
位置　調査区南部のＦ５e9 区，標高 11 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第１号遺物包含層を掘り込んでいる。第６号溝跡との新旧関係は不明である。

規模と形状　長軸 1.45 m，短軸 0.52 mの長方形で，長軸方向はN－23°－Eである。底面は皿状で，壁は高さ 22cmで，外傾している。

覆土　単一層である。 粘土ブロックが不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

所見　第６号溝内に構築されていることから，同様な防御施設に関わる遺構と推定できるが，詳細は不明である。時期は，16 世紀代と考えられる。



第 207 図　第 15 号土坑実測図

第 16 号土坑（第 208 図）

調査年度　平成 29 年度

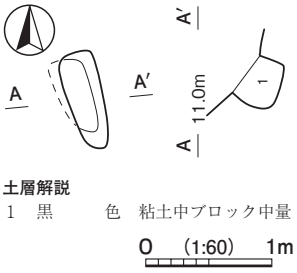
位置　調査区南部のＦ５f9 区，標高 11 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第６号溝跡と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状　長径 0.79 m，短径 0.27 mの楕円形で，長径方向はN－15°－Wである。底面は平坦で，壁は高さ 32cmで，外傾あるいは内彎している。

覆土　単一層である。 粘土ブロックが不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

所見　第６号溝内に構築されていることから，同様な防御施設に関わる遺構と推定できるが，詳細は不明である。時期は，16 世紀代と考えられる。



第 208 図　第 16 号土坑実測図

表 11　鎌倉・室町時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
15	Ｆ５e9	N－23°－E	長方形	1.45 × 0.52	22	皿状	外傾	人為	－	HG １→本跡 SD ６と重複
16	Ｆ５f9	N－15°－W	楕円形	0.79 × 0.27	32	皿状	外傾 内彎	人為	－	SD ６と重複

４　江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は，道路跡２か所を確認した。調査区南側斜面部と台地平坦部の中央部で，緩斜面を南北に延びる第１号道路跡と台地を東西に延びる第２号道路跡を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

道路跡

第１号道路跡（第 209・211 図・付図　PL22）

調査年度　平成 30 年度

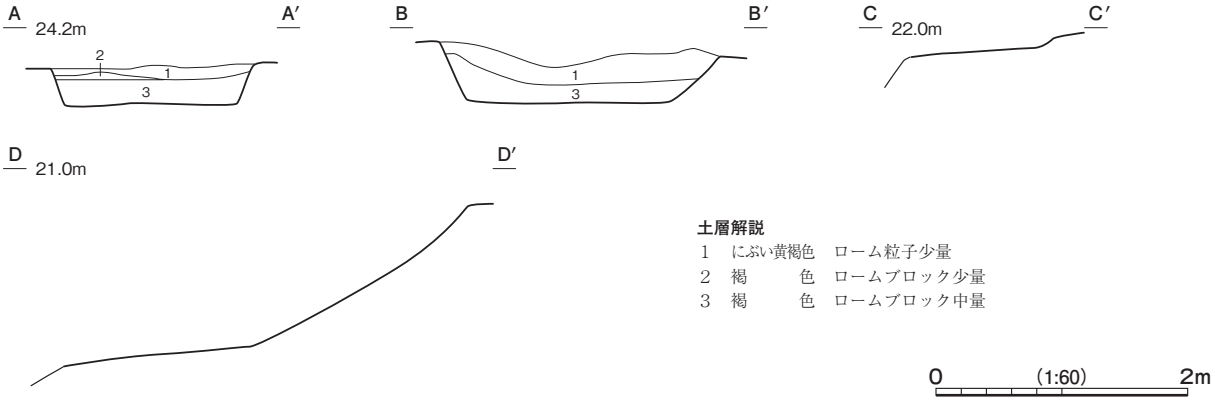
位置　調査区中央部のＤ３h9 ～Ｅ６i3 区，標高 24 mの台地傾斜面部に位置している。

規模と形状　調査区中央部台地上のＤ３h9 区から南東方向（Ｎ－ 108°－Ｅ）にほぼ直線的に延びている。北西端，南東端は調査区域外に延びているため，長さは 109.44 ｍしか確認できなかった。上幅 1.50 ～ 4.40 ｍ，下幅 0.72 ～ 1.66 ｍで，深さは 30 ～ 46㎝である。断面は逆台形で，壁は外傾あるいは緩やかに立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況　石製品３点（石祠），銭貨１点（文久永寶）が出土している。

所見　覆土が踏み固められた形跡が確認できることから，道路跡と考えられる。時期は出土遺物から，江戸時代と考えられる。



第 209 図　第１号道路跡実測図

第２号道路跡（第 210・212 図・付図）

調査年度　平成 30 年度

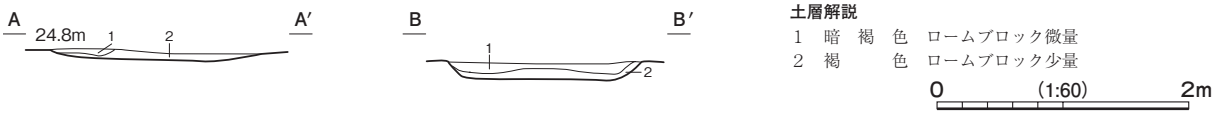
位置　調査区中央部のＤ３a0 ～Ｄ４c0 区，標高 24 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　調査区中央部台地上のＤ３a0 から東方向（Ｎ－ 95°－Ｅ）にほぼ直線的に延びている。東西の端は遺存状態が悪いため，長さは約 40.0 ｍしか確認できなかった。上幅 1.45 ～ 1.75 ｍ，下幅 0.40 ～ 0.62 ｍであり，深さは６～ 14㎝である。断面は逆台形で，壁は緩やかに立ち上がっている。西部で轍状の凹凸が確認できた。

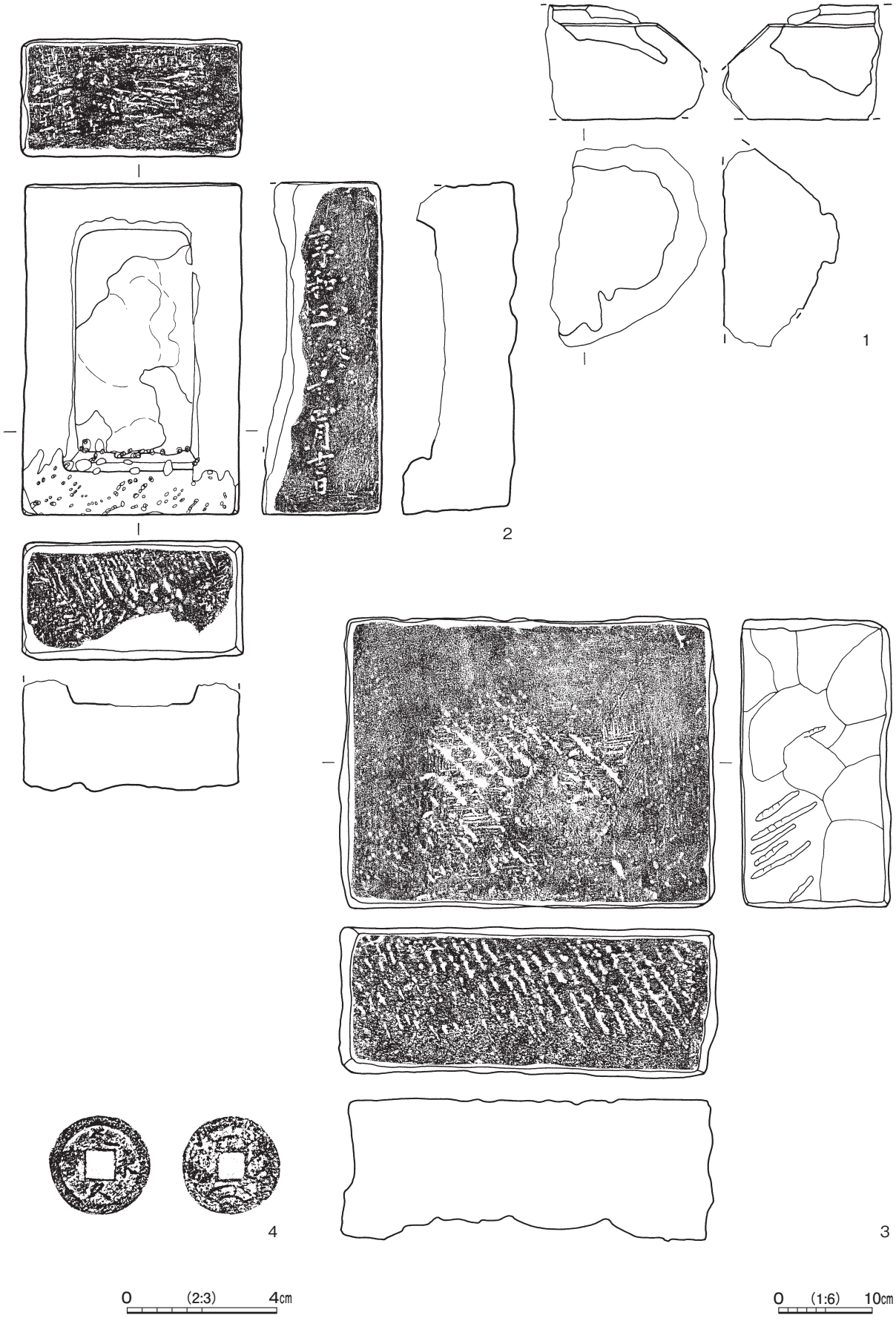
覆土　２層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから埋め戻されている。

遺物出土状況　銭貨１点（文久永寶）が出土している。

所見　覆土が踏み固められた形跡や轍の痕跡が確認できることから，道路跡と考えられる。時期は，出土遺物から江戸時代と考えられる。



第 210 図　第２号道路跡実測図



第 211 図　第 1 号道路跡出土遺物実測図

第１号道路跡出土遺物観察表（第 211 図）

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量(kg)	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
1	石祠	(12.3)	(16.9)	(21.7)	(4.3)	凝灰岩	石屋根　笠付型ヵ	表土	
2	石祠	35.7	23.7	12.8	17.2	砂岩	竿石　切り出し時の工具跡 記銘「享和三□　四月吉日」	表土	
3	石祠	16.2	40.6	31.2	37.8	砂岩	基盤石　切り出し時の工具跡	表土	

番号	銭　種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
4	文久永寶	2.73	0.7	0.12	3.49	銅	1863	真文	覆土中	PL37

第 212 図　第２号道路跡出土遺物実測図

第２号道路跡出土遺物観察表（第 212 図）

番号	銭　種	径	孔幅	厚さ	重量	材質	初鋳年	特　　徴	出土位置	備　考
1	文久永寶	2.63	0.7	0.11	2.71	銅	1863	草文	覆土中	PL37

表 12　江戸時代道路跡一覧表

番号	位　置	方　向	平面形	規　　模				断　面	壁　面	覆　土	主な出土遺物	備　考
				長さ(m)	上幅（m）	下幅（m）	深さ(cm)					
1	D３h9～E６i3	N－108°－E	ほぼ直線	(109.44)	1.50～(4.40)	0.72～1.66	30.0～46.2	逆台形	外傾緩斜	人為	石製品，銭貨（文久永寶）	
2	D３a0～D４c0	N－95°－E	直線	(40.08)	1.45～1.75	0.40～0.62	6.0～14.0	逆台形	緩斜	人為	銭貨（文久永寶）	

5　時期不明の遺構と遺物

今回の調査では，時期が明確にできなかった炉跡１基，土坑 15 基，溝跡５条，ピット群２か所を確認した。以下，遺構及び遺物について記述する。

(1)　炉　跡

第 35 号炉跡（第 213 図）

調査年度　平成 29 年度

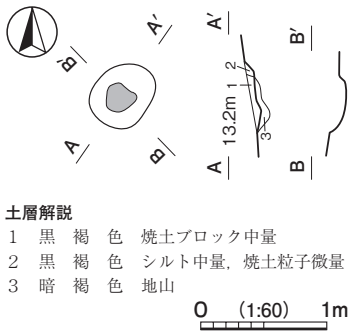
位置　調査区南部のＥ５j0 区，標高 13 mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係　第１号遺物包含層に掘り込まれている。

規模と形状　長径 0.52 m，短径 0.44 mの楕円形で，長径方向がＮ－38°－Ｅの地床炉である。壁は高さ６cmで，緩やかに立ち上がっている。

燃焼部　長径 0.24 m，短径 0.22 mの不整楕円形である。

覆土　２層に分層できる。焼土ブロックを含む層が不規則に堆積していることから，埋め戻されている。第３層は，被熱を受けた地山である。

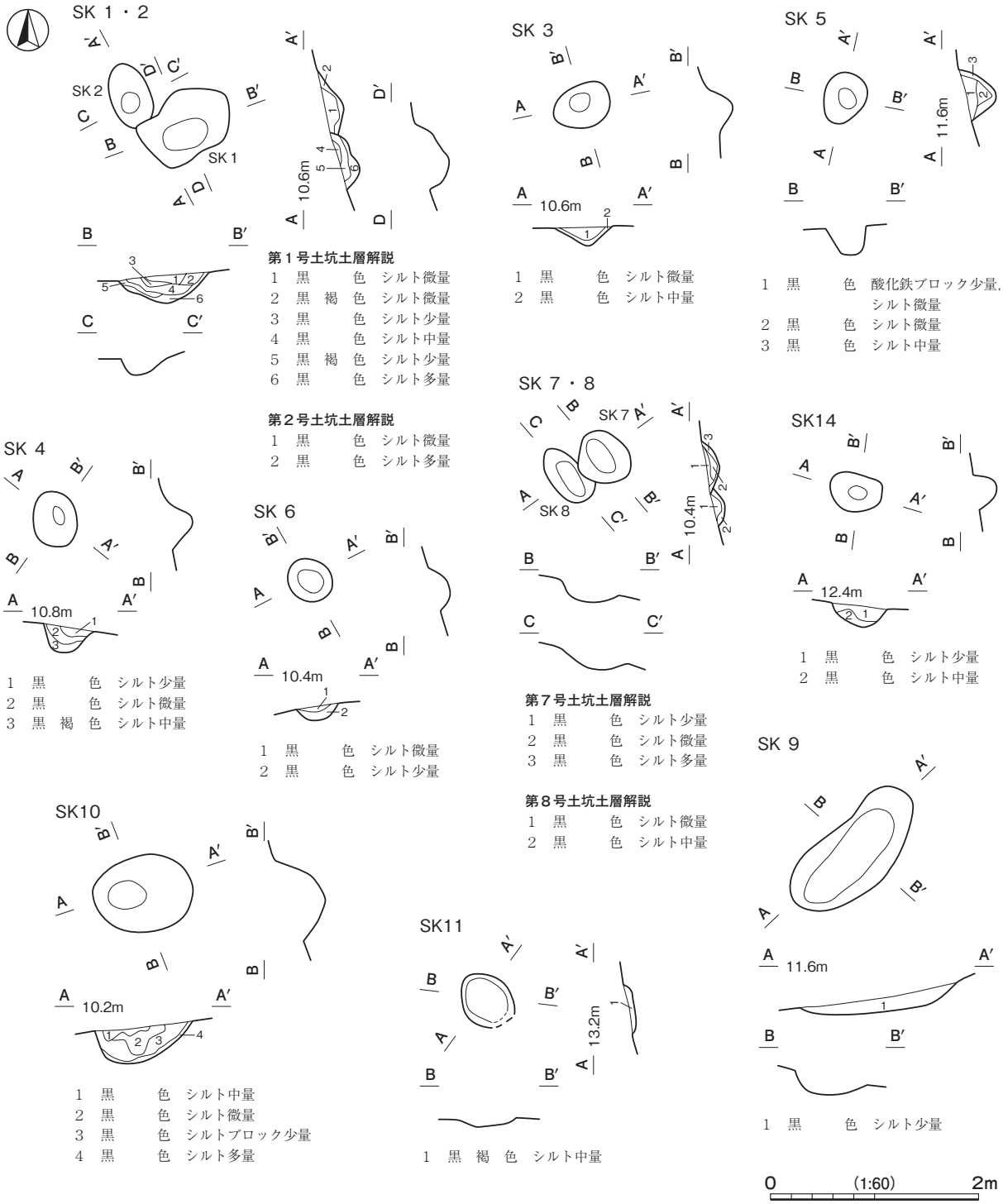


第 213 図　第 35 号炉跡実測図

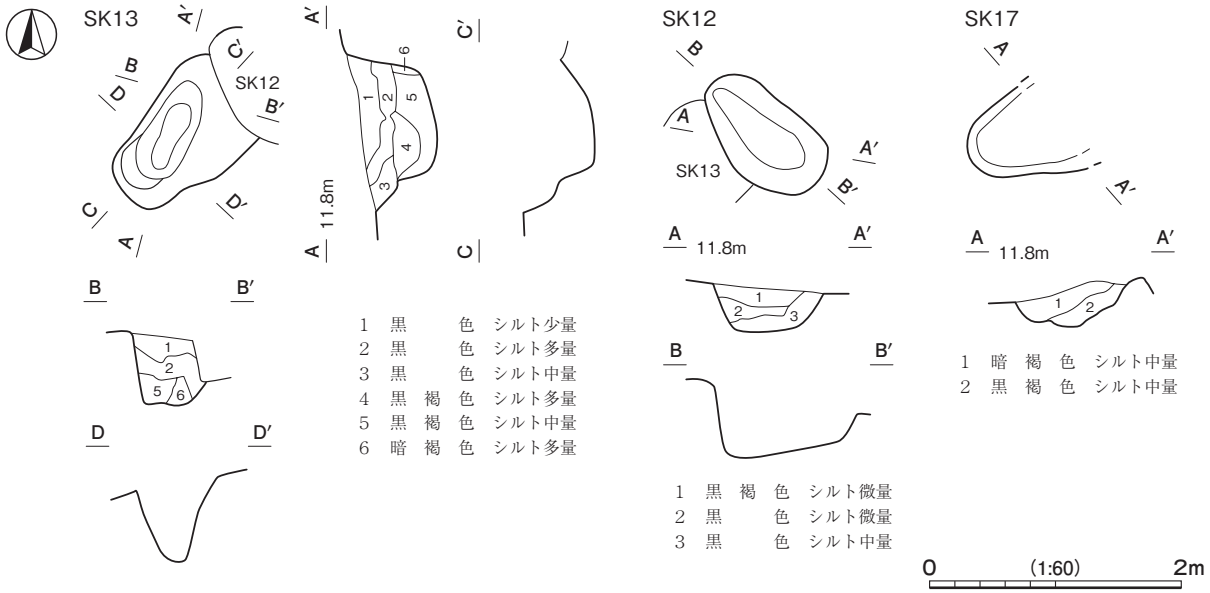
所見　南側の第７・10～13号土坑からは，少量の鉄滓が出土しており関連が考えられる。時期は，周辺遺構との関連から，鎌倉・室町時代以降と考えられるが，詳細は不明である。

⑵　土　坑

今回の調査で，時期や性格が不明な土坑15基を確認した。実測図（第214･215図）及び一覧表を記載する。



第214図　時期不明の土坑実測図(1)



第 215 図　時期不明の土坑実測図 (2)

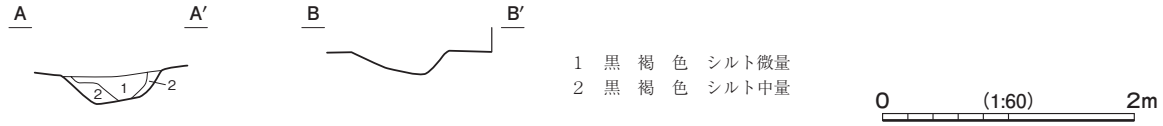
表 13　時期不明の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	底部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
1	F 6 b2	N－55°－E	不整楕円形	0.89 × 0.61	25	皿状	外傾緩斜	人為	－	SK 2，HG 1→本跡
2	F 6 b2	N－22°－W	［楕円形］	(0.60) × 0.38	18	皿状	外傾緩斜	人為	－	HG 1→本跡→SK 1
3	F 6 b2	N－67°－E	楕円形	0.56 × 0.42	22	皿状	外傾緩斜	自然	土師器	HG 1→本跡
4	F 6 b1	N－4°－W	楕円形	0.54 × 0.42	23	皿状	外傾緩斜	自然	－	HG 1→本跡
5	F 6 a2	N－20°－E	楕円形	0.52 × 0.41	26	皿状	外傾	人為	縄文土器	HG 1→本跡
6	F 6 c2	N－51°－W	楕円形	0.46 × 0.40	15	皿状	緩斜	自然	縄文土器	HG 1→本跡
7	F 6 c2	N－39°－W	楕円形	0.55 × 0.49	16	皿状	外傾緩斜	自然	鉄滓	SK 8，HG 1→本跡
8	F 6 c2	N－41°－W	楕円形	0.60 × 0.31	13	皿状	緩斜	人為	縄文土器	HG 1→本跡→SK 7
9	F 6 a1	N－45°－E	楕円形	1.52 × 0.65	20	平坦	緩斜	自然	縄文土器	HG 1→本跡
10	F 6 c2	N－80°－E	楕円形	0.95 × 0.73	34	皿状	外傾緩斜	人為	縄文土器，鉄滓	HG 1→本跡
11	E 5 j0	N－13°－W	楕円形	0.54 × 0.48	4	平坦	緩斜	人為	鉄滓	HG 1→本跡
12	F 5 a0	N－45°－W	楕円形	1.15 × 0.65	55	平坦	ほぼ直立外傾	人為	土師器，鉄滓	SK13，HG 1→本跡
13	F 5 a0	N－34°－E	［不整楕円形］	(1.24) × 0.80	60	有段	外傾緩斜	人為	縄文土器，鉄滓	HG 1→本跡→SK12
14	F 5 a9	N－76°－W	楕円形	0.50 × 0.36	20	皿状	外傾緩斜	人為	土師器	HG 1→本跡
17	F 5 b6	－	－	0.78 × (0.68)	32	皿状	外傾内彎	人為	－	HG 1→本跡

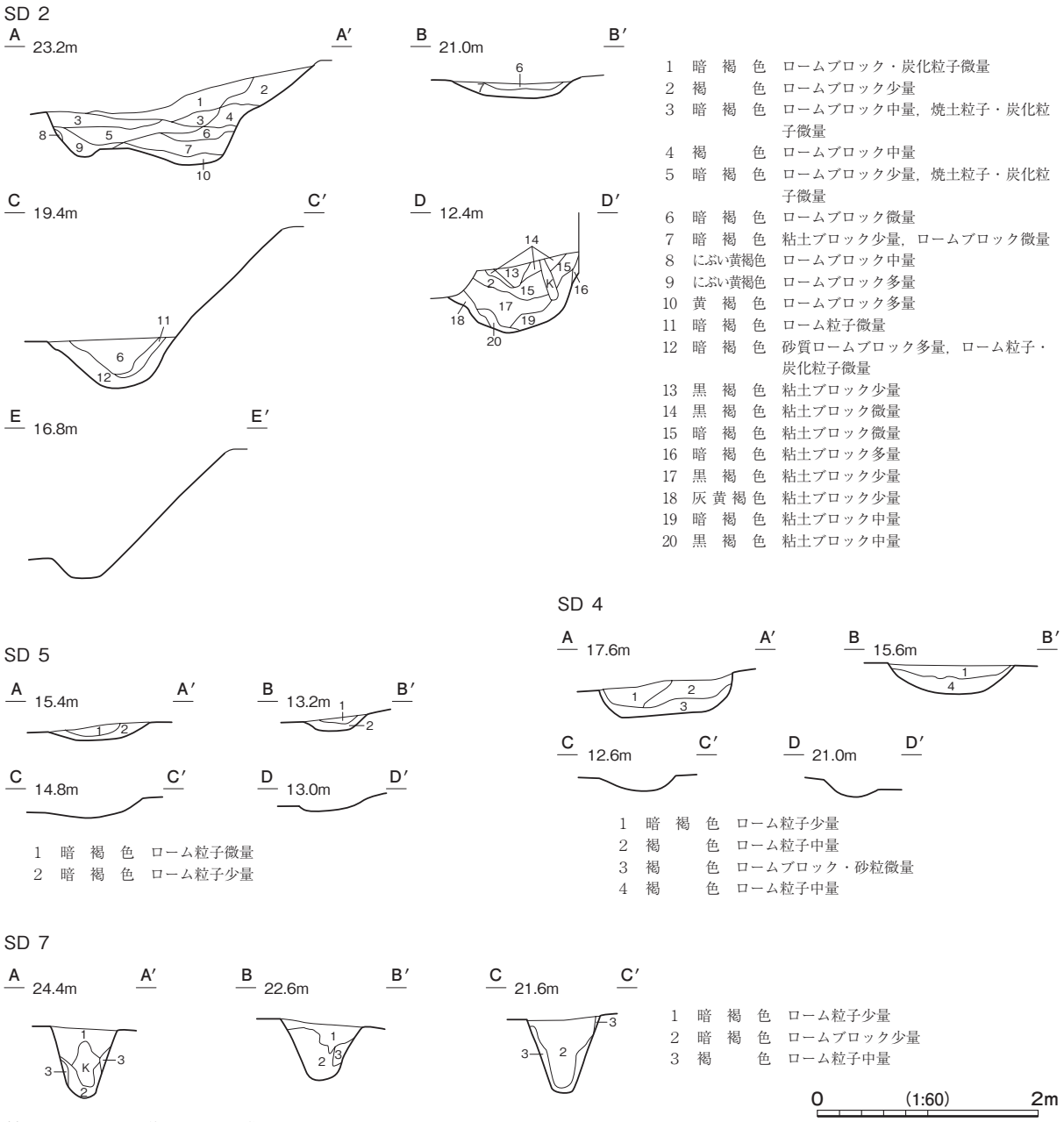
(3)　溝　跡

今回の調査で，時期や性格が不明な溝跡５条を確認した。実測図（第 214・215 図・付図）及び一覧表を記載する。

SD 1



第 216 図　時期不明の溝跡実測図 (1)



1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐 色 ロームブロック少量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐 色 ロームブロック中量
5 暗 褐 色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗 褐 色 ロームブロック微量
7 暗 褐 色 粘土ブロック少量，ロームブロック微量
8 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
9 にぶい黄褐色 ロームブロック多量
10 黄 褐 色 ロームブロック多量
11 暗 褐 色 ローム粒子微量
12 暗 褐 色 砂質ロームブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
13 黒 褐 色 粘土ブロック少量
14 黒 褐 色 粘土ブロック微量
15 暗 褐 色 粘土ブロック微量
16 暗 褐 色 粘土ブロック多量
17 黒 褐 色 粘土ブロック少量
18 灰 黄 褐 色 粘土ブロック少量
19 暗 褐 色 粘土ブロック中量
20 黒 褐 色 粘土ブロック中量

1 暗 褐 色 ローム粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子少量

1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量
3 褐 色 ロームブロック・砂粒微量
4 褐 色 ローム粒子中量

1 暗 褐 色 ローム粒子少量
2 暗 褐 色 ロームブロック少量
3 褐 色 ローム粒子中量

第 217 図 時期不明の溝跡実測図 (2)

表 14 時期不明の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	E 6j2 ～ F 6a4	N－23°－W N－56°－W	直線	[5.36]	0.62 ～ 1.00	0.24 ～ 0.56	18 ～ 22	逆台形	緩斜	人為	縄文土器	SD 2，HG 1→本跡
2	D 4j4 ～ F 6a4	N－74°－W N－35°－W	曲線	(94.46)	0.88 ～ 1.92	0.64 ～ 1.60	48 ～ 69	U 字状	外傾 緩斜	人為	縄文土器，土師器，陶器，磁器，石器，鉄滓	HG 1→本跡→SD 1，SF 1
4	E 5i2 ～ F 6e1	N－8°－W N－53°－W	直線	[42.62]	0.98 ～ 1.16	1.80 ～ 4.00	8 ～ 60	浅いU字状	緩斜	人為	縄文土器，土師器	第1号段切状遺構，SD 6，HG 1→本跡
5	E 5f6 ～ E 6j1	N－123°－E N－137°－E	直線	24.94	0.46 ～ 0.94	0.16 ～ 0.54	12 ～ 18	皿状	緩斜	自然	縄文土器，土師器	SK36，HG 1→本跡
7	D 5d7 ～ E 5a6	N－10°－E	直線	(30.46)	0.40 ～ 0.70	0.10 ～ 0.16	50 ～ 63	U 字状	外傾	人為	縄文土器，土師器，陶器	SI 7・27，FP92→本跡

(4) ピット群

今回の調査で，時期や性格が不明なピット群２か所を確認した。全体の配置図（付図）を掲載し，規模は計測表にて記載する。

第１号ピット群ピット計測表

番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	D４d5	円形	32	31	62
2	D４d5	円形	32	32	23
3	D４d8	楕円形	30	22	45
4	D４d8	円形	30	28	25
5	D４d8	楕円形	32	27	33
6	D４d9	楕円形	40	30	20
7	D４d8	楕円形	55	29	43
8	D４e7	楕円形	36	30	31

第２号ピット群ピット計測表

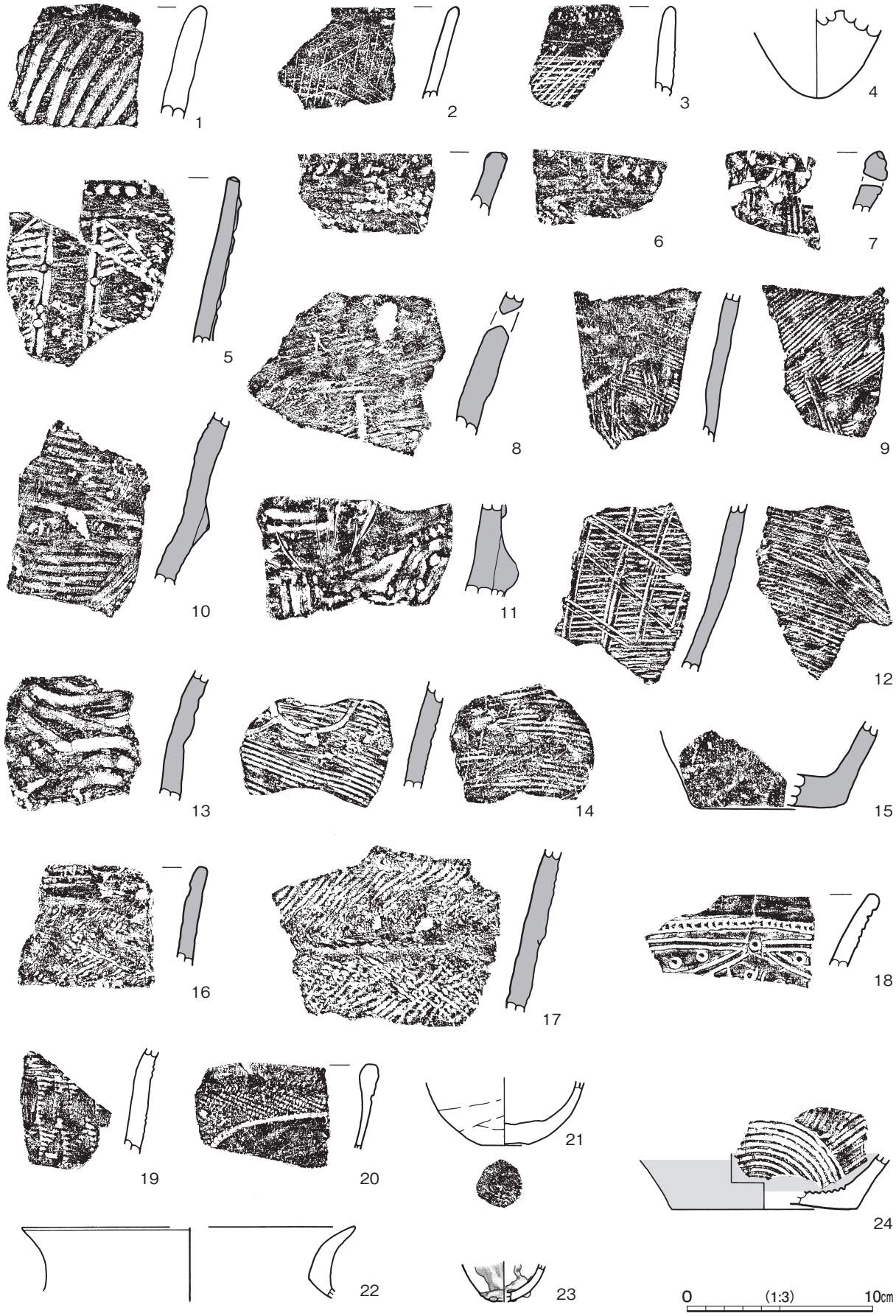
番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ
1	D４f1	楕円形	55	46	32
2	D４f2	円形	38	37	39
3	D４f2	円形	35	33	25
4	D３f0	円形	34	33	29
5	D４f1	円形	36	33	55
6	D４g1	円形	35	33	23
7	D４g2	楕円形	47	42	46
8	D４g1	楕円形	33	29	42
9	D３g0	円形	35	35	53

(5) 遺構外出土遺物

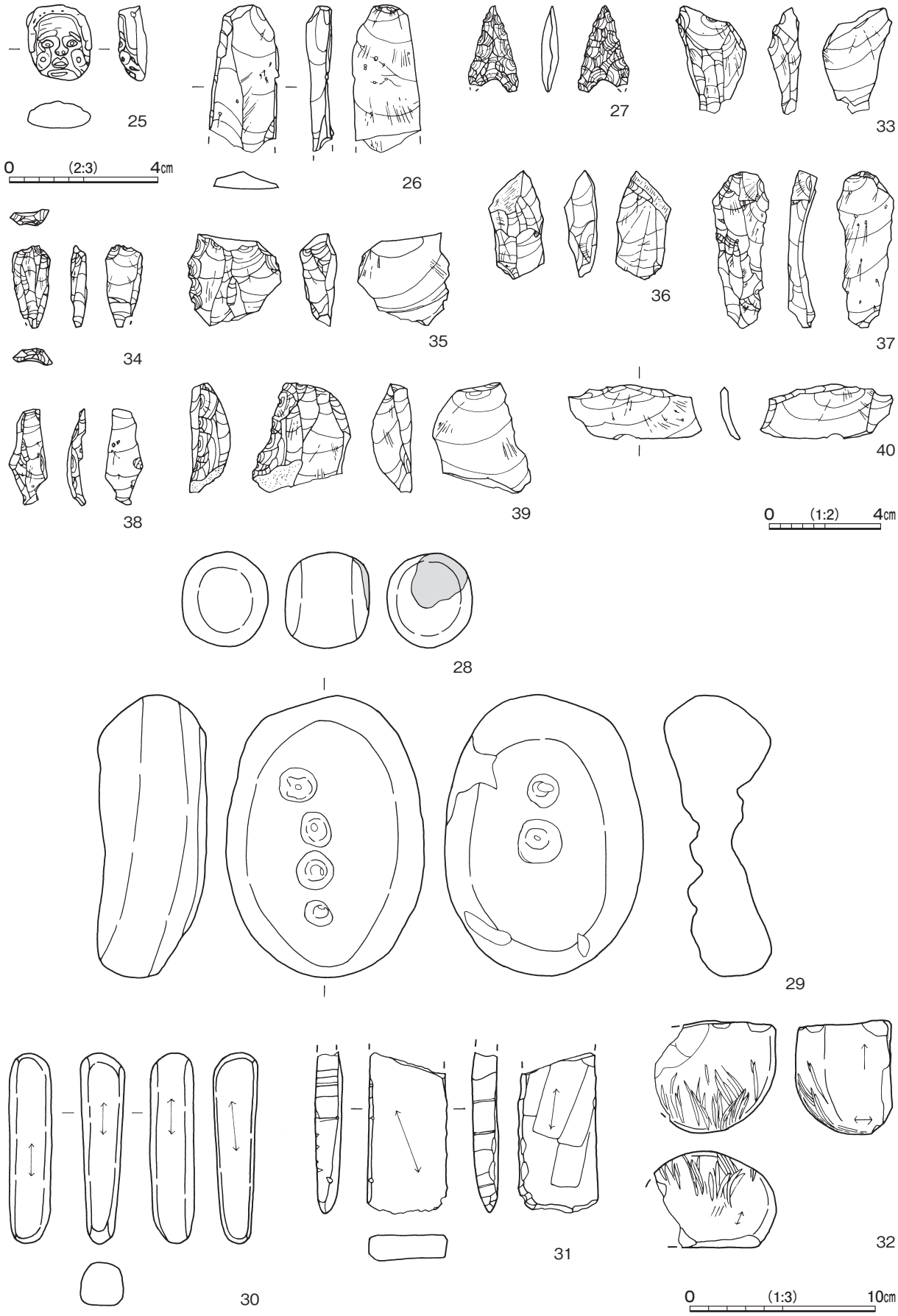
今回の調査で，遺構に伴わない遺物については，実測図（第 218・219 図）及び観測表を掲載する。

遺構外出土遺物観察表（第 218・219 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.0)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	斜位の太沈線を密に施す	表土	５％ PL38 三戸式
2	縄文土器	深鉢	－	(4.9)	－	長石・石英	明褐	普通	異方向の集合沈線	表土	５％ PL38 三戸式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・礫	にぶい褐	普通	内削ぎ状口唇　頂部に刻み　横位平行沈線帯に斜位の集合沈線を施す	表土	５％ PL38 三戸式
4	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英	橙	普通	外面ナデ調整　尖底土器	表土	５％ 三戸式
5	縄文土器	深鉢	－	(8.9)	－	長石・石英 繊維	灰褐	普通	口唇上に丸棒状の工具による刻み　微隆起線による区画内に沈線を充填　微隆起線上に刻み	表土	５％ PL38 鵜ヶ島台式
6	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇の外・内面に刻み	表土	５％ PL38 茅山下層式
7	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	赤褐	普通	口唇上に棒状の工具による刻み　口縁部に外面から施す円孔文	表土	５％ 茅山下層式
8	縄文土器	深鉢	－	(7.7)	－	長石・石英 繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文　楕円形の補修孔１か所	表土	５％ PL38 茅山下層式
9	縄文土器	深鉢	－	(8.0)	－	長石・石英 繊維	にぶい褐	普通	外・内面貝殻条痕文	表土	５％ PL38 茅山下層式
10	縄文土器	深鉢	－	(9.4)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	普通	横位隆帯上に刻み　異方向の貝殻条痕文　内面剥落	表土	５％ PL38 茅山下層式
11	縄文土器	深鉢	－	(5.0)	－	長石・石英 繊維	赤褐	普通	垂下・横位隆帯上に刻み　微隆起線に沿って押引き・刺突	表土	５％ PL38 茅山下層式
12	縄文土器	深鉢	－	(9.0)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	半截竹管による斜格子目文	表土	５％ PL38 茅山下層式
13	縄文土器	深鉢	－	(7.0)	－	長石・石英 繊維	明赤褐	普通	指頭による弧状の凹線　内面擦跡	表土	５％ PL38 茅山下層式
14	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	－	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰褐	普通	弧状の沈線文　外・内面貝殻条痕文	表土	５％ PL38 茅山下層式
15	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	[8.0]	長石・石英 繊維	橙	普通	内面貝殻条痕文	表土	５％ 茅山下層式
16	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	無節縄文Ｒ（横）	表土	５％ PL38 黒浜式
17	縄文土器	深鉢	－	(8.8)	－	長石・石英 繊維	灰褐	普通	上部無節縄文Ｌ（横）　下部単節縄文 LR を縦横に施文	表土	５％ PL38 黒浜式
18	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英	明黄褐	普通	半截竹管による木葉文の内外に円形竹管文	表土	５％ PL38 浮島式
19	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	長石・石英	明赤褐	普通	貝殻腹縁　横位の波状貝殻文	表土	５％ PL38 浮島式
20	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁上部に単節縄文 RL（横）　口縁部に擦消し縄文	表土	５％ PL38 後期後葉



第 218 図　遺構外出土遺物実測図 (1)



第 219 図　遺構外出土遺物実測図 (2)

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備　考
21	土師器	坩	－	(3.4)	2.5	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	体部外・内面ナデ	表土	10%
22	土師器	甕	[17.8]	(3.8)	－	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部外・内面横位のナデ	表土	5％
23	須恵器	取鍋カ	－	(2.0)	－	長石・石英	褐灰	普通	銅付着	表土	20%

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文　様・特　徴	釉薬	産　地	出土位置	備　考
24	陶器	擂鉢	－	(3.0)	[10.0]	長石　暗赤褐	外・内面施釉　６条の擂目カ	鉄釉	瀬戸・美濃	表土	5％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
25	泥面子	2.1	1.8	0.8	2.12	長石・雲母	橙	役者カ	表土	

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
26	石刃	(5.3)	2.3	0.9	(9.99)	黒曜石	表面風化	表土	高原山産
27	鏃	3.1	1.9	0.6	(2.61)	黒曜石	無茎鏃	表土	
28	磨石	5.2	4.6	4.5	177.06	石英斑岩	表裏磨り面　裏面に火熱痕	表土	
29	凹石	15.3	10.7	6.0	(845)	安山岩	表面中央部にから縁にかけて凹み痕４か所　裏面中央部に凹み痕２か所	表土	
30	砥石	10.3	2.5	2.4	74.14	砂岩	砥面４面	表土	
31	砥石	(8.7)	4.3	1.4	(80.03)	凝灰岩	砥面２面	表土	
32	砥石	6.1	(6.6)	5.2	(284.22)	砂岩	砥面２面　溝状の研磨痕	SD4 覆土中	
33	剥片	3.9	2.6	1.2	8.19	チャート	縦長剥片	表土	
34	剥片	3.0	1.3	0.6	(2.52)	チャート	縦長剥片　上・下部に打点	表土	
35	剥片	3.4	3.4	1.4	12.19	チャート	縦長剥片	表土	
36	剥片	4.0	2.0	1.2	9.18	チャート	縦長剥片	表土	
37	剥片	5.7	2.1	1.1	8.46	黒曜石	縦長剥片	表土	高原山産
38	剥片	3.5	1.3	0.6	2.08	黒曜石	縦長剥片	表土	
39	剥片	4.0	3.6	1.5	17.21	メノウ	二次調整の縦長剥片	表土	
40	剥片	2.0	4.8	0.7	4.93	安山岩	横長剥片	表土	

第４節 総　　括

１　はじめに

今回の調査で，山王前遺跡は縄文時代，古墳時代，鎌倉・室町時代，江戸時代にかけての複合遺跡であることが明らかとなった。特に，縄文時代早期の竪穴建物跡と炉穴跡が，これまでに県内においてセットで確認できた調査例も少なく，当該期の様相を知る上で貴重な資料と言える。ここでは各時代の様相について調査成果を概観し，総括としたい。

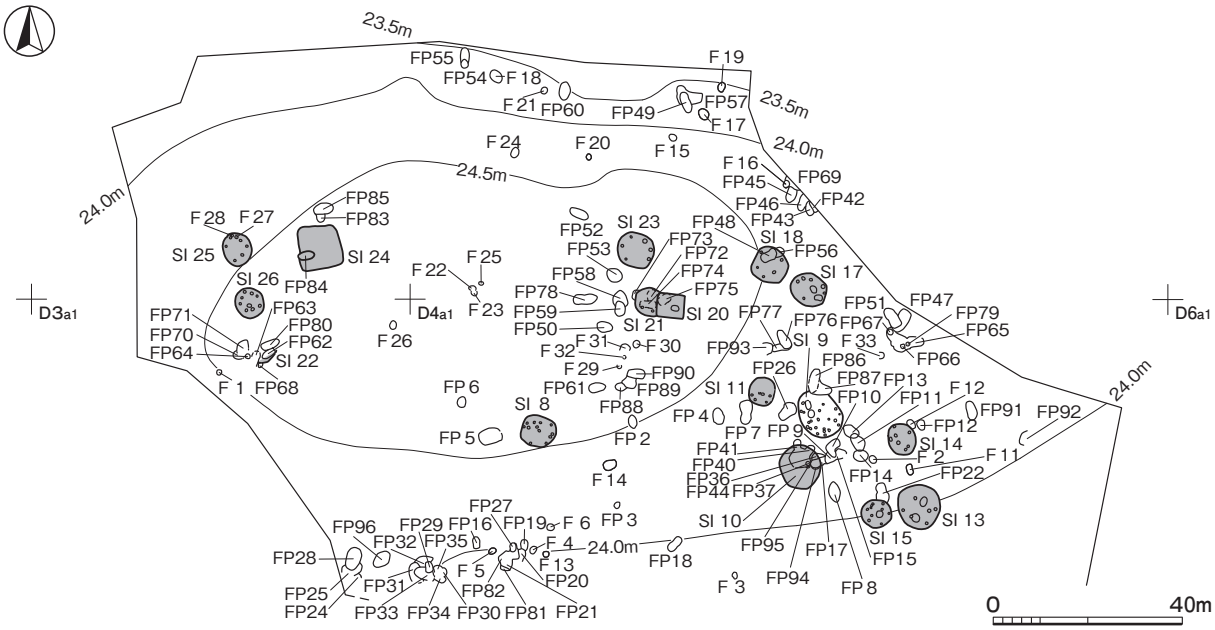
２　各時代の様相

⑴　縄文時代

当該期の遺構は，竪穴建物跡16棟，炉穴129基（燃焼部のみの炉跡34基を含む），陥し穴１基，土坑102基，遺物包含層２か所を確認した。竪穴建物跡や炉穴跡などの主な遺構は，調査区中央部の台地平坦部及び緩斜面部に位置しており，その多くが標高24～24.5ｍの間で構築されている。これらの遺構から出土する遺物は，貝殻条痕文系の茅山下層式の深鉢片が大部分を占めているが，竪穴建物跡と炉穴跡が，同時期に存在した早期後葉と前期前葉の集落跡であることが判明した。また，三戸式，田戸下層式，明神裏Ⅲ式，田戸上層式から安行式までの土器片が確認できたことから，この台地上は，早期中葉から後期後葉までの生活の痕跡が認められる。

①　早期の竪穴建物跡について

縄文時代早期の竪穴建物跡は15棟で，前期前半の第９号竪穴建物跡以外が該当する。これらは調査区中央部の平坦部から南部の緩斜面部に配置されている。形状は，円形４棟，楕円形４棟，円形あるいは楕円形と推定されるもの２棟，隅丸方形２棟，不整円形１棟，不明１棟であり，多様な様相を示している。古段階の茅山下層式土器が多く出土した第18・21号竪穴建物跡は，それぞれの規模は径3.74ｍと長径3.15ｍ，短径2.65ｍで，炉を有していない。一方，新段階の茅山下層式土器が多く出土した第

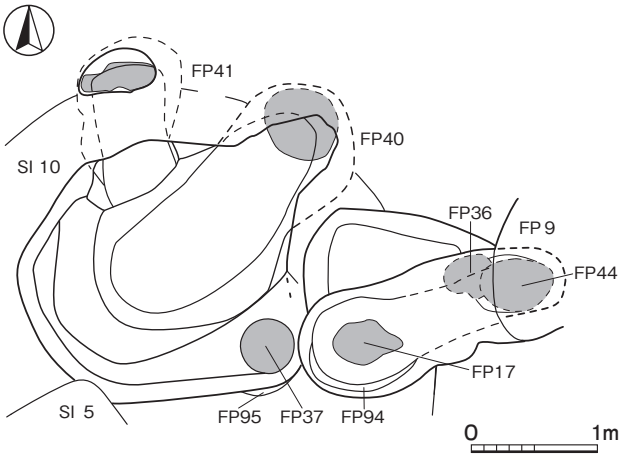


縄文時代早期の竪穴建物・炉穴跡配置図

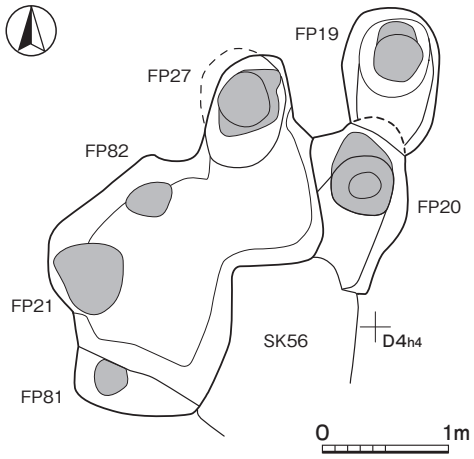
13・17 号竪穴建物跡は，それぞれの規模は径 4.58 mと長径 3.85 m，短径 3.27 mの円形又は楕円形で炉を有している。また，第 20 号竪穴建物跡と第 21 号竪穴建物跡は重複しており，前者が新しく，新段階の茅山下層式土器が多い。このことから，古段階の茅山下層式土器を伴う竪穴建物跡は炉を有しない傾向が見られ，新段階の茅山下層式土器を伴う竪穴建物跡は炉を有する傾向が見られる。

② 炉穴跡について

当遺跡の炉穴は，単独のものは少なく，ほぼ同じ場所で作り替えられており，これらの炉穴群はその順番が想定できる。時期は茅山下層式の土器片を伴っていることから，早期後葉のものと考えられる。また，これらの立地を見てみると，竪穴建物の周辺あるいは南部の緩斜面部に構築されている。炉の広がりとその形状は様々であるが，第 17・36・37・40・41・44・94・95 号炉穴のまとまりは，第 95 号炉穴を起点に北側から東側へ曲線状に展開していることがわかる。第 19 ～ 21・27・81・82 号炉穴のまとまりは，第 81 号炉穴が作られた後に，北側へ曲線的に移動するように掘り込まれている。燃焼部は北寄りに位置しており，足場と思われるスペースはほぼ同じ場所で新しい炉穴を作り替え，効率的に行っている可能性が見られる。



第 17・36・37・40・41・44・94・95 号炉穴



第 19 ～ 21・27・81・82 号炉穴

また，第 19 ～ 21・27・81・82 号炉穴や第 29 ～ 35 号炉穴は，調査区中央部の南側に位置しており，燃焼部が北寄りに構築されているものが多い。一方，第 42・43・46 号炉穴や，第 55 号炉穴，第 60 号炉穴は，調査区中央部の北側に位置しており，燃焼部が南寄りに構築されているものが多いことが分かった。このことについて小林謙一氏は，「炉穴の重複の形態は，炉穴が屋外に露出しているため風向きの変化による作り替えが考えられ，その日の風向きが変化する間の時期には，その方向ごとに燃焼部が必要になる。また，遺跡を占有した集団の適応形態によるもの，煙道部の崩壊や人為埋土によって新たに構築するため」[1] と述べており，当遺跡の炉穴も，同様なことが考えられる。数基の炉穴がまとまりをなすものは，千葉県の柏市小山台遺跡Ａ区[2] や袖ケ浦市の寒沢遺跡[3] などでも確認されており，足場を共有する点で共通している。

③ 早期後葉（茅山下層式）の土器について

当遺跡の竪穴建物跡や炉穴跡などの遺構や遺物包含層からは，主に茅山下層式の土器片が多く出土している。その特徴としては，口唇部は内削ぎ状で，刻みを施している。器面外・内面にはアカガイなどの二枚貝による条痕が見られるが，外面に凹線や段，隆帯のある土器片も確認している。底部片は平底で，胎土には繊維を含んでいる。当該期の土器の特徴について，野内秀明氏は，「成立期の茅山下層式は，

鵜ガ島台式後半の有段部の屈曲の強まりといった器形上の特徴，文様帯の胴上半部の凝縮化，…（中略）…同時に凹線文という新たな文様要素が採用された段階である。」[4] と記している。また，茅山上層式に近いものについては，「…（中略）…沈線文による文様描写の手抜き手法として貝殻条痕文が採用されたもので，次段階の条痕文系と無文系土器の増加へ引き継がれる要素と考えられる。」「第４段階は前段階の器形上の屈曲の弱まりとⅡ帯の無文化など…」[5] とも述べており，茅山下層式でも新しい段階では，貝殻条痕文のみの文様や無文化が増加すると指摘している。このことから，前者を古段階の茅山下層式，後者を新段階の茅山下層式とし，以下述べていく。当遺跡の茅山下層式土器は，古段階から新段階のものと考えられる。

茅山下層式（古段階）

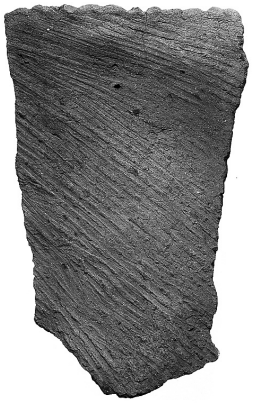
・凹線と隆帯

凹線は指頭によって施文されたもので，鵜ヶ島台式の無文帯がモチーフになっており，茅山下層式土器でも古段階のものと考えられる。（FP ４－１）

・凹線と刺突

連続する刺突は竹管によるもので，鵜ヶ島台式の刺突充填文の名残りと考えられ，茅山下層式土器でも古段階のものと考えられる。（SI18－６）

茅山下層式（新段階）



・貝殻条痕文

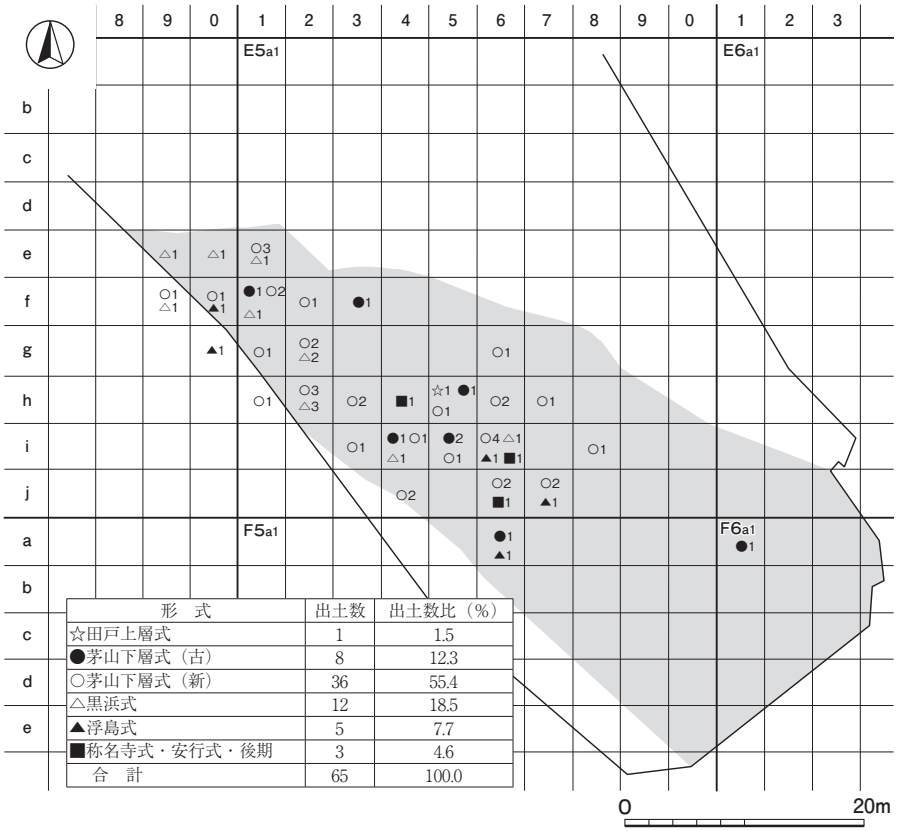
当遺跡でもっとも多く出土した文様である。写真は斜方向の文様であるが，縦･横位，格子目などもある。内面にも同様な貝殻条痕文が見られ，茅山下層式土器でも新段階のものと考えられる。（FP40－１）

・無文

口唇部は内削ぎで，外面無文の土器片であり，ナデ調整を施したような器面である。茅山下層式土器でも新段階のものと考えられる。（FP48－１）

④　第１号遺物包含層から出土した縄文土器（口縁部片）の出土状況について

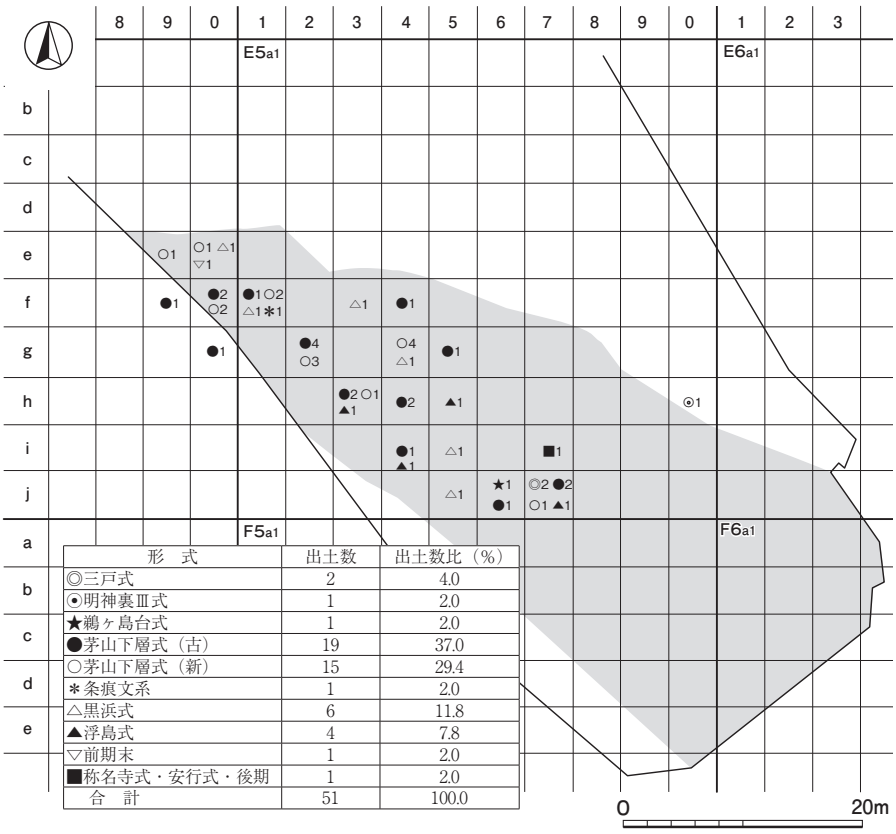
調査区南部の緩斜面部に広がる第１号遺物包含層から出土した土器片の総数は，2,769 点で茅山下層式，黒浜式，浮島式の土器片など，おおむね早期後葉から前期前葉が大半である。また，層位ごとに出土する土器型式や点数に特徴が見られた。以下，検出した口縁部片について，第１号遺物包含層の層位ごとに土器形式の分布状況と出土比を述べることとする。また，茅山下層式の土器については，隆帯や凹線，刺突などが明瞭に施されたものを古段階の茅山下層式土器として，貝殻条痕文のみの文様や無文･浅い文様といった新段階の茅山下層式として，分布状況を分けた。



形　式	出土数	出土数比（%）
☆田戸上層式	1	1.5
●茅山下層式（古）	8	12.3
○茅山下層式（新）	36	55.4
△黒浜式	12	18.5
▲浮島式	5	7.7
■称名寺式・安行式・後期	3	4.6
合　計	65	100.0

第１層の出土土器と出土数分布表

第１層の分布状況では，新段階の茅山下層式の土器片や黒浜式，浮島式などの前期の土器片が目立ち，後期の土器片が微量混じることが分かる。また，標高 16.5 m 付近と 13.0 m 以下を除いては，南北どちら側でも土器片が出土しており，偏りなく投棄されていたか，後世の整地により均されたことが考えられる。

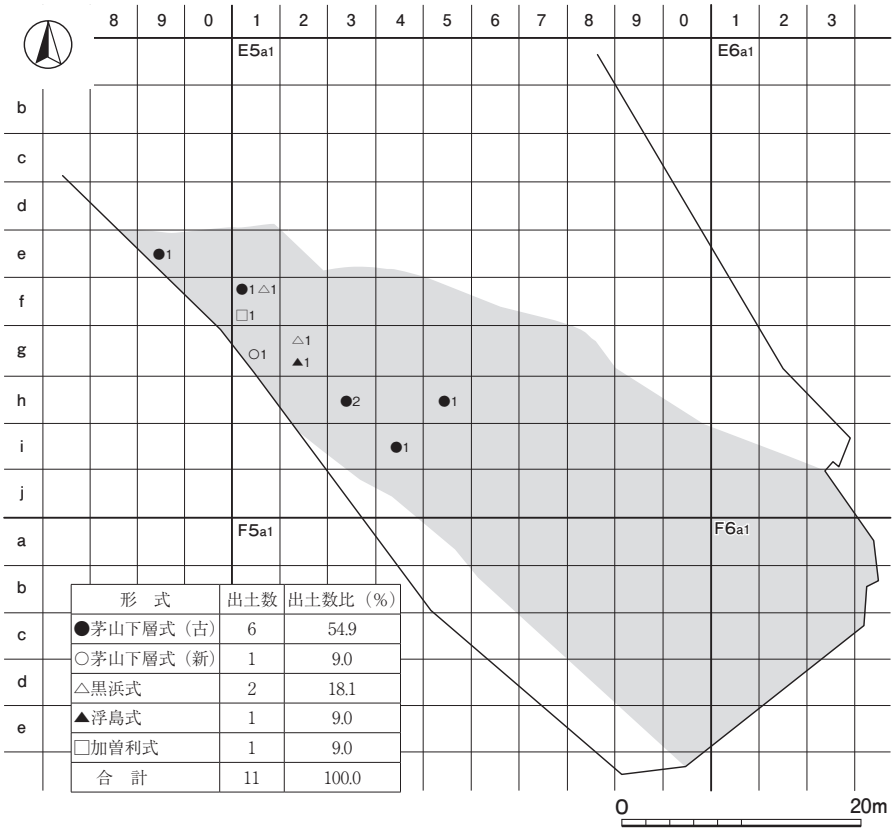


形　式	出土数	出土数比（%）
◎三戸式	2	4.0
⊙明神裏Ⅲ式	1	2.0
★鵜ヶ島台式	1	2.0
●茅山下層式（古）	19	37.0
○茅山下層式（新）	15	29.4
＊条痕文系	1	2.0
△黒浜式	6	11.8
▲浮島式	4	7.8
▽前期末	1	2.0
■称名寺式・安行式・後期	1	2.0
合　計	51	100.0

第２層の出土土器と出土数分布表

第２層の分布状況では，三戸式，明神裏Ⅲ式，鵜ヶ島台式の土器片の出現や，押引き，隆帯などの文様をもつ古段階の茅山下層式土器片が増え，新段階の茅山下層式土器片や前期の土器片は減少している。また，第１層と比べ，遺物包含層の北東寄りに確認される遺物の数がやや減少していることがわかる。土器片の投棄や流入が，調査区中央部の緩斜面部や西側の台地上からなされたものと想定できる。

第３層の分布状況では，全体の出土点数が少量である。古段階の茅山下層式土器片が半分を占め，新段階の茅山下層式土器片や前期の土器片は僅かとなっている。また，これまでの層位と比べ，遺物包含層の上部西寄りに多く出土していることから，かなり以前より南側の緩斜面部や西側の台地上から，土器の投棄や流入が起こっていたと考えられる。また，茅山下層式土器で古段階・新段階に分けたことを説明し得る結果となった。



形　式	出土数	出土数比（%）
●茅山下層式（古）	6	54.9
○茅山下層式（新）	1	9.0
△黒浜式	2	18.1
▲浮島式	1	9.0
□加曽利式	1	9.0
合　計	11	100.0

第３層の出土土器と出土数分布表

(2)　古墳時代

当該期の遺構は，竪穴建物跡 10 棟，土坑３基を確認した。

竪穴建物跡は，調査区南部の第１号遺物包含層上や中央部の台地平坦部に散在している。出土土器からⅠ期からⅢ期に分けられる。以下，それぞれの時期ごとの特徴を記述する。

Ⅰ期は，第２・６号竪穴建物跡の２棟である。調査区中央部に位置し，第２号竪穴建物跡は地床炉で，中央部からやや北寄りに位置している。柱穴は主柱穴が４か所，補助柱穴３か所，出入り口施設のピットが南部に配置されている。不明なピットが中央からやや北寄りと南側に配置されている。また，南東コーナー部には，楕円形の貯蔵穴が配置されている。第６号竪穴建物跡は，第４号竪穴建物に掘り込まれていたため，詳細は不明である。土器は脚部がエンタシス状の膨らみをもつ高坏や口縁部が外反する椀が出土している。

Ⅱ期は，第１・３・４・16・19 号竪穴建物跡の５棟で，これらは調査区南部の緩斜面部と台地平坦部に位置し，形状は第１・３・４・19 号が長軸約４m，短軸約３mの方形・長方形である。第 16 号竪穴建物跡は，一辺 5.5 mの方形である。第１号竪穴建物跡は，地床炉が北部東寄りと中央部東寄りの２か所にあり，柱穴は主柱穴の２か所，北コーナー部には，楕円形の貯蔵穴が配置されている。第３号竪穴建物跡は，地床炉が中央部と北西寄りの２か所にあり，柱穴は主柱穴が４か所，楕円形の貯蔵穴が東コーナー部に配置されている。第４号竪穴建物跡は，地床炉が中央部西寄りと北寄りの２か所にあり，柱穴は主柱穴が４か所，出入り口施設のピットが東壁付近に，隅丸方形の貯蔵穴が南コーナー部に配置されている。第 16 号竪穴建物跡は，地床炉が中央部北寄りに位置し，柱穴は主柱穴が４か所と性格不明の柱穴が２か所，出入り口施設のピットが南壁付近に配置され，楕円形の貯蔵穴が北東コーナー部に，隅丸方形の貯蔵穴が南東コーナー部にそれぞれ配置されている。第 19 号竪穴建物跡は，地床炉が中央部北西寄りに位置し，楕

円形の貯蔵穴が南コーナー部に配置されている。土器は，前段階よりやや短脚化し，裾部は坏部に比べて広がりが短くなった高坏などが出土している。

Ⅲ期は，第５・７・27 号竪穴建物跡の３棟である。調査区中央部の台地平坦部に位置し，規模は長軸が約 5.5 ～７ｍの方形である。第５号竪穴建物跡は，竈が北西壁の中央部に付設され，柱穴は主柱穴が４か所，出入り口施設のピットが南東部に配置されている。第７号竪穴建物跡は，竈が北壁の中央部に付設され，柱穴は主柱穴が４か所，出入り口施設のピットが南壁付近に配置されている。第 27 号竪穴建物跡は，竈が北壁の中央部に付設され，地床炉は竈の南側に配置されている。柱穴は主柱穴が４か所である。土器は，常総型甕の祖形で胴部最大径が上位にあり，やや長胴気味のものなどが出土している。以上のことから，Ⅰ期を５世紀前葉，Ⅱ期を５世紀中葉，Ⅲ期を６世紀の時期にそれぞれ当てはめることができる[6)]。

(3) 鎌倉・室町時代

当該期の遺構は，段切状遺構１か所，土坑２基，溝跡２条を確認した。

当時代は，牛久城主の岡見氏と下妻多賀谷氏との激しい抗争があった時代である。今回の調査で，確認した遺構は，第１号段切状遺構，第 15・16 号土坑，第３・６号溝跡で，牛久城の外郭の防御施設と考えられる。初めに第１号段切状遺構を構築して，切岸の役割をもつような人工的な急斜面と，南西に延びる橋脚を設けると同時に第３・６号溝を構築し，この区域の防御機能の維持・強化を図っていたことが想像される。第 15・16 号土坑の性格や詳細は不明である。牛久城は，元和９年（1623 年）の廃城になり，これらの遺構も役目を失ったと考えられる。

(4) 江戸時代

当該期の遺構は，道路跡２条を確認した。

第１・２号道路跡は，調査区南部と中央部にそれぞれ確認され，両遺構からは文久永寶の銭貨が出土している。また，第１号道路跡脇からは，「享和三□　四月吉日」と記銘された石祠が出土しており，19 世紀初頭のものである。

3　おわりに

今回の調査によって，縄文時代早期の竪穴建物跡のほか，多数の炉穴・炉跡を確認することができた。特に炉穴は数基が重複して，まとまりを形成しているものを多数確認した。これらの遺構からは，貝殻条痕文系の茅山下層式土器が多量に出土していることから，竪穴建物と炉穴が同時期に存在したことが判明し，縄文早期の様相を知る貴重な調査成果となった。管見する限り県内における縄文時代早期の竪穴建物跡と炉穴跡がセットで存在している類例が極めて少ないことから，今後の調査事例の増加とともに，新たな情報の蓄積を期待したい。

註

１）小林謙一　「縄文早期後葉の南関東における居住活動」『縄文時代』第２号　縄文時代文化研究会　1991 年５月

２）小林清隆　城田義友『柏北部東地区埋蔵文化財発掘調査報告書 12』千葉県教育振興財団調査報告第 770 集　平成 29 年 11 月

３）田中大介　高野浩之『寒沢遺跡 (7) 寒沢遺跡 (8) 神納地区宅地造成に伴う埋蔵文化財調査』袖ケ浦市教育委員会　平成 26 年１月

４）野内秀明　『条痕文土器群後半期の諸段階 －茅山下層式・茅山上層式土器とその周辺の土器群－』考古論叢神奈河第９集　平成 13 年２月

５）註４文献に同じ

６）a　樫村宣行　『和泉式土器編年考 －茨城県を中心として－』研究ノート５号　茨城県教育財団　1996 年６月

　b　樫村宣行　『茨城県南部における鬼高式土器について』研究ノート２号　茨城県教育財団　1993 年６月

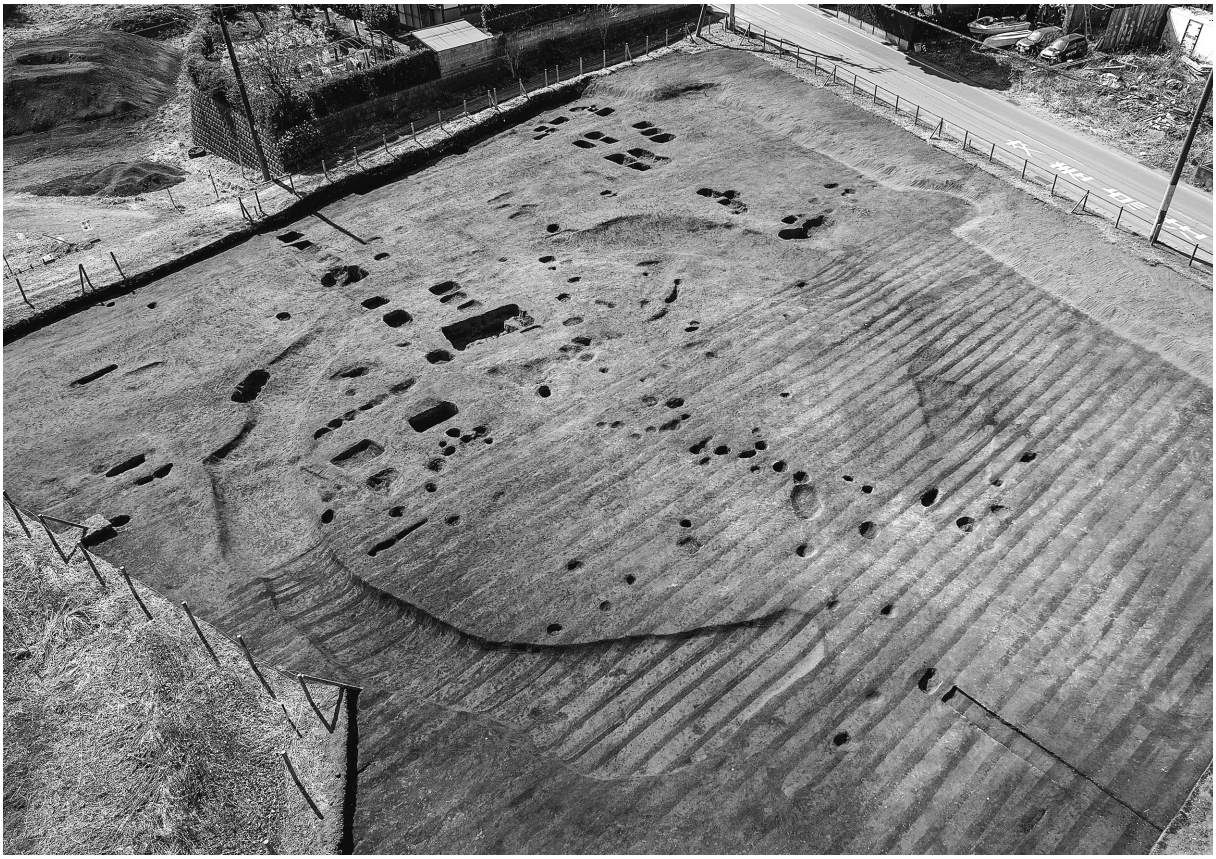
写　真　図　版

小馬様台遺跡
山王前遺跡

PL1

平成29年度　小馬様台遺跡調査区遠景（北方向から）

平成30年度　小馬様台遺跡調査区全景（鉛直）



第１号墳

第１号墳遺物出土状況

第１号墳石室掘方

第１号道路跡

第２・３号溝跡

PL3

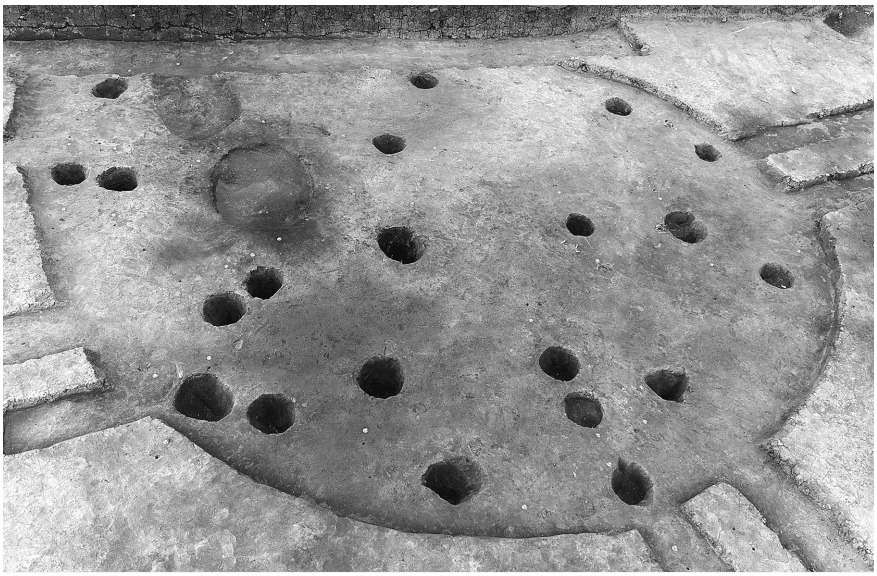
第 1 号墳,第 1 号道路跡,遺構外出土遺物

山王前遺跡調査区遠景（北方向から）

山王前遺跡調査区全景（鉛直）

PL5

第８号竪穴建物跡



第９号竪穴建物跡

第10号竪穴建物跡

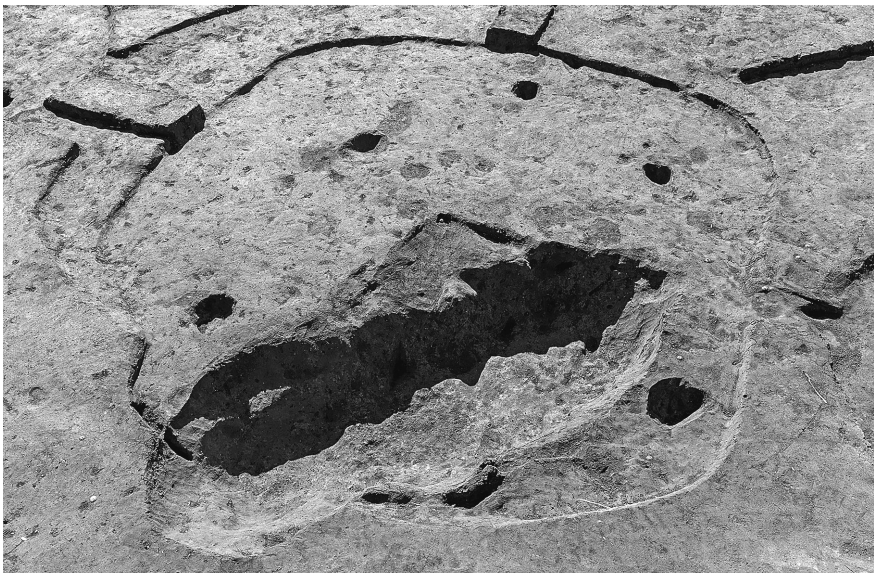
第11号竪穴建物跡

第13号竪穴建物跡

第14号竪穴建物跡

第15号竪穴建物跡

第17号竪穴建物跡

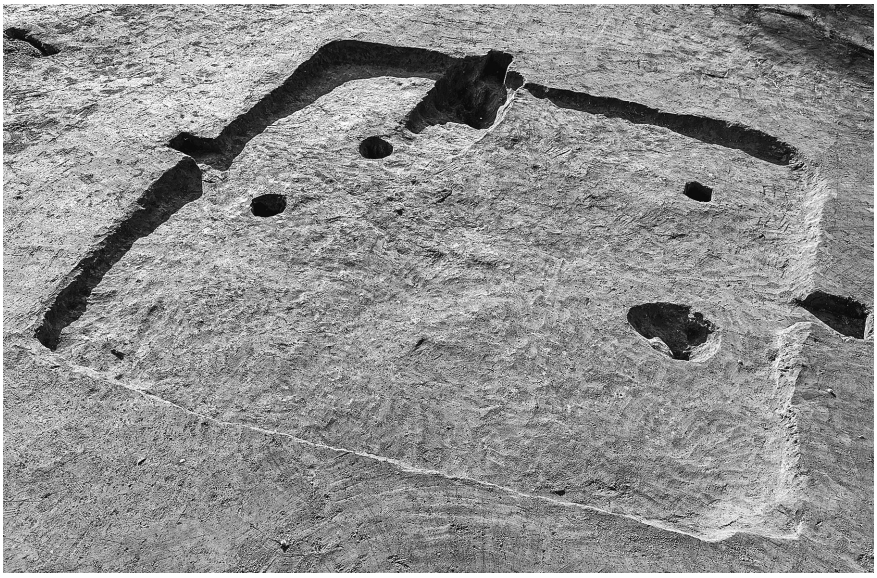


第18号竪穴建物跡

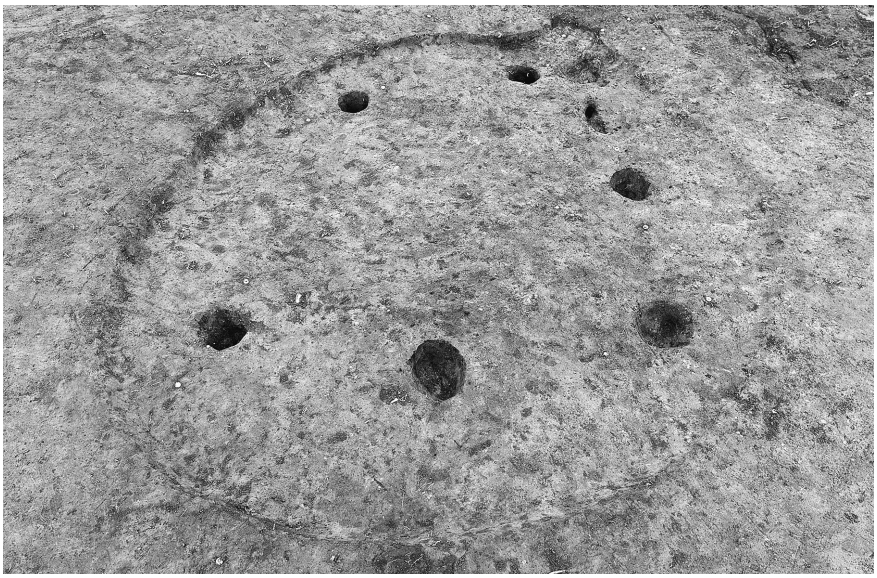
第20号竪穴建物跡

第21号竪穴建物跡

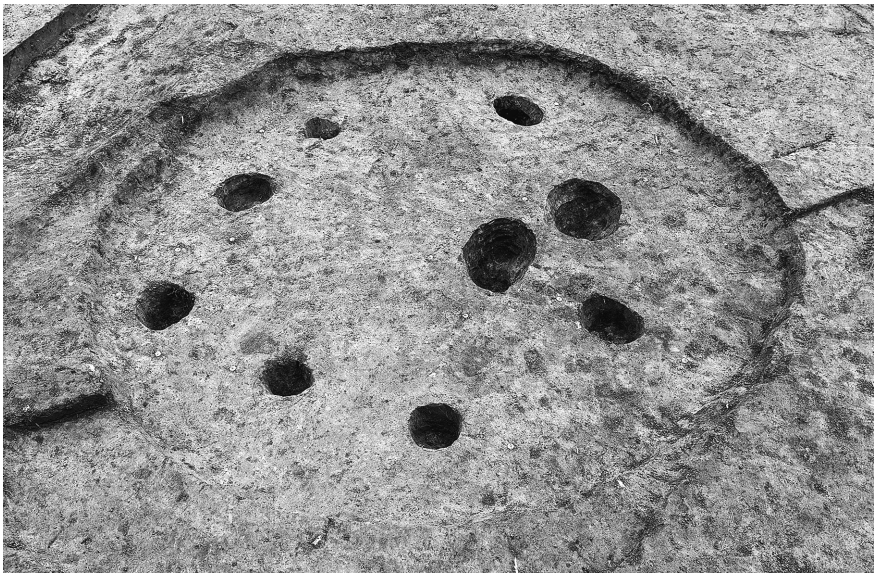
第23号竪穴建物跡



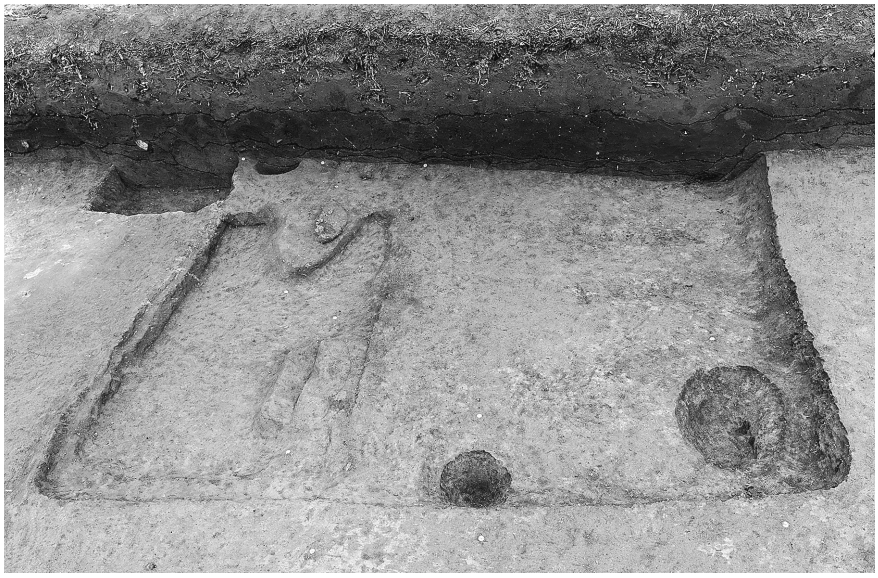
第24号竪穴建物跡



第25号竪穴建物跡



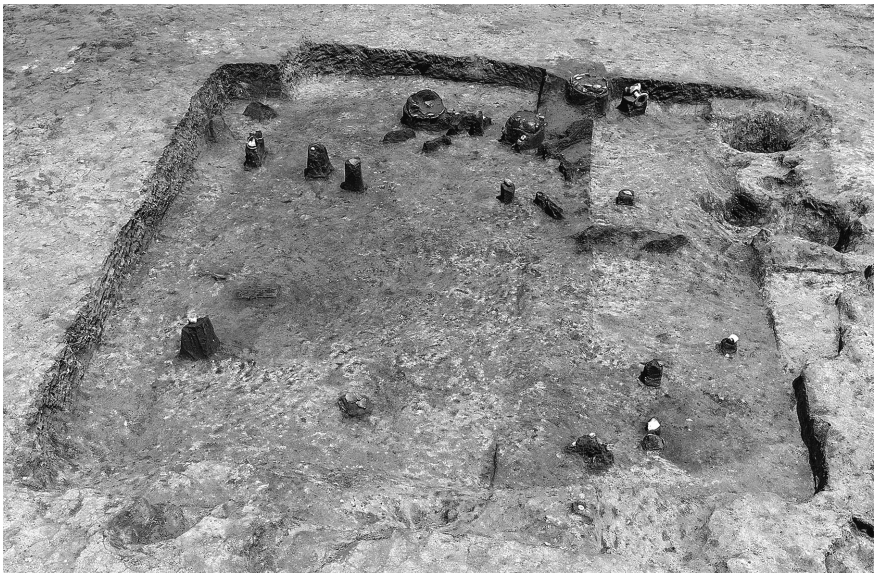
第26号竪穴建物跡



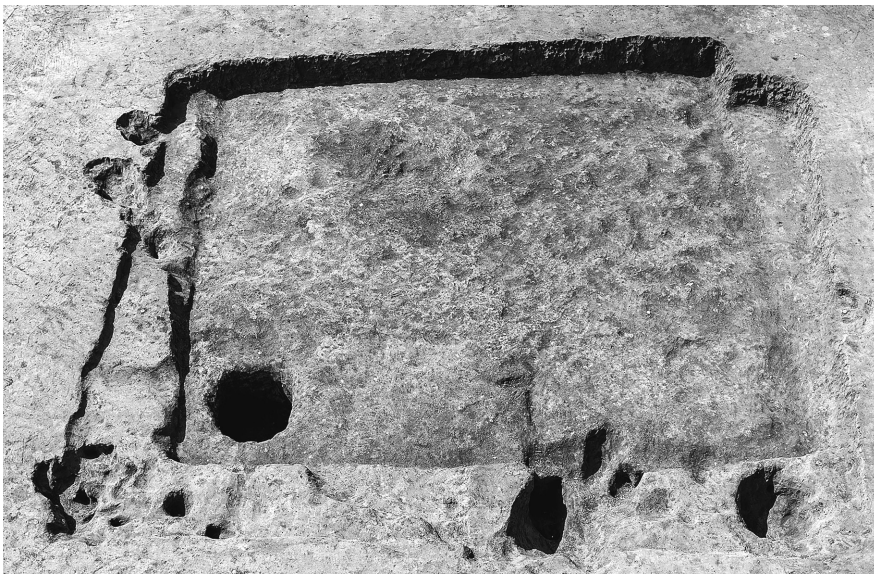
第１号竪穴建物跡

第２号竪穴建物跡

第３号竪穴建物跡



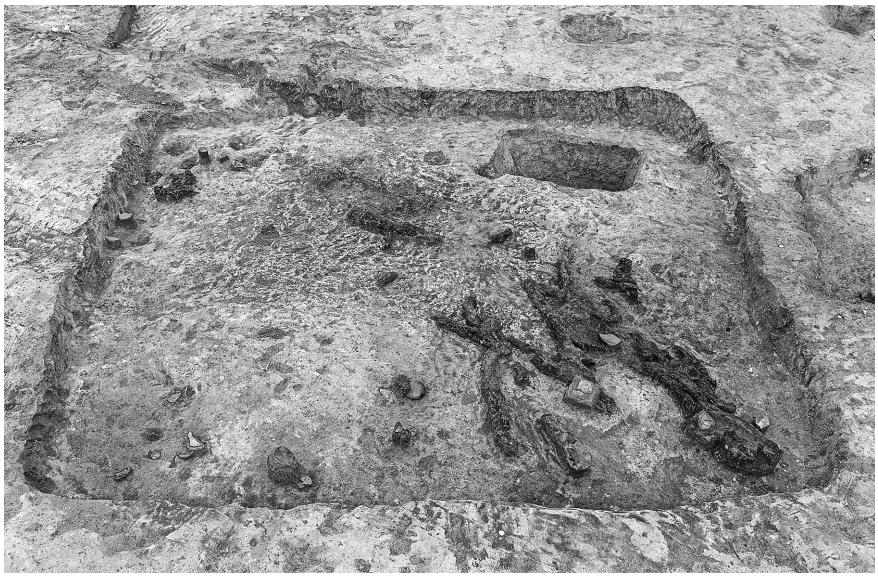
第４号竪穴建物跡
遺 物 出 土 状 況



第4・6号竪穴建物跡

第16号竪穴建物跡
貯蔵穴遺物出土状況

第16号竪穴建物跡



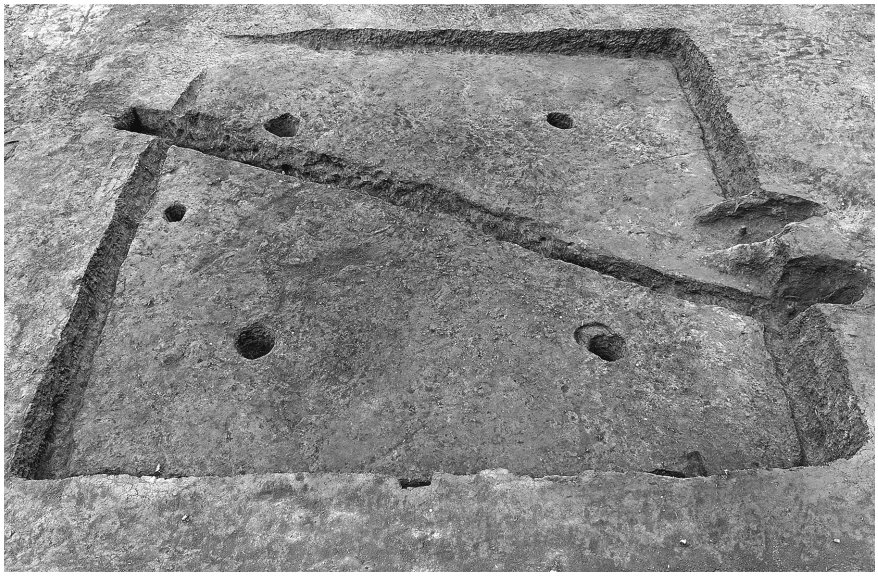
第19号竪穴建物跡
遺 物 出 土 状 況

第19号竪穴建物跡

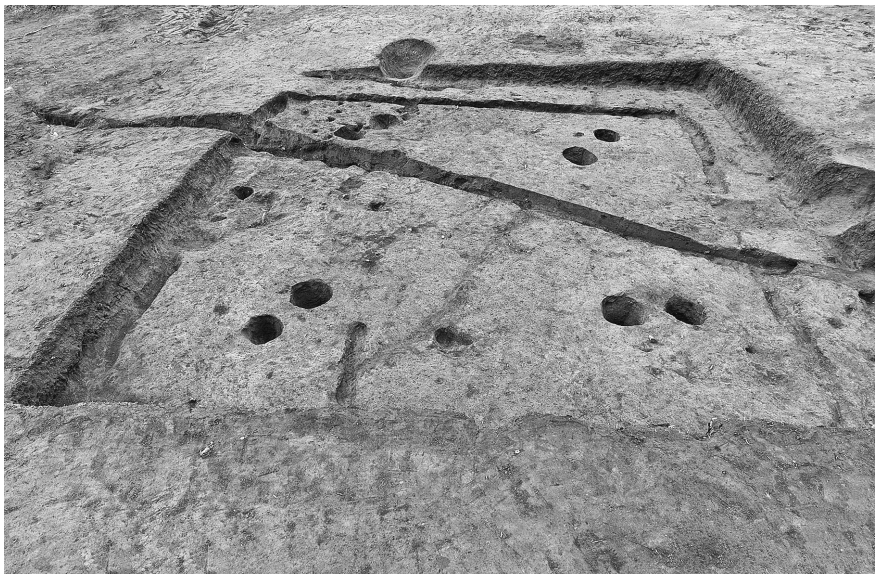
第５号竪穴建物跡
竈土層堆積状況

第５号竪穴建物跡

第７号竪穴建物跡
遺物出土状況



第７号竪穴建物跡



第27号竪穴建物跡

第 ９・10号 炉 穴